

徳島の剣道

特報

1. 杖道部発足に向けて
2. ふるさとトーク 坂本功先生
3. 剣道回想録 吉田博三先生

第**36**号



徳島県剣道連盟

◎「徳島の剣道」創刊号から35号と「徳島剣道三十年の歩み(昭和58年発行)」の全ページをインターネット上で見る事が可能です！
インターネットの検索画面に「徳島の剣道」と入力して下さい。

http://tokuken.sub.jp (「http:」でsがない)

徳島の剣道

35号～29号

- 1、徳島県剣道連盟会長の巻頭言
- 2、大会記録
- 3、徳島新聞に見る戦いの跡
- 4、全頁の閲覧 (PDF形式)



創刊号から今年号まで、全て閲覧できます、閲覧するには長方形のいずれかのボタンをクリックしてください

なお、PDFの閲覧には「Adobe Acrobat Reader DC」が必要です。Adobe Acrobat Reader DCは[ここ](#)からダウンロードしてください。
また、インターネットエクスプローラーを利用している方で、PDFを閲覧できない場合の対処法は[ここ](#)をクリックして解決してください。

35～29号	28～15号	14～1号	30年の歩み
	第35号 令和元年6月30日発行 徳島県剣道連盟		
会長巻頭言	大会記録	徳島新聞	全頁PDF
	第34号 平成30年7月30日発行 徳島県剣道連盟		
会長巻頭言	大会記録	徳島新聞	全頁PDF

◎もし、不具合がありましたら、p301を参照してください。

巻頭言

広報誌「徳島の剣道」が電子化へ

徳島県剣道連盟 会長 三木 毅



令和元年は昨年五月一日に始まり、天皇陛下のご即位とその祝賀の諸行事が厳かにして滞りなく進められ、多くの場を脳裏に留めることができた年でありました。

本年の一月一日は令和最初の元日となりました。私事ではありますが、私の元日は剣友が集う、年越し稽古に参加し、午前零時を迎えると、面をつけて稽古している最中に、それぞれが大声で「明けましておめでとうございませう」と挨拶を交わすことができ、それこそ健やかで清々しい気分となり、最上の年頭となりました。

さて、「徳島の剣道」は、発刊の度に内容が充実し他県に類例を見ない広報誌となってきました。ここで「徳島の剣道」の歴史に触れておくことといたします。第一号は昭和六十年三月三十一日に発刊され、五十七ページの広報誌誕生でありました。巻頭言は、第七代三木只雄会長が執筆されその一文に「過去を偲び或いは省み、将来に向かっての活躍資料の糧になるものと思意されま

す」と記されています。また、編集後記では、編集を担当された

現徳島市石井博教育長が「師弟和熟」と記し、剣道の師弟が同行熟達すべき姿を表しております。

このお二人が望まれた思いが、号を数える度に充実度を増していくこととなります。そして、平成八年第十二号からは、現広報部長である木原資裕先生が「徳島の剣道」の編集に参画され、現在に至る誌面充実がなされています。

文書作成や保存の在り方は、画期的に発達し、インターネットを通して、誰でも簡単に書籍を閲覧できる時代へと変貌しています。先般実施された「徳島の剣道」編集会議の場においても、「徳島の剣道」の電子化保存を検討することの提案がありました。

この提案を具体化するに当たり、わが徳島県剣道連盟には、パソコン操作活用に秀でた技能の持ち主であります澤井勝之先生がおられます。澤井先生により、「徳島の剣道」の第一号から第三十五号までの表紙を含めた全ページを電子保存化し、インターネットで閲覧できるシステムを構築していただきました。

言うまでもなく、私どもが保有するこの「徳島の剣道」は、時代を明確に振り返ることが出来る歴史的価値を含んだ立派な財産であり、連盟の宝物であります。

令和二年の半ばころには、私どもはインターネットを利用して、好む時間に歴史的価値あるこの「徳島の剣道」を閲覧できる予定であります。先人剣士の情熱を感じとっていただき、それを糧に更なるご精進に活用していただければこの上ない幸いです。なお、当面の間は従来通りの冊子も並行して発行して参ります。

『徳島の剣道 第三十六号』 目次

巻頭言……………三木 毅……………1

《特報Ⅰ 杖道部発足に向けて》……………米倉 滋……………4

杖道部発足に向けて……………青木 茂生……………6

私の杖道修行……………坂本 功……………8

《特報Ⅱ ふるさとトーク》……………吉田 博三……………10

《特報Ⅲ 剣道回想録》……………吉田 博三……………10

「剣道回想録」と「剣道俳句集」……………吉田 博三……………10

顕彰一覽……………吉田 博三……………10

剣道有功賞……………吉岡 修一……………18

少年剣道教育奨励賞……………近藤 敏晴……………20

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………近藤 正章……………22

体育功労賞……………兵頭 新平……………24

体育功労賞を受賞して……………兵頭 新平……………24

全国郵政大会……………久保 隆司……………25

第六十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会……………久保 隆司……………25

第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会……………岩原 千佳……………28

令和元年度徳島県中学校剣道優秀選手……………岩原 千佳……………28

令和元年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………岩原 千佳……………28

先生を偲ぶ……………影山 美雄……………32

福井軍二先生を偲ぶ……………影山 美雄……………32

恩師 福井軍二先生を偲んで……………白木 洋一……………35

福井先生との思い出……………曾根 徳治……………37

水産高校の十一年……………福井 軍二……………39

全国講習会報告……………福井 軍二……………39

平成三十一年度西日本中央講習会……………平野 誠司……………41

令和元年度居合道中央講習会……………福井 勝……………44

第五十七回剣道中堅剣士講習会……………佐野 伸治……………45

令和元年度 武道等指導充実……………佐野 伸治……………45

資質向上支援事業講習会……………柳谷 照男……………47

資質向上支援事業講習会……………柳谷 照男……………47

第四十三回全国高等学校・中学校剣道
(部活動)指導者研修会……………福崎 泰樹……………51

徳島の剣道史……………坂本 憲一……………53

阿波の幕末刀……………坂本 憲一……………53

剣道に役立つ医学知識……………安田 勝裕……………69

口呼吸と腹式呼吸……………安田 勝裕……………69

大会・行事所感……………原田 勝……………71

令和元年度西日本居合道審査会および地区講習会の寸評……………原田 勝……………71

西日本居合道地区講習会の取組み……………福井 勝……………73

鳴門市光武館道場五十年の歩み……………寺西 明弘……………74

各種大会に参加して……………寺西 明弘……………74

高・大学生……………寺西 明弘……………74

第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会……………西岡 優太……………78

第十四回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会……………山本 泰史……………80

徳島県剣道道場連盟報告……………谷本 浩志……………87

全国中学校剣道大会……………尾畑 翔……………96

全国中学校剣道大会に出場して……………岩原 千佳……………98

第十四回都道府県対抗少年剣道大会……………兼松 佳史……………100

小・中学生……………兼松 佳史……………100

全国高等学校剣道選抜大会……………河野 寛之……………102

感謝……………和田津凜紅……………104

第六十六回全国高等学校総合体育大会剣道大会……………小山田慎介……………106

夢……………朝田 萌香……………107

全日本学生剣道選手権大会……………鳴川 了介……………110

一 般……………鳴川 了介……………110

非思量の境地……………平野 誠司……………112

第六十七回全日本都道府県対抗剣道優勝大会……………大石 洋史……………114

全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会を終えて思うこと……………北村 環……………116

西日本勤労者大会での優勝……………山本 義征……………118

全国教職員大会に出場して……………西田 凌介……………121

「四国教職員大会四連覇」……………西田 凌介……………121

第三十九回四国教職員剣道大会……………福多 雅英……………123

全日本女子剣道選手権大会……………鈴木 千尋……………126

茨城国体に出場して……………山名 信行……………128

全日本選手権大会……………大石 洋史……………132

関西学連剣友剣道大会に参加して……………	藤本 辰夫……………	134
第七十一回四国四県剣道大会に参加して……………	柴田 宗忠……………	135
令和元年度中四国管区警察剣道大会を終えて……………	山室 雅幹……………	138
高齢剣		
第六回四国高齢者剣道交流大会……………	美馬 勝行……………	139
第二十五回徳島県健康福祉祭剣道交流大会……………	尾脇 広美……………	142
第四十一回全日本高齢者武道大会に参加して……………	六條 一博……………	143
ねんりんピック和歌山大会に参加して……………	柴田 宗忠……………	145
居合道		
第五十四回全日本居合道大会に出場して……………	村井 恒治……………	148
随想		
リレー・フォー・ライフ・ジャパンに参加して……………	吉田 昌彦……………	150
私の人生と剣道……………	原田 進……………	152
木にて作りたる猫のごとし……………	尾脇 広美……………	154
一年を振り返って……………	佐藤光太郎……………	156
故郷「木頭」に思いを寄せて……………	吉田 茂生……………	157
少年剣道に携わって……………	白木 崇……………	159
大人の部活……………	月岡 陽市……………	161
「鐔・鏝・つば」雑考……………	一村 昌和……………	162
阿部國太郎先生の思い出……………	栗野 佳明……………	167
称号・段位合格者		
剣道七段を拝領して……………	敦賀 晋平……………	170
七段に合格して……………	河野 公雄……………	172
念願の七段に合格して……………	丸岡 偉人……………	174
剣道七段に合格して……………	福井 勝……………	177
剣道七段に昇段して……………	六條 洋二……………	179
七段審査を受審して(前へ)……………	乾 清孝……………	180
失意・激励・努力、そして感謝……………	山崎 砂織……………	182
六段に合格して……………	東内 守……………	184
六段取得に思うこと……………	安田 勝裕……………	186
剣道六段に合格して……………	島田 靖之……………	187
居合道六段に合格して……………	吉原 均……………	188
居合道六段に合格して……………	林 由美……………	189
居合道六段に合格して……………	徳山 豊……………	190
剣道称号「教士」を得て……………	佐野 伸治……………	191

称号・段位合格者一覧……………	……………	193
がんばろう徳島		
事務局取材レポート		
頑張ってます！「復活」池田剣正童……………	藤川 和秋……………	197
専門部報告		
事業部……………	佐賀 博史……………	201
審査部……………	佐藤 佳宏……………	204
強化部……………	平野 誠司……………	205
少年部……………	松村 和宏……………	206
女子部……………	竹内佳代子……………	207
居合道部……………	福井 勝……………	210
審判部……………	富浦 廣志……………	211
中体連……………	佐藤 浩……………	212
高体連専門部……………	玉田 晋作……………	214
大学連……………	木原 資裕……………	218
高齢剣友会……………	乾 清孝……………	220
徳島県剣道稽古場所一覧……………		222
居合道 道場案内……………		225
令和元年度 大会記録……………		226
徳島新聞に見る戦いの跡……………		264
令和二年度 昇段審査学科試験問題・解答例……………		287
令和二年度 徳島県剣道連盟行事予定表……………		295
令和二年度 審査実施計画表……………		297
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………		298
剣連事務局について……………	柳谷 照男……………	299

表紙題字

堀江 幸夫

(元徳島県剣道連盟名誉会長・故人)

さし絵

村嶋 恒徳

(茨城県在住)

特報Ⅰ 杖道部発足に向けて

杖道部発足に向けて

徳島県剣道連盟 副会長 米倉 滋



杖道の伝書に曰く

「突けば槍、払えば薙刀、持たば太刀、

杖はかくにもはずれざりけり」とある。

杖は見るからに平凡そのものの武器であ

るが、一度動けば打つときは刀となり、

突くときは槍となり、また払うときは薙刀となる。その千変万化する技に杖の大きな特長があるとされています。

杖は、身体の大小にかかわらず、長さ、四尺二寸一分（約一八センチメートル）、直径八分（二・四センチメートル）で材質は樫の木であり、安価で簡単に作ることができ、又、刀と異なり錆びることもなく研ぐ必要も装飾の要はない。したがって武器として手間もかからず、手軽に使うことができます。

一般社団法人全日本剣道連盟（以下全剣連）は定款の第三条（目的）に、当法人は日本の伝統文化に培われた剣道、居合道及び杖道（以下剣道等）を各統轄する団体である。と記されています。

す。つまり各都道府県剣道連盟においても、剣道、居合道、杖道の三道を統轄し普及、振興を図らなければならないのですが、剣道、居合道は全国すべての都道府県において実施されているのに対し、杖道は本県を含む四県が未実施であることから、令和元年四月から徳島市内の養武館剣道場で稽古を開始しました。

杖道が全剣連に加入したのは、昭和三十一年です。当時は統一されて制定杖道形はなく、審査会も思い思いの流派の形で行われていました。昭和三十八年五月、杖道研究委員会が設けられ、研究を重ねた委員会は、昭和四十三年三月草案を完成させ、全剣連制定杖道形が誕生した。

この制定杖道形は、三百数十年の歴史をもつ神道夢想流杖道の数多い組形の中から無数の技に変化応用できる基本的な形、基本十二本、形として十二本を選出したものでした。

制定された年の昭和四十三年、東京・大阪において杖道講演会が開催されたのをはじめとして、同年十二月に行われた全日本剣道選手権大会に公開演武として実施され、さらに昭和四十四年五月の京都大会に初披露されました。その後、審査会や全剣連主催の講習会さらには各種大会での公開演武を通じて制定杖道形は拡められ、現在では全国四三都道府県において稽古会や講習会が実施され発展をとげています。制定杖道形の根本機構は、あらゆる武道の先、先の先、逆の先であり「武」の本質を指導原理としています。

伝書に曰く

「きずつけず、人をこらして戒むる教えは杖の外にやはる。」
杖は円い木の武器である。先もなければ後もない、時には先となり後となることもある。見るからに平凡であり、平和そのものであるように見える。このように杖は、武術として最も非攻撃的であるかのように見えるが、一度動けば電撃の勢いとなり、千変万化する術を秘蔵しているところは、平和なるうちに雄大なる錬武をあらわすと同時に杖道の本質である「武」を具現しています。
令和元年四月、四名で始めた稽古会も回を重ねるうちに参加人数も増え、現在（令和二年一月）では九名を数えるようになりました。今後とも参加者をつのり本県杖道の普及振興につとめたいと考えていますので、興味のある方の参加をお待ちしています。



私の杖道修行

徳島春風館館長 青木茂生



昨年の平成三十一年二月頃、私の携帯電話に剣道教士八段 米倉滋先生から一本の電話が入りました。「青木先生、杖道を徳島で発足させたいので、是非とも力になって頂けないか」と言う電話でありました。お話を聞くと全国の剣道連盟で杖道部のない県は、徳島県・香川県・島根県・栃木県の四県だそうでは是非、徳島県に杖道部を発足させたいと言うことであつた。私としては、「少しばかりしか杖道を修練していないので、指導をするまでにはできない」と言う「徳島県で唯一、杖道を修練している人は、先生しかいらっしゃらないので、是非お願いしたい」とのことでした。

私が杖道を習いたいと思うようになったきっかけは、京都武徳殿で杖道の演武を拝見してからです。いつか機会があれば是非杖道を習ってみたいとの思いがありました。今から二十四年前、四十二歳の時その機会がやってきました。香川県観音寺市「玄武道場」にて杖道を発足させると言うことを聞き、私はこれは良い機会だと思ひ、入門をさせていただきました。

講師は、高松市在住の杖道教士七段 池原一義先生です。助手は南繁文先生でした。会員は十三人からの発足です。稽古は毎週

火曜日午後八時から一時間少々でした。週一回、池原先生がわざわざ高松市から時間をかけて指導に参って頂いている為、私もできるだけ休まないようにして稽古に励みました。しかし、四十歳代と言えば仕事も家庭も一番大変な時期です。子供も高校・大学生と大事な時期を迎え、私自身にしても丁度四十四歳で管理者となり、次第に仕事の関係で稽古から段々と遠のくようになって参りました。そして、全く稽古と言う稽古に励むことができなくなりましたが、どうにか杖道三段まで昇段することができました。その後は稽古に至らず居合道・杖道とも今の段位の状況でありました。

昨年の平成三十一年三月末にて六十五歳で定年退職を致しました。それで、退職をしたから十分に時間がとれることから、米倉先生のお話を承諾いたしました次第であります。

杖道は古流・神道夢想流杖術を母体とし、故清水隆次先生の理念のもとで、昭和三十一年に全剣連に正式加盟した武道であります。現在行われている全剣連杖道十二本は、その後十二年間の全国への普及を目的とした研究期間を経て、昭和四十三年に制定されたものであり、その公開演武は昭和四十四年五月の京都大会において成された。打は清水隆次先生、仕は乙藤市蔵先生であった。現在、全国において杖道の普及・指導が図られているが、その稽古の中心となっているのが全剣連杖道十二本である。

昨年平成三十一年四月から米倉先生の養武館道場で杖道の稽古を始めております。是非剣道連盟の会員の皆様方に大いに参加を

して頂きまして、もし会員数が増えれば、徳島県剣道連盟の中に居合道部と同じく杖道部を発足させられますので、是非会員の加入を宜しくお願い致します。発足できれば、年一・二回ぐらいは、全剣連からの講師を派遣して頂きまた、全国の講習会にも参加をしながら徳島県の杖道の普及発展に繋がっていただきたいと思います。そのためには、これからの徳島県剣連杖道部の未来があるためには若い人達の会員増強を特に願っています。財団法人・全日本剣道連盟の中には、剣道・居合道・杖道の三道があり特に居合道・杖道は、剣道に生かせる事の修行が今後一番大切なことではなからうかと考えております。現在、剣道をされている方々はもちろんのこと、これから始めて杖道を学ぼうとされる方は、是非とも杖道に興味を持って頂き杖道の修練に志していただけただけなら大変喜ばしいことと思います。また、そうなることを心からご祈念したいと思います。是非とも、宜しくお願い申し上げます。



特報Ⅱ ふるさとトリーク

剣道で知り合った方々

坂本 功

(東京大学名誉教授、元東京大学運動会剣道部長)



私と剣道とのかかわりは、とぎれとぎれでとりとめがないが、その時々でたくさんの人と知り合うことができた。

まず、鴨島一中に入学した時、兄に誘われて剣道(その時は撓競技)を始めた。二年生になった時、知恵島が鴨島町に合併されて、その中学生も鴨島一中に通学するようになった。剣道部には、三年生の三木毅さん(現在徳島剣道連盟会長)や私と同学年の七條勝美君が入ってきた。

昨年帰省した時、三木さんが招待してくれて、七條君と二人でそのお宅にお邪魔した。七條君とは、たまにだけれどそれまでも会っていたが、三木さんとは、実に半世紀以上ぶりの再会だった。おおいに歓談して非常に楽しかった。

城南高校でも、一応剣道部に入りはしたものの、鴨島からの長距離通学と受験勉強で、一年そこそこで挫折してしまった。一年

先輩の高島稔之さん(現徳島剣道連盟審議委員長)に強く引き留められたのに、逃げるようにやめてしまったのは、今でも気になっている。

東大に進学した時、駒場寮に入る都合もあって、東京大学運動会(他大学の体育会に相当)剣道部に入って、初心者にまじって稽古を再開した。同期の主将は、宮崎の高千穂高校(平成二十九年度の高校総体の全国優勝校)の出身で、本人も高校総体にも出たことのある柳雄太郎君だった。

私はここでは一部員に過ぎなかったが、稽古だけはまじめにやった。しかし、見かけ通りのひよろひよろで、運動神経もお粗末で、およそ剣道には向いていない。ただ背が高くてリーチが長いだけを取り柄なので、強くなれるわけはなかった。それで、段位は四年生の時、やっと三段をいただいたきりである。公式戦には、二年生の時に、関東学生新人戦の団体戦、四年生の時には、同じく個人戦に出してもらった。どちらも負けたが、個人戦の方は、前年の東京オリンピックのためにつくられた日本武道館で試合ができたのがささやかな思い出である。

同期で剣道部を卒業したのは一五人ほどであるが、彼らの多くとは今でもたまに会ったり、しばしばメールを交換したりしている。経歴は違っても、若いころ一緒に稽古をした仲間と、そのころの気持ちになって交友できるのは、実に楽しいことである。

東大を卒業以来、剣道からは遠ざかっていたが、五十才を過ぎたころ、学内にいるということから、剣道部の部長(顧問)になっ

た。それを機会にまた稽古を再開して、道場である七徳堂に現役部員に叩かれに行った。部長になった時の師範は、小沼宏至先生だった。範士九段でいらっしやった（現在新しく九段になる方はいないとのことである）。先生が急逝された後、師範になられたのは、範士八段の小林英雄先生だった。在任中の二〇〇三年に世界剣道選手権大会（イギリス、グラスゴー）で優勝した男子チームの監督をつとめられた。先生には、その時のお気持ちなどを直接お聴きした。

東大剣道部は、私が部長在任中は、全関東を突破できなかったが、昨年度の第六七回全日本学生剣道優勝大会では、全国ベスト一六に入るといふ快挙を成し遂げた。先輩、元部長として、非常にうれしいことだった。

私は、剣道が強くなかったにもかかわらず、その剣道をやったおかげで、たくさんの先生、先輩、同僚、後輩と知り合うことができたことを思うと、剣道をやってほんとうによかったと思う。



特報Ⅲ 剣道回想録

「剣道回想録」と「剣道俳句集」

標記の冊子を吉田博三（旧姓・藤田）先生よりお送りいただきました。吉田先生は徳島農業高校から法政大学に進学され、全日本東西対抗等で活躍された徳島県出身の名剣士であります。（詳細は「徳島の剣道第三十五号」参照）回想録の中から徳島に関連する箇所を編集転載します。また、俳句集からも数句転載させていただきます。

（文責 木原資裕）



剣道回想録

吉田博三

旧姓 藤田 昭和十三年六月二十二日生

はじめに

昭和二十七年から現在迄多くの先生方に剣道の御指導を賜りました。時は令和、八十一歳を超えました。これを機に、五十名の先生方との稽古、御指導いただいた思い出をつづりました。ほとんどの先生が鬼籍に入られました。往時を偲び謹んで哀悼の誠をささげます。又、五十名以外の方々にも御指導いただきました。深く感謝いたしております。

《目次》

一、	小川金之助	十四、	谷口 安則
二、	小野 十生	十五、	阿部 三郎
三、	越川秀之助	十六、	伊保 清次
四、	小沢 丘	十七、	岩谷 文雄
五、	荒木 敬二	十八、	蓮井 肇
六、	大野操一郎	十九、	市川彦太郎
七、	中島五郎蔵	二十、	榑崎 正彦
八、	羽賀 準一	二十一、	石原 忠美
九、	中野八十二	二十二、	谷崎 安司
十、	渡辺 敏雄	二十三、	窪田 彰宜
十一、	佐藤 顕	二十四、	佐藤 博信
十二、	森島 健男	二十五、	山形 三郎
十三、	中村 太郎	二十六、	高田 恵生

二十七、	松本 敏夫	四十一、	細川 昭典
二十八、	山根 昇	四十二、	須見 善富
二十九、	小笠原三郎	四十三、	丸山 義一
三十、	大久保和政	四十四、	長谷川隆也
三十一、	堀籠 敬蔵	四十五、	大垣 稔
三十二、	橋本 明雄	四十六、	尾上 護
三十三、	長島 末吉	四十七、	松原 輝幸
三十四、	榎本 正義	四十八、	佐藤 貞雄
三十五、	金沢憲一郎		佐土原 勇
三十六、	堀田 國弘	四十九、	大久保信夫
三十七、	園田 政治		清水保次郎
三十八、	松本 一城		大森三代治
三十九、	堀江 幸夫	五十、	下村 富夫
四十、	柴田 稔夫		

一、おがわ さんのすけ 小川 金之助 先生

範士十段

昭和二十九年八月
徳島県武道館において
(筆者 城西高校一年の時)

神様に掛る気持ちで打ち込み、切り返しをお願いしました。

先生はゆっくりりと、ゆったりと受けてくれました。剣道を始め

て四・五ヶ月、夢の様な瞬間でした。

この様な大先生がどうして徳島へ来られたのかは分かりません
でしたが、その様な機会を与えてくれた徳島剣道連盟の御配慮と

感謝しております。



小川金之助範士十段（二列目中央）を講師に招いて県下講習会（昭29 鳴門貫心館道場）
「徳島の剣道三十年の歩み」より

三十八、まつもと いちじょう 松本 一城 先生

大日本武徳会武道専門学校卒
当時徳島県富岡西高校教諭
昭和二十九年から富岡西高校に
おいて
(筆者 高校時代)



先生には高校一年二年の頃稽古をいた
だきました。ガッシリした体格の剣風は
正に貫禄でした。酒席で「我々の後を継
ぐのは君達だ。しっかりしろ。何、酒が
飲めない。武専では押さえつけられて飲
まされて強くなった」と厳しい話になりました。
云われました。「東京に出たら是非水戸の東武館へ行つて来い。
そうすれば剣道の事がよく理解出来る」と教えられました。東武
館へ伺ったのは三十五歳の時でした。

三十九、ほりえ さちお 堀江 幸夫 先生

徳島県警師範
徳島を代表する剣士
昭和二十九年から
(筆者 高校・大学時代)



先生には高校一年の時から御指導いた
だきました。当時徳島を代表する三羽鳥
と云われたのは松本一城、堀江幸夫、下
村富夫の三名の先生でした。この三人の
先生に三年間必死で掛からせていただき
ました。今迄で一番稽古した時期でありました。大事な剣道の基
礎作りをしたのはこの頃のような気がします。

四十、しばた としお 柴田 稔夫 先生

徳島を代表する剣士
法政大学剣道部主将
昭和二十九年から法政大学道場
において
(筆者 高校・大学時代)



先生には大学入学時から同窓のよしみ
ですっかり甘えてしまいました。稽古は
応じ返しの上手な方でした。打ち込んで
掛っても殆ど返されました。気力の強さ
は抜群でありました。
御子息宗忠さんも法政を卒業し、中学校の教諭として又、脇町
地区の剣道指導者として活躍されております。先輩に良く似てき
ました。そっくりです。合掌

四十一、ほそかわ あきのり 細川 昭典 先生

大日本武徳会武道専門学校卒
(筆者 徳島時代)



下村先生の弟の様な気がする先生でし
た。名門武専の最後の卒業生の様です。
若くて脚力の強いすごい技をもつ気力
の旺盛な先生でした。
高校生の我々とも正対して稽古をいた
だきました。「先輩は後輩に負けるな」と大きな声で寝言を云わ
れたのは赤穂の国体の時でした。

四十二、須見善富先生

範士

徳島農高卒
脇高剣道部を育てた功労者
下村富夫の師匠
(昭和二十九年から
筆者高校・大学時代)



初めてお会いしたのは高校一年の夏合宿の時でした。「剣道の構えは自然が良いが、手首だけは意識してしぼり込む事。これは自然ではないが」と云われた事を思い出します。合宿から帰り際に、我々

生徒に対し「下村を頼むぞ」と二回云われました。我々が指導を受けている先生なのになあと思ったが、先生は我々にしっかり精進して立派な弟子になってくれということだろうと理解しました。

五十、下村富夫先生

範士

国士館専門学校卒
全日本選手権大会に連続十四回
出場した方
(昭和二十七年から
藤田博三 生涯の師)



この先生との出会いがなければ今の私は存在しておりません。中学時代から御指導いただきました。初対面は中学一年生の時でした。国語の時間に「お前も伯父さんの様になれば大した物だがな」が

第一声でした。私の伯父と先生の父君がよくも中学校の同級生で親友であったようです。先生の父君は教師に、私の伯父は神戸高等商船学校を首席で卒業し、剣道をやった人でした。先生との

師弟関係は不思議な御縁と幸運に恵まれました。私の進学した高校に転任していた先生から、本格的に剣道の指導をいただけることになりました。私の剣道は先生から学んだものばかりです。高校時代は先生の真似をしました。下村の小型だと呼ばれる位でした。厳しい稽古と真心の込められた御指導のお陰で今日があると有難く感謝いたしております。先生には千回掛かりました。「徳を積み衆に及ぼせ」は、先生からの遺言となりました。感謝の山

現在稽古が出来るのは、下村、丸山両先生のお陰であります。



剣道俳句集



はじめに

吉田 如風 (博三)

これまで、剣道一言録、剣道回想録と作って参りました。今回、剣道の俳句集を作りたく思い、これまでを振り返り、完成のはこびとなりました。

俳句の五七五の十七音構成はリズム感に満ち、日本人には聞きやすいものだと思います。

俳句としましたが、季語ありません。また、必ずしも五七五にはなっていないものもありますがお許しください。

剣道を学ぶ人たちへの応援歌となればと思いついたままを列記

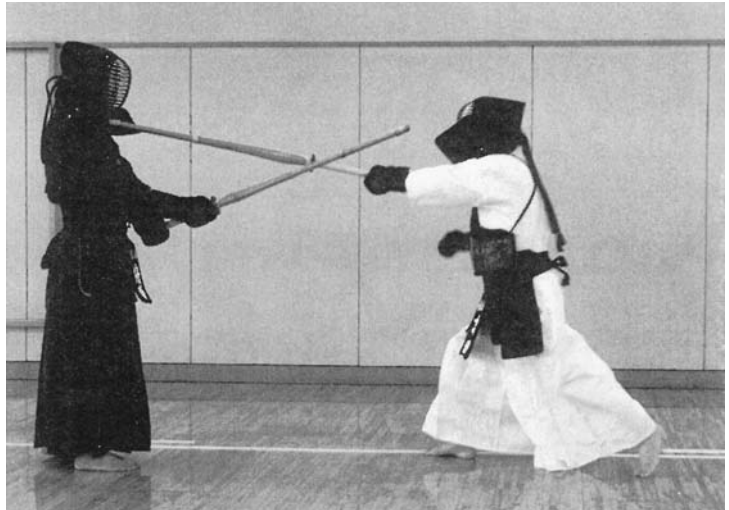
いたしましたところ、百句となりました。

面白くてためになる俳句になればと願っています。

令和元年十二月吉日

なお、編集上、百句の内十数句の掲載とします。

俳句集巻末には、中野範士による試合準備法が掲載されています。試合者にとって貴重な教えとなっていますのでここに転載します。



- ① 人の代の 役に立つのが 剣の道
- ③ 礼をして 閃(ひらめ)きもらい 上達す
- ⑩ 対峙して おぬしやるなと 闘志わく
- ⑱ 剣の道 澄んだ心に冴える技
- ⑲ 対峙して 表裏を尽くし 起こり打つ
- ⑳ 突き技は 邪心を捨てて 一瞬を
- ㉑ 突き技は 呼吸を読んで 邪心なく
- ㉒ 小手技は 竹刀を乗せて 起こり打つ
- ㉓ 対峙して 背くらべするや 位取り
- ㉔ 師の教え 愛と剣とが しみ渡る
- ㉕ 立会は 初太刀がすべて 命がけ
- ㉖ 審判を いただいた分 自らも
- ㉗ 玉剣を 無事とどけたや 次の代へ
- ㉘ 朝げいこ 孫に打たれて うれし泣き

中野八十二範士 九段直伝 試合準備法

- 一 相手をタイプ別に分類する。
- 二 分類ごとに戦略と戦術を立てる。
- 三 試合後は戦略戦術を分析と反省をして次に生かす。
- 四 分析と反省により自己の長所短所を理解する。
- 五 分析と反省により戦略戦術の内容が進歩し、勝率が向上する。
- 六 考える習慣が身に付くと、剣道をより面白く楽しむ事ができる。

タイプ	戦略	戦術
A 上段・二刀	<ul style="list-style-type: none"> ・打たせる ・気攻めの強さ不可欠 	<ul style="list-style-type: none"> ・後の先 ・打って来た後を料理する ・突き・逆胴
B オーソドックス	<ul style="list-style-type: none"> ・間合いで有利に ・気攻めを強く 	<ul style="list-style-type: none"> ・切り落とし等・後の先 ・気後れしない ・得意技を思いきって出せば意外と効く
C 変則・難剣	<ul style="list-style-type: none"> ・近間の勝負になる ・手の内柔らかく 	<ul style="list-style-type: none"> ・応じ攻め厳しく ・突き、摺り上げ技多用 ・技の尽きた処を打つ
D 突き・半面等得意	<ul style="list-style-type: none"> ・守りをしっかり ・手の内柔らかく 	<ul style="list-style-type: none"> ・下がらない ・前に出てかわす ・相手の起こりをとらえる

著者 吉 よし 田 だ 博 ひろ 三 ぞう
教士七段

昭和十三年六月二十二日、徳島県生。徳島農業高校において、しない競技、剣道を始める。法政大学卒業後日通本社に入社。法政大学体育会剣道部監督、師範、顧問を務める。現在は熊谷市春風会において毎週稽古を行なっている。

令和元年度 顕彰一覧

剣道有功賞 (全日本剣道連盟) 令和元年十一月三日

○吉岡 修 一 (徳島県剣道連盟居合道部)

徳島県剣道連盟理事として十四年間務め、居合道部の要として居合道の普及、発展に大きく寄与した。

少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

令和元年十一月三日

○大麻 錬成館 (指導者代表 近藤敏晴)

昭和五十三年四月に創設され四十一年間にわたり少年剣道を通じ少年の健全育成に努めてきた。子供も少ない中で、地道に地域とともに剣道教室を運営しており、その活動は地域に密着し、教室は常に賑やかで仲むつまじく、厳しい稽古の中で人間教育に努めている。過疎地の貴重な剣道教室であり、その努力に敬意を表する。

○石井少年剣道クラブ (指導者代表 近藤正章)

昭和五十六年に県内でも剣道の歴史ある石井町で、当初高浦少年剣道教室として創立され、剣道を通じて少年の健全育成に尽力してきた。平成二十五年に少子化のため町内の剣道教室が次々と

廃部となったことから、町内の剣道教室が再編され高浦少年剣道教室は教室名を名称変更し、石井町内で唯一の少年剣道教室「石井少年剣道クラブ」として地域に根ざした活動を展開し、少年の健全育成に努めている。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会) 令和二年一月二十二日

○兵頭 新平 (徳島県剣道連盟理事)

徳島県剣道連盟理事及び常任理事を十九年間務め、徳島県における剣道の普及発展に大きく貢献した。

○梅山 寧史 (徳島県剣道連盟小松島支部長)

小松島市体育協会においてを十年以上役員及び指導者として活躍し、市内の社会体育等に大きく貢献した。

○大石 雅生 (徳島県剣道連盟美馬支部長)

美馬市体育協会においてを十年以上役員及び指導者として活躍し、市内の社会体育等に大きく貢献した。

スポーツ特別優秀者表彰 (徳島県体育協会)

令和二年一月二十二日

○第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会

☆女子個人の部 準優勝

岩原 千佳 (徳島中学校三年)

令和元年度スポーツ少年団表彰

(徳島県スポーツ少年団) 令和二年二月二十三日

○ 三木 毅(剣道)

藤川 和秋(剣道)

柳谷 照男(剣道)

一宮 和雄(居合道)

高野 康寛(居合道)

久次米 繁興(剣道)

井川 理之(剣道)

以上七名

☆長年(十年以上)に渡りスポーツ少年団で指導に精励した者

全国郵政武道大会 個人優勝 令和元年十月六日

○ 第六十一回全国郵政武道大会

☆OB個人の部で優勝

久保 隆司(名西支部)



剣道有功賞

剣道有功賞を拝受して

居合道部 吉岡修一

このたび全日本剣道連盟より剣道有功賞を拝受いたしましたこと誠に光栄に存じます。これも偏に徳島県剣道連盟会長三木毅先生と理事長藤川和秋先生のご高配と多くの先生のご指導ご支援の賜物であります。深く感謝申し上げます。

私が剣道をはじめたのは小学五・六年の頃で地元の平尾勝美先生に手ほどきを受けました。その時は三木毅先生も一緒に教わりました。練習場所は小学校の講堂、地元の神社の拝殿、公民館、夜間は父兄の家の庭で裸電球の明りで稽古をしました。当時は私と同じぐらいの年齢の子供十数名で指導を受けたと思います。

その後、徳島農業高校へ進学し、下村富夫先生と山田仁先生に三年間厳しい指導を受けました。そのおかげで、高校三年生の時にインターハイ、国体と出場することができました。卒業後、徳島県警で十五年間勤め、退職して家業の農業をしながら、再び、平尾勝美先生が道場主をしている鴨島少年剣道教室で剣道と居合道を教わりました。その間、剣道は昭和六十一年錬士六段に、居合道は平成九年に教士七段に昇段することができました。これも

偏に、平尾勝美先生、川真田高太郎先生、笠井恵之先生や多くの先生方のご教導の賜物と感謝いたしております。

令和初の剣道有功賞受賞を記念して手ぬぐいを作らせてもらいました。居合道六段昇段記念に平尾勝美先生よりいただいた座右の銘『明鏡止水』と書かせてもらいました。座右の銘をいただいて二十八年ぐらいいになりますが、「明鏡」の明、「止水」の止もわかっておりません。剣道・居合道は一生修行であると言われておりますので、これから少しでも理解できたらと思っております。

剣道と居合道は車の両輪であると言われております。この伝統文化を正しく受け継ぎ、次へと伝えて行くことこそ私に与えられた責務であると思っております。これからの人生を全力で剣道・居合道の普及発展のため努力いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

剣道有功賞受賞記念
明鏡止水

徹心道場 吉岡修一
令和元年十一月



第105回 全日本剣道演武大会 平成21年5月2～5日
武徳殿

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

大麻錬成館 近 藤 敏 晴

この度、少年剣道教育奨励賞を受賞することとなり、指導者並びに関係者一同名譽なことと大変喜んでおります。ご尽力頂いた県剣道連盟の先生方には厚くお礼申し上げます。



大麻錬成館は昭和五十三年、剣道による健全な幼少年の育成を目的に剣道連盟大麻支部が創立しました。初代館長の板東大治先生が鳴門市大麻町萩原にある十輪寺の境内で倉庫を道場に改修して少年達に剣道を教えたのが始まりと聞いています。

私は子供が大麻錬成館で剣道を始めたのがきっかけで平成八年頃から指導に関わってきました。その頃はまた十輪寺境内の道場で稽古を行っていましたが、手狭で床の傷みも激しく少々不便を感じていました。長年使用した道場でしたが、十輪寺の住職より老朽化のため建物を壊したいと話があり道場が使用できなくなりしました。新しい稽古場所を探して大麻中学校に相談したところ剣道場を使用させてもらえるとの返事をいただき、平成九年に稽古

場所を大麻中学校へ変更しました。

現在は毎週火曜日と土曜日の午後六時三十分から八時過ぎまで稽古時間としています。藤本雅史先生を筆頭に六名の先生方が指導に当たっており、礼法・体法・刀法・心法の基本を主に稽古を行っています。正しい打ちが身に付くよう、手足の使い方や気持ちの持ち方の注意点を常に伝え、子供達に理解させながら練習することで技術の向上や意欲の向上を目指しています。ここ数年は居残り稽古をする子供達も増えてきました。居残り稽古をして強くなりたいたいという気持ちの子供達の中に芽生えてきたことを頼もしく、また嬉しく思っています。

稽古には幼稚園から小学六年まで十六名の子供達が取り組んでいます。子供の数が減った時期もありましたが、ホームページを作成して活動紹介を行ったり、地元の子供達を対象に剣道体験会を開くことで毎年数人の新入生を迎えることができています。

創立から四十二年目を迎える大麻錬成館ですが、子供達が卒業後も剣道を続けて人間的にも成長することを願い、心身共に元気な剣士の育成を目標に、今後も活動を続けて行きたいと思えます。



少年剣道教育奨励賞を受賞して

石井少年剣道クラブ 近藤正章

この度、石井少年剣道クラブは全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」をいただきました。これも、日頃から熱心にご指導いただいております徳島県剣道連盟の先生方のおかげと、心より御礼申し上げます。

これまでの長きにわたり子どもたちを指導してこられた先生方、現在共に子どもたちを指導してくださっている先生方、子どもたちを励まし支え、クラブ活動に協力してくださる保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

石井少年剣道クラブは、昭和五十四年、師匠である、名西支部長の大西正範先生が一般の稽古会を始められたのを機に、少年の指導も始められ、昭和五十六年に「高浦少年剣道クラブ」という名称で徳島県剣道連盟に登録した団体です。今年でちょうど四十年を迎えます。

私が入部しようとした昭和五十八年四月には部員数が八十名以上おり、これ以上は指導が行き届かないと二度目の募集時期を待ったほごでした。その年の秋、ようやく入部が許され、私の剣道人生が始まりました。

当時は、同じ学校の同級生が数多く入部しており、野球やサッカーなどに負けないくらいの盛り上がりを見せていました。少年

剣道クラブでの六年間は、仲間と一緒に汗を流した日々の稽古や、愛媛遠征で道後温泉に入ったこと、多度津で行われた近県少年剣道大会で優勝したことなど本当に楽しい思い出ばかりです。大西先生からは、剣道の楽しさや仲間との絆、そして試合に勝つことの喜びを教わりました。私が今日まで剣道を続けてこられたのもこの教えが根底にあるからこそだと思います。

あれから三十数年、剣道を取り巻く状況も時代の流れと共に変わってきた今、剣道を始め子ども達も少なくなってきました。

そんな時、私は、大西先生から「少年剣道の指導をしてみないか」と声を掛けていただきました。この頃、私は徳島県警の剣道特別訓練員としての選手を引退したばかりで、これからのように剣道と向き合っていくか考えているところでした。そして、妻とも話し合った結果、平成二十五年、大西先生から少年剣道の指導を引き継ぎ、妻にも協力してもらおうこととなりました。

このとき町内に剣道クラブは一つしかなく、石井町全体の少年剣士を育てるという意味を込めて、「石井少年剣道クラブ」という名称に改名されました。

私達が、稽古に行き始めた時、生徒はわずか二名でした。指導を一生懸命に聞いて、真面目に稽古に取り組んでいました。その後、私達の子どもを含む数名が入部し、現在小学生二十一名、クラブ出身の中学生十二名が剣道を続けています。

指導していて日々思うことは、子ども達はとても純粋で、多くの可能性に満ちあふれているということです。一人一人個性があ

り、伝え方や指導内容も工夫しなければなかなか子どもは伸びて
いかないのだと感じています。難しくプレッシャーを感じるこ
ともありますが、ともに考え学び、成長していく姿を見られる喜
びは大きく、私自身勉強になることがたくさんあります。

また、子どもや保護者との信頼関係も重要です。お互いが信頼
し合っていなければ、指導も個々に行き届きにくいと思います。

私は、これからも真っ直ぐな子どもたちを真っ直ぐに受け止め、
正しいと信じる道へ導いていけたらと思います。そして大西先生
から教わった剣道の素晴らしさを次の世代へつないでいきたいと
思います。

子どもたちが将来、徳島県のために活躍できる人になっていけ
るよう、これからも楽しく厳しく稽古に取り組んでいきたいと思
います。今後のご指導のほどお願いいたします。



体育功労賞

体育功労賞を受賞して

板野西支部 兵 頭 新 平

徳島県体育協会より令和元年度の体育功労賞を頂くこととなりました。剣道連盟会長の三木先生はじめ推薦頂いた諸先生方により感謝いたします。ありがとうございます。

私は中学・高校・社会人とバレーボールをしておりました。全国大会にも出場した経験もありましたが、当時、私が住んでいた兵庫県西播磨地方は剣道が盛んな地域でしたので、あこがれもあり、一念発起して二十歳の時から剣道を一生懸命に始めることとなりました。

その後、徳島では藍住少年剣道や故・堀金實先生が中心に指導されていた県下少年剣道強化をお手伝いさせていただきました。また、徳島県剣道連盟理事として少年部および審査部の仕事も担わせていただき、今日に至っております。

私の好きな言葉に『知行合一』があります。文字のごとく、「知ること」と「行うこと」を一致させることです。剣道においても、「知ること」と「行うこと」の両輪をレベルアップさせることによって上達するものと思います。また、剣道は一生懸命や

ればやるほど、終わりがなく、いつまでも続けざるを得ない状況になっている気がします。（これも生涯剣道でしょうか？）

私事ですが、令和元年十月に中咽頭ガンの宣告を受け、一時人生真っ暗になりました。しかし、ガン摘出の手術も成功し、現在は経過観察中ではありますが、人生の明るさを取り戻すことができました。今まで健康のありがたみも考えずに、ポーっと生きてきましたが、健康で生きられることの有り難さを喜んでおります。（酒好きの皆さん、乾杯しましょう！）

剣道を始めて五十年、年齢も七十歳、西暦二〇二〇年、本当に節目の年になります。この節目の新たな取り組みとして、米倉先生・青木先生からの強いお薦めもあり、杖道を習い始めました。また、剣道は現在、徳島県高齢剣友会を中心に自らの稽古を楽しむんでいます。この年齢ですから、これからはそれほど上達しないかもしれませんが、向上心は持っております。どうか、今後とも御指導の程、よろしく願います。

全国郵政大会

第六十一回全国郵政武道大会

OB個人の部で優勝して

名西支部 久保隆司

(四国郵政武道会)

標記大会が主催・全国郵政武道会、主管・中国郵政武道会、共催・全日本剣道連盟で令和元年十月六日広島県立武道館で開催されました。私の所属する四国郵政武道会からは八名の選手が参加致しました。

団体戦は、Aチームは若手主体で敦賀選手(富岡東局局長)・切中選手(立江局局長)を含むチーム編成で、上位入賞を目指しましたが、惜しくも三回戦で優勝チームの関東郵政Aチームに僅差で敗れました。Bチームは私を含む四国郵政メンバー四人と近畿郵政の女性選手の合同編成メンバーで挑みましたが初戦で敗退しました。

個人戦は、一般男子の部で敦賀選手が三回戦・四回戦と長い延長戦を勝ち抜きましたが、四回戦で敗退、切中選手も三回戦で敗退しました。

OBの部で私は一回戦・小出選手(本社)に面一本勝ち、二回

戦・欠端選手(東北)に面一本勝ち、準々決勝では大都選手(東京、前年度優勝者)に面一小手、面の一对二で勝ち、準決勝では高橋選手(信越、過去六度優勝の二刀流)に面一本勝ち、決勝戦千田選手(北海道、過去二度優勝者)面、胴二本勝ちという結果でした。

前々年度の決勝戦では一本負けでした。試合時間切れ間際に打った出小手に手応えを感じ、主審の旗が一本だけパツと上ったことに一瞬気を抜いた直後に面を打たれ、準優勝に甘んじた事を反省し、今回は初戦から一本に集中し試合の始める礼から試合終了の礼まで、気を抜かず油断無く攻め切る事に、全神経を注ぎました。準々決勝の大都先生(前年度優勝者)との試合は初太刀で出鼻小手を先取した後、小手に出る処を抜き面を決められ、主審の勝負の宣告直後、相手が面に出る処を出鼻面で勝つことが出来ました。

この大会で一番の壁は準決勝の高橋先生(過去六度の優勝者で二刀流)でした。私は対二刀流は極苦手でした。そこで二刀流の小太刀を克服するため左諸手上段からの面一本にかけて挑みました。

決勝戦は、北海道郵政支社の千田先生。過去に二度の優勝経験者です。試合開始後一分位に、相手が面に出ようとする処を出鼻面で先取し、その後、間合いを詰め、攻めたところへ相手の面に出た瞬間、返し胴が見事にきまりました。

念願の全国大会制覇し日本一になることが出来ました。四国郵

政武道会の仲間と原嶋茂樹教士八段が駆けつけて頂き、祝福してくれました。

この度、皆様に良いご報告ができる事を大変嬉しく思います。これも（故）高下正義先生、堀江幸夫先生、遠藤一美先生、森川竜一先生から、「結果を出せる強い七段に成れ」とご指導頂き、そのことを心に秘めて稽古に励んだ事が良い結果を生んだと思います。

平成三十一年三月三十一日に、四十四年間務めた郵便局を退職しました。四月から徳島市の自宅から神山町の実家まで、毎日三十五キロ通い農作業をしながらできる限り稽古時間を捻出しました。月曜日はセント歯科道場で玉田先生・沢井先生・榊山先生はじめ若い道友の方々、金曜日は地元名西支部稽古会の仲間、そして土曜日と日曜日は我が徳島清風館道場の稽古と皆さんに、支えられご指導頂きました。今回の優勝はそれらと全てのお陰と深く感謝致しております。

令和二年九月十六日、東京武道館（関東郵政主管）で、第六十二回全国郵政武道大会開催予定です。これからも変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。





全国スポーツ少年団大会

第四十一回全国スポーツ少年団 剣道交流大会に参加して

小松島少剣クラブ 岩原千佳



私は、平成三十一年三月二十七日～二十九日までの三日間、山口県維新百年記念公園で開催された第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加しました。

私は、昨年この大会に参加させていただき、三位に入賞することができました。今年徳島県予選を突破し、この大会に出場が決まってからは、「昨年以上の成績」と「思い切って自分の得意なメンで勝負する」を目標として練習に取り組みました。

大会までの練習は、順調にできていましたが、直前になって思うように技が出せず、不安な気持ちで大会を迎えることとなりました。

しかし、今回小学生団体で那賀郡代表の木頭錬心館のみなさんと一緒に生活するなかで、リラックスすることができ、不安も解消することができました。

大会初日は、開会式やレクリエーションなどがあり、リラックスした雰囲気の中で始まりました。昨年この大会を通して知り合った人や、錬成会などで試合をしたことがある人もいて、みんな気さくに声をかけ合うことができました。

大会二日目、いよいよ試合が始まりました。予選リーグ一試合目は、栃木の毛塚選手と対戦しました。初戦は思ったほど緊張せず、動きも軽く感じました。序盤、少しやりにくいなと思いましたが、終盤メンを決め一本勝ちを収めることができました。二試合目は、静岡の磯部選手と対戦しました。最後まで自分のペースで試合をし、二本勝ちを収め、予選リーグを勝ち抜くことができました。また、小学生のみなさんも予選リーグを突破していたので、明日も一緒に頑張ろうとテンションも上がりました。

大会三日目、体調も良くいつもと同じような軽い動きでアップもでき、適度な緊張感を持って試合にのぞむことができました。決勝トーナメント一回戦は、沖縄県の又吉選手でした。お互い序盤は様子うかがう展開でしたが、焦ることなく落ち着いて試合が運べ、中盤にメンを決め勝つことができました。準々決勝は、福岡県の荒木選手と対戦しました。この試合は延長戦になりましたが、最後は思い切ったメンが決まり勝利することができました。準決勝は、高知県の永野選手との対戦でした。四国大会などで対戦しており、知っていた選手だったので少しやりにくさを感じましたが、粘り強く攻め続け、延長でメンを決めることができました。いよいよ決勝戦となり、鹿児島県の猪原選手と対戦しました。



一学年上で、昨年この大会とともに三位だった選手であります。私は、とにかく思い切ってメンを打とうと心に決め試合にのぞみました。しかし、試合が始まると、私以上に思い切ったメンを二本打ち込まれました。試合後、小川大造監督から「あまりにも見事に打たれたので、退席するとき選手席に私の竹刀袋を置き忘れそうになった」とお聞きしました。私は、そのような技を打たれたことに感謝しながら、今度対戦したときは、もっと素晴らしいメンを打ち返してやろうと思いました。

今大会で当初の目標を達成することができ、このような成績を

収めることができたのも、これまでご指導いただいた徳島中学校 兼松佳史先生、小松島少剣クラブ青木博志先生はじめ諸先生方、毎日一緒に稽古を積んできた徳島中学校女子剣道部の仲間のおかげであります。本当にありがとうございました。この経験をいかし、これからも頑張っていきたいと思えます。

第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会

平成三十一年三月二十七日～二十九日

山口県維新百年記念公園

女子個人

予選リーグ

岩原千佳(徳島)メー 毛塚(栃木)

岩原千佳(徳島)メメー 磯部(静岡)

決勝トーナメント

1回戦

岩原千佳(徳島)メー 又吉(沖縄)

準々決勝

岩原千佳(徳島)メー 荒木(福岡)

準決勝

岩原千佳(徳島)メー 永野(高知)

決勝

岩原千佳(徳島)ーメメ 猪原(鹿児島)

準優勝

令和元年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	橋 本 青 空	那 賀 川
2	尾 畑 翔	那 賀 川
3	岩 谷 愛 夢	小 松 島
4	原 拓 海	小 松 島
5	桂 大 二 郎	小 松 島
6	秋 山 颯 汰	徳 島 文 理
7	沖 野 友 哉	徳 島 文 理
8	岩 田 直 太 朗	徳 島 文 理
9	添 木 陽 仁	徳 島
10	茨 木 一 博	徳 島
11	千 葉 陸 登	徳 島
12	千 葉 翔 太	徳 島
13	関 本 崇 司	徳 島
14	鹿 島 稜	阿 南 第 一
15	津 山 裕 也	阿 南 第 一
16	谷 川 俊 輔	北 島
17	撫 養 祈 叶	北 島
18	富 田 将 太 郎	北 井 上
19	藤 本 豪 太	貞 光
20	安 井 大 晟	石 井
21	玉 垣 柊 芽	鷺 敷
22	床 嶋 蓮	三 好
23	近 藤 邑 樹	山 城

No.	女 子	学 校 名
1	岩 原 千 佳	徳 島
2	松 山 若 樹	徳 島
3	篠 原 紗 也	徳 島
4	赤 川 真 唯	徳 島
5	曾 我 柚 月	徳 島
6	面 岡 紀 乃	徳 島
7	小 畠 理 奈	那 賀 川
8	羽 坂 愛 彩	那 賀 川
9	岩 佐 真 夏 花	那 賀 川
10	古 川 ち ひ ろ	徳 島 文 理
11	金 野 結 月	徳 島 文 理
12	佐 藤 ち ひ ろ	徳 島 文 理
13	東 道 仁 美	徳 島 文 理
14	四 宮 彩 乃	徳 島 文 理
15	坂 野 陽 菜	藍 住
16	藤 岡 玲 奈	藍 住
17	島 澤 明 未	海 陽
18	田 窪 優 奈	海 陽
19	播 磨 昌 美	鳴 門 市 第 一
20	山 尾 心 那	鳴 門 市 第 一
21	西 村 葵	鳴 門 市 第 一

令和元年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	小山田 慎 介	城 北
2	吉 田 晴 哉	城 北
3	炭 元 裕	城 北
4	片 岡 俊 人	徳島文理
5	一 楽 泰 志	徳島文理
6	熊 橋 知 晃	川 島
7	山 添 龍 也	川 島
8	吉 岡 凌 太 朗	川 島
9	檜 葉 龍 空	川 島
10	河 野 寛 之	阿南光
11	上 田 広 輝	阿南光
12	上 条 亮 太 郎	阿南光
13	吉 岡 有 朔	阿南光
14	田 上 歩 夢	富岡西
15	披 田 好 誠	徳島科技
16	山 下 堯	徳島科技
17	池 森 堪 史	徳島科技
18	末 光 春 樹	鳴門渦潮
19	受 川 樹	鳴門渦潮
20	藤 本 勇 人	鳴門渦潮
21	後 藤 高 志	富岡東
22	齋 幸 佑	富岡東
23	朝 田 翔	富岡東
24	原 健 太 郎	富岡東
25	松 山 知 樹	富岡東

No.	女 子	学 校 名
1	朝 田 萌 香	富岡東
2	田 村 眞 尋	富岡東
3	馬 見 恵 理 子	富岡東
4	和 田 津 凜 紅	富岡東
5	増 井 樺 乃	富岡西
6	藤 原 優	富岡西
7	篠 原 若 葉	川 島
8	三 笠 志 織	川 島
9	堀 井 乃々花	川 島
10	笠 井 知 捺	川 島
11	村 本 歩 美 佳	城 北
12	貴 島 美 鈴	城 北
13	福 井 深 珠	城ノ内
14	峰 慶 乃	城ノ内

先生を偲ぶ

福井軍二先生を偲ぶ

海部支部長 影山 美雄

『徳島の剣道』に福井先生を偲ぶ執筆を受け、光栄に思うところであります。

同時にまたこの上なく悲しいことでもあります。



今思うに福井先生と私との関わりの殆どは「剣道と酒」に尽きます。福井先生と私の出会いは、私が大卒を卒業した年でした。福井先生が愛媛県新田高校から水産高校に着任したばかりの時でした。

その頃には郡市對抗教職員剣道大会があり、海部郡チームで先鋒は私、中堅は福井先生、大将は中山先生で出場しました。福井先生の剣道は体幹がしっかりしていて、真っ向勝負で堂々としていました。それ以来私たちは剣道を基盤として三兄弟のように親密になりました。

私は外部講師として中山先生の元、日和佐中学校で部員たちを日々鍛錬し、お陰で県総体や全国大会県予選で優勝が出来ました。全国大会ではベスト八の好戦績を収めることができました。その

チームの殆どのメンバーが水産高校に進学し、福井先生の指導を受けることになりました。私もよく水産高校に防具を持参し福井先生と稽古をしたものです。私は福井先生の指導法が好きでした。いつも部員と共に体を張って前面に立ち、大きく、力強く、基本を最重視する正攻法でした。福井先生のそんな指導法が着実に功を奏し、高校総体他、数々の団体優勝や個人戦でも本田政芳君・井村雅人君・杉原昭人君・白木洋一君・福永和美君 など数々の高校チャンピオンを輩出しました。私はその後、木頭中学校へ赴任し、剣道部の顧問になり部活に熱中しました。努力が実り、優勝旗も何本か飾ることが出来ました。

昔の武道館は助任川のたもとにありました。木頭中学も水産高校も遠隔地であり、選手のコンドیشنに配慮もあって大会前日から武道館に泊り込み、夕稽古、朝稽古をして、最後の調整をしていました。福井先生と私も部員たちと雑魚寝をしたことも懐かしい思い出となってしまいました。そして、痛快だったのは福井先生と私は優勝旗を枕にして寝ていたのをなつかしく思い出します。何とも豪華な枕でした。

福井先生と私は繁華街へ時々くり出しました。その時は私は福井先生より先に酔っぱらうことにしていました。でない二人の約束事で、どちらかが酔っぱらったら一人が世話をすることになっていたからです。福井先生が酔っぱらうとあの重たい体を宿舍まで運ぶのに何度となく難儀させられたことか。

部活が終わった後、中山先生宅でよく酒盛りをして賑わしくし

ていました。酔っぱらうと各自の十八番を歌っていました。マイクはいつも割り箸をみかんやりんごに突き刺したものでした。中山先生は「誰よりも君を愛す」で、君のところを奥さんの名前に変え、美しい高音を響かせてご満悦でした。福井先生は決まって「母さんの歌」でした。独特の節回しで急に早くなったり遅くなったり、変曲、変詩自由奔放でした。私の持ち歌は「岸壁の母」でした。特に台詞の所を得意としていました。そのセリフも乱れに乱れ華々しいものでした。

福井先生の伝説とも言えるものを一つ披露しましょう。福井先生は酔っぱらうと夜な夜な日和佐駅に出没し、乗り降りしている人たちに「剣道しませんか」「剣道しましょう」と勧誘しているとの噂が立ったことがあります。それ程剣道に精進し、剣道を愛していたということがわかります。

私は福井先生のことを「軍ちゃん」と呼ばせてもらっていました。一度、軍ちゃんが私に言いました。「愛媛にいた時も皆から『軍ちゃん』と呼ばれていた。徳島へ帰ってきてからもまた『軍ちゃん』と呼ばれてる。」と、とても嬉しい顔をしたことを思い出します。

誰からも親しまれていた証だと思えます。

誰からも好かれていた証だと思えます。

誰からも信頼、敬愛されていた証だと思えます。

軍ちゃん、ありがとうございました。

軍ちゃん、お疲れさまでした。

軍ちゃん、いつまでも忘れません。
愛してるよ、軍ちゃん。

合掌



公堂



水産高校の生徒たちと
筆者（中央左）と福井先生（中央右）



水産高校剣道部

恩師 福井軍二先生を偲んで

石井中学校 教諭 白 木 洋 一

福井軍二先生の訃報を聞き、一瞬我が耳を疑いました。つい先月剣道の大会でお元気そうな様子を拝見したばかりであったからです。いてもたってもいられず、阿南の葬儀場に向かいました。

途中、福井先生の教え子である阿南光高校の佐々木和人氏、科学技術高校の曾根徳治氏と連絡を取り葬儀場で合流しました。葬儀場では、長男の福井洋文氏から、先生の最期のご様子を伺うことができました。傍らに眠る先生のお顔を拝見すると、「どうした、白木。佐々木や曾根も一緒に」と話しかけられそうな、いつもと変わらぬ愛情溢れたお顔がありました。

今日自分があるのは、福井先生の存在が全てです。福井先生と出会わなければ剣道も続けていないし、教師にもなっていないと断言できます。

福井先生を偲びながら、時代ごとに思い出を回想したいと思えます。

【中学から高校時代】

福井先生との出会いは、一本の竹刀からです。水産高校に進学が決まった春休みでした。家に帰ると、母親が「今日水産高校の福井先生という人が来て竹刀を置いていったよ。」と言いました。その竹刀には、徳島県立水産高等学校と書かれていました。牟岐

中学校時代に全国大会に出場したものの、高校では剣道をやらないうと決めていた私にとっては、「困ったな」という気持ちが正直なところでした。そんな気持ちで入学したので、入学当初は真面目に練習に行くわけもなく、よく逃げて帰っていました。今となっては、駅の改札まで連れ戻しに来てくれた先輩方に感謝です。

当時の水産高校の稽古は、それは激しいものでした。毎日切り返し千本、面打ち百本をノルマとして各種の懸かり稽古、何より苦しかった福井先生との稽古。一年時の主将西川先輩、二年時の主将井村先輩は淡々と稽古をこなしていて本当にすごいなと思いました。先輩方同士の稽古も激しく、エキサイトすることもありますが、福井先生は全く動じず稽古を続けられていました。また、福井先生は、先輩方の打ち込み・懸かり稽古を一人で受けておられました。あまりの激しさに面金が折れたほどでした。県高校総体前にはご自宅を開放して合宿を行いました。福井先生の官舎に高校生が何人も泊まり込みました。合宿といっても、一カ月近くにわたるものでした。ご家族にも大きな迷惑をおかけしたと思います。福井先生は、私たちにいつも「十年後に伸びる剣道を教えている。」とおっしゃっていました。当時は「十年後までこんなにしんどい剣道をするはずなのに。」と思っていました。今は私が中学生に同じことを言っています。

【大学時代】

大学進学を相談した時も、「国士館が主流だから国士館に進学しなさい。」と導いてくれました。福井先生ご自身は、東海大の

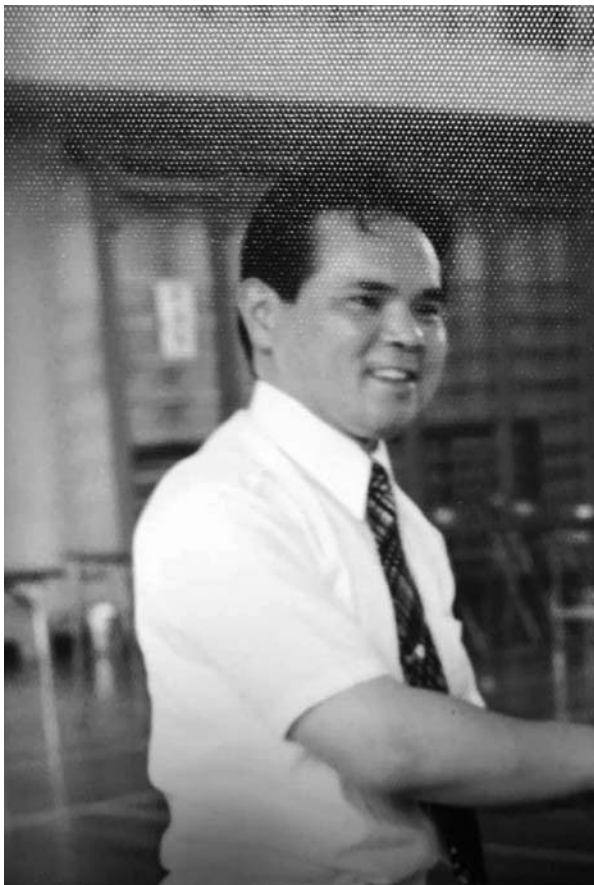
ご出身なので、「万が一、不合格ということがあってはならないから東海大学も受験しておきなさい。」と言われました。本来なら、自分の出身大学を第一に勧めるところなのですが、このことも福井先生に感謝しかありません。

教育実習中に忘れられないことがありました。ある少人数の会議が長引き、稽古に間に合わない時間になったときでした。福井先生はやおら立ち上がり、「私には稽古を待っている生徒がいる。こんな内容に時間をかけている暇はない。」と今まで見たことがないような激しい口調で話されると「白木、行くぞ。」と言われる会議室を出ました。生徒の指導にどんな思いで取り組んでいるのかを垣間見た瞬間でした。

【大学卒業】

大学を卒業してからも、福井先生は稽古会でお会いする度に、「○○先生に挨拶をしたか？」・「○○先生に稽古お願いしたか？」と声をかけてくださいました。おかげで多くの先生方からご指導を頂くとともに、「軍ちゃんの子か。」とかわいがって頂きました。

私は福井先生から剣道だけでなく様々なことを教えて頂きました。生徒の指導の仕方、人との接し方、お酒の飲み方、同じ教師という仕事に就いてからは、仕事についても教わりました。振り返れば、人生そのものを教わったといっても過言ではありません。大会で先生に会ったときに「先生ご機嫌麗しいですか？」と聞く恒例のご挨拶



総体初優勝時の福井先生

も、今となっては懐かしい思い出になってしまいました。中学校の大会では、生徒の剣道を見て、「いい剣道をしているよ。」と言われるのが励みでした。何歳になっても、福井先生に褒めて頂くとうれしい気持ちになりました。

福井先生との思い出はいくら語っても尽きることはありません。今でも元気の溢れる「押忍・押忍・押忍」の声が聞こえてきそうです。福井先生の教え子として、恥じぬようにこれからも頑張りたいと思います。

福井先生、本当にありがとうございました。

合掌

福井先生との思い出

徳島科学技術高等学校 曾根 徳治



福井先生は同郷でもあり、子供の頃から知っていましたが、最初にお世話になったのは木頭中学校時代です。福井先生がその頃勤めていた水産高校で合宿させていただき、高校生と練習させていただきました。ときには大変お世話になりました。練習は厳しかったですが、大きな水の入った砂糖水を福井先生が作ってくれ、練習の合間に飲めるのがうれしかったことを今でも覚えています。

私は、昭和六十一年四月に母校である阿南工業高校に講師として勤務したのが教員としての始まりですが、そのときの剣道部顧問は恩師である鎌田恵先生とOBの坂本信幸先生、そして福井軍二先生でした。放課後の稽古で汗を流し、夜は流した汗以上のお酒を飲み、次の日に福井先生の前髪が崩れているときは全員の生徒が一言もしゃべることなく黙って自習していました。日頃の指導が徹底されていることとそれを守る生徒の素晴らしさを覚えています。

また、平成十一年から四年間は徳島東工業高校で一様に顧問をさせていただきました。

この頃は、校務も増えて放課後の練習に行くことができない日

も多かったため朝練習をしていました。私が道場に着くよりも早く来られて、教官室の椅子に座って膝を組んだ姿勢で足首を回して稽古に備えていました。

福井先生は剣道とお酒をこよなく愛し、真面目で情熱が有り年齢に関係なく多くの人に愛されていたと思います。少年剣道教室で指導しているときに「諸君」と言う言葉を使って話すことが多い「諸君の先生」として人気がありました。お酒を飲み、調子の良いときには「秋の日の、ヴィオロンのためいきの身にしてみても、ひたぶるに、うら悲し。鐘の音に胸ふたぎ、色かへて涙ぐむ過ぎし日のおもひでや。げにわれは、うらぶれてここかしこ、さだめなくとび散ちらふ落ち葉かな・・・」とポール・ベルレーヌの秋の詩を独唱され何も知らなかった私たちもいつしか覚えてしまい、一緒に口ずさんでいました。

退職されてからは、阿南と木頭の家を往復して過ごされ、木頭に帰っているときには玄関に旗を立てているからと話されていた。先日、木頭に帰えり、福井先生の自宅の前を車で通ったとき玄関先に旗が揚がっていなかったのが今日阿南の家に居るのだと当たり前のように思った自分がいきました。少ししてから、亡くなられたことに気づきさみしさがこみ上げてきました。

私は福井先生からどれほど多くのことを教わったことか知りません。先生の優しさと包容力のもとで一緒に学ばせていただいたことを光栄に思います。

これからはあの慈愛あふれる温顔に再び接することができない

ことが残念でなりません。私たちは、先生に学んだ幸福の時を、
これからの励みとし、これからの人生も頑張らなければという気
持ちです。先生、どうか安らかにお眠り下さい。そして、ありが
とうございました。



福井軍二先生のお人柄を偲び『徳島の剣道第十六号』に寄稿された福井先生の文章を再掲載します。

水産高校の十一年

学剣連 福井軍二



定年退職を迎え、教員生活三十六年を省みると、忘れられない思い出が清水のようにわいてきて夜も眠られないことがある。

松山の新田高校で八年間お世話になり、昭和四十七年四月、水産高校に赴任して以来二十八年が過ぎた。今思えば、厳しく生きた水産高校の十一年は、自分にとって最も充実した三十代であった。剣道は新田高校でも、作道圭二先生・松公明先生にご指導をいただいたが、日和佐で中山啓男先生との出会いがなければ今日の自分はなく、剣道も五段止りであったと思う。また、すばらしい人間との出会いや感動もなかったと、今しみじみ考える。

当時水産高校にも剣道部はあったが、稽古も休みがちな状態で、試合に行っても選手が揃わないことが時々あり、どうすれば毎日全員が揃い稽古が出来るようになるかと悩んでいた。そ

んなとき日和佐中学校の中山先生との出会いがあった。日和佐中学校は大勢の部員で毎日厳しい練習をしていた。試合も強く県下を征して全国大会で上位に進出した。中山先生の情熱あふれる熱心な指導姿を拝見して、自分は叱咤激励された。剣道を再発見することができた。一学期の終りに剣道部を解散すると、一年生三人と二年生は一名計四名になったが、剣道部を立て直すことができた。稽古も日曜日でもできるように中学校への出稽古の日数を増やすことができた。夏季合宿を木頭村で始めることもでき、稽古の内容も基本を重視して新田方式に切り替えた。秋の選手権で篠原健二が準優勝した。四十八年の選手権で本田政芳が優勝した。四十九年には団体で四国大会丸亀に出場することができた。五十年度に日和佐中学から井村・杉原・岩田・原・森本が入学し、水高剣道部も県下を征して全国大会出場を目標にすることが出来るようになった。その年から、私の教員住宅での強化合宿を始めた。玉竜旗大会では西川が五人抜きを果たして三回戦に進出したが高千穂高校に逆に五人抜きされた。しかし、玉竜旗大会に参加したことは水高剣道部によって大きな起爆剤となり良い収穫を得ることが出来た。団体戦では、それまで、県下で何度か決勝戦まで進出したがすべて負けていた。五十一年度ライオンズ大会で初めて団体優勝した。それまで決勝に五回ほど進出したがどうしても勝てなかったことを思うと感激も深く涙が出る思いであった。その年、井村が総



体個人で優勝してインターハイに出場。五十二年度には、総体で団体・個人（井村）とも優勝して津山インターハイに出場し、白木が秋の選手権で優勝した。総体で優勝するまでに六年が経過していた。五十五年には故下村富夫先生が校長として赴任されご指導いただいたことは水産高校剣道部にとってこの上もない有難いことであった。福永・美馬が活躍インターハイ出場、五

十六年森崎が四国大会で三位に入賞した。五十七年度、松下・松川・張西・中野・灘・藤田を擁して新人戦に優勝し、県内のすべての大会で男子団体戦で優勝することができた。一時期優勝旗七本を集めたこともあったと記憶している。

自分の専門は電気工学の学習指導であるが、今思え

ば水産高校の十一年は自分の人生にも悲哀を感じ、剣道に明け暮れた日々であった。学校側の理解もいただき、自分も稽古を毎日することができたことに感謝したい。五百本、千本の切り返しは日常であったが、部員は良くついてきてくれたと思う。体当たりを受けて面金が折れたことも良い思い出となる。懸命に生徒と汗を流すことによって、生徒から多くを学ぶことができ、剣道について多少知ることができ、剣道という道門の入口に立つことができたと思っている。この道は生涯続けても行き着くところのない道であると最近思うようになってきた。考えてみれば今まで多くの先生方や、後輩達にお世話になっていた。今から健康管理に配慮し、物事を謙虚に受け止め「行」の実行できるように生きたいと思う。

当時の水高剣道部OBの会「水軍酒会」では、昨年と今年二回の退職慰労会をしていただき、十七年ぶりに水産高校道場で稽古の機会を得て、数十枚ある賞状を観ながら過去の自分を思い出し、新たな人生を見つめることができた。ここに共に汗を流し、涙を流した我が友に心から感謝したい。そして、一句を詠む。

剣道に命をかけし わが友よ

生涯つづく 水高たましい

全国講習会報告

平成三十一年度

西日本中央講習会に参加して

強化委員長 平野誠司

1 平成三十一年度西日本中央講習会日程

(1) 期日

平成三十一年四月六日(土)～四月七日(日)

(2) 会場

神戸総合運動公園体育館 グリーンアリーナ神戸

(3) 役員及び講師

全日本剣道連盟 張 富士夫 会長

福本 修二 副会長

奥島 快男 副会長

中谷 行道 常任理事

講師 遠藤 勝雄 範士(指導法担当)

藤原 崇郎 範士(審判法担当)

小坂 達明 範士(日本剣道形担当)

この剣道中央講習会は、剣道の普及・発展のため、意思の疎通を図り、統一的な講習内容を確認し、各地で行われる講習会

の間、異同が生じることのないよう万全を期することを目的として毎年開催されています。

2 開講式(福本副会長挨拶から)

○ 剣の理法を正しく学び、「三無の剣」の神髓を正しく伝承していく中で、指導者自身が剣道の素晴らしさを実感し、時代に相応しい剣道の価値観を発信できるように努力していくことが大切である。

○ 剣道人口の減少という現実を捉え、剣道人としての振る舞い、また指導者としての指導の在り方をもう一度考え直し、不祥事によってその競技を敬遠し、また人気が低迷して競技人口が減少するという「負のスパイラル」に陥らないようにすること。

○ ガバナンスやコンプライアンスの重要性をよく理解し、決意をもって不祥事防止に取り組んでいくことが急務となる。

3 ガバナンス・コンプライアンス講習(全剣連の取組み)

倫理規定制定(平成三十年十一月二日)

倫理委員会発足(倫理委員会規定)

全剣連倫理に関するガイドラインの制定(平成三十年十一月)

相談・苦情窓口の設置(平成三十年十一月)

綱紀委員会規則（懲罰規定）の改定

4 日本剣道形

大正元年十月十六日 「大日本帝国剣道形」制定

大正六年九月 「加註」

昭和八年五月 「増補加註」及び写真説明

昭和五十六年十二月七日 「日本剣道形解説書」制定

平成二十四年四月一日 剣道講習会資料

日本剣道形講師の小坂範士からは、

「長い歴史を持ち、理合・精神面に深い内容を持つまでに発達した伝統文化である。この伝統文化としての日本剣道形を正しく修練し、次世代に伝えることに大きな意義があり、それが指導者としての使命である。」

実技では「修練における基本的な留意点」及び「共通理解」の説明を受けながら、詳細にわたり説明を受けた。

5 審判法

審判法講師の藤原範士から、今年度の重点事項の説明を受けながら、実技では特に「有効打突」と「反則行為」の見極めについてのポイント指導を頂いた。所作と判定については、「審判員も周りから見られているという意識」が審判技術の向上に繋がっていく。

(1) 宣告・表示を正確、明確に行う。

姿勢と態度に気をつける。

(2) 「有効打突」及び「反則行為」の見極め

○ 第一条

「公明正大に試合、適正公平に審判」

私的な感情をなくして公平にやる（剣道競技の信頼性）。

「規則に載っていないことが発生」

第一条に照らし合わせる。

剣道がより正しい方向に導いていけるかを基準とする。

「判定以外の運営面のトラブル」

主任、審判長の意見を徴することも必要。

○ 成人は成人なりの、少年は少年なりの厳しさはある。

それぞれの「適正」を見極めることが大事。

○ つばぜり合いの「空費」と「不当」。

受けから入ってつばぜり合い（三所隠し）は取りやすい。

意識はなくとも、かたち（組み立て）がそうになっているものも不当な行為として判断する。

(3) 規則改正

○ 竹刀の規定については、普段の稽古の中でも指導して事故防止を図っていくことが大切である。

○ 面、小手、稽古着について、規定外と判断された選手については、反則等で対処せず、次回大会には使用しないように指導する。

6 指導法

指導法講師の遠藤範士からは、剣道の本質を一貫する指導法の確立が大切であるとの講話を頂いた。その実技指導は、まず素振りから始まった竹刀操作では、日本刀の意識で手の内を考え、刃筋を通す操作を考えていくと、今までとは違う技の本質に気付くとともに、操作の幅が広がり、また技自体が深まったような感じを受けた。

素振りで指導したことを、防具を着けての基本技稽古法で確認させ、相互稽古で実践させる。この一貫した指導法の確立が「正しい剣道」の普及には重要である。

「指導法の位置づけ」

日本剣道形（日本刀） ↓ 基本技稽古法（木刀） ↓ 竹刀稽古（竹刀）



令和元年度居合道中央講習会に参加して

居合道部長 福井 勝



令和元年度居合道中央講習会が八月三十一日（土）～九月一日（日）京都市武道センターにおいて開催され、本県から坂本憲一・福井勝が参加しました。

講習日程一日目午前中、全日本剣道連盟専務理事、中谷行道先生の「一般財団法人全日本剣道連盟倫理規定」それに伴う「倫理に関するガイドラインの説明」をガバナンス・コンプライアンス（全剣連の取組み）資料により説明があり、コンプライアンスの重要性を強く説明されました。不祥事が起こると社会が剣道を敬遠、人気下落、競技者の誇りに傷、競技人口が減少。また資金源を失うことで事業縮小、負のスパイラルに落ち込むその他、反論的行為、暴力、ハラスメントなどの説明・質問時間が設けられました。詳しくは剣道講習会等で説明があると思いますので省略します。

その後、全剣連居合の解説があり、居合道委員長の草間淳一先生が解説、範士佐藤四十一先生が実演で午前が終了しました。午後は各班に分かれ、居合道委員が配置され、各技の確認実演を行いました。

二日目、午前中は審判講習。十月十九日（土）開催される全日

本居合道大会の審判団が招集されており、試合中の負傷に関する審判員、試合者、時計係の動作について確認が行われました。その後、全日本の審判団と講習参加者により二班で審判の実演を実施しました。午後は古流の研究で岩手県の夢想神伝流の実演、解説を受け、その後各流派にわかれ、研究会を実施。英信流は四国から出ており、大きな違いは見られませんでした。香川の古谷先生の相手の技こうとする刀を制し、関節技で制圧する技は素晴らしいものでした。一六時に全講習を修了しました。

徳島県では九月十五日（日）論田B&G武道館で伝達講習会を開催しました。解説を坂本八段、実演を福井が担当しました。技は徳島で実施された西日本講習会と変わりなく、全剣連の全日本剣道連盟倫理規定の説明に時間を割きました。

午後は審判講習に当て試合中の負傷者に対する対応を説明後、四段～七段まで交代で実施。講習会を終了しました。

第五十七回 剣道中堅剣士講習会に参加して

警察支部 佐野 伸 治



令和元年六月十三日から六月十六日までの間、奈良市中央武道館において開催された第五十七回中堅剣士講習会に参加しました。この中堅剣士講習会は今回で五十七回目であり、通称「柳生講習会」と呼ばれ、稽古の厳しさには充分定評がある伝統の講習会です。今回も各都道府県から選抜された六十一名が参加しました。

初日の開講式では、本講習会の講師先生となる十数名の範士八段が上座に居並び緊張感と高揚感が必然的に高まる中、福本修二先生（全日本剣道連盟副会長）から「本会は単なる講習会ではない。全剣連において三つの強化の一つに位置付けられている強化合宿である。必然的に厳しい内容となる。各都道府県の中核となる諸君は、今一度、自分の剣道を見つめ直し、伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承せよ。」との檄を頂きました。剣道を正しく伝承・継承すべく行われる本講習会に参加できることを幸せに感じると共に、中途半端な気持ちで臨むことは許されないと気持ちを新たにしました。

開講式後の素振りの指導では、正しい素振り、質の高い一本に

するための素振りを修得するために、刃筋、手の内、振りかぶりの角度、構え、姿勢、足さばき、体移動、冴えのある剣先等、素振りにおいて様々なことを意識して行うように指導をいただきました。本講習会では、数千本の素振りを行い、改めて素振りの重要性を認識することができました。中でも連続五百本の早素振りは久々に震えました。

木刀による剣道基本技稽古法では、全て一挙動で行う重要性や、この稽古法を活用し応用技に発展させることを学びました。一方で、日本剣道形は、「日本剣道形解説書」の通り行うようにと指導をいただきました。「木刀による剣道基本技稽古法」「日本剣道形」「竹刀稽古法」の位置づけと繋がりを踏まえた指導法の充実を図る重要性を学ぶことができました。

指導法では、切り返し、打ち込み、追い込み、区分稽古等、非常に厳しい稽古内容でした。稽古内容の一例を紹介しますと、百本切り返し↓二分間の打ち込み↓約四〇メートルの追い込み↓面打ち一〇本を二人一組で、相手を変えつつ約一時間という稽古です。特に、左足を継がない一拍子で打ち切ることを徹底的に指導いただきました。また指導者たる者は自らが範を示さなければならず、そのためには全てにおいて正しいことを正しく修得することが求められておりました。つまり、「基本通りにやる」ことでした。

朝夕の指導稽古では、先生方の気迫・気位に圧倒されながらも覚悟をもって打ち込んでいくことで、とても充実感を得ることが

でき、先生方の立ち居振る舞い全てが、「指導者としての範」を示すものでありました。

今回、講習で学んだことを、全て誌面で紹介することはできませんが、今後の私の剣道修行において大きな財産となることは間違いなく、参加して非常に良かったです。縁あって同期となり、厳しい稽古を共に乗り越えてきた講習生の先生方とも剣道について多くの意見を交わす機会もありました。

私も四〇歳を超え、現役といえる年齢ではなくなり、今後の自己の剣道の在り方や剣道の方向性を模索している最中での講習参加であったこともあり、仕事、家庭、剣道のバランスを取りつつ、剣道とどう向き合うべきかとの問いに、私なりの方向性を見出すことができました。

文末になりましたが、令和元年の剣道中堅剣士講習会に徳島県代表として推薦していただいた徳島県剣道連盟に感謝申し上げます。ありがとうございました。



令和元年度 武道等指導充実・ 資質向上支援事業講習会に参加して

事務局長 柳 谷 照 男



標記講習会がスポーツ庁委託事業・全日本剣道連盟主催として、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で令和元年六月二十八日から三十日まで実施され、私も講習に参加させていただきました。

中学校武道必修化に伴う外部指導講師を対象に中学校剣道授業における講習内容と指導法の実技研修が行われました。平成二十五年度から始まったこの事業は、武道が必修化された中学校に剣道の専門知識と技能を有する指導者を、授業協力者として派遣するためのものです。

全日本剣道連盟の平成三十一年度事業計画の重点方策として、中学校武道必修化に対応するため、文部科学省委託事業武道等指導力・資質向上支援事業を推進し、全国指導者研修会や各都道府県剣連における取り組みなどを通して授業協力者の養成と活用について実態を把握し、課題に対する方策を検討するとされています。

講習会では、まず全剣連副会長の福本修二先生による開講にあたって挨拶がありました。その後、次の講義がありました。

・百鬼史訓先生による平成三十年度の事業の成果と課題の説明、各都道府県の現状と課題のブロック毎の発表
・軽米満世先生による授業の現状と課題として、学校理解、生徒理解、学校との連携、組織・学校との連携・立場と役割についての説明、新学習指導要領の改正点の理解と効果的な剣道授業の展開

・阿部昭一先生による運動部活動の現状と課題、体罰・暴力に
よらない剣道指導の在り方等

令和三年度（二〇二一年）からの新中学校学習指導要領の完全実施に向け、これまで使用していた指導書を「新中学校学習指導要領に準拠した安全で効果的な剣道授業の展開・ダイジェスト第三版」へと改版も行い、平成三十年度には全国授業協力者数は、三・七五〇名となり、学校側からの要請があれば授業への支援・協力体制は十分に整備されてきています。しかしながら、三十年度の剣道授業協力者の採用数は、三一四名と少なく、中学校において活用されていない状況が伺え、本支援事業の目的が十分達成されない可能性があることを懸念しているとのことでありました。

本事業の趣旨が、各市町村教育委員会や中学校において未だ十分に理解されていない地域もあることから、公開授業実施校の増加を図り、授業参観を通して教育関係者に本事業の意義およびその教育効果について周知させることが重要と強調されていました。

平成二十八年度の全国約一万校の武道場設置校における調査結果によると、全国的には剣道は三五・五％、柔道が六四・七％と

使用用具の簡便性からか柔道が半数以上を占めています。また、全国の年間の武道実施時間数は、二十八年度平均八・七時間で、指導者数は、全国八・一一四校中、八四・二％は、教員のみで指導されており、外部指導者導入学校数は一一・〇％が、導入し取り組まれているとのことでした。

一方、徳島県教育委員会の調査結果によると、公立校八十三校中、柔道十八校、剣道五十四校、相撲道十七校、空手道一校、合気道二校であり、徳島県における剣道授業実施校は、六五・一％と半数以上を占めています。これは、剣道授業を導入している都道府県市では、名古屋市、岐阜県、さいたま市、長野県、佐賀県に次いで、全国六位の実施率であります。しかし、徳島県内における剣道授業実施時間数は、平均六時間、最高は二十時間、最低は四時間でした。この平均六時間は、全国最下位であります。

また、剣道授業にあたる指導者状況（徳島県）においては、教員のみで指導しているところは六九・九％で、外部指導者の協力を得て取り組まれているところは三〇・一％であり、この外部指導者の協力率は、北九州市、北海道に次ぐ全国第三位の状況であります。

私たち授業協力者に求められていることは、学校が目指している知・徳・体のバランスのとれた人間育成のため、剣道を通して生徒の学習意欲を高める支援にあたることであることを理解し、あくまでも、担当教員の指導面を補助していくことあります。

専門的な技能、知識を有し、質の高い授業内容となることによっ

て、教員の指導力を向上させる事で、様々な生徒の実態に配慮した説明は端的に、分かりやすく、質の高い学習効果が得られることを求められています。

最後に、令和三年度から新学習指導要領が全面实施となることから、全日本剣道連盟は、文部科学省に対し、次の決議書を提出したとの報告がなされました。お陰様で、充実した内容ある講習会を受講することができ、無事に帰県することができましたことをご報告いたします。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。八年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、六年前には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を

基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の
伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の
繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二
十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、
武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実
現を強く要望する。

記

一 中学校武道必修化に関し、新学習指導要領の完全実施に
向け、武道全九種目が幅広く実施されるよう、外部指導
者を活用した複数種目実施のモデル事業を全国各ブロッ
クで行うこと。そのために必要な措置を講じること。

二 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成
功に向け、実施種目となった柔道、空手道への支援・助
成を強力に推進するとともに、会場となる日本武道館の
建物・設備の増改修工事に最大限の支援・助成を行うこ
と。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするた
め、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより
一層推進し、海外日本人学校における武道必修化の内容
充実に向け、必要な支援、助成を行うこと。

三 中学校武道必修化が充実成功するよう、施設、用具、指
導者の条件整備をより一層推進すること。特に、指導者

については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教
員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、
武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委
員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実
施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処
遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国
一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習
会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業
に当たっては、時間数を増やし、複数種目の実施校拡大
を図り、武道ならではの教育効果が高まる「礼」を重視
した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指
導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸
活動に必要な支援、助成を行うこと。

四 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校に
おける実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じ
た武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

五 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、
全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各
都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財保護法に、我が国が世界に誇る「古武道」の名称を明記し、全国各地の古武道の文化財指定が推進されるよう所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の町道場については、維持存続のため、相続税、固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成三十一年三月六日



第四十三回全国高等学校・中学校剣道 (部活動) 指導者研修会に参加して

小松島南中学校 福 崎 泰 樹

令和二年一月四日から一月六日までの三日間、千葉県勝浦市にある日本武道館研修センターで行われた第四十三回全国高等学校・中学校剣道(部活動) 指導者研修会に参加致しました。「高等学校及び中学校における部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する」という研修会の趣旨のもと、全国各地から部活動指導に携わる先生方が参加されていました。

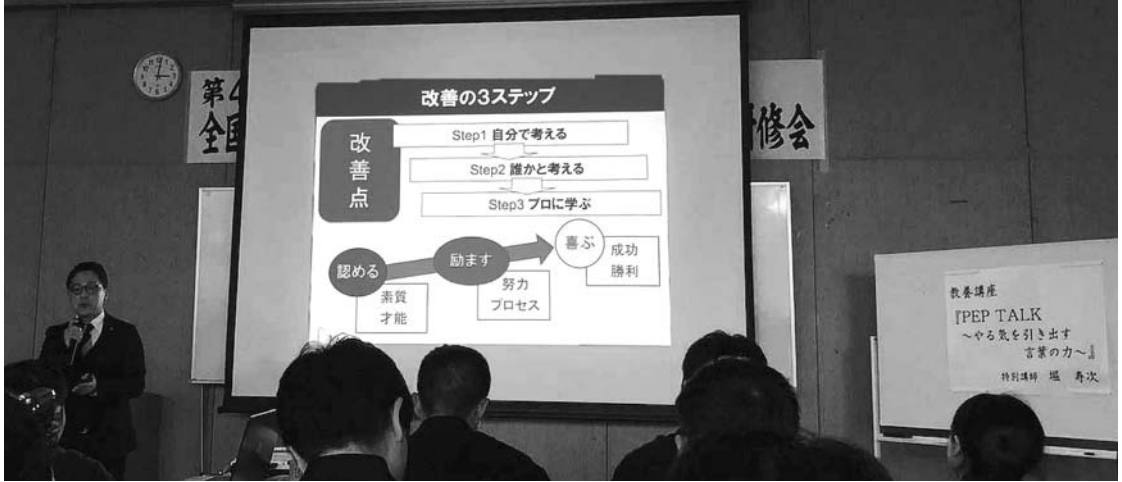
一日目は、開講式・記念撮影が行われた後、特別講師の堀寿次先生(日本ペップトーク普及協会講師)による教養講座がありました。「PEP TALKやる気を引き出す言葉の力」というテーマで、部活動指導を含め、教育者には欠かせない、やる気にさせる言葉がけの方法を学びました。「短く、わかりやすく、肯定的な言葉がけを行い、選手が技を磨くのと同じように、指導者は言葉の力を磨く必要があると感じました。実技指導法・実技研修の後、夕食後には意見交換会が開かれ、全国の先生方と剣道や部活動についての意見を交換しました。

二日目は、朝稽古から始まり、午前中には日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法についての研修がありました。これらの中

には、剣道を指導する上で大切な所作や気構え、技などが含まれています。指導者としてこれを熟知し、自らの修練によって体得することで、子供たちへの指導力向上を目指さなければならぬと感じました。午後からは、審判法の研修がありました。参加者それぞれが審判・試合者のグループに分かれ、研修を行いました。審判員の立ち姿や心構え、公正公平な姿勢と目つけなど、こと細かに指導していただきました。実技研修・夕食の後は、高体連・中体連に別れ研修を行いました。

三日目は、朝稽古のあと、奈良隆先生(全国高等学校体育連盟専務理事)による教養講座がありました。ご自身の経験に基づく部活動の現状と、今後の課題についてご講義いただきました。その後、最後の実技研修と閉講式を終え、研修の全日程を終了しました。三日間という短い時間でしたが、全国の高段者の先生方、研修生の先生方から多くのことを教えていただき、実りある時間を過ごすことができました。

最後になりますが、本研修会への参加にあたり、ご支援くださった徳島県中体連剣道専門部の先生方、また、研修に同行し、ご指導くださった徳島文理高校の玉田晋作先生に深く御礼申しあげます。この研修会で学んだ多くのことを生かし、自らの剣を磨くとともに、今後も中学校教員として生徒の指導に取り組んで参ります。



徳島の剣道史

阿波の幕末刀

居合道部 坂本憲一

はじめに



幕末は、旧来の木刀あるいは刃引きの刀による形稽古が廃れ、竹刀・防具による打ち込み稽古が盛んに行われた時代である。大石心影流の大石進が五尺に及ぶ竹刀を駆使し、江戸城下に点在する道場を蹂躪した話は夙に有名である。こうした竹刀剣術の流行は、刀の姿にも大きな影響を及ぼし、幕末の世相をも反映して、「攘夷刀」「勤王刀」と呼ばれる長大な幕末刀が出現する。今回は、竹刀の影響が著しい幕末刀について述べてみたい。

幕末刀の時代的背景

幕末は内憂外患、まさに徳川幕府にとって風雲急を告げる時代、幕府は旧来の軍備を早急に近代化する必要に迫られた。それは古来の戦法を改め、火器中心の近代戦法を導入することにより、諸藩に勝る軍隊、諸外国に対抗し得る軍備の充実こそ幕府の威信回

復につながると考えたからである。しかし、一方では古くからの武術を軽視することなく、むしろ戦意高揚には不可欠なものとしてこれを奨励する。そして、それらを実践したのが幕府の「講武所」である。

幕府は、安政二年（一八五五）、旗本男谷上総守の進言で、江戸築地鉄砲洲に武術の訓練機関講武場を設け、これを翌三年に講武所と改称し、旗本御家人の師弟を中心に、陪臣・浪人の若者にもまで開放して剣術・砲術などの訓練を行った。



写真1 講武所頭取 窪田清音の肖像（戸田元久氏蔵）
『月刊剣道日本2 幕末「講武所流」と剣士たち』より

講武所の規模は、総建坪千六百八十六坪余、千二百五十一畳、剣術の道場は横十八間縦八間、当時江戸で有名であった千葉周作の道場「玄武館」が八間四方、また、当時最も大きかったとされ



写真2 刀匠 源 清磨の墓
宗福寺（東京都新宿区須賀町）にある清磨の墓

る中西一刀流の中西道場（下谷練堀小路）でさえ六間に十二間の広さであったというからその壮大さが知れる。

講武所が採用した武術のうち、剣術では田宮流・直新影流・心形刀流・北辰一刀流・神道無念流等。槍術は、宝蔵院流・自得院流。砲術では和流と西洋流等、その他弓術・柔術・水泳術、兵学までが採り入れられた。

教授陣には、男谷信友・榊原鍵吉 伊庭秀俊・高島秋帆・勝海舟・窪田清音等を据えた。

中でも窪田清音は講武所頭取で剣術師範を兼ねた直参旗本、希代の碩学で山鹿流兵学に精しく、理論だけでなく実技も田宮流居合窪田派の総帥として一派をなし、刀剣には殊の外造詣深く幕末

の刀剣史上に名を連ねる人物である。彼は新々刀界屈指の名工、源清磨の育ての親とも言える人物で、講武所に学ぶ若者を対象に清磨刀の三両掛けの武器講を提唱したのもこの人物である。

講武所に入所した若い武士たちは、旗本の次男三男の気楽な身分のものが多く、放縦な気風が支配的であった。そのうえ新しい時代への期待と不安が入り交じり、かれらはことさら豪放らしくふるまい、目立つ派手な服装をし、長い刀を水平に指して往来したので、周辺の若者たちにも流行し、特に刀剣外装に「講武所拵」といわれる形が生まれた。また、月代の幅を極めて細く剃り、後ろで束ねるだけの髷が流行、これを「講武所髷」といった。こうした服装や刀剣に纏わる諸相は、地方からきた江戸詰めの若い侍たちや剣術修

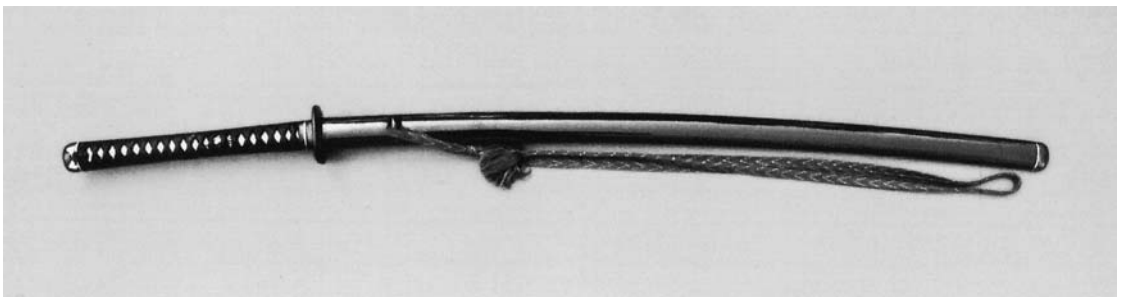


写真3 講武所拵

業の留學生の間でたちまち流行となり、彼らによっていち早く国元にもたらされることになる。

中でも土佐の武市半平太率いる土佐勤王党の面々が手挟む長大な刀は「土佐の長刀」で知られ、これらは世に幕末刀とか攘夷刀、勤王刀と称されるが、こうした刀剣の形を生み出す発信源となったのが、江戸の講武所風だと言っても過言でない。特に刀身と茎が長いのは竹刀の影響といわれる。

ここで幕末拵に代表される「講武所拵」を見てみよう。講武所拵はずばり言って時代を反映した実用的な拵である。

刀は二尺六寸から同九寸と長く、反りは三分か五分と浅く棒状である。刀が長いので柄も長く三十センチから四十センチもあり、立鼓をとらない棒状で、鮫革も裏を剥がず厚いまま漆で



写真4 攘夷刀と竹刀の比較
竹刀の影響が著しい攘夷刀と典型的な拵

張りつける。柄頭や縁金具は鉄・臙銀おぼろぎんなどで大型に作り、柄頭の正面に金象嵌で家紋を添えたりする。柄糸は白が多く、紺・黒・革巻もあり、菱数は三十から四十と多く小菱に巻く。

鐔は、江戸肥後など小型のものを用いる。鞘は太く、鯉口は幅広の丸みをもった水牛の角製つの、栗形も丸みをもった角製で、鰐目しじものを付けず太く長い下緒を通す。鐙は幕末特有の深鐙で、鯉口より幅が広く鞘尻を武張ってみせる。

地方に於ける幕末刀

幕末期に於ける長刀佩用の最も影響を受けたのが隣国の土佐である。土佐勤王党の盟主武市半平太は、安政三年（一八五二）、



写真5 龜山社中 近藤長次郎の写真
長柄・長寸の刀を帯びている
『歴史七人』（龍馬に影響を与えた12人の志士たち）より

五十嵐文吉・岡田以蔵を伴って江戸の鏡心明智流の志学館（桃井春蔵の道場）に剣術留学し、瞬く間に頭角を現し塾頭を務める。この在府時代、彼は講武所風の様相を具に見聞、影響を受けたことは大いに推測できる。

時代劇に登場する月形半平太は武市半平太をモデルにしたとされるが、鬚姿などは、まさに講武所風である。海援隊の近藤長治郎は、身丈に近い長刀を腰にした写真而今に伝えている。また、北方領土の先覚者として名高い阿波の偉人岡本偉庵も、若き志士時代の写真には小さな鐔に長柄の刀を携えている。



写真6 北方領土の先覚者 岡本偉庵の写真
若き日の偉庵 鐔の小さい長柄の刀を携えている。(須藤治千賀氏蔵)

ともあれ土佐国にはこの期の著名刀工として、まず左行秀・南海太郎朝尊があげられるが、左行秀の刀には、大鋒で長寸、反り

の浅い典型的な幕末刀が多い。全国的に知られた刀工ではないが、阿波より土佐の田野町に移住した海部刀工に建依別氏詮がいる。

氏詮は、文久頃から明治初年にかけて活躍した刀工で、阿波から土佐の田野町へ移住した海部氏次の末流、初代中島弥左衛門から数えて八代目の中島門蔵がこの刀工である。氏詮は、土佐の著名刀工、左行秀・森岡朝尊（南海太郎朝尊）とも技術交流を持ち、兩人との合作刀を遺し、海援隊の中岡慎太郎や勤王党の武市半兵衛、野根山二十三士の一人、清岡治之助等の佩刀（図版9）を鍛えている。



写真7 刀匠 建依別中島氏詮の肖像写真
(中島 良久氏蔵)

氏詮は三百有余振に登る作刀記録『鍛造控帳』を遺した。内容は、自らが手掛けた刀の押形を載せ、刃文・寸法・出来映え・依

頼主名を事細かく記載したものである。刀類は短くても二尺六寸から二尺八寸、長いものになると三尺を越え、茎も一尺余りと実に長い。氏詮の銘振りは草書体が多く実に見事で、掲載の押形からは書道の手本書『千字文』に範をとったことが如実に窺える。特異なのは慶応から明治初年にかけての作刀には、屢々作者銘に神代文字（図版9）を用いていることである。

阿波に於ける幕末刀概観

阿波においては、この期、第十四代藩主蜂須賀斎裕が幕府の陸海軍の総裁を務め、かつ出身が徳川の出であったこともあり、藩論は保守的で、隣国の土佐のように攘夷・倒幕思想の嵐が吹き荒れたことはない。そのため、阿波には攘夷・倒幕運動に奔走した志士は極めて少なく、『阿波人物志』（藤井喬著）では、勤王家として掲げる人物は、足利像梟首事件に連座した小室信夫・中島錫胤。稲田家臣の南薫風、美馬君田。新選組に私塾玉生堂を急襲捕縛され獄中死した藤井藍田などわずか二十三名である。

隣国土佐の左行秀や建依別氏詮等の刀工たちは、尊皇攘夷派の好む長大な維新刀を多く手掛けて居る。この現象は、土佐国内の勤王の志士の間で長刀論が一種の流行を見て、土佐の新々刀工がその需要に応じたため、長刀を真一文字に手挟み京洛の巷を闊歩する志士たちの姿が目に浮かぶ。

阿波における新々刀を遺存刀から概観して見ると、ずばり言って攘夷刀とか維新刀と称されるものは希れである。

阿波の新々刀期には、藩工の海部益平氏吉を筆頭に安芸・笠井・石川一門の刀工など、その他の諸派も含めると四十数名を輩出しているが、新々刀前期に見られる遺作はどの派の刀工を見ても姿は尋常で華奢な造り込みが多く新刀然としている。



写真8 刀匠 安芸佐重の墓
佐重は吉川祐芳の師匠、戒名 廓道良意居士
香炉台には阿州藩海部益平の名が見える。

時代は降って後期にはいと、攘夷刀体配のものが現れる。安芸一門の三代目安芸佐重には、攘夷刀体配のものを数振見る。その一つは、勝浦川河口にあった籠御番所役人の奥山喬の所持刀で、刃長七七・二枚、銘に「阿州住安芸佐重作之 慶応元年五月吉日 應奥山高姓需」とある。付属の実戦的な外装と併せるとまさに攘夷刀である。本刀には所持者奥山高が某名刹の門前で三人の破戒僧の腕を切り落としたという逸話が伝わる。



写真9 刀匠 吉川祐芳の墓
新々刀界随一の多作家祐芳の墓 戒名清浄院研鐵祐芳居士

藩工になった海部益平氏吉にも攘夷刀体配のものをみる。伏見の百人切りの異名をもつ長刀(図版1)は文久三年紀の益平氏吉の作で、阿波拵の外装に納められている。年紀銘はないが、八一・九センチと長寸、海部氏吉作銘の刀は、その銘振りからこれも益平氏吉の作と鑑せられ、拵は実戦的で鉄地の金具に白柄、鞘は派手な朱鞘で蜻蛉図をあしらうなど、まさに攘夷刀である。笠井一門の信忠・真次も長寸の合作刀を今に遺している。

攘夷刀と目される刀は藩工以外の刀工に多い。藩工としての掟に縛られることなく市井で活躍しただけに敏感に当時の流行を採り入れたのだろう。阿南市山口で活躍した田村国親、遠く九州小倉に赴き小倉藩の藩工になった長谷川吉廣(紀政廣Ⅱ図版3)も

然りである。

阿南市妙見で活躍した多作家の吉川祐芳は元治から慶応年間に掛けての遺作に攘夷刀体配のものを多く見かける。長さは二尺八寸前後で反り浅く、茎の長い刀である。

明治元年、明治天皇は王政復古の大号令を記念して伊勢神宮へ納める奉納刀(十七振の内の一振)の制作を阿波の刀工吉川祐芳に御下命した。その刀は今も神宮徴古館で光彩を放っている。また、世に名高い新選組局長近藤勇の佩刀の一つに祐芳刀(図版5)があるのは特筆すべきである。

おわりに

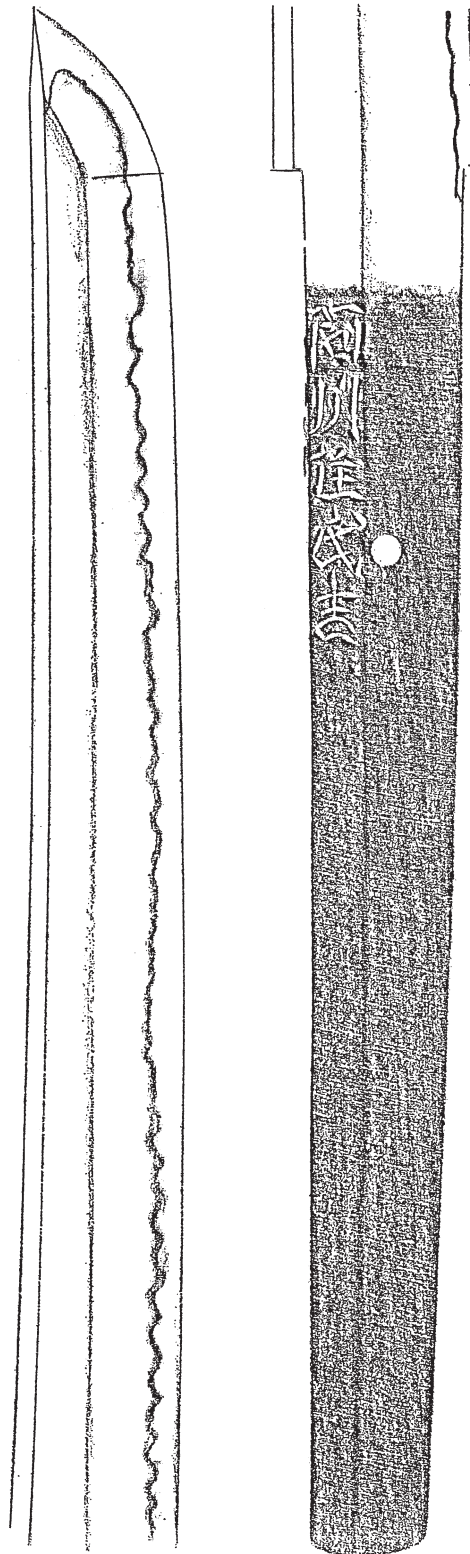
市井で活躍した代表的刀工ともいえる吉川祐吉は、明治九年の廢刀令により多くの郷土刀工が廢業するなかで、ひたすら作刀の火を灯し続け明治三十年にこの世を去るが、この人物こそ新々刀界の有終の美を飾った刀工と言っても過言でない。祐芳の作刀技術は、長男の吉川大命(二代目祐吉Ⅱ一八五六〜一九〇九)へと受け継がれるものの、活躍期が廢刀令以後だけに後継者が無く、阿波の伝統的作刀技術の継承はこの人物をもって終焉を迎える。

図版1 刀 銘 阿州住氏吉

法量 刃長八一・九寸、反り一・九寸、鋒長三・六寸、元幅三・八寸、先幅一・四寸、元重〇・八寸、先重〇・四寸、茎長二八・一寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、身幅広く長寸で典型的な幕末体配。地鉄は、小板目肌がよく詰み無地風を呈する。刃文は、短い直ぐの焼き出しから極めて小さい互の目を横手筋まで規則的に焼き上げ、匂い口締まりごろで足わずかに入る。帽子は、直ぐに小丸で返りはやや深い。茎は生ぶ。鍔目は勝手下がり、目釘孔一個、刃方は平、棟方や小肉。先は浅い栗尻。目釘孔上、鑄地に研ぎ溜め近くから作者銘を太刀銘に切る。作者は、その銘ぶりから江戸初期藩工になった実兵衛氏吉から数えて九代目にあたる益平氏吉と鑑せられ、阿波の新々刀期を代表する海部刀工である。本刀には、同じく氏吉の手になる特注金具（鐔・縁・鏢）を装着した典型的な幕末拵が付けられている。

押形



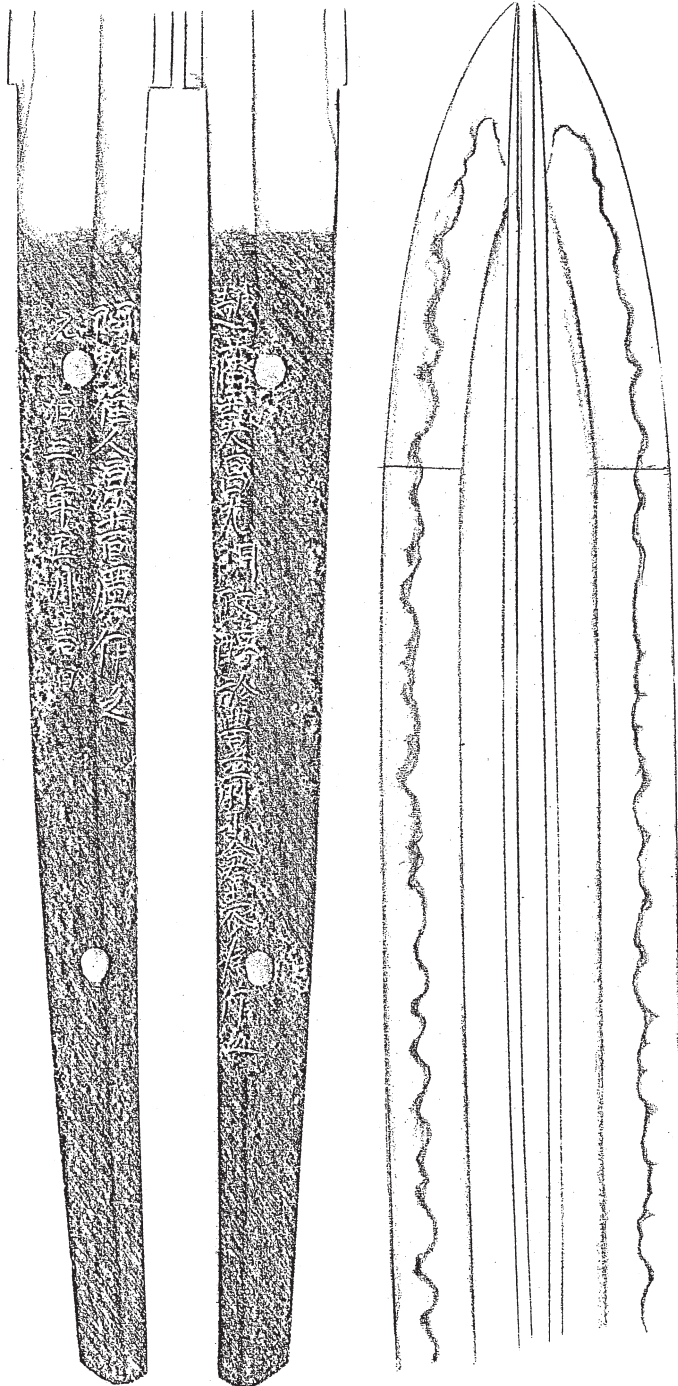
図版3 刀 銘(表) 阿州住人源吉廣作之

(裏) 元治二年正月吉日 越藩士大宮左門政醇 於豊前小倉表為作之

法量 刃長七三・八寸、反り一・四寸、鋒長一九・八寸、元幅三・四寸、先幅二・九寸、元重〇・九寸、先重〇・八寸、茎長二七・四寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く、大鋒、彫りの無い長巻直しの体配は、幕末期に流行した造り込み。地鉄は、板目肌がよく詰み、地沸むらなくつき、凜々とする。刃文は、直ぐの焼き出しから互の目乱れを焼き、刃縁には小沸むらなくつき、匂い口明るく冴える。帽子は、表裏共に乱れ込んで互の目に乱れて先やや突き上げごろで小丸、返りは深い。茎は生ぶ、鑢目は筋違い、目釘孔二個、茎尻は、先の細い刃上がり栗尻、銘は、表、目釘孔鑢地と平地に作者銘と年紀銘、裏は、鑢地に所持者銘と作刀地銘がある。吉廣の姓は、長谷川、阿波の鉄砲鍛冶出身、備前・岩見を経て小倉に至り、同藩の御抱工、紀一門の婿養子となり、刀工名を紀政廣と改め明治初年まで活躍する。本刀は長谷川吉廣の事績を知る上で貴重である。

押形

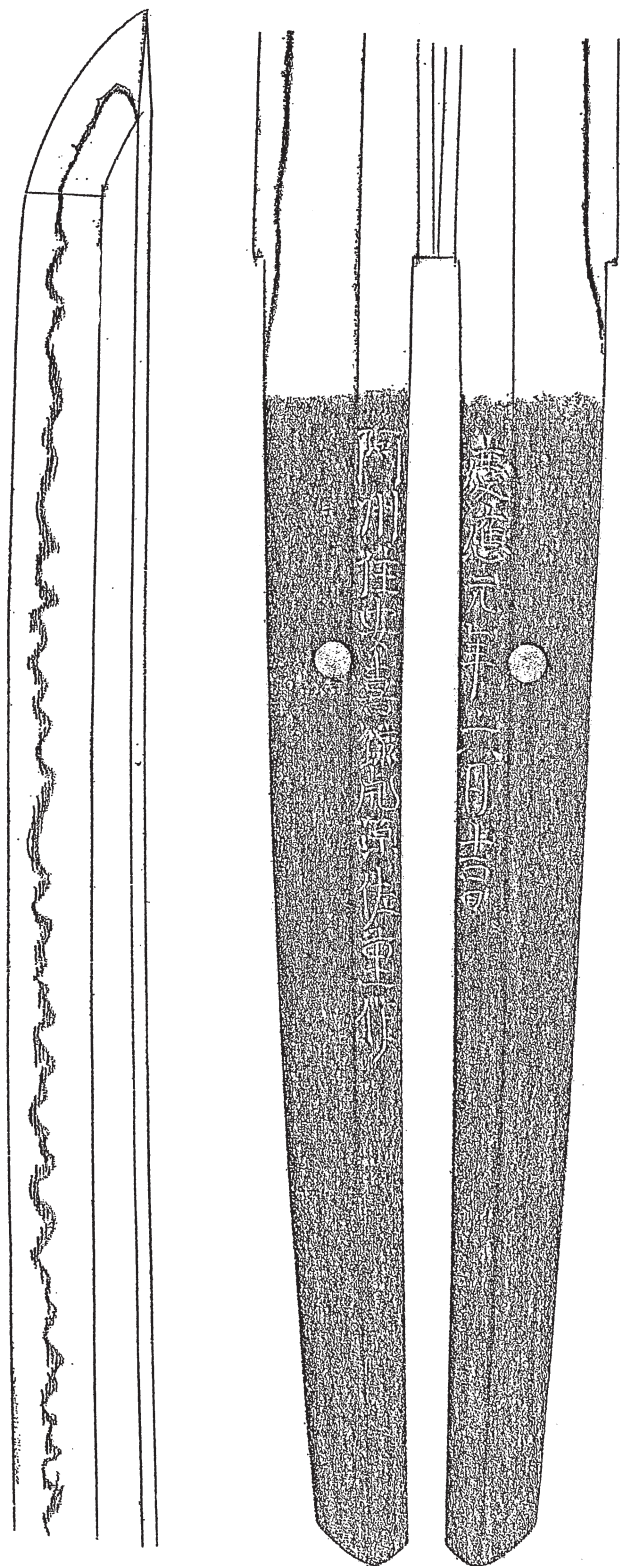


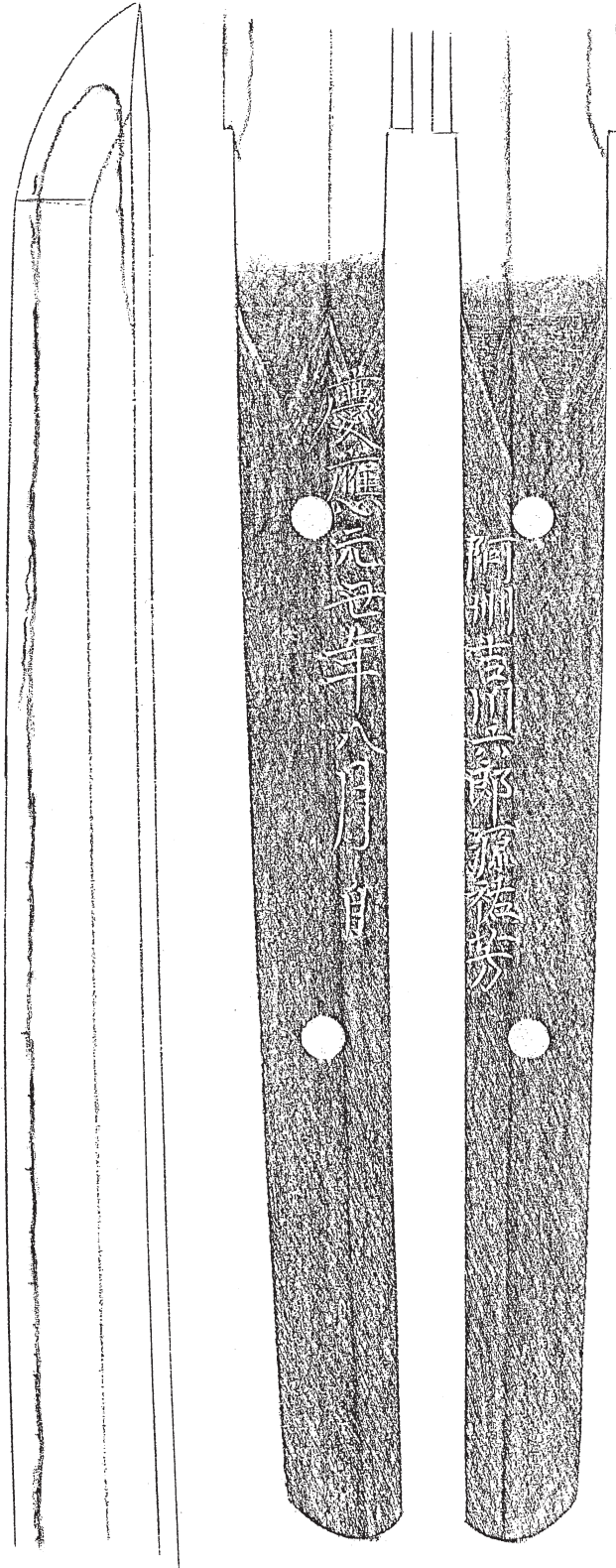
図版4 刀 銘(表) 阿州住安喜鐔虎佐重作之(裏) 慶應元年六月吉日

法量 刃長七五・六寸、反り一・〇寸、鋒長三・六寸、元幅三・二寸、先幅一・三寸、先重〇・六斤、元重〇・八斤、茎長二四・九寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、反り浅く身幅広く重ね厚く、中鋒延びる。茎は長寸にして典型的な幕末体配。地鉄は、大板目肌現われ地沸むらなくつく。刃文は、互の目乱、刃縁無数の砂流しかかり変化に富む。帽子は、直ぐに若干湾たれて先掃掛ところで小丸。茎は生ぶ。鑢目は、僅かに勝手下がり、目釘孔一個、茎尻は尖りごころの刃上がり栗尻。表裏鑄地に作者銘と年紀銘がある。幕末期の阿波刀にしばしば見られる肌物の作域であるが、大肌をねらった作ながら品位に富み、刃中の動きも実に見事である。本刀は、出色の出来を示すかのように、作者銘に「鐔虎」の二文字を特別に冠している。「鐔」の字は、精錬した黄金の意味があり、獐猛な動物「虎」の一字とも併せて「精錬された強い地鉄」に掛けてたのであろうか。なお、この刀には「陣刀拵」と称される拵が付属しており、この形式の拵は、阿波において心形刀流剣術の免許皆伝者のみが所持できた拵という。

押形





押形

図版5 刀 銘(表) 阿州吉川六郎源祐芳 (裏) 慶応元丑年八月日

法量 刃長七五・七セ、反り一・五セ。 鋒長三・五セ、元幅三・〇セ、先幅二・一セ、先重〇・五セ、元重〇・七セ、茎長二四・九セ。

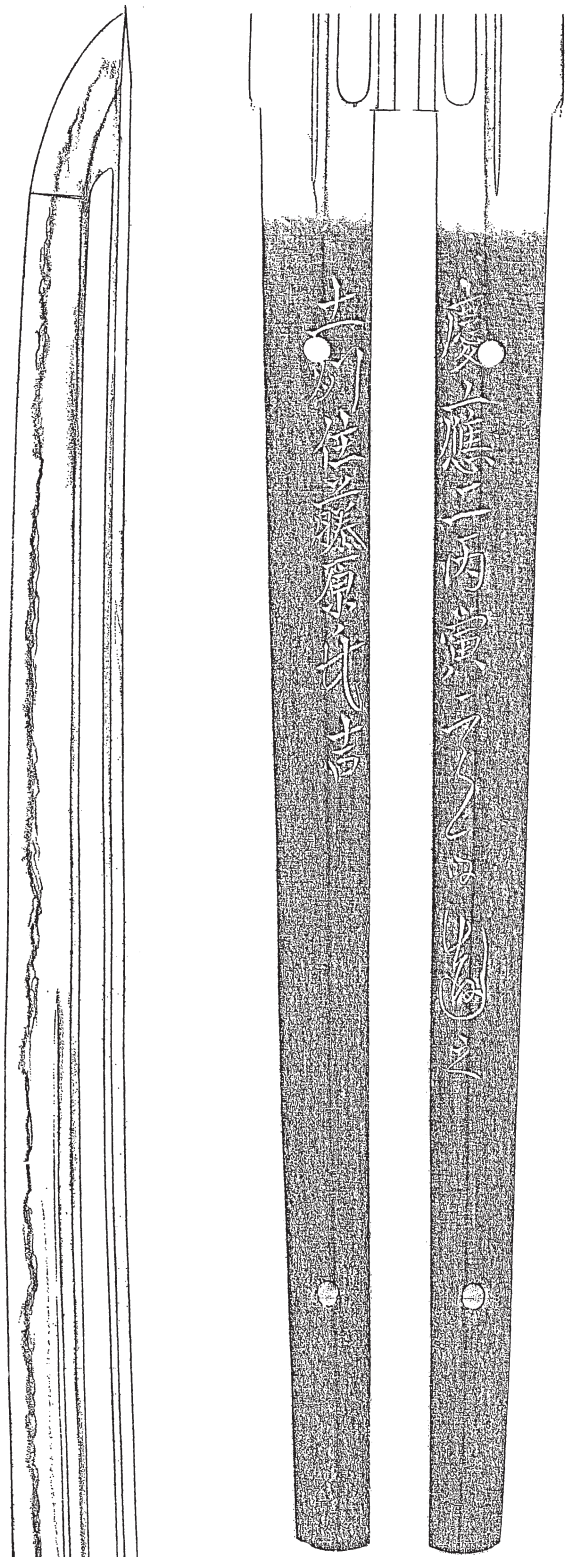
解説 形状は、庵棟、鑄造、反浅く、重ね厚く、反り浅く、中鋒。地鉄は、小板目肌よく詰み地沸ついて細かに肌だつ。刃文は小互の目を交えた直刃、刃縁締まって冴え、小足無数に入り、物打ち近くやや強く沸付いて刃中に沸筋かかる。帽子は、表が端正な小丸、裏は浅く乱れ込んで小丸長めに返る。茎は、生ぶ、平地と棟、両者に細かな香包鑢が掛けられており、しかも面取りが施され、極めて入念な茎仕立てである。本刀は、幕末維新の最中慶応元年に精鍛された祐芳の傑作刀の一振。鞘に付された「覚書」によれば、この刀は新選組局長の愛刀で、その伝来を探查し覚書をしたためたのが陸軍将校松江豊寿大佐。松江は第一次世界大戦に陸軍中佐として臨み、敵国ドイツの捕虜を収容した鳴門市の板東捕虜収容所の所長を務めた。大戦後の大正十一年に郷里の人々に推され合津若松市長に就任。当時の世相にも怯まず白虎隊墓地広場の拡大等、数々の合津戦争史跡を顕彰整備した人物でもある。

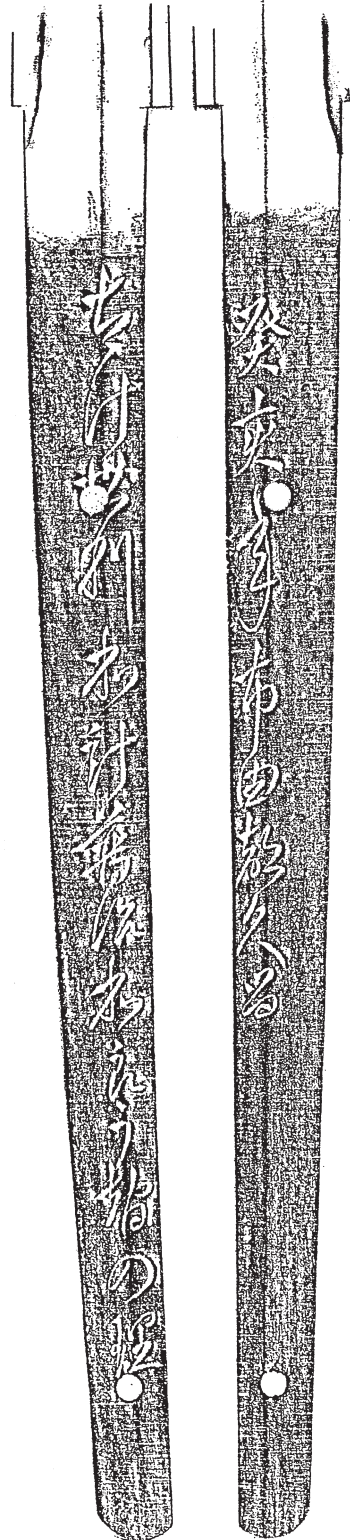
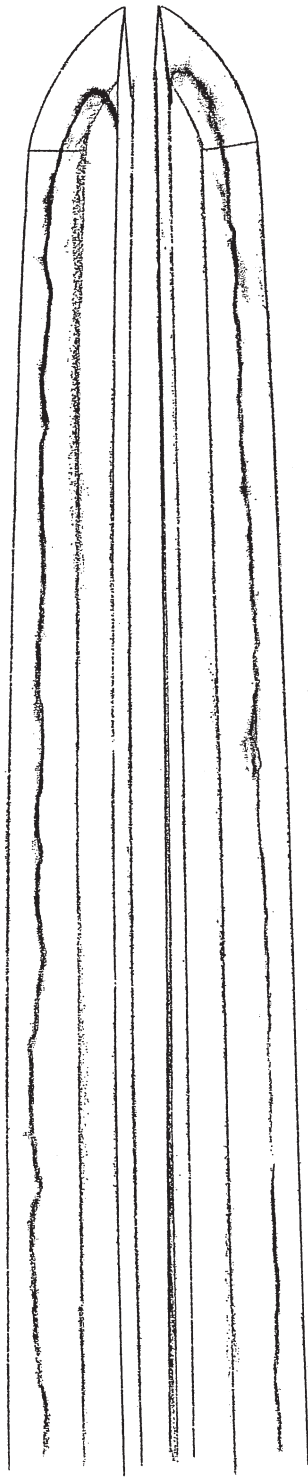
図版6 刀 銘 (表) 土州住藤原氏吉 (裏) 慶應二丙寅二月日造之

法量 刃長九一・〇セ、反り一・五セ、元幅三・八セ、先幅二・六セ、鋒長五・二セ、元重〇・八セ、先重〇・七セ、茎長四〇・〇セ。

解説 形状は、庵棟、鑄造、長寸の豪刀で、身幅極めて広く、重ね厚く、反り浅く、棒反り、中鋒延びる。地鉄は、柃流れ肌よく詰み、地景頻りに入り地沸つく。刃文は、広直刃に小湾たれ刃が交じり、匂深く処々沸つき長い金筋入る。帽子の表は、直ぐに先激しく掃き掛ける。裏は、直ぐに先尖りごろに返り掃掛ける。彫刻は、表裏丸止めの棒樋、添樋を物打辺まで掻き、鉏下掻き流す。茎は生ぶ。目釘孔二個、鑿目は切、先浅い栗尻。茎は極めて長寸、表裏に太鑿で草書体による流暢な作者銘と年紀銘がある。作者は、土佐に移住した氏吉か。流暢な草書による銘ぶりは、土佐に移った中島氏次の裔中島氏詮に酷似する。土佐勤王党と気脈を通じた中島氏詮と交流をもったとすれば、こうした銘ぶり、長大な攘夷刀体配も肯定できる。三尺に余る長大刀を一点の斑なく鍛える技量はなかなかのもの。本刀は、長柄に印籠刻乾漆塗鞘の無骨な幕末拵に納まっている。

押形





押形

図版7 刀 銘(表) 太計世利和計普治和良う智の理 (裏) 癸亥年布由都久留

法量 刃長八二・〇^セ、反り一・五^セ、元幅三・一^セ、先幅一・九^セ、鋒長三・一^セ、元重〇・八^セ、先重〇・六^セ、茎長三二・〇^セ。

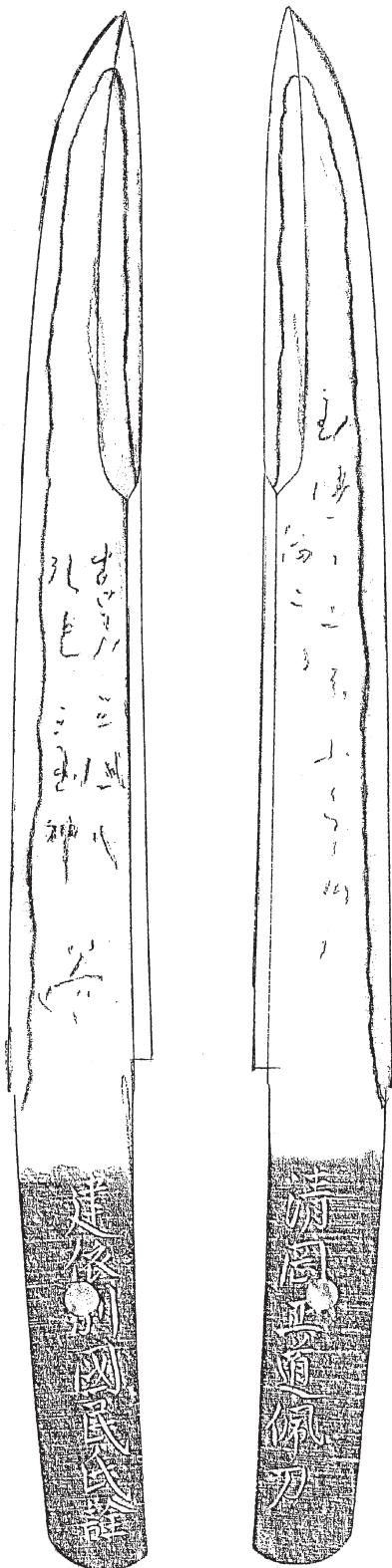
解説 形状は、庵棟、鑄造、中鋒詰まる。鑄地やや広め、重ね厚く、身幅狭く、反り浅く棒状で長寸、典型的な攘夷刀体配。地鉄は、小柰目・流れ肌極めて詰み、全体に細かい地沸厚くつき大和伝を彷彿とさせる。刃文は、表裏とも広直刃、処々わずかに緩やかな湾たれ刃が交じる。刃縁に数条の長い砂流しかかり小沸微塵につき、刃中に鍛え肌入る。帽子は、表裏とも直ぐに小丸、先わずかに掃き掛ける。茎は生ぶ。身幅細く長寸。鑄目は切、目釘孔二個、表裏目釘孔上鑄筋上に太鑿で作者銘と年紀銘を当て字で「太計世利和計普治和良う智の理」「癸亥年布由都久留」と草書体で大きく切る。本刀は、氏詮が自ら鍛えた刀の記録として遺した『鍛造控帳』の所載刀である。同控帳の体裁は、原寸大の押形を載せ、その横に刃長、刀の出来具合、注文主名等を記す。ちなみに本刀には、「二尺七寸小切先ニ而鍛 霜月廿日崎ノ濱民助殿需」の書き込みがある。

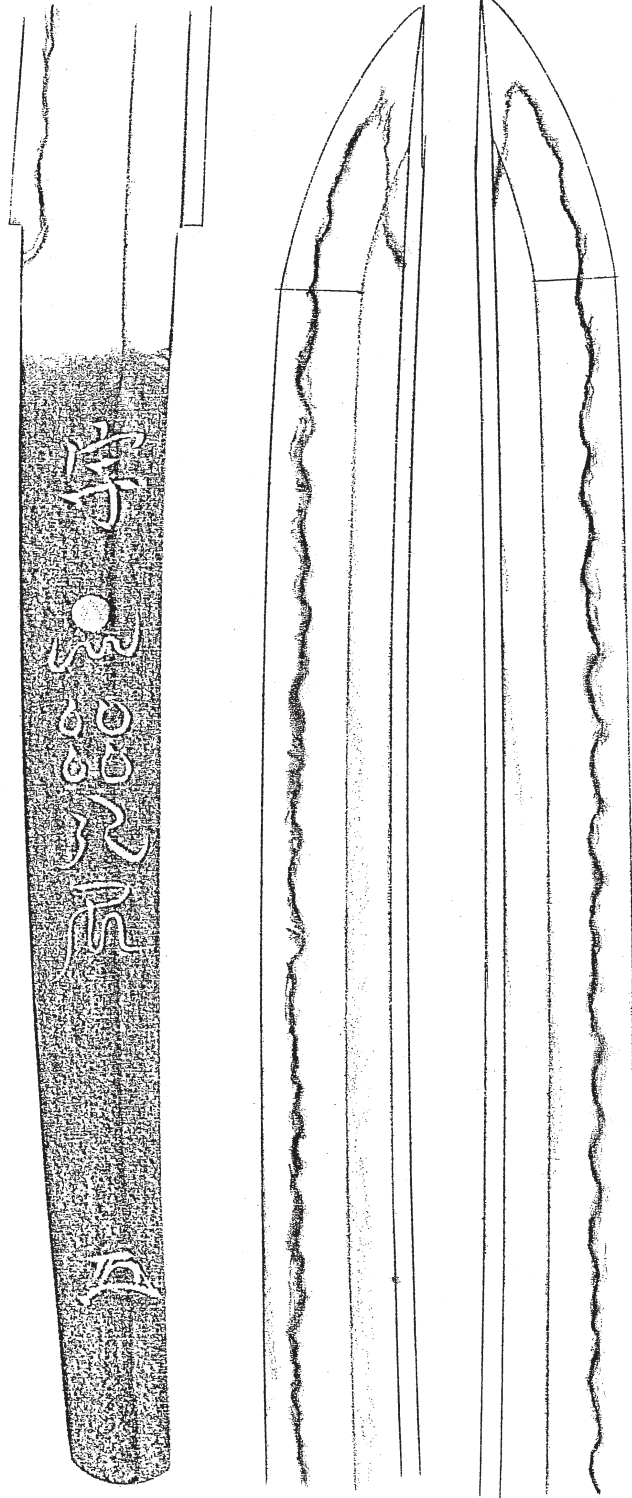
図版8 短刀 銘(表) 建依別国民氏詮 (裏) 清岡正道佩刀

法量 刃長二四・七^サ、反りなし、元幅三・〇^サ、先幅二・八^サ、元重〇・八^サ、先重〇・七^サ、茎長一〇・九^サ。

解説 形状は、庵棟、鋒諸刃造、身幅広く、重ね厚く、がっしりとした体配。地鉄は、小板目肌に処々柵目肌交じりよく詰み、無地風。刃文は、表、裏とも浅い湾たれ調の直刃、小沸出来で処々荒沸交じる。裏、物打ち辺から先にかけて僅かに小乱れ入り、刃縁には、長い砂流し無数に入り変化に富む。帽子は表裏とも直ぐに小丸深く返り棟焼につながる。彫刻は、表裏に和歌「玉ほこの道を分け行くものふのやまと心はおれずまがらず」「生為皇国民 死為皇国神□」の文字を流暢な草書体で彫る。茎は生ぶ。鑢目は切。目釘孔一個、銘は、大きく表に作者銘「建依別国民氏詮」、裏に「清岡正道佩刀」と所持者銘を切る。清岡正道は、俗名を治之助、勤王の志士。野根山二十三士の副首領、土佐勤王党の盟主武市半平太の除名と藩政改革を藩庁に嘆願するが、藩は討伐兵を差し向ける。ために藩を見切り脱藩、京へ向かうが、阿波路で捕縛、土佐へ送還され、何の取り調べもないままに斬首、はかなくも奈半利河原の露と消えた人物である。辞世に「身は国に心は阿波に止まりて霊の真柱撓むべきか」とある。

押形





押形

図版9 刀銘「字」神代文字で「うちのり」(花押)

法量 刃長七一・七^サ、反り一・七^サ、元幅三・二^サ、先幅二・四^サ、鋒長五・五^サ、先重〇・六^サ、元重〇・七^サ、茎長二四・二^サ。

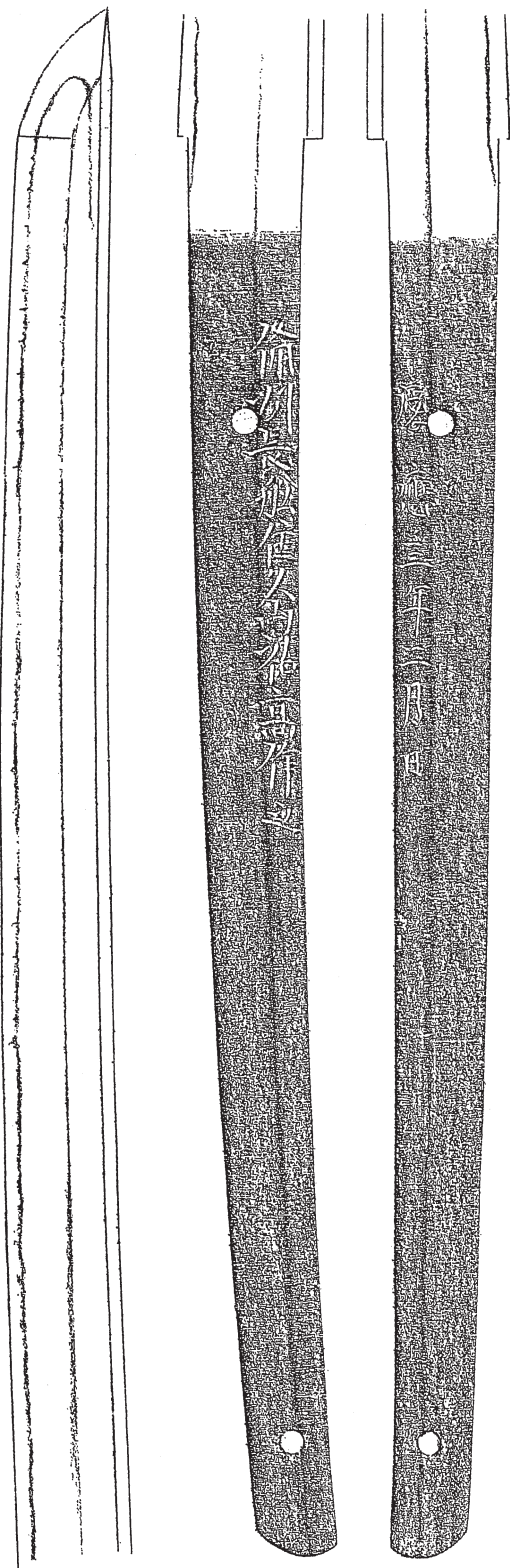
解説 形状は、庵棟、身幅広く、重ね厚く、反り浅く、鳥居反り、大鋒、姿豪壮。地鉄は、小柰目肌流れ肌が交じり、中程より下半、やや肌立ち、上半は詰む。地沸は上半細かく下半は荒い。刃文は、直ぐに焼き出しから互の目乱れ、足長く刃縁には長い砂流かかる。帽子表は直ぐに入り先わずかに掃き掛けて深く返る。裏はわずかに乱れ込み先小丸。茎は生ぶ、目釘孔は一個、鑢目は切、茎尻は刃上がり栗尻。目釘孔上に「字」の文字、目釘孔下、ほぼ中央に「神代文字」による「うちのり」の作者銘と「花押」がある。作者氏詮は、土佐勤王党の武士半平太や陸援隊の中岡慎太郎、野根山二十三士の一人、清岡治之助の佩刀を鍛えたことで知れるが、本刀に見る神代文字による刀工銘は、国学の影響を受けた氏詮ならでのもので、この銘による作刀期は、慶應年間から廢刀令後数年間に集中している。ちなみに本刀は、氏詮の鍛造控帳の所載刀で、注文主は「中山村門下西岡銀次」とある。

図版10 刀 銘 (表) 備州長船住久山祐高作之 (裏) 慶応三年二月日

法量 刃長八七・三寸、反り一・五寸、鋒長三・二寸、元幅三・五寸、先幅一・三寸、先重〇・五寸、元重〇・八寸、茎長三七・六寸。

解説 形状は、庵棟、鑄造、中鋒、反り浅く、姿豪壮にして、茎は極めて長い攘夷刀の典型姿。地鉄は、板目肌に杢目肌が交じり、よく詰んで地沸よくつく。刃文は、細直刃で匂い出来、足よく入る。帽子は、直ぐに小丸で返りは長い。茎は生ぶ。長寸で鑢目は切、目釘孔二個(内一個は忍び孔)、茎尻は刃上がり栗尻。表裏共、目釘孔上、鑢地に作者銘と年紀銘がある。作者祐高は、幕末期から明治初年にかけて活躍した備前刀工の一人。姓は久山、俗名を杢右衛門といい、刀と鉄砲鍛冶の両輪で活躍した。刀匠としての銘は「備州長船住久山祐高作之」、鉄砲鍛冶銘は横山姓を名乗り「備前長船横山右衛門祐高」などと切る。備前鍛冶の多くが互の目や丁字刃を焼くのに対して、祐高は備前鍛冶でありながら直刃を得意とした刀工である。本刀は、地鉄の鍛えも優れ、長寸の造り込みにもかかわらず元から先までむらのない直刃を見事に焼きあげている。祐高の没年は明治二十一年三月十一日である。本刀は、典型的な攘夷刀体配で、典型的な薩摩拵に納められている。

押形



剣道に役立つ医学知識

口呼吸と腹式呼吸

(どうしてもあの生徒は腹式呼吸ができないのか?)

歯科医師 安 田 勝 裕



みなさん口呼吸、鼻呼吸って知ってますか？人類は基本的に鼻呼吸する動物です。ところがいろんな原因で、口呼吸してる方がいます。特にお子さんと、大人も結構しています。統計では、半分以上の方がしてる可能性があります。口呼吸するとどうしても胸式呼吸になり、鼻呼吸で腹式呼吸（横隔膜呼吸）になります。

○どうしても口呼吸するの？

それは、舌の下に舌小帯というヒダが舌についており口腔底とくっついてます。これが突っ張って舌が、前に出ません。下口唇を舌を前に出して越えなければ、手術の適応になります。

次に、舌の筋肉が弱い場合、メタボの方のお腹周りみたいにダボッと舌がしてます。これらの方は舌の横側に歯の圧痕がついてます。

○どうしても口呼吸はいけないか？

鼻によって、酸素に湿度が与えられます。また酸素中の粉塵を鼻腔が、清掃してくれます。

口呼吸によりダイレクトにのどに酸素が送られると、のどの炎症を起こします。風邪もひきやすくなります。

ここで言いたいのは、口呼吸すると腹式呼吸できないことです。(できるだけルーティーンにするのは困難かも) 深呼吸を口から腹式呼吸してみてください。なかなか難しいですよ。

剣道で、腹式呼吸して丹田に力込め、相手に悟られない呼吸をするには、鼻呼吸してください。

○鼻呼吸するためには

舌を鍛えて、舌が上顎(口蓋)につくように鍛錬します。舌尖を前歯の裏側に突き刺してください。このまま、唾をのみ込む練習をします。「あいうべ体操」知ってますか？「あ」「い」「う」「べ」を思いっきり言います。特に「べ」は舌を思いっきり突出させます。舌を口の中でぐるぐる回す運動も有効です。

場合により前述のように、舌の裏側の手術(簡単です)が必要になる方もいます。

気軽に、かかりつけ歯科医師にご相談ください。剣道の次のステップ、腹式呼吸が手に入ります。

指導者の皆さん、お腹で呼吸しろ!!と言ってもできない子がいます。一度、歯科医を受診させてみてください。

舌小帯短縮症（ぜつしょうたいたんしゅくしょう、tongue-tied、ankyloglossia）は、舌小帯が付着異常を起こしている状態で、「舌強直症」、「舌癒着症」、「舌小帯癒着症」、「短舌症」とも呼ばれる。舌運動の制限の程度によるが、乳児期には授乳障害、成長とともに器質的構音障害が生じる。形態不全、奇形、変形症の疾患群に分類される疾患である¹⁾。舌小帯が短いため、舌を歯列より前に突き出そうとするとハート型になる。



大会・行事所感

令和元年度

西日本居合道審査会

および地区講習会の寸評

剣道連盟 顧問

原 田 勝

令和元年七月五日（金）～七月七日（日）

徳島市立体育館（とくぎんトモニアリーナ）において令和元年度の全剣連主催西日本居合道六・七段審査会及び西日本地区講習会が開催されました。審査会は七月五日（金）に行われ、六段受審者は合計七十三名、

（二十九歳～八十二歳、）の内二十八名が合格で、率は三八・九パーセント、七段受審者は合計五十名、（四十歳～八十歳、）の内十一名が合格で、率は二二・四パーセントでした。本県からは六段を七名が受審し三名が合格しました。率は四三・パーセントでした。七段には一名が受審し不合格でした。

審査は六段には五段の中で優秀な方を六

段に上げるのでは無く、限りなく七段に近い方を上げる事とし、七段であれば限りなく八段に近い方を上げるのが審査の基本とされており、審査員は全剣連居合における審査上の着眼点を参考にしながら、まず修養の深さを第一義とし、合わせて人間性及び潜在能力も観ます。加えて武道として合理的な居合いであるか否かを審査しております。

以上のような事を重点的に審査員講習がなされており、受審者の中には仮想敵が見えていない方、緩急強弱一拍子一呼吸にはほど遠い方も多々見られましたが、全体的には良い審査会であったと思っております。

地区講習に於いては、七月六日～七日の二日間は全日本剣道連盟居合の術技を中心に講習会が行われました。受講資格は四段以上となっておりその総数は四五四名でした。内訳は範士七名、教士八段三十一名、四段～七段までの受講者は四二六名でした。講習会においては受講生数に対し会場が少

し狭い感じでした。

全剣連居合は解説書の冒頭に書いてあるように、いやくも剣道人ならば、少なくともこの程度のことは知っている、そして抜くことが出来るようにと書かれているように、剣道人の為に作られた居合なのです。この度の講習会は徳島県剣道連盟が主管の行事である為、多数の剣道高段者の先生方にも運営のためにご尽力を頂きました。その先生方が二日間の講習会等を見てどのように感じたかによって、この度の講習会の価値が決まってくるものと思えます。

居合は剣道の役に立つ居合でなければなりません。また、剣道は居合の役に立つ剣道でなければなりません。古来より剣道は居合に始まって居合に終わると言われております。剣居は車の両輪と言うよりも、一つの円の中に剣居が有り、剣居は一体で剣の道なのです。

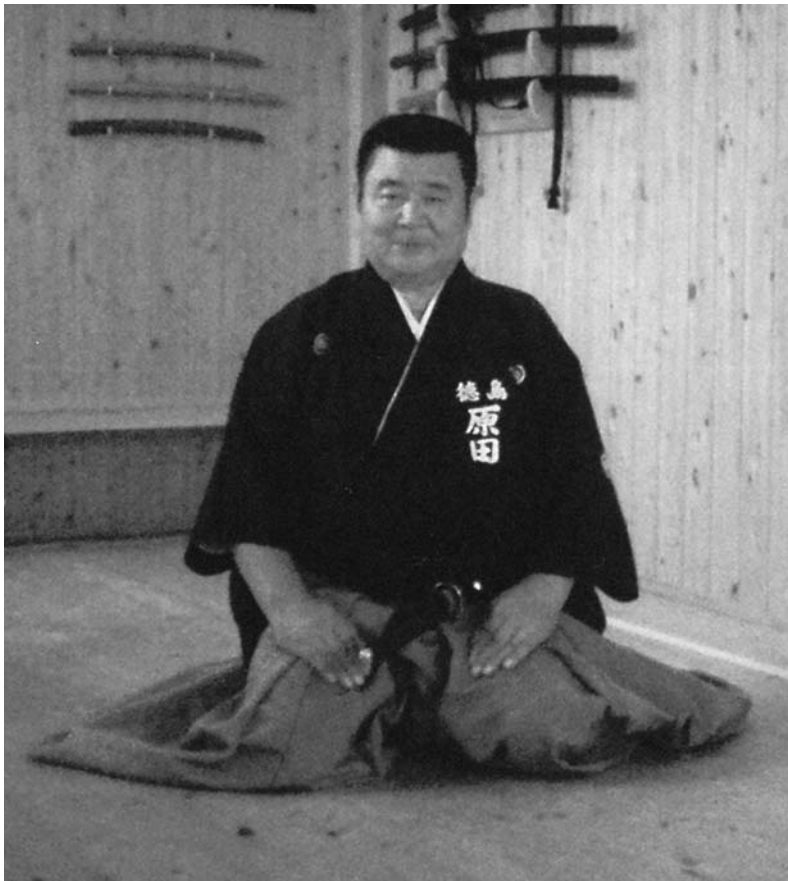
全剣連が昭和五十年三月二十日制定した、剣道の理念『剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である』の中にある剣とは霊器日本刀の事です。剣道の高段者の中には

がってもらいたいと深く念じております。

真剣を扱った事が無い方が多くいる事に合わせて、現在全剣連は将来において竹刀道の高段者が生れはしないかと危惧を感じて、全剣連居合の普及に取り組んでおります。剣の理法とは剣道形及び居合道による真剣の理法の操法をさします。また剣の理法は即人道の理法につながります。それらが正しく理解出来ているか否かは特に範士の称号審査では重要な一要因となります。

この度の事業については本県の会長の剣理に対する多大なる理解力に加え、理事長の類い希なる優れた指導力と事業部長及び各理事の事業推進能力の高さが随所に見受けられました。

また、居合道は真剣を使用するため一番注意を払うのが負傷です。あつてはならない事なのですが、全国には全く無いとも言えません。この度は幸いにも無事故で終えることが出来ました。大変喜ばしい事であったと思います。全剣連役員の方々も審査会、講習会共に非常に良い評価をされておりました。この度の行事が徳島県剣道連盟の更なる発展と居合道の競技人口の拡大につな



西日本居合道

地区講習会の取組み

居合道部長 福井 勝



居合道の地区講習会は全剣連居合道本を基本に全国でその所作の統一のため、毎年、東と西で講習会並び審査会が開催されます。当然審査会は現行の所作が必要になるため、中央審査受審者は必須となります。参加資格は四段以上です。

徳島での開催は二回目となり、前回は平成八年徳島市立体育館で開催されました。今回の講習会は全日本剣道連盟の行事であり、三木会長を先頭に徳島県剣道連盟役員の全面協力での取り組みとなりました。前年の平成三十年居合道講習会が和歌山ビッグホールで開催され、七月六日～八日まで藤川事務局長（当時）・木下事務次長・居合道部長の私と三名で運営を視察に

行きました。和歌山ビッグホールは和歌山国体時建てたドーム型で広く、また駐車場も十分でした。運営は居合道部約七十名と杖道部約六十名が協力して運営に当たっており、二年後には杖道の地区講習会が同じ場所で予定されており、お互い助け合うとのことでした。和歌山で視察団は全剣連役員、和歌山居合道部長の説明を受け、運営体制資料をいただきました。

翌年理事長になられた藤川先生が徳島県の運営体制を作成され、令和元年五月二十五日に第一回運営委員会を開催し、体制が決定しました。相談役に原田先生、運営委員長・藤川理事長、副委員長・柳谷事務局長、同じく副委員長・福井居合道部長となりなりました。実務の役割分担として、総務班・班長に柳谷事務局長、接遇班・班長に坂本副会長、会場班・班長に福井居合道部長、接待班・班長に平野女子部長、警備班・班長に平野副理事長があたることとなりました。

居合道部の役割は、役員の送迎、駐車場担当、受付、会場設営（事業部、審査部と合同）と決まり、居合道部の体制作りを開

始しました。剣道をしている人は居合道の組織がわからない人が多いと思いますが、居合道人は道場の子弟関係しなく剣道連盟を認識しているのは高段者であり、早速道場単位で西日本地区講習会の説明、今回の体制の説明、原則全員参加の方針で臨みました。

審査会の前日は居合道部満寿送迎・班長を中心とするグループが徳島駅で審査員の出迎えを、全剣連役員の出迎えに坂本副会長と徳島県剣連幹部が徳島空港へ向かいました。その他の部員は正午体育館に集合、剣道関係者と共同で全剣連審査部指導の下で審査会場を設営しました

七月五日（土）審査会は受付と場内整理を居合道部、時計計測は事業部、審査票集めは審査部、警備は平野副理事長の指揮下剣道関係者が審査員控室・場内警備に当たりました。

当日の審査結果として、徳島からは六段、三名合格。七段合格者なし。

審査会終了後、剣道関係者と協力で講習会の準備、接遇班は居合道委員・審査員の送迎のため午前中から徳島駅で待機しまし

た。七月五日（土）から六日（日）居合道部は四百名を超す受講生受付、駐車場案内に当たりました。また書籍販売は講習会で称号・段級位審査規定が変更されている案内があったため、二百名近い受講生が購入に殺到したため大変でした。

この西日本講習会で全剣連役員、講師、審査員の接待に当たられた女子部の皆様ありがとうございました。また、この講習会での盗難事件が無かったのも剣道警備関係者のお蔭とと思っています。また、けが人が出なかったのは何よりでした。

審査会・講習会で居合道部の参加人員数は四日、二十三名。五日十五名。六日三十一名、七日、二十六名。延べ人数九十五名。居合道部総勢三十名の中よくやってくれました。

今回は、剣道連盟会長他役員、剣道会員の全面的協力で成し遂げた講習会だと居合道部全員感謝しています。次回は二十年後に回って来ると思いますが、今後の徳島での剣道中央審査会、全剣連主催杖道講習会にもきつと役だつ事と確信しています。

鳴門市光武館道場

五十年の歩み

館長 寺 西 明 弘



昭和四十四年四月、私の父で初代光武館館長である、故寺西慶裕が鳴門警察署に異動とな

が困難となり、初心者は警察署の駐車場で練習していたのを覚えていきます。

入門者が増えて各大会で優秀な成績を残すようになって、初代館長は何よりも礼節を重んじていたので、稽古のはじめには必ず道場心得

一 道場の出入りには神前に礼し師 同輩に礼儀をつくすこと

二 道場は常に清掃されていること

三 道場では真剣な心で稽古に励むこと

四 剣道具の整頓を確実にすること

五 剣を学ぶ誇りをもつて正しく強く人の模範となること

を唱えさせてから指導をしていました。

発足から十年後、鳴門警察署が移転することとなり、道場が使用出来なくなることになりました。それを知った当時の保護者、

OBなどが「子供たちに剣道を続けさせたい」「クラブを存続させたい」との思いから、「鳴門市に剣道場を建設して欲しい。」

と呼びかけ、署名運動を行い、鳴門市に陳情書を提出しました。その結果、昭和五十六年立派な剣道専用道場が建ち、道場名を

りました。当時鳴門市内には剣道教室は無く剣道を習う為には、中学校のクラブ活動で剣道を練習する以外に方法はありませんでした。そんな中、小学生にも剣道のすばらしさ、礼節、思いやり、感謝の気持ちを教え、将来社会に貢献できる立派な青少年を育成したいとの思いから、鳴門警察署の柔剣道場をお借りして、鳴門少年剣道クラブ（現鳴門市光武館道場）を発足しました。発足当時は門下生も集まらず、十人足らずの小学生が剣道を習っていました。

その後、門下生もだんだん増え、一時期は百名を超える生徒が集まり道場での練習

鳴門市光武館道場と改名しました。

その後、初代館長はパーキンソン病を患い、剣道を指導することが難しくなったことから平成八年、私が二代目館長を引き受けることとなりました。

平成十年、体調を崩しながらも道場に足を運び、稽古に来ている前館長の姿を見たある保護者から「前館長の功績をたたえ寺西杯剣道大会を開催しませんか。」との提案がありました。当時、光武館ではモーターボート剣道大会を抱えており、年二回も大会を開催するのはどうかとの反対意見もありましたが、賛成意見が多く開催することとなりました。第一回寺西杯争奪剣道大会が開催されたのは、平成十年十二月二十三日でした。当初は鳴門市の近隣のチームのみで大会が行われていましたが、第二回大会からは県大会へ、第四回大会からは四国大会へと規模が大きくなりました。

そんな中、平成十八年一月七日、第八回大会の前日、突然前館長が亡くなりました。大会開催をどうするか、かなり悩みましたが、多くの方たちの支えと協力のおかげで、

前館長の一番の楽しみだった本大会を開催することが出来ました。

第十回記念大会からは西日本大会となり、年々参加団体も増え、岡山県、兵庫県、京都府などをはじめ、遠路は愛知県や静岡県からも参加していただいています。

また昨年は、指導者の先生方、保護者やOBの皆様、応援してくださる方々の協力に支えられ、鳴門市光武館道場創立五十周年記念剣道大会並びに第二十二回寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会を無事開催することが出来ました。本当に心から感謝しています。

創立五十周年を迎える鳴門市光武館道場では多くの小、中学生が稽古に励み、道場から巣立っています。それらは、前館長の教えを守り、剣道関係では多くの高段者、全国大会出場選手として育つともに、大学教授、弁護士、医者、教員、警察官など、それぞれが社会に貢献できる立派な大人へと成長し一線で活躍しています。

今後も前館長の意志を引き継ぎ、未来を担う青少年の育成に尽力を尽くしたいと思っています。関係の皆様方、今後とも、ご支援、ご協力よろしくお願ひします。





発足当時の稽古場所 旧鳴門警察道場



発足当時、光武館の稽古風景



現在、光武館道場の稽古風景



現在の光武館、指導者、門下生

各種大会に参加して

第四十一回全国スポーツ少年団

剣道交流大会に出場して

木頭錬心館 西岡 優太

私は、平成三十一年三月二十七日から三月二十九日の三日間、山口県で開催された第四十一回全国スポーツ少年団剣道交流大会に参加しました。小学生の団体は、いつも稽古と一緒にしている木頭錬心館のメンバーで出場することになりました。いつものメンバーですから徳島を出発してから山口県につくまでも楽しい時間をすごせました。

まず一日目は、他県の選手と一緒に練習をしたり交流会などを行いました。練習では、周りが自分より強そうな選手ばかりで、自分にとってもとてもいい刺激になりました。練習の後にあった交流会では、色々なゲームをしたりお土産交換などをし

てとても楽しかったです。

二日目は、いよいよ予選リーグが始まりました。最初にした相手は東京都のチームでした。初めての全国大会でも緊張していたのでなかなか体が動きませんでした。が、チーム一丸となり東京都のチームには四勝〇敗で勝利を収めることができました。二回戦の相手は愛知県のチームと当たりました。結果は四勝一敗で二回戦目も勝利を収めることができました。全国大会で二回も勝ててうれしかったです。それに一回戦目よりも体も動いて自分の納得のいく試合になったと思います。それと『予選突破』という目標を達成することができて本当に良かったです。

三日目は、決勝リーグがありました。決勝リーグでは、今大会で優勝した佐賀県と当たりました。結果は一勝四敗という結果でした。この時に、全国のレベルは、すごいなとあらためて思いました。また、全国トップクラスの選手と試合をできてとてもいい経験になったと思います。

今回木頭錬心館のメンバー五人で出場し

とても団結力があつたことで、予選突破という目標を達成できたことが私にとってとてもうれしいことでした。

この大会に際し、ご指導してくださった先生方、私たちを支えてくれた保護者の方々、また、たくさんの方々、本当にありがとうございます。これからも練習にはげみ少しでも強くなれるよう努力していきたいと思えます。

徳島県チーム（那賀郡チーム）

監督 小川大造（木頭錬心館）
先鋒 松本奏利（木頭錬心館）
次鋒 平川海音（木頭錬心館）
中堅 西岡優太（木頭錬心館）
副将 福岡 詩（木頭錬心館）
大将 山下悠人（木頭錬心館）
中学男子
橋本青空（阿南少年剣道教室）

中学女子

岩原千佳（小松島少剣クラブ）

那賀川中

徳島中

○予選リーグ一試合目

徳島

東京

先	松本	ド	×	森野
次	平川	メ	×	塚崎
中	西岡	メ	×	田代
副	福岡	×	×	田中
大	山下	×	×	岡村

○予選リーグ二試合目

徳島

愛知

先	松本	㊦	植田
次	平川	㊦	望月
中	西岡	ド	渡邊
副	福岡	×	水野
大	山下	メ	畔柳

○決勝トーナメント一回戦

徳島

佐賀

先	松本	メ	畑瀬
次	平川	メ	檜橋
中	西岡	×	嶋田
副	福岡	ド	石松
大	山下	㊦	古川

○男子個人予選リーグ(二分)

橋本

*

アダムソン・コデイ・クリストファー(長野)

橋本

*

長崎(山口)

○女子個人予選リーグ(二勝)

岩原

×

磯野(静岡)

○決勝トーナメント

一回戦

岩原

×

又吉(沖縄)

二回戦

岩原

×

荒木(福岡)

準決勝

岩原

×

永野(高知)

決勝

岩原

メ

猪原(鹿児島)



第十四回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に参加して

小学生の部

監督 山 本 泰 史

令和元年九月十五日大阪市中央体育館において表題の大会が盛大に開催されました。この大会は郷土の名譽をかけ、相手の優れた点を学びとり、友情を深め、勝つことだけを目的にしないで代表としてふさわしい模範となる試合運びやマナーでの日本一も目指す大会です。

本大会出場に向け、四月から七月まで強化訓練生約一〇〇名で第一次選考試合をおこないました。その結果、選考委員が選出した八名の強化選手を引率して、七月十四日・十五日兵庫遠征、八月三日岡山遠征をおこないました。特に兵庫遠征においては印南剣道場の子供達から基本動作の大切さを学び、合宿所に寝泊まりすることでチームの連帯感を高める遠征となりました。技術面においては全体の遠征を通して、メン

バーの弱みや強みを分析し、その結果を八名にフィードバックしました。この方法は、臼木先生から『目先の結果は大切だけど、

子供達がこの先、剣道を続けていくことを考えると遠征を一過性のものとせず、将来を見据えて個別に教示することが大切だよ』とご指導いただき、実践しているものです。

最終的には遠征で勝率の高かった選手上位五名が松村先生から発表され、目標は三年前のベスト八越えと設定されました。八月からは強化選手八名で強化稽古を定期的におこない、八月三十一日には代表チームが集う愛媛錬成会にも初参加しました。その取り組みの過程で井上主将を中心に団結力が高まってきていると感じていました。その士気の高さは、大会前日に『ある形』

であらわれることになりました。それは選手一人ひとりが自主的に前日の錬成会の振り返りを紙に書いて、三木会長、松村先生の部屋を訪れ、大会の意気込みを伝えるにきなのです。自ら考えて行動にうつした子供たちの成長を頼もしく感じた出来事でした。また子供たちのおもいに三木会長と松村先

生も激励文で応援していただき、子供達の士気もより一層高まりをみせ、大会当日を迎えます。

大会後の感想文でもこれからの決意の言葉があり、この大会までの取り組みを通して、一回りも二回りも成長していることを実感しました。『理想は高く、姿勢は低く』謙虚な気持ちで『大和（友情や仲間意識）の精神』を大切に立派な剣道人になっ

てくれることを切望します。
本大会に向けての活動プロセスは悪くなかったと思いますが、結果は予選リーグ敗退でした。捲土重来を果たすべく、振り返りをしっかりおこない、自己研鑽に励んで参ります。

最後になりましたが、大会当日も応援いただきました三木会長、米倉副会長、松村少年部長、東先生、兼松先生、長地先生ありがとうございました。また長期育成訓練でご指導いただいている強化委員長の平野先生・強化部の先生方、少年強化訓練でお世話になっている少年部の先生方、強化選手の岩本君（小松島少剣）、田代君（松紀



愛媛遠征での松村先生からの指導



大会前日の三木先生からの激励

和会)、山本さん(阿南少剣)、強化選手を
快く、遠征や強化稽古に送り出してくださっ
た各剣道教室の先生方、保護者の皆様、印
南剣道場の阿部先生、岡山県剣道連盟強化
委員長の竹内先生、愛媛県剣道連盟強化委
員の近田先生ありがとうございます。こ
の場をお借りして厚くお礼申し上げます。

(徳島県チーム)

先鋒 宮田 真吾(石井少年剣道クラブ)

次鋒 多田 健人(養武館)

中堅 平松 政樹(那賀川剣道教室わかあゆ会)

副将 四宮真一郎(鴨島少年剣道教室)

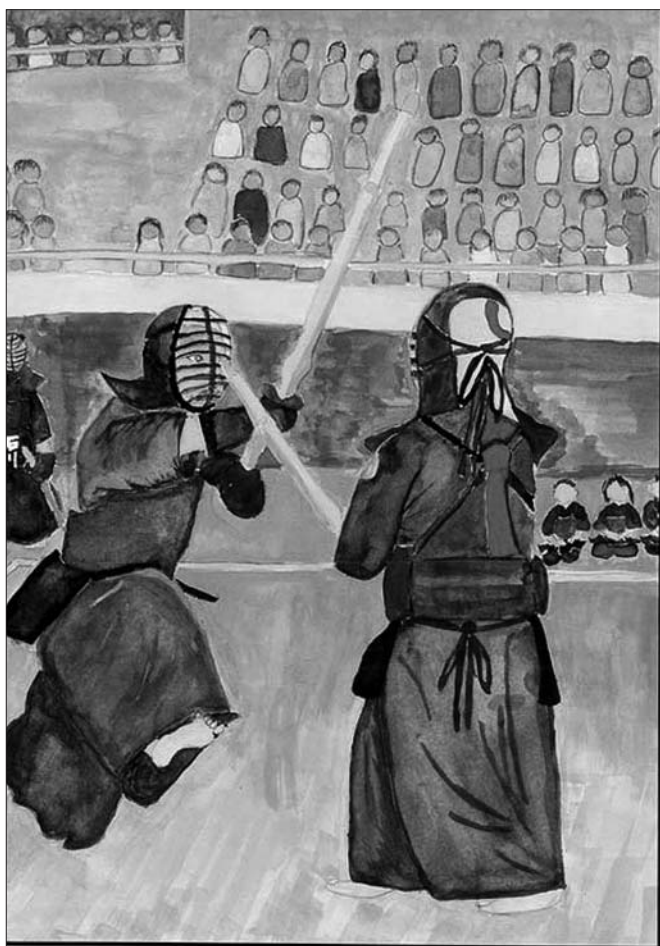
大将 井上 裕貴(吉野川少年剣道教室)



大会一試合目の初戦！



大会を終えて（集合写真）



第14回 全日本都道府県対抗
少年剣道優勝大会

- と き 令和元年9月15日(日) 午前9時開会
と ころ 丸善インテックアリーナ大阪 (大阪市中央体育館)
主 催 第14回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会実行委員会(大阪市、公益社団法人大阪府剣道連盟)
後 援 スポーツ庁、大阪府、大阪市教育委員会、全日本剣道連盟
公益財団法人大阪府スポーツ協会、大阪市体育協会



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

先鋒 宮田 真吾

ぼくは、第十四回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場することができました。

この大会に出場できたのは、家族やチームメイトの協力、いそがしい中、けいこのご指導をくださった先生方のおかげです。いつもありがとうございます。ございました。

この大会のぼく自身の評価は、最悪でした。チームの先ぼうという大事な役割だったのにも関わらず二試合とも負けてしまいました。この時、ぼくは「必ず勝たなきゃいけない。負けてはいけない」という自分自身へのプレッシャーで自分の剣道ができず、せめきれませんでした。自分の負けがチームの負けにつながったと思いました。くやしい気持ちしか残りませんでした。ぼくがこの大会に出場して、目標になったことがあります。それは、もう

一度全国大会という大きなぶ台に立つことです。同じ失敗をくり返さないために、試合中は集中して気持ちをきらさないようにしたい、自分の剣道を忘れない、新しい技を覚えて試合で使えるようにしたい。相手のせめに動じない思いきりの良い技を打ちたいなどの色いろな課題ができました。

この課題を一つ一つ確実に達成していけるようにしたいと思います。先生方のみなさんこれからも、剣道がんばっていきたいと思いますのでご指導よろしくおねがいします。

次鋒 多田 建人

先生が、代表選手を発表し、ぼくの名前を呼んでくれた時とてもうれしかったです。

家族、友達にも代表に選ばれた事を報告しました。皆、びっくりしたり、

とても喜んでくれました。大会まで練習をして頑張らなければと強く思いました。

遠征に行ったり、練習に参加していく様になり、試合や練習は自分より強い子と出来る事はすごく楽しいけれど、負けたらどうしようと思うと緊張する様になりました。

大会当日、アップする時は緊張して動けなかったけど、皆で円陣を組んでかけ声を出したら気合が入って緊張がなくなりました。

リーグ戦で福井県と岩手県と試合をしました。両方とも負けたのでトーナメント戦まで上がれませんでした。一戦目は、体の動きが悪くいい試合が出来ず、一戦目も二戦目も一本も取れなかったのがよかったです。

先生からたくさん良い点、悪い点のアドバイスをしてもらいました。両親からも気持ちが弱くなっている時は、はげましてもらいとても心強かったです。

す。
今回、この五人で頑張った事や、教えてもらった事は自信になりました。今後の試合でも、すばやく足を使って、だれよりも良い試合をし、優勝を目指します。

中堅 平 松 政 樹

全国大会に出場するために今までよく指導してくれた先生ありがとうございます。そして、遠征や大会の時、運転をしてくれた松村先生、いつも一緒にいてくれた山本先生ありがとうございます。

ぼくは、強化訓練生の中から選手に選ばれて、遠征や松紀和会の練習に参加でき、厳しい練習がとても楽しく、先生の教えてくれることがとても分かりやすく、剣道がもっと好きになりました。大会前日には、練習試合をし、

その後、五人で話し合い、各自が反省を紙に書いて、先生に渡しました。すると夕食前に三木先生、松村先生、東先生、山本先生からみんなに一人ずつメッセージを書いてくれました。ぼくは、それがとてもうれしく、明日の試合絶対に勝ちたいと思いました。先生から書いてもらったメッセージは、一生大切にしたいです。大会当日、ぼくは、福井県に引き分け、岩手県に負けと、チームも二敗でくやしい結果となりました。ぼくがもっとがんばっていれぼと思いました。全国大会に出場していた人は、竹刀の振るスピードが速く、打ちも強く、構えた姿もかっこよく、ぼくとは全く違いました。もっと毎日の練習を頑張って、もう一度、全国大会に出場したいです。そして、強くなったぼくを、先生や家族に見てもらえるようにして、これからも頑張ります。今回一緒にチームになったみんなとずっと友達でいたいです。選手に

選ばれ本当によかったです。ありがとうございます。うございました。

副将 四 宮 真一郎

夢の舞台への挑戦。ぼくは、徳島県選抜チームの副将として、第十四回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会へ出場しました。

「自分を信じてがんばってこい。」
兵庫県の遠征に行く前に、藤川先生からかけていただいた言葉です。大会の当日も、自分を信じ、チームの仲間を信じて、一本を取るために精一杯の力を出しました。

「自分の得意技で勝負してこい。」監督の山本先生の言葉を受けて技を出しました。しかし、旗は上がりませんでした。

日頃の稽古の送り迎えに加えて、県外の遠征、特別強化。家族の協力のお

かげで、ぼくは試合や稽古に集中して取り組むことができました。感謝の気持ちを持つこと、三木先生から教わったことです。松村先生や山本先生をはじめ、ご指導していただいた先生方、本当にありがとうございます。そして、いつもぼくのとらで支えてくれる母、ずっと応援してくれてありがとうございます。多くの方にお世話になっているのだからと母は言いました。ぼくは、試合の結果で恩返しができなかったこと、期待にこたえられなかったことがくやしくてたまりません。

ここからが始まりです。もっともつと稽古をして、再び全国への挑戦の機会をつかみます。そして、必ず勝ちます。前へ打っていく剣士になります。強い気持ちで稽古をします。夢は叶う。ぼくは、徳島県代表選手になれました。目標を明確に、稽古あるのみ!!

大将 井上裕貴

令和元年九月十五日、ぼくは大阪で行われた「第十四回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会」に出場しました。「絶対勝てる」と思っていたが全国の都道府県代表は強く、勝ち進む事はできませんでした。負けが決まったしゅうん間、特別強化メンバーとやってきたけい古を思い出し今まで感じた事のないくやしきで頭がいっぱいになりました。

ぼくがこの大会を知ったのは、今年入ってからです。「全国の選手と対戦してみたい」と思い四月からの強化訓練に参加しました。そして特別強化メンバーに選ばれ県外に遠せいに行きました。いつもできないような他府県代表選手とのけい古や練習試合では、徳島にはいないような選手もいて新しい経験ができました。

ぼくにこんな機会をくださった先生

方には感謝の気持ちでいっぱいです。特別強化訓練では、ぼく達に分かりやすく指導してくださり本当にありがとうございます。特に試合の前日、先生方からいただいた紙に書かれていた言葉は、これから剣道の試合で思い出したいと思います。そして、いつもぼくを応援してくれる家族にも感謝したいです。

また今回、相手に打たれた事で分かった自分に足りなかった所を、これからのけい古で考えていきたいです。そして、これからも剣道をがんばり、今度こそ自分の思うような結果を残したいと思います。

徳島県剣道道場連盟報告

道場連盟事務局長

谷 本 浩 志

今年度も全国大会出場をかけた熱戦が鳴門市光武館にて繰り広げられました。予選の結果と全国大会の内容について報告いたします。

全国道場少年剣道大会および全国道場少年剣道選手権大会予選

日時：令和元年五月十九日（日）

場所：鳴門市光武館

○全国道場少年剣道大会予選

小学生団体の部

優 勝 佐古剣道クラブ

準優勝 養武館道場

第三位 鳴門市光武館道場

中学生団体の部

優 勝 佐古剣道クラブ

準優勝 養武館道場

第三位 鳴門市光武館道場

○全国道場少年剣道選手権大会予選

小学生個人（男子）の部

優 勝 多田 健人（養武館）

準優勝 鳴門 悠生（光武館）

第三位 豊田 大晴（光武館）

第三位 佐藤 奏志（佐古）

小学生個人（女子）の部

優 勝 秋山 鈴奈（光武館）

準優勝 谷本真智子（佐古）

第三位 西村 渚（光武館）

第三位 板場 鈴々（佐古）

中学生個人（男子）の部

優 勝 内海 翔貴（養武館）

準優勝 谷本 英（佐古）

第三位 沖野 友哉（佐古）

第三位 神田幸一郎（養武館）

中学生個人（女子）の部

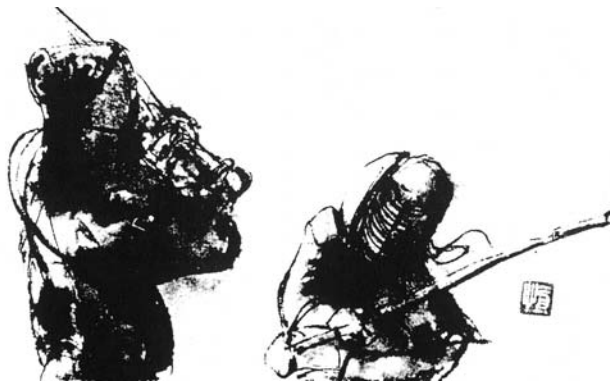
優 勝 國見 菜々（佐古）

準優勝 後藤 彩祢（光武館）

第三位 東原 萌衣（養武館）

第三位 森下 和奏（光武館）

小学生・中学生の団体戦・個人戦の優勝チームおよび選手は徳島県の代表として全国大会に出場することとなり、七月二十五日（木）徳島県知事への表敬訪問に伺いました。





令和元年度 全国道場少年剣道大会予選会入賞者



徳島県知事への表敬訪問

第五十四回全国道場少年 剣道大会に参加して

○小学生の部

佐古剣道クラブ

主将 谷 本 真智子

「面ありっ」

私の一本に旗が上がりました。

一回戦目、チームの勝敗は大将の私の結果で決まる試合でした。私は自信をもって、恐れずに自分から攻め、大きな技で勝つことができました。

二回戦目、私の試合の前にチームの勝敗が決まっていました。でも、チームの仲間はみんなが良い内容で勝負していたので、大将として堂々と思いきった試合をしようと思ひ、開始線へ向かいました。相手は、体も大きく強かったけれど先、先をとりながら面で勝負していききました。相手が一瞬ためらったところを大きく打っていききました。

「面ありっ！」旗が上がりました。仲

間や先生を見ると、みんな大きな声で声援を送ってくれていて、みんなのうれしそうな笑顔が見えました。うれしくて、ホッとしました。その後、相手の攻めが大変激しく追いつかれ、最後にもう一本取られて負けてしまいました。とても悔しかったけど、良い試合が出来たと思ひました。諦めない気持ちで試合した結果だと思ひました。

中学生になっても何事も最後まで諦めず、みんなに頼られる人になりたいです。そして、この舞台で試合ができたことをチームのみんな、先生、保護者の方々に心から感謝しています。



○中学生の部

佐古剣道クラブ中学部

主将 谷 本 英

県予選を終え、優勝できたことに安心する反面、日本武道館という大きな舞台への緊張もありました。小学生のときに日本武道館で何度か試合をしましたが、中学校最後と決めていた試合の日本武道館はこれまでとは違う雰囲気がありました。

一試合目は、京都府代表の道場と対戦し全員が良い内容で勝利し、自分達の力が全国に通用する事が分かり、自信を持ってました。というのも二試合目の相手がとても有名な道場で不安が大きかったからです。

その二試合目は、今宿少年剣道部という福岡県代表の道場との対戦です。白熱した内容の試合で接戦でした。大将戦で僕に回ってきたときには団体としての勝敗はついていました。しかし、

大将として一矢報いたい、それに中学校最後の試合だから強い気持ちで自分の持てる力を出し切ろうと思いましたが、

相手は、福岡県の都道府県大会代表の池辺君でした。今宿の



選手独特の剣先をひらいて、少し体を斜めにとる構えで応じてくる剣風です。僕は中心をしっかり攻め、出頭で勝負する展開で試合をすすめました。良いところもありましたが、結果一本にならず引き分けでした。残念でしたが、内容は満足出来るものでした。

この大会は、中学校の剣道生活を通して忘れられない経験になりました。

中学校や道場で共に切磋琢磨した仲間、指導を続けてくれた先生である父や支えてくれた家族のおかげだと思います。僕は高校に入っても剣道が続けていきます。これまで以上に精進し、日々の生活も充実させていきたいです。

【 結 果 】

○小学生の部 令和元年7月29日

チー ム 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝数(本数)
佐古剣道クラブ (徳島県)	佐 藤	市 場	板 場	眞貝幸	谷本真	3 (4)
	メメ		メ		メ	
千歳明德館道場 (北海道)		メメ		メメ		2 (4)
	平 林	櫻 井	松 山	中 村	大 塩	

チー ム 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝数(本数)
如水館池田道場 (福岡県)	川 上	築 地	益 田	今 村	石 橋	5 (10)
	コメ	メメ	メメ	メメ	メコ	
佐古剣道クラブ (徳島県)	メ			メ	メ	0 (2)
	佐 藤	市 場	板 場	眞貝幸	谷本真	

○中学生の部 令和元年7月30日

チー ム 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝数(本数)
京 都 誠 風 館 (京都府)	川 釣	大 西	高 木	有 吉	米 倉	0 (0)
佐古剣道クラブ (徳島県)	メメ		メ	メメ		3 (5)
	安 井	國 見	七 條	眞貝俊	谷本英	

チー ム 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝数(本数)
今宿少年剣道部 (福岡県)	中川原	妹 尾	河 野	井 上	渡 邊	3 (3)
	メ		メ	メ		
佐古剣道クラブ (徳島県)		メ				1 (1)
	安 井	國 見	七 條	眞貝俊	谷本英	



全国道場少年剣道

選手権大会に参加して

第四十四回小・中学生男子の部

第三十七回小・中学生女子の部

謙信公武道館（新潟県）

新しく新潟県に建築された武道館（謙信公武道館）のこけら落としの記念大会として全国道場少年剣道選手権大会が令和元年十二月二十二日（日）盛大に開催されました。以下に出場選手の感想を記載します。

【感想】

○小学生男子の部

養武館道場 多田 健人

県予選で個人優勝し、全国大会に出場する事ができました。大会までは、初めて行く新潟県、新築の謙信公武道館で他県の代表選手と勝負できる事がすごく楽しみでした。大会前日、会場で稽古した時、他県の選手の稽古も見ることができました。どの選手も竹刀

にスピードがあり、迫力もあり圧倒されました。

大会当日、一回戦の相手は鹿児島県の代表選手でした。初めの一分間ぐらいいは、お互いに攻めてほぼ互角でした。一分三十秒ぐらいで僕が先を取って、面を打とうとしたとき、相手のスピードが速く相面で一本取られました。残りの時間で一本取り返し、延長戦にもち込もうとしましたが、取り返せず一本負けで終わってしまいました。

一回戦で負けてとても悔しかったけど、今の自分の力は全部出せたと思っています。自分の良い点、悪い点も確認する事もできました。中学生になっても、また全国大会に出場し、一回戦突破するという目標が出来たので一生懸命稽古に励みたいです。

【結果】小学生男子

多田健人（養武館道場）

チームメ 石橋智紀（加世田剣道スポーツ少年団）

○小学生女子の部

鳴門市光武館 秋山 鈴奈

私は県の代表として全国大会に出場することができました。会場は、建てられたばかりのとてもきれいな武道館でした。私は前日から会場に入り、徳島の選手と一緒に稽古をさせてもらい県代表としてがんばろうという思いが強くなりました。

大会では一回戦長崎県代表の選手と対戦しました。あじわったことがないような大きな緊張のなか、いつも通り稽古の成果を「精いっぱい發揮するぞ!」と強い気持ちで試合にのぞみました。しかし延長で一瞬のすきをつかれ、面を取られ負けてしまいました。くやしくて涙がとまりませんでした。だからもう一度全国の舞台に立ち、よい結果が残せるよう努力していこうと心に決めました。

このような貴重な経験ができたのは、

いつも熱心にご指導して下さる先生方、どんな時も応援してくれる家族のおかげです。感謝の気持ちを忘れずこれからもがんばっていきます。

【結果】小学生女子

秋山鈴奈（鳴門市光武館）

ーメ 山浦友希（新崎少年剣道会）

○中学生男子の部

養武館道場 内 海 翔 貴

二〇一九年十二月二十三日、僕は全国道場少年剣道選手権大会に出場しました。県予選で上級生を破って優勝することができた結果でした。

優勝した直後は、全国のレベルがどれほどなのか見当もつきませんでした。そこで、出場者の実力を見るためインターネットで過去の大会の動画を見ると、皆の竹刀の振りがとても早く、技と技の間に全く隙がないことを知り、

「強い」という言葉しか出てこないほど驚きました。

大会当日、周囲の様子を見ると、前に見た動きと同様で僕はとても緊張しました。しかし、この日のために稽古を重ねてきたことを思い出し、きっと勝ると信じて試合に臨みました。結果、全く歯が立たず試合直後、僕は体の力が抜けて崩れ落ち、しばらく言葉も出てきませんでした。見たものと実際に体験したものではありません。その後、他の選手の試合を見ましたが、いずれも自分が思い描いていたレベルを超えていました。自分にはないものが山ほどありました。

しかし、この経験から僕は自分がやるべきことを見えてきました。稽古で一つ一つ課題を克服していくと、次は全国で活躍出来る選手になりたいと強く思うようになり、これまで以上に力が入るようになりました。

最後に、全国大会に付き添ってくれ

た徳島県の先生方、家族や応援してくれた皆さん、本当にありがとうございます。これからも剣道を続け、もっともっと強くなるので、応援をよろしくお願いします。

【結果】中学生男子

内海翔貴（養武館道場）

ーメメ 望月 謙（水龍館）

○中学生女子の部

佐古剣道クラブ

國 見 菜 々

私は、徳島県予選で優勝したとき、私でいいのか？と思っていました。でも、周りの沢山の友達に応援してもらい、出させてもらえるなら精一杯やろうと思えるようになりました。

大会に行くと、アップの時から会場の選手全員気迫がすごく、全国大会のレベルの高さを改めて感じました。

一回戦は岐阜県の鈴木選手でした。



試合が始まるまではすごく緊張していましたが試合が始まると、「自分がやれることを精一杯やる。」という気持ちになりました。試合が始まって少し経ち、面を打って出たところを払われて、逆に面を打たれてしまいました。その後はまた打たれたらと思ってしまい、残りの試合時間中まともに打つて出ることができず、一本負けとなって

しまいました。とても悔しく、次にこのような機会があればもっと納得のいく内容にしたいと、強く思いました。しかし、この試合を含め、前日の会場での稽古など高いレベルの剣道に浸ることが出来たことで、自分の良い点も悪い点も学ぶことができ、とてもためになりました。この経験を活かし、これまで指導してくださった先生方や

支えてくれている家族への感謝を忘れず、これからも稽古に励みたいと思います。

【結果】中学生女子

國見菜々（佐古剣道クラブ）

ーメ 鈴木彩奈（誠心剣友会）

全国中学校剣道大会に出場して

那賀川中学 尾 畑 翔

「全中に出場し、最後は笑って終わる」これが私たち那賀川中学校男子剣道部の目標でした。

この目標を達成するため、日々の厳しい稽古、多くの県外遠征に参加し、精神面、技術面が鍛えられました。そして最後まで「諦めない」「挑戦者」の気持ちを忘れず中学校最後の県総体を迎えました。アップから真剣に取り組み、「絶対勝つ」という気持ちで試合に臨みました。厳しい試合になりましたが、仲間の支え、応援して下さる皆様のおかげで優勝することができました。その瞬間は、自然と涙があふれてきました。那賀川中学校男子剣道部は二年連続全国大会に出場することができました。その次の日から徳島県代表ということをお忘れずに日々の稽古を一生懸命に頑張りました。そして迎えた令和元年八月二十一日〜二十三日、丸善インテックアリーナ大阪で

「君の夢 叶える場所が 近畿（ここ）にある」のスローガンのもと、第四十九回全国中学校剣道大会が開催されました。

予選リーグの対戦相手は、島根県代表出雲第三中学校、栃木県代表小山第三中学校でした。結果は、出雲第三中学校とは一一の引き分け、小山第三中学校とは一一と残念ながら予選敗退となってしまいました。とても悔しい気持ちでいっぱいでしたが、全中という大舞台で試合ができたこと、仲間と共にここまでこられたことに感謝しています。この経験は私の一生の宝物になりました。

中学校三年間の部活動はあっという間でした。辛いとき、苦しいときもありましたが、どんなときでも仲間が支えてくれました。共に笑い、共に涙を流した仲間たちがいたからこそ、今の自分があると思います。そして私たちが最高の舞台で戦うことができたのも、日々厳しくご指導して下さった齋先生、長地先生、那先生のおかげだと思います。そしていつも応援して下さった保護者の方々、ご指導して下さったす

男子団体予選リーグ結果（Iリーグ）

Iリーグ	出雲三中 (島根)	那賀川中 (徳島)	小山三中 (栃木)	得点	勝者数	総本数	順位
出雲三中 (島根)		$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{0}$	0.5	1	3	3
那賀川中 (徳島)	$\frac{2}{1}$		$\frac{1}{1}$	0.5	2	3	2
小山三中 (栃木)	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$		2	4	6	1

すべての先生方、支えて下さった先輩方や後輩たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

「暴力0(ゼロ)心でつなぐスポーツの絆」

第49回

令和元年度全国中学校体育大会

君の夢
かなえる場所が
近畿にある

全国中学校剣道大会

令和元年8月21日(水)~23日(金)
丸善インテックアリーナ大阪
(大阪市中央体育館)

◆主催 公益財団法人日本中学校体育連盟、一般財団法人全日本剣道連盟、大阪府教育委員会、府内市町村教育委員会
◆主管 近畿中学校体育連盟、大阪中学校体育連盟、公益社団法人大阪府剣道連盟
◆後援 スポーツ庁、全日本中学校長会、全国都道府県教育長協議会、全国市町村教育委員会連合会、公益社団法人日本PTA全国協議会、日本私立中学高等学校連合会、NHK、全国新聞社事業協議会、読売新聞社、毎日新聞社、大阪府、大阪市、大阪府公立中学校長会、公益財団法人大阪府スポーツ協会、大阪府PTA協議会、大阪市PTA協議会、大阪私立中学校高等学校連合会、大阪私立中学校高等学校保護者会連合会、大阪毎日新聞
◆特別協賛 大塚製薬株式会社

全国中学校剣道大会に出場して

徳島中学校 女子剣道部

主将 岩原千佳

「全中に出場し、ベスト四に入る」これが私たち徳島中学校女子剣道部の大きな目標でした。この目標を達成するために、先生方のご指導の下、日々厳しい稽古に取り組んできました。いろいろな技の技術向上だけでなく、精神面の強化にも取り組んできました。そして、中学校最後の県総体で優勝することができ、念願の全国大会出場の切符を手にすることができました。指導してくださった先生方、また、支え励ましてくださった保護者の方々、共に練習し戦ってきた、剣道の仲間たち全員の思いを感じながら、全国大会に臨みました。大会までの期間、それぞれのメンバーが課題をもって、さらに気合いを込めて稽古に取り組みました。

今年の全中大会は、八月二十一日から二十三日まで大阪府で開催されました。試合

当日、これまでにやれることは全てやってきたという自信があったので、あまり緊張せず、いつも通り笑顔で試合に臨むことができました。

試合は三校での予選リーグから始まりまず。初戦は、栃木県代表の小山第三中学校との対戦でした。初戦ということもあり、体が思うように動かず、0対0の引き分けでした。次の相手は、大阪府の第二代表の新東淀中学校でした。相手は、先に一勝していることもあり、勝利することが、予選リーグ突破の絶対条件でした。チーム一丸となって試合に臨み、今まで努力してきた成果を出し切りましたが、二対一のスコアで負けてしまい、予選リーグ敗退となってしまいました。

残念ながら、自分たちの目標を達成することができませんでした。また、優勝したのが私達が戦った新東淀中学校だったので、とても悔しい気持ちでいっぱいになりました。しかし、この仲間と共に全国大会の舞台で戦ったことは、自分たちにとっていい経験になり、生涯忘れることのできないも

のとなりました。これからも剣道が続いていくので、この経験を生かし、頑張りたいと思います。

徳島中学校女子剣道部の主将となり、全国大会に出場することができたのは、今まで一緒に頑張ってきた仲間たち、また、毎日指導してくださった兼松先生をはじめ多くの先生方のおかげだと思います。そして、いつも応援してくれた保護者の方々や家族、お世話になった全ての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。これからも剣道を頑張っていきます。本当にありがとうございます。



第十四回都道府県対抗 少年剣道大会

監督 兼 松 佳 史

○期日 令和元年九月十五日

○会場 丸善インテックアリーナ大阪

○徳島県中学生選抜チーム

監督 兼松 佳史(徳島中)

コーチ 長地 千景(那賀川中)

選手 先鋒 岩原 千佳(徳島中)

次鋒 小山田奈央(那賀川中)

中堅 添木 陽仁(徳島中)

副将 富田将太郎(北井上中)

大将 橋本 青空(那賀川中)

○試合結果

予選リーグ 一試合目

徳島 二(二)ー(三)三 岐阜

先 岩原 ×メ 森 園

次 小山田 ×コ 樋 口

中 添木 コ× 籬

副 富田 ×メ 杉 江

大 橋本 ×メ 三宅

予選リーグ 二試合目

徳島 ○(○)ー(三)三 北海道

先 岩原 ×コ 能 地

次 小山田 ×コ 原 口

中 添木 × 小 林

副 富田 ×コ 森 谷

大 橋本 × 中 野

○所感

会場が大阪で近いこともあり、大会前日に徳島中学校で調整練習を行った。基本練習を中心に行い、技の確認もでき、よい稽古ができた。ただ、那賀川中学校の二人の選手が、学校行事と重なり、一緒に練習ができなかったのが残念であった。

その後、大阪に向け出発し、丸善インテックアリーナ大阪へ会場確認に立ち寄った。たくさんのお他県の選手達が、熱のこもった練習を行っていた。

大会当日、選手たちも共に声を掛け合い、よい雰囲気の中で予選リーグ一試合目を迎えることができた。徳島県の初戦は岐阜県である。先鋒から白熱した試合となった。終始攻めの姿勢は崩さず、互角の戦いを繰

り広げるなかで、いい機会の出ばな面を捉えた。が、旗は相手に上がった。その一本で、流れが相手に傾き、他の選手達もよく頑張ったが、終わってみると結果は二対三の惜敗となった。

予選二試合目の相手は、北海道チーム。この試合に勝てば、まだ決勝トーナメント出場の可能性もあり、気持ちの切り替えをして臨んだ。先鋒、次鋒、副将が一本ずつ取られ、結果○対三で試合終了となった。

岐阜県は、来年度全国中学校剣道大会開催地となっており強化も進んでいたようである。また、北海道も以前より剣道では強豪である。その相手に一歩も引かず、先をとり攻めていく剣道を貫いた選手たちは大変すばらしかった。

決勝戦は、長崎県と佐賀県で九州勢同士の戦いとなった。接戦の末、長崎県が優勝であった。また、試合の中の数少ないチャンスも、確実にものにする上位入賞チームの剣道は大変参考となった。今回一緒に戦った選手五名の今後の活躍と更なる精進を期

待している。

大会出場に対し、ご支援、ご協力いただき
ました徳島県剣道連盟の先生方、保護者
の皆様へ感謝申し上げ大会報告とさせて頂
きます。



全国高等学校剣道 選抜大会に出場して

剣道部 主将 河野 寛 之

ろな思いが頭の中を巡りました。

全国大会に出場したい、そんな思いで阿南工業高校剣道部に入部したのが昨日のことのように思い出されます。歴代の先輩方は数々の全国大会に出場され、素晴らしい戦績を残してこられました。入部以来、毎日厳しい稽古を積んできましたが、チャンスをものにすることができず、全国大会を目前で逃してきました。また、「阿南工業」の名前として全国大会に出場できるのは、この選抜大会が最後でした。私たち剣道部は、全国大会にこの名前を持っていき

たい、その思いで平成三十一年一月十三日の全国選抜大会県予選の日を迎えました。どの試合も接戦となりましたが、チーム一丸となり一戦一戦気持ちを切らすことなく、全員で決勝戦まで駒を進めることができました。決勝戦直前は、「あと一つ」、「ここまで来た」、「全国に行きたい」などいろいろ

な思いが頭の中を巡りました。決勝戦では、大将戦までリードで試合が展開されましたが、私が一本を取り返され代表戦に持ち込まれました。しかし、もう一度、私に勝負のチャンスを見せてくれた先生からは「自分の試合をしてこい」と言われたことをはつきり覚えていいます。また、

何よりも、チームの仲間が笑顔で代表戦に送り出してくれたことは絶対に忘れられません。その結果、代表戦で無心の一本を決めることができて優勝することができました。全国大会への出場が決まってからは、徳島県代表として、そして伝統ある「阿南工業」の名に恥じないよう日々努力を重ねました。また、全国大会出場の常連校と顔を合わせることができるとも楽しみました。

大会前日の開会式では、阿南工業・阿南光高校のプラカードの重みを感じながら、大舞台上に立てた喜びを胸に入場行進をしました。大会当日、一回戦突破という目標を掲げ試合に臨みました。あの時、みんな本

当に冷静だったなと思います。自分の役目を自覚し、自分の試合に集中した結果、運

までもが私たちに味方をしてくれ、一回戦を見事に勝ちきることができました。先生方に教えられた、「生活即剣道・剣道即生活」を胸に頑張ってきたことで、最後に大きな大きなプレゼントをもらった、そんな気持ちでした。私たちがここまで来られたのは、もちろん先生方や支え合った仲間、そして応援してくれた保護者の皆さんのおかげだと思っています。そして何よりも、OBの方々の応援がとても大きいと感じています。仕事で忙しい中、防具を持って練習に来ていただき、一緒に稽古をしてくださったり、差し入れをくださったり、本当に温かく心強かったです。先輩方の背中を見てみると、卒業が終わりではなく、ここで学んだ財産を、次の後輩に残していける人間になりたいと思います。阿南工業高校剣道部として残してきた戦績や伝統を、阿南光高校に伝える、そんな節目の年に在籍できたことは、これからの人生の大きな糧になると思います。

最後に、私たちがここまでやってこれたのは、支えてくださった佐々木先生、岩

岩

原先生、谷先生の厳しき、優しき、温かさ

のおかげだと感謝しています。先生方のおかげで、夢の大舞台に立てた喜びと、自分の役割を果たさなければいけないという責任とプレッシャーを経験することができました。全国の選手のレベルは高く、その壁に向かって行くには、チーム全員が日頃から高い意識や和の精神を持つことや、何よりも仲間を信じ、チームが同じ目標を持って努力することの素晴らしさを学ぶことができました。この経験は、剣道はもちろん、生活していく上で大きな自信になると思います。令和という新しい時代とともに、阿南光高校の後輩たちが、今までの伝統と新しい力を統合し、「光の剣道」で頂点を目指してほしいと心から願っています。今まで応援して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。

戦績

○第二十八回全国高等学校剣道選抜大会

平成三十一年三月二十六日～二十八日

愛知県春日井市総合体育館

一回戦（本数勝ち）

阿南工・阿南光 一―一 鹿本

富田 × 福本

上条 × 富来

上田 コ反 ー 慶田

吉岡 × 津留

河野 ーメ 児島

二回戦

阿南工・阿南光 〇―一 秋田商

富田 ーコ 三浦

上条 × 島山

上田 × 高田

吉岡 × 福田

河野 メ×メ 小野



感謝

富岡東高等学校

和田津 凜 紅

私は小学一年生の時、兄の影響を受けて剣道を始めました。剣道をする中で、いつか自分も全国で戦いたいという目標ができ、中学高校と剣道が続けてきました。しかし中学までは一度も全国大会に出場することができませんでした。

中学三年生の時、伝統ある富岡東高校から声をかけていただき、「全国の舞台で試合がしたい」という気持ちがさらに大きくなり、目標である全国出場を目指して富岡東高校に入学を決めました。

入学後は全国を何度も経験してきた先輩方や力のある同級生の中ではなかなかレギュラーに入れず悔しい思いをしてきました。自分には無理だ。もう諦めてしまいたいと思ったとき支えてくれたのは一緒に頑張ってきた仲間の言葉でした。「諦めるな」「一緒に全国に行こう」この言葉のおかげで私

は諦めることなく前に進めたのだと思います。それから、自分に足りないものは何か、自分の弱いところはどこかを探し、与えられたメニューをこなすのではなく自分に必要なことを求める練習をしてきました。そして高校二年生の春、私はレギュラーとして、目標としていた全国大会に出場することができました。

平成三十一年、三月二十六日～二十八日。全国高等学校剣道選抜大会が愛知県春日井市で行われました。試合会場に入った瞬間、気迫のある発声、竹刀が激しく交差する音、床が揺れているような感覚になるほどの力強い踏み込みに身体中がしびれました。チームのためだけでなく徳島県の代表として臨んだ一回戦。対戦相手は東京都代表、東海大菅生高校。先鋒、チームに勢いづけようと攻めるが隙をつかれ二本負け。続く次鋒は流れを変えようと粘るが引き分け。中堅は一年生でプレッシャーもある中一本を取られるも諦めず取り返し引き分け。そして副将の私にまわってきました。前半で一本を取り、このまま大将につなげようとしま

したが後半で取り返されてしまい引き分け。大将は二本リードされた厳しい状況でも必死に取りに行こうと攻めるが、相手の守りを崩すことができず引き分け。結果は一一〇で負けてしまいました。

私にとって、高校生最初で最後の全国選抜大会は一回戦敗退という悔しい結果に終わってしまいました。全国の厳しさや自分の弱さ、何よりもっとこの場所で試合がしたかったという気持ちが大きくひたすら悔しかったのを覚えています。そんな時背中を押してくれたのは「ここで腐らず、強くなれ」と指導してくださった長井先生の言葉や、「夏のインターハイでリベンジに行こう」と言ってくれた仲間の言葉、「頑張れ」「誰よりも応援しているよ」と支えてくれた家族の言葉でした。私が辛い時や行き詰った時、周りの人たちの温かい言葉で何度も何度も救われました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

富岡東高校の剣道部に入り、私は多くのことを学びました。新しいことに「挑戦する勇気」や「剣道ができることに対する感

第28回 全国高等学校
剣道選抜大会
2019年3月27日(水)・28日(木)
春日井市総合体育館

主催／(一財)全日本剣道連盟・(公財)全国高等学校体育連盟
後援／スポーツ庁・(一財)地域活性化センター・愛知県・(公財)愛知県体育協会・春日井市
春日井市教育委員会・(公財)春日井市スポーツふれあい財団・春日井商工会議所
(一社)春日井市観光コンベンション協会・中日新聞社
主管／(公財)全国高等学校体育連盟剣道専門部・(一財)愛知県剣道連盟
愛知県高等学校体育連盟剣道専門部

この事業は(一財)地域活性化センターのスポーツ拠点づくり推進事業の支援を受けて実施しています。

謝」の心を持つことができました。その中でも私が一番学べてよかったと思う事は、「人との出会いの大切さ」です。自分の弱さに涙が止まらなかった時、あと一步の所でレギュラーに入れず悔しかった時、支え

てくれた沢山の人の人達のおかげで今の自分があります。私に剣道をする上で大切なことだけでなく人として大切なことを教えてくれた長井先生や、泣いたり笑ったり時にはぶつかり合って、気づけばなくてはならな



い存在になっていた大切な仲間と出会えたこと、そして富岡東高校で剣道ができたことは、私の一生の誇りです。

第六十六回全国高等学校 総合体育大会剣道大会に出場して

徳島県立城北高等学校

小山田 慎 介

私達剣道部は、令和元年八月三日から熊本県熊本市で開催されました第六十六回全国高等学校総合体育大会剣道大会に徳島県代表として出場しました。私達は、日々積み重ねてきた稽古やお互いに高め合ってきた仲間を信じて、予選リーグ突破を目指し強い気持ちで挑みました。

昨年先輩方が引退して、次は自分達が部を引っ張っていくべき新チームとなった頃、当初県内でなかなか勝ちきることができず、苦しい時期が何ヶ月も続きました。それでも何とかチーム一丸となって優勝を掴み取ろうと努力しましたが、一月に開催された全国選抜大会の県予選において、初戦敗退を喫してしまいました。私達にとってこの大会は、これまで先輩方が代々三連覇を果たしている大会であり、これまで以上に

「必ず優勝する」という強い想いで望みましたが、結果的には『連覇』というプレッシャーに押し潰され、悔しい思いをすることとなりました。先生方や先輩方、支えてくれた保護者の方々の期待に応えることができませんでした。

しかし、この敗戦が私達を奮い立たせるきっかけとなりました。一人ひとりが剣道に対する向き合い方を見つめ直し、今まで以上に日々の稽古に真剣に取り組みました。苦しい時は一月の敗戦を思い出し、もう一度心を奮い立たせました。その結果、その後の県大会において二度の優勝を果たし、六月の県高校総体に向けて大きな自信につながりました。

そして迎えた県高校総体において私達は、これまで積み上げてきた一人ひとりの力とチームとしての力を信じて戦い抜き、選抜大会予選で逃した全国大会への切符を掴み取ることができました。

高校生活最後の舞台となる全国総体では、先鋒から大将まで一人ひとりが、それぞれの持っている力を発揮して最高の試合をや

り抜くことができました。残念ながら僅差で決勝トーナメントには進出することができませんでしたが、大会を悔いのない形で終えることができました。

三年間の城北高校での剣道を通じて、私達を最高の舞台に送り出すために毎日熱心に指導していただいた先生方や、苦しい時や楽しい時を共に過ごした仲間達、最後まで私達を信じて支えてくれた保護者の方々の感謝の気持ちを忘れず、これからの人生の糧として行きたいと思えます。本当にありがとうございました。

夢 — 最後のインターハイ —

富岡東高等学校

朝 田 萌 香



私が剣道を始め
たのは二人の兄が
きっかけでした。
兄の稽古の送り迎
えに行く母と一緒

に道場へ通ううちに、気が付いたら私も六歳から竹刀を握っていました。最初は勝つことよりも、目標だった兄に追いつこうと必死で稽古に励んでいましたが、兄の背中を追いかけるうちに剣道の面白さや楽しさを知り、次には私自身も勝ちたいと思うようになりました。

中学生になり、「全国上位入賞」という大きな目標を掲げる中で、目標が夢へと変わり、より一層勝ちたいという気持ちが強くなり、厳しい稽古も乗り越えることができ、全国中学校剣道大会に三年連続出場することができました。しかし、結果はあと

一步のところまで惜しくも敗れ、二・三年時は二年連続ベスト十六という結果に終わってしまいました。悔しい思いをしましたが、それよりも何が足りなかったのかと後悔の気持ちの方が強く、次のことを考えている時間が長かったです。それから次こそはと私は伝統ある富岡東高校に入学し、中学校で果たせなかった夢に向かって稽古に励みました。顧問の長井先生を始め、数々の先生方の熱心なご指導のもと、日々の稽古や多くの県外遠征で仲間の大切さや明確な課題を持つことの大切さなど多くのことを学ぶことができました。また、両親や支えてくださった方々のおかげで仲間と共に大好きな剣道に取り組むことができたと思いません。インターハイでも高校一年からレギュラーとして出場することができましたが、

こちらも二年連続ベスト八の壁を破ることができませんでした。中学二年時から四年連続全国ベスト十六だった私は、仲間と共に全国への切符を手にし、五度目の挑戦として高校生最後の全国大会に臨みました。記念すべき令和初のインターハイは「響

かせろ 我らの魂 南の空へ」のスローガンのもと、令和元年八月三日～六日の日程で熊本県立総合体育館において開催されました。私たち三年生にとっては最後の全国大会でもあり、緊張や不安な気持ちもありましたが、仲間と声を掛け合い、仲間を信じてチーム一丸となり、みんなの目標、また私の夢でもある「全国上位入賞」を目指して試合に臨みました。

予選リーグ一回戦の相手は、大阪府代表の東海大仰星高校。先鋒は果敢に攻めるも隙を突かれ一本負け。続く次鋒・中堅・副将と必死に取り返しに行くが惜しくも引き分け。試合を託された大将は一本を取り返しにいったが二本負け、二対〇で敗れました。次の試合での勝ちが予選リーグ突破の絶対条件となってしまう後がなくなった私たちは、悔しい思いをこらえ気持ちを切り替えて二回戦に臨みました。二回戦の相手は、群馬県代表の共愛学園高校。先鋒の三年生がチームのために力を出し切り一本勝ちでチームを勢いづけてくれました。それに続こうと次鋒の一年生が思い切って攻め

ていくが惜しくも延長で一本負け。中堅はチームに流れを作ろうと勢いよく試合をするが引き分け。副将は次鋒に続く一年生、一本を奪われ必死に反撃したものの、取り返せず一本負け。一回戦と同様に一本取り返さないといけない場面で仲間に勝利を託された私は、必死に取りにいくも取りきれずに引き分け。二対一で敗れ、最後のインターハイは予選リーグ敗退という結果に終わってしまいました。また、私は個人戦にも出場し、団体戦での結果を踏まえみんなの気持ちを背負って試合に臨みましたが、一回戦を突破したものの二回戦で敗れました。

目標にし、夢でもあった「全国上位入賞」は叶えることができませんでしたが、大切な仲間と出会い、その仲間と最後まで切磋琢磨し、戦い続けてきたということが私の宝物となりました。長井先生を始め、熱心にご指導いただいた先生方、大好きな剣道ができる環境を作ってくれた保護者の方々や先輩方、どんな時も支えあってきた仲間たち、応援してくださった多くの方々に感

謝してもしきれません。また、私は、剣道での大学進学を決めたので、感謝の気持ちを胸に今も稽古に励んでいます。来年こそは、と想っている共に夢を追った後輩たちに夢を託し、私も大学で夢を叶えられるように力をつけたいと思っています。





📌 令和元年度全国高等学校総合体育大会
感動は無敵大 南部九州総体 2019

響かせら
我らの魂
南の空へ

第66回
全国高等学校
剣道大会

会場 熊本県立総合体育館

令和元年
8月3日(土)~
6日(火)

図案/松野 温吾(熊本市立必由館高等学校)

■主催/公財)全国高等学校体育連盟(一財)全日本剣道連盟 熊本県 熊本県教育委員会 熊本市 熊本市教育委員会
■共催/読売新聞社 ■後援/スポーツ庁(公財)日本スポーツ協会 日本放送協会(公財)熊本県体育協会 熊本市体育協会
■主管/公財)全国高等学校体育連盟剣道専門部 熊本県高等学校体育連盟 熊本県剣道連盟
■特別協賛/大塚製薬 ■協賛/JTB マイナビ KDDI カンコー-学生服

全日本学生剣道

選手権大会に出場して

徳島大学 鳴川 了介

令和元年六月三十日、エディオンアリーナ大阪で開催された第六十七回全日本学生剣道選手権大会に、お陰様で中四国代表として出場することができました。全日本学生剣道選手権大会はいわゆるその年の大学生剣道日本一を決める全国大会であり、個人戦です。

この大会に出場するには各地方で行われる予選を兼ねた大会で勝ち上がらなければなりません。徳島大学に在籍している私は、六月九日に行われた中四国学生剣道選手権大会でベスト十六以内に入ることが条件でした。もちろん厳しいことではありますが、不可能ではないと思います、私は大学で剣道を続けるにあたって「全日本学生剣道選手権大会に出場する」という目標を立てました。

しかし、徳島大学常三島剣道部の稽古は一週間に三日で一回の稽古時間は約一時間

と他大学に比べると非常に少ないのです。そのため、短い時間で如何に質の高い稽古ができるかが重要になります。そこで稽古をする際、基本技の稽古をするときは新しいことや難しいことをするのはなく、一本になるような打ちをする、しっかりと打ちきるといった基本的なことを徹底し、地稽古ではより試合に近い気持ちや状態で行うことを意識しました。

そして、迎えた中四国大会では久しぶりの試合ということもあり、初戦は緊張から納得のことができるような試合ではありませんでした。しかし、何とか一本を取り一回戦を勝ち上がることができました。その後は何とか落ち着いて試合ができ、ベスト十六まで勝ち上がり、目標であった全日本学生剣道選手権大会への切符を手にすることができました。

この試合の三週間後に全日本学生剣道選手権大会が開催されました。大会が続いていたので試合勘はある程度取り戻していた状態ではありましたが、いざ試合本番となると全国大会特有の会場の雰囲気吞ま

てしまい、思うような動きができず一回戦で敗退しました。自分の力を発揮できず、悔いの残る試合となってしまいました。

本大会を通して勝負に勝つためには強い気持ちを持たなければいけないということに改めて痛感しました。本大会の上位に入賞した選手はどの選手も強い気持ちをもって試合をしていました。特にそのことを感じたのは決勝戦を観戦していた時です。決勝戦を制した星子啓太選手（筑波大・世界選手権メンバー）は足をつり、試合をしづらい中絶するほどの状態でありましたが、最後には見事な一本をとって日本一になりました。星子選手が絶対に勝つという強い気持ちを持っていたからこそ出た一本だと思いました。

今回の試合を含め、今までの剣道人生において、私が試合に負けたときは弱気になったときが多いように思います。全国大会のような大きな舞台でも自分の力を十分に発揮できるような強い気持ちを持つことが私に必要なことです。今後はそういった精神的な面も含め、自分の弱点を克服できるよ



うに稽古に取り組んでいきたいと思っています。
 最後になりましたが、徳島大学剣道部の
 監督である藤本辰夫先生はじめご指導いた
 だいた先生方、徳島県の大学剣道の育成に
 ご尽力いただいた大学連の木原資裕先生に
 感謝申し上げます。ありがとうございます
 た。



第六十七回全日本学生剣道選手権大会
 第五十三回全日本女子学生剣道選手権大会
 第六十六回全日本学生剣道東西対抗試合
 第十三回全日本女子学生剣道東西対抗試合

義勇仁礼

日時 令和元年六月二十九日(土)・三十日(日)
 場所 エディオンアリーナ大阪(大阪府立体育会館)
 主催 全日本学生剣道連盟 毎日新聞社
 後援 スポーツ庁/一般財団法人全日本剣道連盟
 公益財団法人日本武道館/全日本学連剣友会
 大阪府/大阪市
 関西学生剣道連盟

「非思量の境地」

— 第十七回全日本選抜
剣道八段優勝大会に出場して —

警察支部 平野 誠 司

剣道には数多くの教えがあります。その時その時の修練を夢中にさせるその教えとは、自己の進む道を照らす光であり、貴重な初心をもたらしてくれます。

その中で私が今取り組んでいる課題は、「捨て身の技使い」です。これは、「出発点が捨て身、到達点が相打ち」ということです。その技自体を言うのではなく、技を発する時の心の状態を指しています。

打つか打たれるかの交刃の間で、固くならず平平常心を失わないでいられることが極意であるとすると、それは恐懼疑惑のない思慮分別が及ばないところ、頭を使っている使っていない状態を如何に保持することができるといふことになります。捨て身になりきるといふことは本当に難しい修行です。

この「捨て身」の目指すところは、気合で押し切って勝つというものでもなく、無心というか、もっと深い心気によって、そこというところで自己を投げ出す、相手に身を任せて自由自在の技使いとなること、是非ともこれを表現したい境地です。

もはや技というより心の問題、「剣は心なり」の実践であります。この思いをもって、「八段選抜」をいかに戦うか、自己との戦いが始まりました。

平成三十一年四月二十一日、今年も名古屋市中村スポーツセンターで選抜試合ができる喜びとこの大舞台で今の自分を試させていただけるといふ感謝の念で一杯でした。

試合は十分間の三本勝負。相手は茨城県香田郡秀範士です。立ち合いから合気をもってその一瞬を探り合い、範士に対して決して受け身にならず、触刃から交刃までの「捨て身」の実践、その瞬間を待ちます。

十分間があつという間に終わり、延長戦が始まりました。二人の攻防の間はいよいよ深くなります。その時が近づいているかのようにでした。

決まり手は、表鎧からの小手すり上げ面。その瞬間、身を差し出したかのような感覚が残っています。すり上げて打った面技よりも、むしろ身を任せた空間が脳裏に刻まれています。

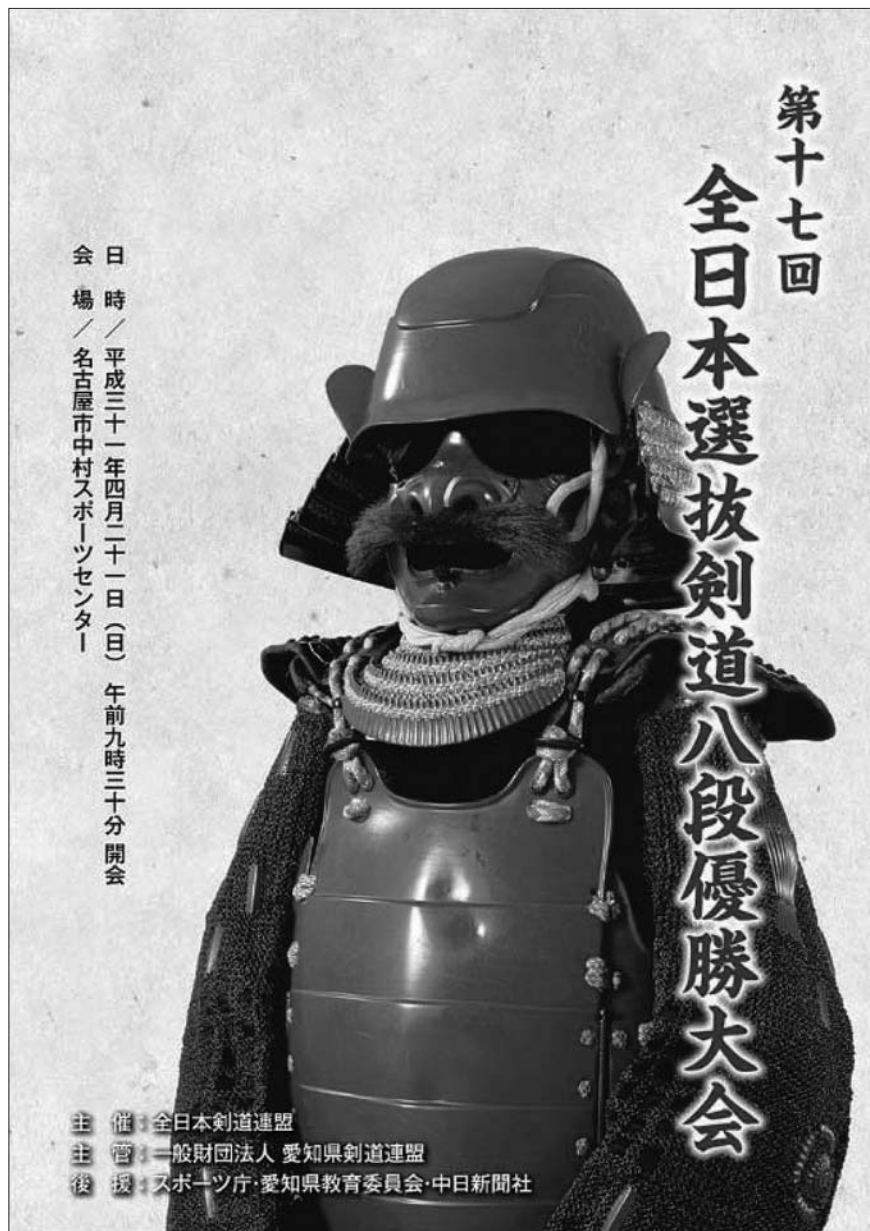
第二回戦は、北海道の栄花直輝教士です。今回の思いを大切にしながら、交刃の間へと仕掛けていきますが、百戦錬磨の栄花先生はその空間においてもなかなか平常心が崩れません。こちらの使いが封じ込まれているような感じの中で、またもや二足一刀の拍子で受け身となったところで面を先取されてしまいました。

結局、十分間に捨て身の心身で自分の打ち間に入れることはありませんでした。うまく展開できない自分は、徐々に心身のバランスを崩し、観念で攻め、観念で対処していたのだと思います。それでは相手の平常心は崩せません。常にどんな相手にも捨て身で対処できるように、その心身の創造に向けた修練を重ねていきたいと思っています。

昨年の二回戦、優勝した東京の恩田教士

との対戦で、最後は二足一刀の拍子に対処
できず敗退しましたが、敗因はやはり「捨
て身の崩壊」であり、引き続き「非思量」
の境地への模索を続けていきたいと考えて
います。

大会出場に際し、ご支援いただきました
皆様方に厚く御礼申し上げます。ありがと
うございました。



第十七回
全日本選抜剣道八段優勝大会

日時／平成三十一年四月二十一日(日) 午前九時三十分開会
会場／名古屋市中村スポーツセンター

主催：全日本剣道連盟
主管：一般財団法人 愛知県剣道連盟
後援：スポーツ庁・愛知県教育委員会・中日新聞社

全日本剣道連盟より画像提供

第六十七回全日本都道府県対抗 剣道優勝大会に出場して

中堅 大石 洋 史



平成最後の全日
本都道府県対抗剣
道優勝大会がエディ
オンアリーナ大阪
(大阪府立体育会

館)で開催されました。昨年の大会では徳島県初の五位入賞という輝かしい成績を残し、今年はまだ一つ上の目標をチームで共有し大会に臨みました。

○代表選手

先鋒 片岡俊人 徳島文理高校
次鋒 松本高史 明治大学
五将 玉井翔 徳島刑務所
中堅 大石洋史 徳島文理中学校教諭
三将 六條洋二 徳島県警
副将 敦賀晋平 郵便局
大将 玉田晋作 徳島文理高校教諭
昨年の入賞メンバーから三将の六條選手

以外同様で、チームワークは非常に良かった様に感じました。また、直前の京都遠征では県外チームと三試合戦いましたが、全て勝っており、大会に向けて自信も高まっています。

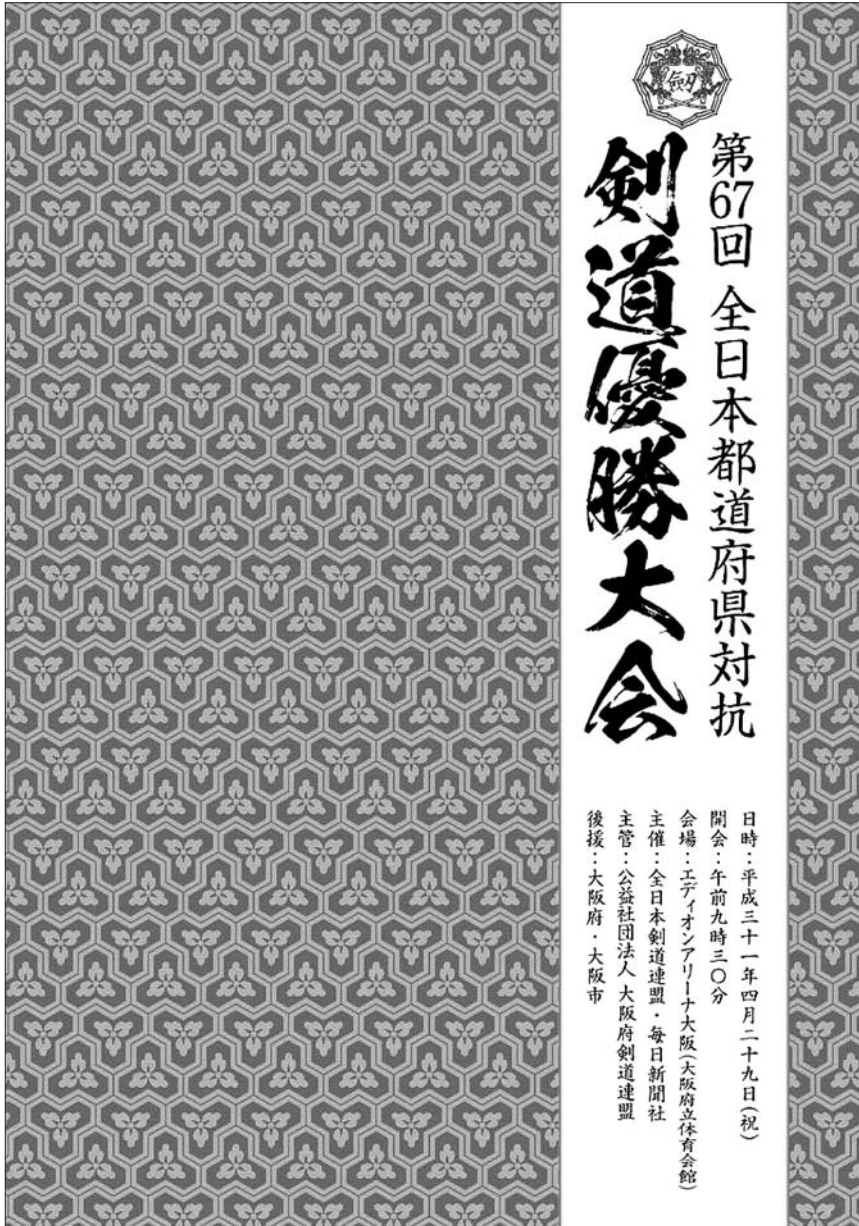
大会は一回戦が宮崎県でした。出場メンバーを見たところ非常に力のあるチームで、一回戦が山場になると予想されました。先鋒戦から五将戦まで全てが引き分けだった。内容的には五分以上であり、中堅として戦い易い雰囲気でした。中堅を一本勝ち、三将戦を引き分けと、リードした形で後半戦に入りました。副将戦は敦賀選手が完全に攻める展開となりましたが、相手の巧みな面抜胴が決まり、その後の一本は有効打突には程遠い打突でしたが、一本になってしまいました。本数でリードされた状態での大将戦となりました。大将の玉田先生は先日の京都遠征でも完璧な試合内容で全て勝っており、チーム内では確実に勝てるという気持ちでした。しかし試合中盤、見切ったと思われる相手の打突がふわりと伸び、面を奪われてしまいました。その後

も一本を追加され、惜しくも一回戦での敗退が決定しました。結果としては一回戦での敗退でしたが、この素晴らしいチームで強化練習、遠征、大会の時間を過ごせたことは非常に良い経験となりました。

最後になりましたが、大会に向けて色々サポートや指導をして頂いた、徳島県剣道連盟の先生方にこの場をお借りし、御礼申し上げます。

○大会結果

徳島県	宮崎県
先鋒 片岡 引き分け	西田
次鋒 松本 引き分け	荒武
五将 玉井 引き分け	出口
中堅 大石 一本勝ち	佐伯
三将 六條 引き分け	下窪
副将 敦賀 二本負け	浅尾
大将 玉田 二本負け	谷川
一(一)	二(四)



日時：平成三十一年四月二十九日（祝）
開会：午前九時三〇分
会場：エティオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）
主催：全日本剣道連盟・毎日新聞社
主管：公益社団法人大阪府剣道連盟
後援：大阪府・大阪市

全日本剣道連盟より画像提供

全日本都道府県対抗女子剣道

優勝大会を終えて思うこと

大将 北村 環

令和元年七月十三日、日本武道館において第十一回目となる全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会が開催された。本県は白木洋一監督の下、先鋒富岡東高校一年岡崎選手、次鋒明治大学三年丸岡選手、中堅警察官鈴木選手、副将教員前田選手、大将教員北村のメンバーで臨んだ。

近年、関西県との対戦回数が多いなあと感じていた中での一回戦、山梨県との対戦に、緊張とワクワク感が入り交じった状態で試合を迎えた。先鋒から元氣よく、力強く、粘り強く全員が最後まで自分たちの剣道で一生懸命戦ったが、力及ばず三対〇で負けてしまった。試合に臨むからには全員が「勝つぞ。」と思っていただけに、また一本で勝負が分かれてしまう試合展開だっただけに、悔しさが残った。しかしその反面このチームで負けたのだから仕方ないと

スッキリした気持ちもあった。

前身の家庭婦人大会から、何度となく出場させていただき、多くの方とチームを組ませていただいても思うことは、チームの仲の良さ・チームワークの強さが徳島県女子の強みであるということだ。

高校生から四十五歳以上の年齢でチームが構成されるのだが、自分が後ろのポジションになるほど感じることはあるが、今回も先鋒・次鋒の若手メンバーと中堅・副将のお姉さんメンバーが上手にコミュニケーションをとり、笑いがあり適度な気遣いがあり、試合当日には長い間共にチームを組んできたかのような仕上がりになっているのである。

また、選手のサポートが本当に手厚いということも毎回感じてきたことである。選手になる



と、稽古や遠征で出て行くことも多くなり、選手であるという自覚と共に中堅以降の選手は仕事や家庭との両立で、心身の負担も大きくなると思うのだが、監督を始め、剣道連盟の先生方、女子部の皆さんが選手のことを一番に考え物心両面で支えてくれているこの環境のおかげで選手は日本武道館で集中できるのだと改めて思った。

最後に、約十三年間選手として出場させていただき、どのポジションでもなかなかチームに貢献できず、悔しい思いもたくさんしてきました。申し訳ないと思ったことも何度もあった。しかし勝ち負けだけでは語れないチームメイトとの絆や遠征や試合を通して親しくなった友のおかげで学生時代とはまた違った試合の楽しさや剣道の面白さ、深さを教えてもらった。また、試合に臨



第11回
全日本都道府県対抗
女子剣道優勝大会

◆とき◆ 令和元年7月13日(土) ◆ところ◆ 日本武道館 (入場無料)
午前9時20分 開会 午前9時50分 試合開始

主催 全日本剣道連盟 / 読売新聞社 主協 東京都剣道連盟
後援 スポーツ庁(中継中) / 東京都 / 公益財団法人 日本武道館 / 日本武道協議会 / 日本テレビ放送網 / 報知新聞社 協賛 山崎マサル

スポーツ振興基金助成事業
財団法人日本スポーツ振興センター

むまでの努力の大切さや、試合に向けての自分のコンディションの整え方も監督や多くの先生方から教えていただいた。試合に出なければわからなかった経験をたくさんさせていただいた。そして何といっても今

まで全面的にバックアップしてくれた家族や仲間たちのおかげである。支えてくれた全ての方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

全日本剣道連盟より画像提供

西日本勤労者大会での優勝

警察支部 山 本 義 征



令和元年六月九日、高知県民体育館において開催されました「第五十八回西日本勤労者

剣道大会」において徳島県勢として七年振りに優勝することができました。過去に先輩方が成しえた優勝を目指していた分、このような結果を出せたことにとても嬉しく思っています。これも偏にご指導賜りました諸先生方のお陰と感謝しております。

本大会は、三人制の団体戦であり、十六府県三二〇チームが参加し、年齢も下は十代から上は六十代と実績のある選手から初心者まで幅広く参加していました。

新元号になっての初めての団体戦で優勝しようと自然と気持ちが入っていました。

今回のメンバーは、徳島県警Aチームとして先鋒・本田、中堅・玉田、大将・山本

というメンバーで挑みました。

決勝戦までの七試合中、二試合以外は全て大将戦となりました。

中でも予選トーナメントの二回戦では東レ研究Bに一对一の本数差でリードを許した状態でした。開始早々に一本を先取しましたが、終盤に一本を許してしまい、絶体絶命の展開で、時間終了間際に打ち込んだ捨て身の胴での逆転となりました。あの一本が無ければ優勝できていないと思うと、改めて勝負の世界は何が起るかわからないと思えました。

試合が進むにつれて苦しい展開は続きました。

決勝トーナメント一回戦ではパナソニック本社に代表戦までもつれる接戦での勝利。過去にも先輩方は決勝トーナメント一回戦でパナソニック本社と代表戦を征していたので、今回も勝利できて面目が保たれました。

この窮地を脱したことによって、チームにも勢いが出たことは間違いありません。

二回戦、三回戦も順調に勝ち進むことがで

きました。

決勝戦では、今大会絶好調の先鋒・本田がそのままの勢いで一本を先取し勝利、続く中堅・玉田は先鋒の勢いをもらい攻めるも引き分け、大将の私も一本を奪い勝利。結果として、二対〇という形で優勝することができました。

今大会を振り返ってみると、圧勝する試合が無い中からも優勝することができたのは、課題としていた「先を取る」という意識とチームの繋がりが噛み合ったことが大きかったと思います。

常に先をかけて一本を三人が取りに行き、三人がカバーし合い、最低限の仕事を行うことで自然と良い形として結果を生み出すことができました。

今回の結果に満足することなく、来年も優勝目指して精進していきたいと思えます。

第58回西日本勤労者剣道大会結果

予選1回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{1}{1}$	
得点	メ	メ	メ	$\frac{0}{0}$	
グッドライン ハウジング A	小 阪	松 本	児 玉	$\frac{0}{0}$	

決勝1回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{2}{0}$	山 本 メ
得点	メ	ド	メ	$\frac{2}{0}$	
L S 本社 C	棚 本	吉 村	岩 根	$\frac{0}{0}$	岩 根

予選2回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{3}{2}$	
得点	ド		メ ド	$\frac{3}{1}$	
東レ研究 B	宮 口	メ 竹 中	メ 楠 田	$\frac{1}{0}$	

決勝2回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{4}{2}$	
得点	メ	メ	コ メ	$\frac{1}{0}$	
高知教員 C	坂 本	市 川	松 田	$\frac{0}{0}$	

予選3回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{4}{2}$	
得点	メ	メ メ	メ メ	$\frac{0}{0}$	
N T T 西日本 本 社 B	上 島	中 井	尾 野	$\frac{0}{0}$	

準決勝	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{4}{2}$	
得点	メ メ	メ メ	メ	$\frac{0}{0}$	
西日本シティ 銀 行 A	▲ 林 田	小 川	甲 斐	$\frac{0}{0}$	

予選4回戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{4}{2}$	
得点	メ メ	メ メ	メ	$\frac{1}{1}$	
京都刑務所 B	竹 垣	金 森	メ 吉 川	$\frac{0}{0}$	

決勝戦	先	中	大	得点	代表
徳島県警 A	本 田	玉 田	山 本	$\frac{2}{2}$	
得点	コ	メ	メ	$\frac{0}{0}$	
高知県警 A	▲ 森 田	濱 田	中 澤	$\frac{0}{0}$	



全国教職員大会に出場して

城西高等学校 西 田 凌 介

令和元年度第六十一回全国教職員剣道大会が鹿児島県薩摩川内市サンアリーナ川内にて開催されました。令和初の記念すべき第一回大会に出場できたことは、私自身、嬉しく思います。

本大会は団体戦、個人戦が行われ、全国の先生方が多忙な仕事の中、稽古に励み臨まれた大会になりました。本県もその一つのチームであり、団体戦・個人戦ともに上位入賞を目指して臨みました。

結果、団体戦は初戦鳥取県に四（七）―一（二）で勝利し、続く二回戦では宮城県に三（六）―一（二）で勝利し、チームの流れも温まってきた本県は波に乗り、三回戦では京都府に大将戦までもつれこみ富浦先生が一本勝ちをして、二（三）―一（二）でチームを勝利に運んでくれました。しかし、四回戦では地元の鹿児島県に〇（一）―三（五）で敗退し、ベスト八で試合を終え

ました。男子個人戦では竹内直生先生が一回戦で秋田県の山崎先生に惜しくも敗れました。女子個人戦では、山本千尋先生が一回戦で山形県の吉田先生に延長の末勝利し、波に乗った二回戦では千葉県の鈴木先生に勝利しました。しかし、三回戦で兵庫県の安藤先生に敗退しました。そして、富浦先生が本大会の優秀選手に選出されました。

私は、社会人二年目で本大会に臨み、団体戦に出場しました。団体戦は五人制で私は次鋒を任され、初戦の鳥取戦では試合展開が私のリズムででき二本勝ちをすることが出来ました。二回戦の宮城戦では引き分け、三回戦の京都戦では二本負け、四回戦の鹿児島戦では一本負けし、他県の強い攻めや気迫に圧倒され少しずつリズムが崩れていきました。本大会を通じて、私自身改めて反省する場面が見つかり、今後の稽古の課題にしていきたいと思えます。

本大会までにたくさん先輩先生方に稽古・ご指導をしていただきました。本当にありがとうございます。そして、本大会に出場されたチームの方には、様々な場面

でご迷惑をおかけした時もありますが未熟な私に徳島のチームの良さや試合に対する貪欲さなど身近に経験でき勉強になりました。ありがとうございます。来年度も同じ舞台に出場できるように稽古に励み、そして何より教員採用試験に合格できるように勉強に励み精進して参りたいと思います。

【団体戦出場者】

先鋒 白 木 恒二郎
次鋒 西 田 凌 介
中堅 大 石 洋 史
副将 玉 田 晋 作
大将 富 浦 廣 志

【個人戦出場者】

男子 竹 内 直 生
女子 山 本 千 尋



「四国教職員大会四連覇」

第三十九回四国教職員

剣道大会に参加して

大将 福多雅英

愛媛県砥部町陶街道ゆとり公園武道場におきまして、八月一九日に第三十九回四国教職員剣道大会が開催されました。年度末で定年退職を迎える私にとりましては、最後の四国教職員大会となりました。昭和五七年に大学を卒業し、第二回大会から選手、あるいは監督・審判・役員として三十八年間の永きにわたり参加させていただいた大変思い入れの強い大会です。

四国教職員の剣道振興や指導力向上を目的とした本大会では、試合だけでなく、前日の稽古会や懇親会を通して、四国各県の先生方から指導法や剣道に向き合う姿勢、剣道理合など沢山のことを学ばさせていただきました。また、四国各県の剣友と親睦を深める機会となりました。

試合は、先鋒と次鋒は女子選手、三五歳

以下が四名、四十九歳以下が四名、五十歳以上が二名、大将は五十五歳以上で一名の十三人制の選手構成で行われました。本県選手団は、緒戦からそれぞれの持ち味を發揮し、「心・技・体」の充実した素晴らしい試合を展開、他県を圧倒し、三戦全勝して四年連続で優勝することができました。

大会の歴史のなかで四年連続での優勝は、本県だけでなく他県にも例のない初めての快挙となりました。これもひとえに日頃の選手各位の精進の成果であります。なにより孟子の『天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず』（天のもたらす幸運は地勢の有利さには及ばない。地勢の有利さは人心の一致には及ばない。という意味）の格言どおり本県選手団のチームワークの勝利であると確信しました。この『人心の和』こそが本県学校剣道連盟の創設以来、諸先輩方から受け継がれてきた良き伝統であると思えました。

この度、選手団の皆さんのおかげで、選手として最後となりました大会で、四連覇達成という場面に参加させていただいたことを大変ありがたく思いました。誌面をお

借りして心からお礼を申し上げます。

最後に、本県学校剣道連盟の皆様は今後益々の御精武と本大会が四国教職員にとって良き修練の場となり、有意義な大会となりますよう祈念いたします。



第39回四国教職員剣道大会

		女子		20～35歳				36～49歳				50歳以上		55歳以上		
徳島県	県名		監督	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	平野
	氏名	白木洋一	山本悠	山本千尋	西田凌介	森康二	大石洋史	大石真也	元木覚	松本真治	岩原靖人	飯田栄一	玉田晋作	富浦廣志	福多雅英	
	年齢	58	25	25	24	26	32	34	36	36	48	50	53	59	59	
	称段	教七	四	四	四	四	練六	練六	四	六	練七	五	教八	教八	教七	
	勤務校	石井中学校	松茂中学校	石井中学校	城西高校	上勝小学校	徳島文理中学校	国府支援学校	相生中学校	鷺敷中学校	阿南光高校	板野高校	徳島文理高校	日和佐中学校	城北高校	
出身大学	国土館大学	立命館大学	大阪教育大学	日本体育大学	環太平洋大学	大阪体育大学	茨城大学	日本大学	福岡大学	中部大学	筑波大学	日本体育大学	大阪体育大学	日本体育大学		

対戦結果

	愛媛	香川	徳島	高知	勝点	勝者数	総本数	順位
愛媛	/	$\frac{10}{5}$	$\frac{5}{2}$	$\frac{7}{2}$	1	9	22	3
香川	$\frac{4}{2}$	/	$\frac{3}{2}$	$\frac{8}{4}$	0	8	15	4
徳島	$\frac{8}{5}$	$\frac{8}{5}$	/	$\frac{8}{5}$	3	15	24	1
高知	$\frac{8}{3}$	$\frac{12}{6}$	$\frac{3}{1}$	/	2	10	23	2

勝ち点について

勝ち→1点、引き分け→0.5点、負け→0点

第1試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
愛媛	田中麻	武下	小笠原	岡田	菅太	武田	森本	豊水	嶋家	山本	田中英	近藤	菅幹	2勝
			X	メ		コ	コ	X	X	ド		メ		5本
徳島	Ⓣ	コ	X	メ	Ⓣ	メ		X	X	メ	メ		コ	8本
	山本悠	山本千	西田	森	大石洋	大石真	元木	松本	岩原	飯田	玉田	富浦	福多	5勝

第2試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
香川	井内	島本	矢野	雉鳥	小川	宮田	小林	久保	千葉	鳥居	村上	竹下	港	2勝
			X	X		メ	X	X	X	Ⓣ			メ	3本
徳島	メ	Ⓣ	X	X	メ	Ⓣ		X	X		メ	メ		8本
	山本悠	山本千	西田	森	大石洋	大石真	元木	松本	岩原	飯田	玉田	富浦	福多	5勝

第3試合

	先鋒	次鋒	11将	10将	9将	8将	中堅	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
高知	津野	松田	松田	川田	松本	宮下	山沖	森	山本	戸田	田村	宇賀	久保	2勝
	ツ			メ	X		X		X	メ		X	X	3本
徳島		メ	コ	メ	X	メ		コ	X	メ	メ	X	X	8本
	山本悠	山本千	西田	森	大石洋	大石真	元木	松本	岩原	飯田	玉田	富浦	福多	5勝

全日本女子剣道 選手権大会に出場して

警察支部 鈴木 千尋



令和元年九月八日、令和初めての全日本女子剣道選手権大会が、長野市真島総合スポー

ツアリーナホワイトリングにおいて行われました。私はこの大会に六度目の出場となりますが、今年三十歳を迎えるので決死の思いで戦い、県予選を突破することが出来ました。大舞台で代表選手として勝負できる機会をいただけたので、大会に向けての取り組み方を改め、試合に備えることにしました。

私は試合のとき、自分の心が充実していなければ、満足できる技を出すことが出来ません。そのためこれまでは常に冷静に、そして充実した気持ちで稽古を行い、自己を高めていけるように意識して取り組んで

いました。しかしそれだけでは相手を見極め、いい機会を捉えることが出来ず自分本位のワンパターンな剣道を繰り返してしまっています。そこで新たな取り組み方として、対戦相手の情報を集め特徴を知ることにより、具体的な技の練習や対策を考えて稽古を繰り返し行い、本戦に挑みました。

大会当日、初戦は埼玉県の荒井選手でした。荒井選手は、過去の全国大会でも活躍されているベテランの選手です。これまでの荒井選手であれば、勢いのある技で攻め込む剣道であったので、冷静に対応しているように考えていました。ところが試合の序盤から想像していた勢いのある動きとは違いましたが、私自身動きも良く冷静に判断できたので、練習してきたことをぶつけていきました。延長戦になり、私は集中力を切らさずに攻め続けていましたが、最後には意表を突かれ面を打ち込まれて惜敗しました。

今回、試合までの取り組み方を変えて稽古を積み重ねてきましたが、結果に繋げることが出来ませんでした。しかし、これま


で私にはできないという固定観念で避けてきた方法を取り入れることにより、剣道の幅を広げるためのいい機会となりました。また今年は節目として新たな年代に入りましたが、それまでの数年間は勝負のため『自分の剣道とは何か』日々、自問自答してきました。今でも明確な答えは見つかっていませんが、自分が納得する剣道の一つずつ追求していくことが何より大切だと思います。剣道が続けていく中で気持ちの充実感は忘れることなく、これからも剣道の幅を広げて、心に響く技を習得できるように精進していきます。

第58回

全日本女子
剣道選手権大会

日時 令和元年 9月8日(日) 午前9時開会

開場 ホワイトリング 長野市真島総合スポーツアリーナ



主催：全日本剣道連盟
主管：一般財団法人 長野県剣道連盟
後援：スポーツ庁、長野県、長野県教育委員会、公益財団法人 長野県 体育協会、
長野市、毎日新聞社

全日本剣道連盟より画像提供

茨城国体に出場して

警察支部 山名 信行

今年の国体は、茨城県筑西市において開催されました。

ご存知のとおり国体は、

先鋒が十八歳以上二十五歳未満

次鋒が二十五歳以上三十五歳未満

中堅が三十五歳以上四十五歳未満

副将が四十五歳以上五十五歳未満

大将が五十五歳以上

と、各年齢層毎にポジションが割当てられており、各県の総力戦となります。

本県の布陣は

先鋒 本田和将（県警機動隊）

次鋒 大石洋史（文理中学校教員）

中堅 山名信行（県警本部）

副将 山室雅幹（県警機動隊）

大将 平野誠司（県警察本部）

で臨みました。

今回の国体は、私にとっては高校時代から通算して丁度十回目の出場になりました。

私は四十四歳です。

私の出場枠は中堅になりますが、中堅の中でも最年長クラスになります。

毎年、四月に行われる県予選会でも、若手にスピードやテクニクで翻弄され、また、スタミナ面でも非常に厳しいものがあります。

また、県警の剣道特練員を引退して数年が経過し、中々稽古時間と詰めた稽古がでない現状で、予選会に出場する度に特練時代の環境の有り難さを痛感します。

しかし、今回の県予選会では様々な運も重なり、本戦の出場権を獲得することができました。

めでたく出場権を獲得したものの、「徳島県」という看板を背負って挑む以上、本戦で無様な試合はできません。

ですので、それからの準備が大変となりました。

私は現在、三交代制で勤務をしています。

普段は、藍住剣道スポーツ少年団で少年指導とそれが終了してからの大人の稽古会が私のベースです。

ですが、それだけでは補えないため、当務明けの非番日に稽古場を探し、労休日には県警特練員の稽古に参加させてもらう生活が始まりました。

現役特練員との稽古は、さすがにきつく、僅か二・三人としただけで、息が上がり、面白いように打たれます。

また、握力も無くなり上手く竹刀も振れなくなりました。

ですが徐々に「面白い」という感覚が芽生えて来ます。

自分が現役の時、「どう足を使っていたのか、どう振っていたのか、どこで呼吸をしていたのか、技の選択はこれでいいのか」を考えるのではなく、徐々に感じるようになって来ると、例え打てなくても、打たれても「面白い」と思え、稽古をする原動力になって行きました。

そうして、迎えた本番。

一回戦の相手は鳥取県です。

国体は、チームの勝敗が決するまでは引き分けはなく、中堅の私の所では引き分けはありません。

先鋒戦を落とすも、続く次鋒戦を勝利し一勝一敗で回って来た中堅戦。

相手は、七歳年下で全日本選手権等にも出場経験のある、乗本選手です。

試合開始後、一合、二合と打ち合うも、スピードは相手の方が上、足で間合いを詰め攻撃に転じようとしても上手く外され、自分の間合いにさせてくれません。

また、相手の巧みな攻めでヒヤリとする場面も有りました。

ここで焦って打ち合いに依じてはいけな
いと思い、冷静に呼吸を整え、攻める気持ち
を忘れず、我慢します。

すると、相手が中間からこちらを誘い込
もうと下がった瞬間、自分の無心の面が出
ました。

赤旗三本が上がり、一本を先取です。

しかし、自分の体内時計では残り時間は
三十秒以上。

ここから、乗本選手の猛攻が始まります。

国体では一本負けも、二本負けも同じな
ため、相手は捨て身の技を繰り出して来ま
す。

スピードと気迫で押し込まれそうになり
ます。

ですがこちらも、スピードやスタミナ等
で負けていても、十五年の特練生活で培っ
た気迫で負ける訳にはいきません。

途中、呼吸が上がり、過呼吸気味になり
ながらも、凌ぎきり一本勝ちで、副将戦に
繋げることができました。

副将戦も勝利し、大将戦も引き分け、一
回戦は三対一で勝利しました。

二回戦は鹿兒島県です。
鹿兒島県は来年に国体を控え、昨年の国
体では準優勝の強豪県です。

先鋒、次鋒と連取され後の無い中堅戦で
す。

相手は四歳年下の牧内選手。

牧内選手も全日本選手権等に出場経験の
ある選手です。

後が無い状況にも関わらず、不思議と落
ち着いていました。

試合開始直後、相手の出ばなに面を合わ
せ、一本。続いて突きに対して小太刀で竹
刀を抑え面を連取し、副将戦に繋げる事が

できました。

続く副将戦は、息詰まる一進一退の攻防
でしたが、長い延長線の末、面を奪われ惜
しくも敗退。大将戦は引き分けとなり、一
対三でチームも敗退となりました。

チームは残念ながら二回戦で敗退してし
ましたが、私個人としてはこの国体を
通じて二つの良いことがありました。

一つ目は、もう一度選手として戦うため
に準備していた期間、「戦う」という強い
意志を持てた事。

二つ目は、本戦で私を含め三人の同級生
に会えたという事です。

剣道は生涯競技といわれます。
続けていれば、思わぬ出会い、再会があ
ります。

また、ただ単に続けるのではなく「戦う」
という強い意志は「続ける」という強い原
動力になると思います。

国体ではチーム構成が先鋒から大将まで
の年齢幅は約四十歳あります。

それだけの年齢幅のある選手構成の競技
は他にありません。

試合では年齢差等ありますが、試合場に入れば身分も年齢も場合によっては性別も関係ありません。

目の前の相手に向かって全力を尽くすのみだと思います。

そういった垣根を超えた「真剣勝負」ができる剣道の魅力をあらためて感じました。

私も四十代後半となりますが、各予選には積極的に参加して行きたいと強く思いました。

「いくつになっても、真剣勝負は面白い。」

ねんりんピック秋田2018 剣道交流大会 試合結果表

1回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	本田	大石	山名	山室	平野	3	4	○
		メメ	▲ メ	メ 延長				
鳥取	メメ		▲			1	2	△
	齋江	真田	乗本	石上	阿部			

2回戦

都道府県	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数	勝敗
徳島	本田	大石	山名	山室	平野	1	4	△
			メメ	メ 延長	コ			
鹿児島	一本勝①	一本勝①		メコ	メ	3	5	○
	星子	瀨崎	牧内	竹中	東中尾			



天皇陛下御即位記念
第74回国民体育大会

剣道競技会

いきいき茨城ゆめ国体2019
第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

期間 令和元年9月29日(日)~10月1日(火)

会場 下館総合体育館

主催 公益財団法人日本スポーツ協会・文部科学省・茨城県
一般財団法人全日本剣道連盟・筑西市



【速報サイト】



全日本選手権大会に参加して

徳島文理中学・高等学校

教諭 大石 洋史



令和初となる全日本剣道選手権大会が、日本武道館改修工事のため、大阪府丸善インテックアリーナに於いて行われました。今年もこの大舞台を目標にして取り組み、苦しい県大会を勝ち抜いての出場となりました。今回は自分らしい剣道を表現すること、協力して頂いた方々の恩義に応えるためにも、一つでも多く勝つことを目標に臨みました。

○大会結果
大石洋史（徳島）ーメ 金子亮介（福井）

試合は大会の第一試合でした。アップや直前の精神状態は非常に良く、力を発揮出来れば必ず勝ると自信を持って臨みました。しかし、勝負の分かれ目は一瞬でした。自身の感覚では「いける」と感じた瞬間で

したが時期尚早でした。まだまだ攻めと間合いも詰まっていない場面の無謀な技により、勝敗が決定しました。数多くの経験から何故そこで簡単に手を出してしまったのか：我慢できなかったことを本当に後悔しました。自己の弱さに打ち勝つことができず、多くの課題と反省が残る大会となりました。

全日本選手権大会を終えて数週間が経過し、冷静に振り返る時間が多くなりました。この数年間は勝負の世界からは離れたくないと、意地で必死に努力してきました。その時間が長かったせいか、自分が追求してきたい剣道と、実践している剣道に違いが生じていることに気づきました。剣道の持つ価値、魅力は奥深く素晴らしいものです。試合の勝敗だけではなく、剣道の本質となる部分を求め修行を続けていかなければいけないと改めて感じました。原点にもう一度返り、純粹に真摯に取り組んでいきたいと思えます。

また、この紙面をお借りし、報告とお礼があります。徳島に帰郷し四年が経過しま

したが、令和二年四月より母校の大阪体育大学に職員として職を移すことが決定しました。（将来的には附属高校の教員となる予定です。）徳島で幼少より、またこの四年間大変お世話になったのですが、新たにチャレンジすることになりました。今後とも徳島県で学んだこと、繋がりを大切にして人生を送っていきます。お世話になった方々に直接御挨拶に伺いに行くべきですが、この文章にて感謝の気持ちを伝えたいと思います。

今後の徳島県剣道連盟の皆様方の益々のご活躍、ご多幸を祈念して、全日本大会の報告とお礼の言葉と致します。

天皇杯授与

第67回

全日本剣道選手権大会



とき 令和元年**11月3日(祝)** 午前9時45分開会
午前10時15分試合開始

ところ 丸善インテックアリーナ大阪 (大阪市中央体育館)
NHK総合テレビ <午後4時~5時30分放映予定>

■主催/全日本剣道連盟 ■主管/公益社団法人 大阪府剣道連盟 ■後援/スポーツ庁・読売新聞社・公益財団法人 日本武道館

<https://www.kendo.or.jp>

全日本剣道連盟より画像提供

関西学連剣友剣道大会に参加して

板野西支部 藤 本 辰 夫

令和元年十一月三十日、「おおきにアリーナ舞洲」にて第二十九回関西学連剣友会剣道大会が開催されました。前回までは一部と二部の二部制で年齢区分が、二部は五十歳以上となっていました。平成三十年の前回大会で我が徳島大学剣友会チームは二部において念願の初優勝を果たしたところでありました。

ところが、第二十九回大会からは三部制に変更となり、三部の参加資格は六十歳以上となっていました。我々はこの三部にエントリーすることにしましたが、先鋒の倉都君が六十歳にわずか三ヶ月足りません。急きょ大将を井口先輩にお願いして、先鋒志田君、中堅が私で出場することになりました。

三部の参加チーム数は、前回の七十六チームから三十チームに減少しましたが、どのチームも強豪ばかりで、初戦からそれは厳

しい戦いとなりました。

いつも思うのですが三人チームというのは一人ひとりの責任が非常に重く、わずか一本差で勝負が決定することが多いのです。今回の関西学院大学との準決勝戦では、代表決定戦までもつれて、代表戦を志田君が勝ってくれたことで、なんとか決勝戦に進むことができました。

関西大学との決勝戦では、先鋒志田君が二本勝ちをして、中堅の私が引き分け、大将戦では井口先輩が一本を取ってくれました。と優勝が決まったのです。

我が徳島大学剣友会はこの大会が発足して以来毎回出場をしてきました。当初はなかなか上位に進出できなかったのですが、第二十三回頃からようやく入賞できるようになりました。

そして、今回の二年連続優勝という栄誉まで、ひとえにメンバー一人ひとりの長年のたゆまぬ努力

が実った成果だと思っております。

我がチームもだんだんと年齢層が上がってきています。これからの徳島大学剣友会は、いかに若い選手を育てていくことができるかが重要な課題となっています。



第七十一回四国四県 剣道大会に参加して

大将 柴田 宗 忠



令和元年五月十日
五日に高知県南国市立スポーツセンターで第七十一回四国四県剣道大会

が開催されました。令和になって最初の四国四県剣道大会に参加でき、大変幸せに感じております。徳島県は六年間優勝から遠ざかっておりました。今年こそは優勝するぞという心構えで、選手一丸となって、試合に挑んだ大会でもありました。その気持ちが通じたのか見事優勝することができました。まさに one team であったと思います。

四国四県は私にとって初めての経験であり、その上大将という大役を仰せつかりました。

試合の様子や、技の攻防を報告しなければ

いけないのですが、試合の順番が最後だけに自分のことで精いっぱい、他の選手の試合を見て感想やアドバイスどころではありません。

したがって誠に勝手ではありますが自分のことだけを少ない記憶を頼りに報告させていただきます。

第一試合場一試合目、香川県対愛媛県一対六で愛媛県が勝利。

第二試合場一試合目、徳島県対高知県、三対二で迎えた大将戦、相手は恒石選手、引き分け以上で徳島県が勝利、一本とられれば高知の勝利となります。「ここは慎重に」を心に、無理したり思い切っていないと、どうにか引き分けに持ち込むことができませんでした。

第一試合場二試合目、香川県対徳島県、二対四で迎えた大将戦、相手は井上選手。同じ教職員として幾度となく稽古していた

だけ、親しい仲ですが試合は初めてです。チームとしての勝敗は決していましたので、ここは思い切って竹刀を振ることができました。終盤に相面となりましたが、旗は井

上先生に上がり、無念の一本負けでした。
第二試合場二試合目、愛媛県対高知県六対四で愛媛県。

第一試合場三試合目、愛媛県対徳島県、

最後の試合となりました。後ろのほうで体をほぐしておりますと、若手の選手たちが盛り上がってはいるのですが、何かちょっと雰囲気が違うなという感じです。それとそのはず、とっては取られて五対五、本数は八対七でとんでもない大将戦にもつれ込みました。ここで、少なくとも一本勝ちをしないと大将としての役目は果たせません。これはマズイ。最大のピンチ。そこで追い打ちをかけるように平野先生が耳元で「一本でも取られたら負けですから。頑張ってください」と緊張を倍増するかのようにはなりました。ここで負けたら、もう試合には呼んでくれないな。しかし、勝ったら気分いいな。ここは必死でやるしかない。よし、小手面を攻めよう。アップの時も小手面を十分に打ち込んだし、覚悟を決めて試合場に入り真鍋選手と竹刀を合わせました。何時になく「はじめ」までの時間が非常に

長く感じられ、反対に試合時間は短く感じられました。試合内容は必死でしたので詳細には覚えておりませんが、じっくり集中して戦うことができました。結果は運良く小手面が決まり、大将として責任を果たすことができ、徳島県の優勝が決まりました。

第二試合場三試合目、香川県対高知県八対四で香川県。

今回の大会は徳島県選手ひとり一人がそれぞれのポジションで最善を尽くし、目標をもって戦ったことが良い結果となって表れたのではないかと思います。来年は徳島県での開催だと聞いております。連覇を目指し優勝旗と優勝杯を移動することなく、選手団が笑顔で記念撮影できることを祈っております。

第71回四国四県剣道大会記録

令和元年5月19日(日)

於：南国市立スポーツセンター

第一試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	徳島県	木浦	前田	金野裕	本田	梶尾	玉田越	大石	六條	金野卓	山室	北村	玉田晋	平野	富浦	柴田	○
高知県	津野	松本	大崎	松田	川田	森岡	高木	石川	川島	徳久	宇賀	濱田	宮本	田村	恒石	×	
		⊙一本勝				▲			▲	⊗一本勝			Ⓛ一本勝			3 (3)	
					一本勝⊗									ド⊗	▲	2 (3)	

第二試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	香川県	井内	谷本	松永	内堀	葛西	村上	村西	岡下	木下	木村	小川	小野	美濃	西本	玉浦	井上
徳島県	木浦	前田	金野裕	本田	梶尾	玉田越	大石	六條	金野卓	山室	北村	玉田晋	平野	富浦	柴田	○	
	メ⊗	▲		▲	▲		▲		▲	×	▲	⊗		メ⊗	⊗メ	⊗	2 (5)
			一本勝⊗				一本勝⊗				⊗		コ	メ⊗			4 (8)

第三試合	県名	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	中堅	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
	愛媛県	村上李	志賀	松木	村上哲	村上泰	三浦	國松	片上	客野	馬越	近藤	近田	新谷	濱田	真鍋	×
			▲	⊖一本勝		⊖▲一本勝	⊗			⊖コ		▲Ⓣメ		⊗	⊗コ		5 (10)
	徳島県	一本勝⊗	一本勝⊗					メ⊗	⊖				ド⊗	コ		メ⊗	6 (11)
	木浦	前田	金野裕	本田	梶尾	玉田越	大石	六條	金野卓	山室	北村	玉田晋	平野	富浦	柴田	○	

リーグ戦結果

	徳島	香川	愛媛	高知	勝数	敗数	引分数	勝者数	総本数	順位
徳島	△	⊖ $\frac{8}{4}$	⊖ $\frac{11}{6}$	⊖ $\frac{3}{3}$	3	0	0	13	22	1
香川	△ $\frac{5}{2}$	△	△ $\frac{6}{1}$	⊖ $\frac{15}{8}$	1	2	0	11	26	3
愛媛	△ $\frac{10}{5}$	⊖ $\frac{12}{6}$	△	⊖ $\frac{12}{6}$	2	1	0	17	34	2
高知	△ $\frac{3}{2}$	△ $\frac{10}{4}$	△ $\frac{9}{4}$	△	0	3	0	10	22	4



第71回四国四県剣道大会優勝 徳島県剣道連盟 令和元年5月19日

令和元年度中四国管区 警察剣道大会を終えて

剣道特練員監督

山 室 雅 幹

昨年十一月二十六日、広島県立総合体育館において中四国管区警察剣道大会が開催されました。

九県での開催は初めてであり、今大会団体戦は、一次リーグは三県が三リーグに分かれ順位を決め、その後二次リーグでは一位、二位、三位のリーグに分かれて順位を決定することになり、また女子個人戦ではトーナメントで争われることになりました。私たちは本大会に向けて、切り返し面打ちなど基本をしっかりとして体得し、あわせて体力面の強化に努め、また対外試合をこなし、諸先生方からは、多大なる御指導を賜り、良い状態で、大会を迎えることができました。

団体戦一次リーグの対戦相手は、鳥取県警と岡山県警でした。戦力は拮抗しており、

まずは先手を取って流れを掴んでいきたいところですが、団体戦では、先鋒から副将までが、しっかりと大将まで繋ぎ、勝利することが最も重要になってきます。それぞれのポジションでの役割を再確認し試合に望みました。

しかしながら、二試合ともに苦しい試合展開が続き、鳥取県警に三対一、岡山県警に四対二で破れ、一位、二位リーグに進むことができませんでした。

三位リーグでも、高知県警に四対二、香川県警に三対二で敗れ、また、女子個人戦出場の二名についても、決勝戦に進むことができませんでした。

団体、個人とそれぞれの戦いは僅差でしたが、しかしその僅差が勝負を分けます。今後、そこをいかに埋めていくかが課題であると痛感した大会でした。

平素の稽古を疎かにせず、常に真剣に試合のつもりで取り組むことが大切です。日々の稽古によって理合を学び、厳しい稽古を積み重ねていくことにより習得するものがあります。稽古の目的を持ち、いかに普段

からこのような気持ちで取り組むことが重要であるかということを感じました。今回の結果を真摯に受け止め、令和二年度開催の中四国及び全国警察剣道大会に向けて気持ちを切り替え、特練員とともに汗を流し、精進して参りたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく
お願い致します。

第六回四国高齢者剣道交流大会

徳島県高齢剣友会

理事 美馬 勝行

一 開催日および場所

平成三十一年四月六日（土）

高知県立武道館

二 来賓

全日本高齢剣友会

名誉会長 範士八段 高崎 慶男 先生

会長 範士八段 岩立 三郎 先生

会長代行兼副会長

教士八段 岩尾 征夫 先生

三 出場チーム

香川県（香川県高齢者剣道有志の会）

小田俊夫会長以下十三名

愛媛県（愛媛六十路剣友会）

渡辺道徳会長以下二十三名

高知県（土佐生涯剣友会）

戸田七夫会長代理以下二十四名（二チーム）

△出場

徳島県（徳島県高齢剣友会）

高島稔之会長以下二十名

合計 八十名

四 演武

日本剣道形

打太刀 教士七段 岡本 守雄

仕太刀 教士七段 山崎 吉年

居合道（無双直伝英信流）

居合道 教士八段 松田 忠雄

五 試合

団体試合 五チームによるリーグ戦方式

○試合結果

優勝 土佐生涯剣友会 A チーム

（勝点 4）

準優勝 香川高齢剣道有志の会

（勝点 3）

第三位 徳島県高齢剣友会

（勝点 2）

第四位 愛媛六十路剣友会

（勝点 1）

第五位 土佐生涯剣友会 B チーム

（勝点 0）

○本県チームの対戦結果

別紙対戦結果表のとおり

六 合同稽古

試合終了後、全日本高齢剣友会の先生

方による試合稽古及び出場選手による合

同稽古を行い、相互の友好を深めた。

七 次回（第七回）開催県

愛媛県

八 終わりに

平成から令和への新しい年を迎えて、

徳島県剣道連盟の更なる発展と、会員の

皆様の健康と活躍を祈念すると共に、我

が高齢剣友会への御指導、御協力をお願い

申し上げます、第六回四国高齢者剣

道交流大会の報告といたします。

第 1 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
土佐 A	長瀬	野中	山中	馬場	渡邊	横山	中尾	門田	岡本	友永	3	7	○
	メ	メ		メ	コ		コメ	コメ					
徳島	柴田	木下	松村	藤本辰	東	兵頭	美馬	中村	高島	澤井	2	4	×
	コ	コ	コ	メ	メ								

第 2 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
香川	藤本	西山	六車	松原	伊賀	山田	宇賀	上田	小川	小田	4	7	○
	メ	メ	メ	コ	コ	メ	メ						
徳島	武岡	長崎	乾	六條	藤本文	栗野	西堀	日野	三木	川田	3	5	×
	コ			コ			コ	コ					

第 3 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
徳島	武岡	長崎	乾	六條	藤本文	栗野	西堀	日野	三木	川田	4	7	○
	メ	メ	コ	メ	メ	メ							
土佐 B	筒井	北窪	若江	戸梶	梅原	細川	山崎	岩井	栗尾	濱田	2	5	×
				コ			コ	コ					

第 4 試合

団体	先鋒	次鋒	八将	七将	六将	五将	四将	三将	副将	大将	勝者数	得本数	勝敗
愛媛	向井	村上	後藤	大久保	鎌倉	中野	徳安	織田	川村	竹内	4	8	×
	メコ		メコ			メト			メメ				
徳島	メ柴	コ木		メ藤	トメ	コ兵	メコ	コメ			5	10	○
	田	下	松村	藤本辰	東	兵頭	美馬	中村	高島	澤井			

リーグ戦結果

チーム名	徳島	愛媛	香川	土佐A	土佐B	勝点	勝者数	得本数	順位
徳島		5(10)	3(5)	2(4)	4(7)	2	14	26	3
愛媛	4(8)		2(5)	0(3)	6(11)	1	12	27	4
香川	4(7)	5(11)		1(3)	5(8)	3	15	29	2
土佐A	3(7)	6(12)	4(5)		5(12)	4	18	36	1
土佐B	2(5)	1(1)	2(4)	2(7)		0	7	17	5

第二十五回徳島県健康

福祉祭剣道交流大会

尾 脇 広 美

九月七日(土)ソイジョイ鳴門武道館において、県下各地から徳島県高齢剣友会会員の剣士三六名が参加して盛大に開催されました。

大会は、日本剣道形(打太刀・河野公雄先生、仕太刀・福井勝先生)の演武の後、十三チームが参加する団体戦、年齢に応じて組分けした個人戦が行われました。

会場をわかせる大技や熟練の技が出るなど見応えのある試合であり、団体戦では芳越会の連覇を合同Fチームが阻止し、個人戦の決勝では、水入りの入った三十分超におよぶ気力勝負の延長戦が行われました。どの選手も品位と闘志あふれて、健康福祉祭にふさわしい剣道交流大会となりました。

大会結果

団体戦

優 勝 合同F(長崎・美馬・川人)

準優勝 芳越会(武岡・柴田・吉田)

第三位 麻植支部(尾脇・柳谷・藤川)

板野西支部(藤本・佐野・久

次米)

個人戦

特組(七十五才以上)

優 勝 澤井勝之

準優勝 中村稔裕

第三位 高島稔之・三木 毅

A組(七十〜七十四才)

優 勝 美馬勝行

準優勝 谷 博

第三位 兵頭新平・平 正明

B組(六十五〜六十九才)

優 勝 藤本辰夫

準優勝 長崎秀信

第三位 藤川和秋・吉田昌彦

C組(六十〜六十四才)

優 勝 柴田宗忠

準優勝 久保隆司

第三位 武岡勝美・尾脇広美

第四十一回全日本高齢者

武道大会に参加して

(令和元年六月三日 日本武道館に於いて)

六 條 一 博



剣士を志している以上、私も機会があれば、一度は夢の舞台である日本武道館で試合が

したいと思っていたところ、木曜日の稽古会で三木会長の奥さんから、「全国高齢者武道大会と一緒に行きませんか。」と誘いを受けました。まだまだ機は熟していませんでしたが、よくよく思索してみると、機が熟すまで待っていたらいつのことになるかわからないと思っただので、このチャンスを利用してはいけないと思い、一念発起して行く決心をしました。

ところで、今大会から防具は前もって会場へは送れないということで、各自手に持って移動したことから、特に羽田空港からは、

それはそれは大変でした。築地の「すしざんまい」本店で昼食を取るため、道中、防具、竹刀を分けてコインロッカーに預けることになり、その取扱いは時間に要し、それもこれも大変でした。

「すしざんまい」本店は五年前に叙勲受賞の際に立ち寄ったところだったので、私は二度目でした。美味しいビールとお寿司を食べ、街並みを見ながらほろ酔い気分ホテルまで帰りました。

夕食会場は、「アワーズイン阪急」ホテルの近くの「串あん」串カツの店です。

ホテルの紹介で会費が一人一五〇〇円、これはかなり安いなと思っていたところ、案の定、飲み物が出てから後、なかなか料理が来ず、ついに乾事務局長大ギレ、遅れること三十分。これも旅の良き思い出でした。

(大会当日)

六月三日、午前九時いよいよ開会式。

全国から銃剣道も含めて男女合わせて七五四名が参加しました。

国家斉唱「君が代」の伴奏が流れてくる

と、会場が会場だけに県の代表というより日の丸を背負った日本代表選手というような気分になり、気持ちが高揚し、何とも言えない心地となりました。(感慨無量)

本部席を見ると美人の女性の方が座っていたので、最初、芸能人でも来ているのかと思っていたところ、参議院議員の石井先生という方でした。先生は、医師でもあり、剣道を四十歳ころから始め現在三段の腕前で、四段を目指して練習に励んでいるそうです。お話の中で、剣道の切り返し、特に後ろへ下がる際の切り返しは健康に、また認知症予防に効果があると話されました。

そして、本部席後側には、二つの横断幕が掲げられていたのに目が惹かれました。その一つに、『すべからず老いは、剣で迎えうつべし』もう一つには、『生涯貫剣道』とあり、共に含蓄のある言葉だと思いました。『よし』、自分も目指すはこれだと思いを強く持ちました。

午前十時二十分からいよいよ試合開始となり、

団体戦には、

先鋒・松本憲一、次鋒・長崎秀信、中堅・

西堀和文、副将・高島稔之、大将・川田武志

個人戦には、

女子(A) 三木弘子

寿B組(八十〜八十四歳) 川田武志

特組(七五歳〜七九歳) 三木 毅、高島稔之

A組(七十歳〜七十四歳) 美馬勝行、兵

頭新兵、西堀和文

B組(六十五歳〜六十九歳) 松村和宏、

藤本辰夫、東徳美、乾清孝、長崎秀信、六條一博

C組(五十五歳〜六十四歳) 松本憲一、

武田俊文、柴田宗忠

がそれぞれ出場しました。

結果は、団体はトーナメント戦で一回戦は静岡県と対戦し、一対一で代表戦となり、

代表戦は最初に引き分けた選手により行うとの取決めで松本選手が出場しましたが、善戦むなしく敗れました。

個人戦では、高島稔之、藤本辰夫の両選

手が奮闘し予選を通過しましたが、決勝トーナメント一回戦で惜しくも敗退しました。

私自身は、一本、一勝を目指しておりましたが、二敗の惨敗でした。やはり、全国の壁は厚く、力不足でまだまだ全国では通用しないと感じました。反省点としては、無駄な動きが多く、体力不足。これからは多様な技の習得を目指さなければいけないと感じました。(日々精進)

以上が本大会の結果です。

試合終了後、ホテルへ直行しその日の夜は、ホテル内の居酒屋で待ちに待った打ち上げ会、大会で盛り上がりなかった分、ここでは大いに盛り上がり、食べに食べ、飲み飲んで話にも花が咲き、楽しい時間を過ごすことができ、想い出がまた一つ増えました。後、高島会長に連れられて五名でカラオケに行き、その夜は絶好調でした。(帰所日)

三木会長引率の下、「ゆりかもめ」に乗り、豊洲市場を見学しました。道中、車窓からは、来年予定の東京オリンピック開催に向けての取り組みが随所で見受けられ、

特に、ここ豊洲近辺は選手村になるとのこととで、建設のラッシュでありました。

さすがに豊洲市場は、全国の食が集まる日本一の食の台所、広大な敷地の中に近代的なビルが建ち、従来の市場とは、まったくイメージが違いました。大勢の人が見学に来ているのにもびっくりしました。良い土産話ができ、本当に来てよかったと思いました。

大会を終えて、剣道を通じて人との交わりの輪が増え、またこうして社会勉強ができることは、総てに感謝感激です。

これからも『すべからく老いは、剣で迎えうつべし』の言葉で立ち向かい、生ある限り若さを保ち、健康を維持していきたいと思っております。今回の大会参加に際し、労を取っていただいた先生方、本当にありがとうございました。引き続き、ご指導の程、よろしく申し上げます。

ねんりんピック

和歌山大会に参加して

美馬支部 柴田 宗 忠

和歌山県白浜町で開催されたねんりんピック剣道交流大会に参加させていただきました。大会は白浜町立総合体育館で十一月九日（土）～十一日（月）の三日にわたり行なわれ、徳島県チームは先鋒・柴田、次鋒・武田俊文、中堅・長崎秀信、副将・西堀和文、大将・川田武志（敬称略）、以上の五名で戦いました。

私はねんりんピックに参加した経験がないため、すべてが新鮮で興味深く感じることができました。では、日を追って大会の報告をさせていただきます。

【十一月八日（金）】

県庁にて結団式があり、約百二十名が三台のバスに分乗し和歌山へ出発しました。到着後、宿舎であるホテルきららリゾート閑空にて盛大な徳島選手団交流会が開かれました。

【十一月九日（土）】

紀三井寺陸上競技場にて総合開会式が行われました。大会の概要は以下の通りです。

1 名称 第三十二回全国健康福祉祭和歌山大会

2 愛称 ねんりんピック紀の国わかやま二〇一九

3 主催 厚生労働省・和歌山県・一般財団法人長寿社会開発センター

4 共催 スポーツ庁

5 テーマ あふれる情熱はじける笑顔

6 参加人員 延べ約四万人

総合開会式では、式典前アトラクションの後、入場行進、開会宣言、炬火入場・点火、皇族のおことばの後、スタンドへ移動し、メインアトラクションと続き、ゲスト歌手の坂本冬美の歌で盛り上がりがピークとなりました。おいしい弁当をいただきながら開会式が終わり、試合会場のある白浜町への移動となりました。

【十一月十日（日）】剣道交流大会開始式及び試合

開始式にあたり、大将の川田先生が名譽

ある高齢者賞を受賞されました。

一試合目は、第二試合場九試合目の午後一時から対戦相手群馬県、二試合目は同じく第二試合場十七試合目午後四時より対戦相手は鳥取県でした。善戦するも、残念ながら予選リーグは突破できませんでした。大会名の通り交流を深めることができました。また、鳥取県の選手の中に、偶然にも柳生講習会で同部屋であった先生と再会し、懐かしい昔話に花を咲かせました。さらに、大学時代の先輩、同級生や後輩にも会うことができました、まさにテーマ通りの「出会い、はじける笑顔」でありました。二試合目が一日目最後の試合だったため、宿舎に着いたのは六時ごろ、あたりは暗くなり、美しい海に沈む夕日は見ることができませんでした。

【十一月十一日（月）】

朝食後、宿舎から徒歩約三分にある、「崎の湯」にタオル片手に訪問しました。

この温泉は源泉かけ流し、目の前には雄大な太平洋が広がり、波しぶきが届くほどの最高の露天風呂であります。徳島県選手団

貸し切り状態の思い出に残る、今大会唯一のアトラクションでした。選手団は温泉を堪能し、昼前には帰途につきました。
 今大会は、私が思っていた大会よりはるかに巨大で格式あるイベントでありました。参加に際し、高齢剣友会及びあいランド推進協議会の方々に感謝いたします。





第五十四回全日本 居合道大会に出場して

居合道部 村 井 恒 治

第五十四回全日本居合道大会都道府県対抗優勝試合が令和元年十月十九日に高知県立県民体育館で開催されました。私は、五段の部の選手として出場させていただきました。今回の徳島県チームは監督・坂本憲一先生、副監督・吉岡修一先生、選手は七段の部・森将夫選手、六段の部・満壽良史選手、五段の部・村井恒治のメンバーでした。

開会が宣言され、試合が開始されると、その雰囲気自身が引き締まるような思いとともにとても緊張した気持ちになりました。試合は、紅白のコートに分かれ、古流二本（自由）と全剣連居合（指定技）の計五本を、対戦する二人が同時に抜きます。演武の優劣を三名の審判が判定し紅白の旗を揚げ、二本以上上がった方の勝ちとなります。試合結果は、以下のとおりです。七段の森

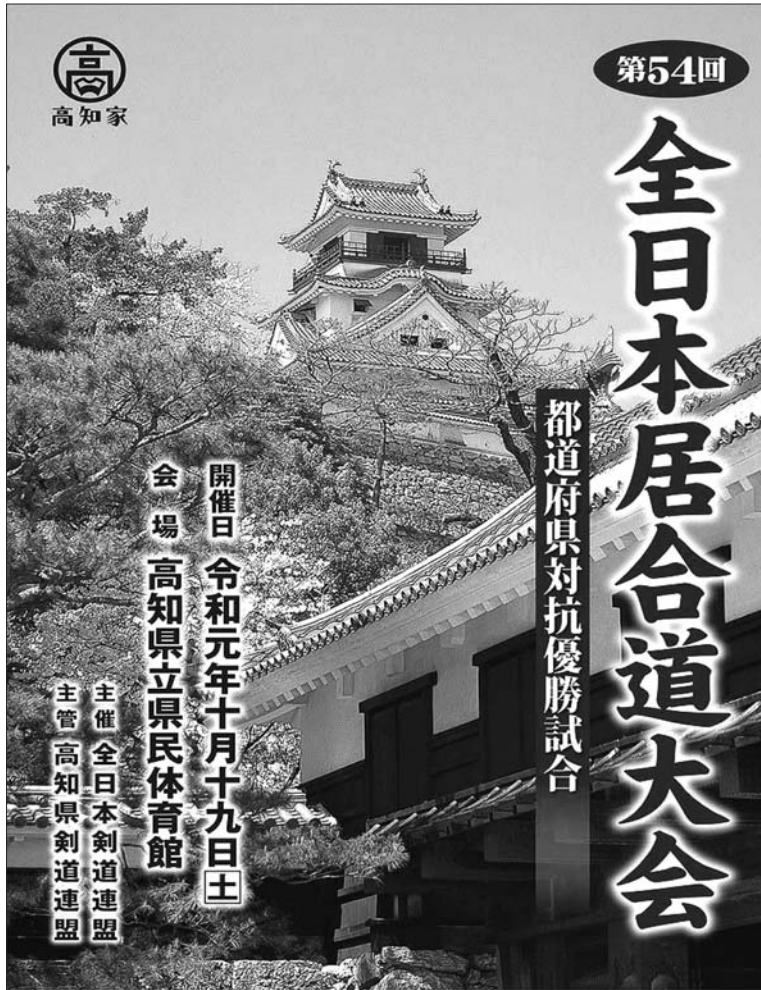
選手は、一回戦で沖縄県・町田選手と対戦し三〇で勝利し、二回戦で千葉県・氏平選手と対戦し一一二で惜しくも敗退しました。六段の満壽選手は、六段で優勝した東京都・圓口選手と一回戦で対戦し、〇一三で敗退しました。五段の村井は、一回戦で和歌山県・新屋選手と対戦し、三〇で勝利し、二回戦で島根・梶谷選手と対戦し、〇一三で敗退しました。本大会では高知県が優勝し、愛媛県、香川県も上位となり、四国のレベルの高さを実感しました。徳島県でも、もっと勝ち残れるように稽古を積んでいく必要性を実感することができました。

さて、私の全日本居合道大会に出場した感想ですが、とにかく終始圧倒された感じでした。会場には前日の昼に到着して稽古をしました。他県の選手も同様に稽古をしているのですが、その稽古の様子を見るだけで、よく稽古を積んでいるのがわかりました。自分が試合に臨んでいる間は、他人を見る余裕はなかったのですが、敗退後、よく見ることができました。やはり、上位

まで残る選手は、その抜きつけの鋭さや下半身の安定感、動きの滑らかさは、私と比べると全く別物に感じました。この場で、実際に試合をし、上位の選手をよく見るとは大変勉強になり、良い刺激になりました。また、上位の選手と話す機会があったのですが、かなり以前から本大会に向け、嫌になるほど稽古を重ねたそうです。自分の稽古が如何に足りないかを痛感した次第です。今後は、もっと工夫して稽古の時間を捻出していきたいと思えます。

更に、県代表の選手となったことで、六月から月二回程度、強化練習に参加し、監督、副監督の指導の元、各段の選手の方々と一緒に稽古ができたことは、とても楽しく、今回の大会の中で、最も良い思い出となりました。

最後になりましたが、ご支援いただきました徳島県剣道連盟、ご指導いただきました諸先生方、応援いただきました居合道部の皆さまに心からお礼申し上げます。



全日本剣道連盟より画像提供



随 想

リレー・フォー・

ライフ・ジャパンに参加して

徳島支部 吉 田 昌 彦



はじめに

「平成から令和」へと時代が静かに変遷し、私が中学

時代から始めた剣道も早や五十年以上の歳月が経ちました。そして、剣道を通じて多くの方との出会いがあり、剣道によって導かれた場面も何度かありました。

平成二十六年に徳島県警を退職し、県立中央病院で五年間の勤務の後に現在は徳島中央警察署で非常勤嘱託員として仕事をさせていただいております。

中央病院でも医療関係の様々な職種の方と知り合いとなりましたが、医療の難しさ

故にそれに関連してのインシデントやトラブルなどのクレーム等も少なくはありませんでした。しかし、そんな中で医療に携わる方々の熱意や勤勉さを目の当たりにするにつけ、生命の本質にかかわる大切なことも学ぶことができました。

一 私の趣味

私は若いころから「釣り」が趣味でした。

釣りといっても波戸釣りや筏での小魚釣り程度でした。そして、自分が釣った魚に興味がわき、何とか記録として残しておけないものかとの思いから「魚拓」を学びました。最初は和紙を釣具店で購入し、魚に墨を塗って写す方法で魚拓をとっていましたが、単なる記録としての白黒の魚拓には満足できずに魚の鱗や本来の魚の色に近い色を出すなどして生きた魚にするにはどうすれば良いのかと試行錯誤するうちにアクリル絵の具を使用したカラー魚拓を制作するようになりました。また、動きのあるヒレの角度にも工夫を凝らし、最後には生きた目を描くと段々と生きた魚に近づいてきた

のです。

しかし、自分の釣った魚を魚拓にするには限界があることから、魚拓から絵へと、そして絵はがきへと変わっていきました。絵はがきは、花や果実から動物へと変わり、季節の移り変わりの風景や、さらに今では少年剣道の生徒が卒業する際には色紙に剣道の絵を描いて差し上げたりしています。



そして、趣味の話に盛り上がった際に中央病院から「病院の総合案内や処置室にも飾ってほしい。」との依頼を受けるようになり、病院退職後の今でも患者さんの心の癒しやコミュニケーションツールにも活用していただけるようになり、私自身もボランティア登録をして絵はがきを大いに活用しています。

二 リレー・フォー・

ライフ・ジャパンに参加して

こうしたボランティア活動の中でも、令和元年九月二十八、二十九日の二日間、徳島市の東新町商店街でチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン二〇一九とくしま」が開催されました。

リレー・フォー・ライフは、一九八五年にアメリカで一人の医師が二十四時間トラックを走り続け、寄付を募ったのが始まりであり、日本では二〇〇六年から始まり、毎年全国各地で開催されているもので、がん患者さんやご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動、会場では各種催しや相談ブースなど



が設置され、参加者がタスキや幟を繋ぎ夜通し歩くのが特徴です。

今回初日は、中央病院は空き店舗を利用してハンドトリートメントコーナー、私が担当した絵はがき展や絵はがき体験コーナーのほか健康、栄養、お薬相談会等を行

いました。初めての試みにも関わらず天候にも恵まれ多くの方がお見えになり盛況でした。

二日目は、県内拠点病院の医療関係者と参加者を交えて行う意見交換フォーラムがあり、フォーラムでは、がん患者支援センターの周知やマギーズ東京のような病院でない場所に患者、家族や医療関係者が集まって語り合い情報交換できる場所が必要であるとの意見もありました。

マギーズ東京は、がん患者とその家族や知人など、がんに影響を受けるすべての人が戸惑い孤独な時に気軽に訪れて、安心して話したり、また自分の力を取り戻すためのサポートができる病院でもなく、自宅でもない第二の我が家のような存在であり、多くの人たちによる寄付や協力により運営されている無料の施設です。

おわりに

令和元年の全国高齢者武道大会の参加者には八十歳をこえる剣士も多数おられました。

雨にも負けず、風にも負けず、病気にも負けず、さらには老化にも負けずに「生涯剣道」を目指し、今後とも微力ではありませんが、剣道発展のために傾注してまいる所存です。これまで諸先生や先輩・同僚の皆様の温かい御指導とご協力により、剣道を続けることができたことに感謝申し上げます。



私の人生と剣道

板野西支部 原 田 進

この度、「徳島の剣道」への寄稿依頼を受けたのを機会に、私の人生における剣道とは、について考えてみる。

小中学校時代に「皆勤賞」という賞があったが、毎年学校を休む私にとって無縁のものであった。子供の頃、身体が弱く、中学で盲腸の手術、高校になると痔の手術。大学、社会人になった数年間は頭、背中、お尻の至る所に「できもの」ができ十回以上切開手術を受けている。昨年、約五十年ぶりに入院し手術を受けた。この間は病気一つせず元気に過ごしたことになる。これも長年剣道を続けているのおかげだと思っている。

剣道始めるきっかけは、高校に入学すると父親が私に相談もなく入部届を出したからである。剣道は礼儀が正しく、体力もつく。正に一石二鳥と考えたのであろう。また父と一緒に易占いに行ったことがある。

その時、占師から寿命は四十三才前後と言われていた。この言葉が父の脳裏に焼き付き、健康で長生きしてもらいたいと願う親心であったのだろう。しかし、剣道をしたからと言って急に体力が付き元気になるものでもない。

高校時代の剣道は、楽しい思い出がほとんどなく、ぼろぼろの床の拭き掃除、長時間の正座、基本を何度も繰り返して稽古。月に一〜二度やってくる先輩のごきのような稽古。若き堀江幸夫先生と岡本憲三先輩である。寒い冬には砂利道を素足でランニング。剣道具は買えず学校の備品。代々受け継がれた汗の臭い。試合に出ても一〜二回戦負け。それでも毎日厳しい稽古。苦い思い出ばかりである。

高校時代は剣道漬け、大学時代は何もせず、地元役場に奉職。上司や先輩に誘われ松茂少年剣道教室のお手伝いが始まる。剣道教室では川田武志、羽柴敬文、久次米俊治、石井清文、各氏が指導に当たっていた。私より六才年上であるが、意気投合し楽しい剣道の始まりとなる。剣道の稽古は苦し

辛いと思っていたが、やっと楽しく感じられるようになってきた。人との出会いである。彼らと会わなければ剣道を続けていなかったかもしれない。稽古の後はお酒を囲んでの楽しいひととき。剣道談義である。寝る時はイメージトレーニング。なぜ、打たれたのか。なぜ、打てないのか。こんなことを考えるだけでも楽しい。

長年、剣道を続けていると県連から監事に推され、剣道界では、何の実績もない私で良いのかと悩んだりもしたが、遠藤会長からの電話で名誉なこととして快く引き受けることになった。また出会いがあった。

当時会計を担当していた美馬勝行先生である。私はその当時七段を目指していたが三回失敗している。そのことを美馬先生に告げると、わざわざ板野東支部の稽古会に来て頂き、指導を受けやっと合格できた。

「人生は巡り会い」。節目節目で様々な人に出会い剣道が続けられる。剣道を始めてから六十年弱。いつの間にか病弱であった私自身を忘れていた。高校時代の厳しい稽古のおかげで今日の私があり、辛い思い出

が懐かしい思い出に代わっている。私の人生は、剣道を通じ素晴らしい人々との出会いがあり、健康で幸せな生活が送れている。

当支部では川田先生が八十一才になるが元気に稽古している。私も川田先生を目標に頑張りたい。もう一つ楽しみが増えた。孫と一緒に剣道をすることである。小学三年生の女子で私に似て勝負は弱い。しかし、打突姿は美しくなってきた。楽しみである。

人との出会いで自分が成長する。苦しい稽古で心身が磨かれ旺盛なる気力が養われる。この基本を忘れず、今も緒先生方に稽古をお願いしている。



木にて作りたる猫のごとし

麻植支部 尾 脇 広 美



私の家に猫がいますが、ネズミ捕りをしたことはありません。エサはキャットフード、

ネズミを捕るなんてとんでもない。剣を持つてないので代わりに尻尾を振り、得意は虚をつく咬みつき技ですので、流派は無刀流になると思います。

「猫の妙術」という本は、江戸時代に伏斎樗山（いっさいちよざん）が書いた剣術指南本で解説書は沢山あります。

話の内容は、剣術者の家に入り込んだ大ネズミを捕まえるために、ネズミ捕りが腕自慢の黒猫、虎猫、灰猫が身につけた必勝法により大ネズミに挑戦しますがことごとく敗北してします。しかし、年を取った古猫は造作もなく勝利します。

そこで、古猫が若い猫らにそれまでの修

行でいたらなかった点を指摘します。黒猫には「古人が教えた技は単純でやさしそうに見えても、その中には究極の道理を含んでいること」を教えます。

これは、今でいうと日本剣道形のことになると思います。まず動作から入り、技を繰り返して稽古して磨くことで技に隠された技の道理、剣の理法を学ぶことが目的ですが、これは奥深いもので、一生涯やっても極めることができない無限のものだと思います。

道理は、個人のレベルに応じての高さがあり、高い人も低い人もいます。その高さは個々が決めるものであり、低い人は極めることができるかも分かりません。しかし高いところを求めている人は、その高さにも個人差があり、高いところを求めれば、さらなる高いところを求めていき、結局それは無限になると思います。

ここで完結と決めることができない、いくらでも上を求めることができるので日本剣道形解説書に説明がなく、それぞれが自分の尺度で道理の高さを決め、少しでも高

いところを求めて稽古するから生涯剣道になるのだと思います。

古猫自身が過去の出会った一日中寝ていて動きも気配もない「木で作ったような猫」は、何もしないのに周りからネズミがいなくなると「殺さずに勝つ」という境地になっていたという。剣の理法を極めれば、周りに敵ができず戦うこともなく、相手を傷つけずに勝つことができる「敵もなく、我もなし」という究極の境地に達することができると論じています。

私がこの本を読んで大ネズミに最初に負けた黒猫に論じた「技の中には究極の道理を含んでいる」という「剣道形が剣道の基本であり、形稽古の大切さ」を再認識させられました。

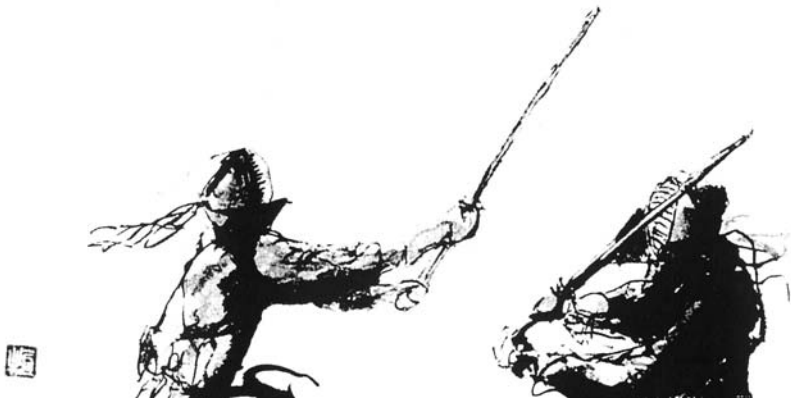
虎猫への「浩然の気」、灰猫への「心の在り方」は、「老荘思想」になるので宿題にしてさらに学びたいと思います。

剣術の極意は「こだわりを捨て勝とうと思わず、感のままに動くこと」であると古猫が言います。

私は「念あり、奸で動く」剣道をしてい

ますので、息が上がりが苦しくなれば簡単に「参った」をするし、体が痛い・釣りに行きたいなど稽古を休もうとする怠け心を持っています。その反面、稽古の後のビールも飲みたいたので汗をかきたいという気持ちもありますが、まずはこの自分に優しい心に克つこと、そしてこの克己心を継続させることを目標に、今日の自分より明日の自分、明日の自分より明後日の自分というように、自分の心身が少しでも向上するように、楽しく稽古をしたいと思えます。

本物のネズミと遭遇したら、フリーズを起こして「木で作った猫」になるか、「敵もなく、我もなく」の境地で無視するか、どちらにしても、うちの猫は既に剣の理法を極めているのかもわかりません。



一年を振り返って

小松島支部 佐藤 光太郎



この一年間を振り返りますと、今までの人生の中で最も大きな変化のあった年でした。

二十五年間勤めた仕事を平成三十年の六月末で退職し、平成三十一年四月に行われる小松島市議会議員選挙に出馬するための準備に取りかかりました。思うところがあり一大決心をしましたが、私自身も支援者の方々も未経験の集団でしたので、今思えば冷や汗ものでした。剣道を通じての先生方・友人・知人などから御指導・ご鞭撻いただきまして、無事初当選することができました。特に、佐伯守夫先生には快く後援会会長をお引き受けくださいましたことは生涯忘れられません。

そんなこともあり、過去二十年間で最も稽古が出来なかった年でもありました。二

〇二〇年は、東京五輪も開催されるめでたい年でもあり、また私自身もいよいよ五十代に突入しますので、早く以前のように稽古を再開しようと思っています。それには、稽古以外にストレッチやトレーニングにもしっかりと取り組んで遅れを取り戻し、目の前の目標に向かって日々精進していこうと考えています。

また、今年の楽しみは、高橋国保先生の手によってついに完成品となった竹刀のことです。山から切り出した竹の重量がなかなか落ちず、乾燥に三年を要しました。出

来上がった竹刀を、「いつから使おうか」、「勿体ないからしばらく飾っておこうか」など思いながら眺めたり、その竹刀で格好良く技を決めた姿を妄想したりしています。

最後になりましたが、本年は和田島少年剣道クラブの子供達の日々の成長が楽しみとなっている中、育成に微力ながら尽力していきたいと思えます。また、いろんな所に出て行って稽古が出来ればと考えていますので何処かの道場でお会いすることがあれば御指導よろしくお願いいたします。



故郷「木頭」に思いを寄せて

警察支部 吉 田 茂 生



徳島県の南西部
で高知県境に位置
する那賀町木頭
(旧木頭村)。昭和

四十二年五月、私

は人口三千人余りのこの小さな村で生を受けた。物心がついたときは高度経済成長期の終盤で、自宅前の国道一九五号は大型ダンプが行き交い道路舗装工事の真っ最中であり、盆踊り、秋祭りなどの催事も盛大に行われ、村は活気に満ちあふれていた。そんな中で育った私の幼少期はどうだったかという、わんぱくな子供で、勉強もそこそこに朝一番に外に遊びに飛び出せば、夕方、カラスが鳴く頃に家に帰るといふ毎日を送っていたように思う。また、小さい頃から勝負事には必死になり、負けず嫌いであったことに違いない。

木頭村は剣道が盛んで、故大澤善二郎先

生(大澤孝彰範士の御尊父様)が木頭で剣道塾(大和塾)を始められ、それを引き継ぐ形で建てられた木頭錬心館(昭和三十七年六月開館、平成十六年十一月解体)には、これまで二百人ほどの子供が入門し、故松本英雄先生、故雄西義春先生、原田勝範士、岡田豊先生などから剣の手ほどきを受け巣立っている。

私は幼稚園の年長時に、既に剣道を習っていた兄(博文)の後を追って木頭錬心館に入門した。当時の記憶はほとんど残っていないが、とにかく足さばきを反復練習していたことを覚えている。習い始めて半年くらい経過したころから剣道具を付け、先生や先輩方の胸を借りて一生懸命竹刀を振っていた。稽古内容は、基本技が墨書された道場の壁紙を見ながら基本稽古を行ったあと、回り稽古、掛かり稽古で締めくくるといったシンプルな稽古を反復練習していた。稽古はほぼ毎日行われ、学校が終われば直接道場に足を運んで稽古をする毎日だった。その中で小学校五・六年時の稽古が一番きつかった。稽古前に稽古着と袴姿で出原谷

の上流に向け走り、往復三キロほどを競争したあと稽古をしていた。特に、稽古終盤の岡田豊先生への掛かり稽古がきっかけで稽古の締めくくりに選手五人くらいだけが選抜され、一人五分ほどの掛かり稽古であったが、心臓が飛び出るんじゃないかと思うほど厳しい稽古だった。しかし、その稽古のお陰で木頭錬心館は小学校卒業前の三月に行われた水戸大会(全国規模)で敢闘賞という成績を収めることができた。【当時のメンバーは山下伸也君、松葉諸勝君、後藤郁夫君、要英二君、私】今思えば懐かしい思い出であるとともに岡田先生や剣友には感謝の気持ちでいっぱいである。

小学校時代は、このように剣道を中心とした生活であったが、ほかにも地域別子ども会で四季折々のイベントを楽しんだり、鬼ごっこや缶けりなどで段々畑を駆け上がりたり河原を走ったりと、毎日汗だくになって遊んでいたりしていたのを覚えている。このような環境の中で自然と「体幹」や「感じる力」が鍛えられていたのだと思う。木頭では毎年十一月一日に木頭中学校横

の八幡神社で秋祭りが行われており、祭りの当日は、青年団の一人が大太鼓、小学校の最年長が中太鼓、そのほか鐘、小太鼓の要員七人ほどがだんじりに乗り、息を合わせて拍子をあわす。そのための練習が夏くらいから始まるのだが、記憶は定かではないが週に二〜三回ほど夜に稽古をしていたと思う。音が揃わないときは団長の太鼓のバチが飛んでくることもあったが、休憩時には団長がお菓子やジュースを差入れてくれるなど、緊張感の中にも和やかな雰囲気 が保たれながら本番に向けて一生懸命稽古に励んでいた。剣道の手の内は大鼓の練習でも鍛えられたものと、これにも感謝！

このように、剣道以外の学校でも遊びでも学年関係なく剣道仲間と兄弟のように行動を共にしていた。遊びや太鼓の練習など全てにおいて剣道に直結していたことも何か木頭Ⅱ（イコール）剣道という因果を感じる。

今でも木頭出身者の多くが剣道を継続して、また、その子供も剣道をして木頭の伝統を受け継いでいることを思うと、「木頭」

というところで生まれ育ったことに喜びを感じ感謝するとともに、改めて木頭が自分の原点であるということを誇りに思う。

もう一つ、これまで木頭を原点とし、剣道

道をつけてこられた理由として、ターニングポイントとなる出来事が小学校六年時にあった。手前味噌の話になるが、小学校一年時に始めて出場した眉山ライオンズ大会での優勝を皮切りに六年生まで幾度となく賞を頂いた。あまり勉強もせず剣道ばかりしていた私であったが、木頭村で初めてできた「第一回教育の日」教育委員会賞に、当時木頭小学校の教頭先生をされていた故田中優先生が私を推薦してくださり受賞できた。わんぱく坊主の私が表彰してもらえ

るとは、あの時の身震いするほどの喜びは今でも脳裏から離れないし、いつも優しくお声かけ頂き、表彰推薦をしてくださった田中先生に心から感謝している。

この賞をきっかけに文武両道を目指すようになった。「ちょっとしたきっかけで人は変わる。そして得意分野を一つ持つことで自信ができ、褒められることで出来ない

と思ったことでもできるようになる。」ということを実感している。中学校ではスランプに陥ったが、ここでも諦めず踏ん張ることができた。

その後の人生においても何度かターニングポイントがあったが、その時々にとの出会いがあり、有り難い言葉や叱咤激励がある。これも自分の受取方次第で方向が変っていたかもしれない。ただ、「剣道が好きだ！」という素直な気持ち（自然な流れ）がいつしか剣道が自分の人生となっていたのだと思う。誰にでも人生のターニングポイントはあると思うが、その時に訪れる運（チャンス）をチャンスと思えるかどうかが大事であると思う。

過疎化で人口が減少し、当時活気があった小学校と中学校は、「木頭学園」という小中一貫教育に様変わりし、剣道を習っている子供も少なくなっているが、今は、中学生は部活が終わった後、小学生の練習に参加しているとのことで、少ない部員数であるにもかかわらず、県大会等で木頭錬心館や木頭中学校が新聞に名を連ねていること

に感嘆している。これは、子供たちの努力のたまものであることはもちろんのこと、木頭錬心館をけん引されている岡田豊先生や小川大造先生の熱心な指導があつてのことであり、尊敬の念に堪えない。

木頭を離れて三十七年にもなるが、たまに木頭の人と話をすると若かりし日の自分に戻れる。毎年元旦には、木頭錬心館OBや剣道愛好家が一堂に会して盛大に稽古会が行われており、また毎夏には長い歴史を持つ阿土少年剣道大会が行われているが、仕事を理由に長い間参加できていないことが残念である。今年こそは参加したいと思っている。

古里である木頭、私の原点である木頭に感謝するとともに今後も木頭が「剣道の地」として輝き続けてくれることを願うばかりである。

そして、これからも剣道が自分のアイデンティティとして宿り続け、「剣こそ我が人生」と胸を張れるよう精進を積み重ねたいと思っている。

少年剣道に携わって

少年部

理事 白木 崇



まっ白な気持ちで剣道に向き合う子どもたちは、砂にしみこむ水の如く、教わったこと

をぐんぐん吸収する。月一回、子どもたちと向き合っていると、こちらがたくさんのことに気づかされる。忘れてしまっていた初心を取りもどすことが出来るのもこの時間だ。

私は、剣道連盟で少年部の担当理事をさせていただいています。私も、小学生の時に剣道を学び、社会人になってからも稽古を続けています。中学生から大学生までの剣道指導は、それなりに自信を持っていますが、幼・小学生に対する指導については、息子が剣道を始めるまでノータッチの分野でした。そんな私が少年部の担当にな

り、多くの先生方のご指導・ご協力を頂きながら、少年部のスタッフと共に、探り探り今日までやってきました。今回は、少年剣道強化訓練の大枠と、心がけてきた指導方法について綴らせていただき、ご指導いただければとペンを取りました。

少年強化訓練は、月に一回、年間十二回の事業です。年二回実施している長期育成強化訓練と連動するように、練習内容に統一性を持たせています。共通する指導内容は剣道の基本から発生する技と対人の駆け引きですが、小学生には幅が広く難しいので、「基本動作」を合い言葉に、その年の子供達のレベルに合わせて、教える順序や練習の難度を変えています。

基本動作の視点

中段の構えを基とする自然体(体)(気)
刀の操作法を参考にした竹刀の扱い方
(剣)

足の動きから発生する体捌き(体)
技を使う気持ち(気)(残心)

「打突(技)は何のために練習しているか」と子どもたちに聞くと、口を揃えて「試合に勝つため!」と答えます。

「では、一本を取るために大事なことは」と訪ねると、答えは返ってきません。ここで子どもたちに、審判員が基準とする気・剣・体の一致と残心の話をします。気(二元气・やる気)・剣(竹刀操作)・体(体捌き)・残心(気をぬかない)この要素が、普段の練習内容にどのような形で入っているのか、今日の強化練習はどれを中心に行っているのか、などを具体的に示しながらメニューを進めています。

子供には、多くの言葉は残りません。出来るだけ手本を見せ、その動きの考え方を示します。しかし、大人の動きは完成されているため、伝えたいところが形に現れにくく、同年代のお手本が何よりわかりやすい(効果的)と実感することが多々あります。そんな時は、子供同士で指導させたり、元立ちの大切さを考えさせたりします。先生の示すことを理解する姿勢、掛手を指導できる目、知識・感性を育てることに重点

を置くよう心がけています。

つまり、少年強化訓練では、厳しい稽古を体験させるのではなく、参加した一人一人に「気付き」を与えられるよう、少年部のスタッフと強化に参加して下さる先生方が協力して、子供達に向き合っています。今抱えている悩みは、強化訓練が都道府県大会の選手選考も兼ねているため、強化訓練の意図が分かりづらくなっていることです。選考は、強化訓練が求める目的ではありません。少年剣道の選手選考には、「子供の成長の早さ」「予選のタイミング」「選考の方法」など多くの課題を抱えていることが現実です。予選ありきの強化訓練と思われないよう、少しでも多くの関係者の理解を得て実施できるよう検討すべきだと考えています。

月に一度のこの時間は、指導する側も参加する側も、互いに成長できる「一期一会」の大切な時間だと心して練習に励んでいます。指導して下さる先生方に感謝すると共に、初心を忘れることなく、今後も研鑽して参りたいと思っています。



大人の部活

板野西支部 月 岡 陽 市

ご指名によりくだらないひとり言になります
ますがご辛抱願います。

まだまだ若い気でおりましたが。ふと気が
付くと六十才、還暦を迎えてました。

時の経つのは早く、三十八才で剣道再開
し、早二十年余りの月日があっと言う間に
過ぎ去りました。その間、大きな出来事も
なく平穩だった事もありますが、一心に剣
道、稽古に打ち込めた事が一番の理由かと
思います。もともと何かに集中しますと周
りが見えなくなり、のめり込んで食欲に突っ
走るタイプですから、周りの迷惑省みず、
先生方には大変ご迷惑お掛けしたかと思
います。申し訳ございませんでした。

先生方のみならずありがたいのは、共に
稽古する仲間でした。いろいろな稽古会に
お声がけ頂き、稽古に参加するうちに稽古
日、稽古回数がどんどん増え、いつの間
に毎日稽古、生活の一部と化していました。

時には一日に二回、三回と重なり、一日中
袴をはいていたこともありました。

ふと気付くと、学生時代の部活を思わせ
るようになっていました。大人になってか
らの部活・・・【大人の部活】と認識する
ようになりました。学生時代の部活は、苦
しく。嫌な思い出もいっぱいありましたが、
大人の部活は、自由に楽しいことが多くあ
ります。

大人の部活の効能として、以下のような
ものがあります。

職場や家庭でのストレス発散！

稽古の後のお酒がうまい！

仲間同士の交酒、剣道談義が楽しい！

剣道再開当初の目的は、強くなりたい、
上手になりたい・・・でしたが、お酒が好
きなもあって、稽古の後のお酒がうまい
のを知った私は、毎日飲むお酒をおいしく
する為に稽古したようにも思います。特に
稽古仲間とお酒を飲みながらの剣道談義は、
時間を忘れて楽しむ事が出来ます。会社や
その他の宴会とは違って、同じ趣味を持っ
た同じ匂いのする仲間ですから話が弾みま

す。

本来の剣道修練の目的からはかけ離れ、
不謹慎極まりない考え方も知れませんが、
剣道は、あくまでも趣味！・・・とした場
合、楽しくなければ趣味じゃありませんか
ら・・・。

私がお世話になっている鳴月会（毎週月
曜にソイジョイ武道館で稽古実施）の基本
方針【交剣交酒】を旗印に、共に剣を交
え、共に酒を酌み交わしながら親睦を図る。」
に従って今後も楽しみたいと思います。

齡六十歳、還暦を向かえ風体もさること
ながら定年を機に会社、家庭、その他の環
境が変わってしまいました。唯一変わら
ないのが大人の部活のように思います。長
年に渡る好き放題の生活で、あちこち体が
痛んで来てますので、いつまで剣道が続け
ることが出来るかわかりませんが、体があ
つ限り剣道を続けたいと思います。

不謹慎な考えのもと稽古をしますが、
稽古中は、真面目にやっているつもりです
ので、今後ともご迷惑お掛けするかと思
いますが、御指導の程よろしくお願いしま

す。

今後は趣味として楽しく、長く剣道が続けられるように無理をせず、体を労わりながら大人の部活を続けて行きたいと思いません。

【遊心楽剣】遊び心も含め楽しく稽古する事をモットーに生涯剣道にしたいと思いません。剣道を真面目に習う子供達に、【剣道修練の心構え】を語る資格がありませんが、そこは大人対応として平にお許しく下さいませ。

末筆になりますが、剣道の世界にお導き下さった新開先生をはじめ、今までご指導賜りました先生方、共に同じ道を歩む仲間達全ての方に感謝いたします。

また、この不謹慎なひとり言を最後まで聞いてくださったあなたにも感謝いたします。ありがとうございます。

「鐔・鐔・つば」雑考

阿波支部長 一村昌和



一眉に唾し

て鐔集め

私の趣味の一つに鐔つばの収集がある。

居合道を始めたのが契機となり、今では百五十枚を越える鐔が手元にある。日本刀にも心が動かされたのだが、居合用の真剣を数振購入するのが精一杯であった。それに引き替え、鐔は一万円前後から手に入れることができる。

刀装具の好事家は、数十万円、数百万円という名品の鐔を収集するのであるが、私が専門とする分野は、安価なもの、錆びて手入れのし甲斐のあるもの、手入れ次第で「名品」に化けるかもしれないものを集めることである。

購入時には、眉に唾して現代物か時代物か、鋳物鉄か鍛造鉄か、錆の状態（腐食の進み具合、焼け身の錆か）、鉄味の良し悪

し等を慎重に見極めるのであるが、新物と呼ばれる鐔・イモノ鐔・焼け鐔を購入したことも数知れない。目利きになるには、まだまだ長期にわたり授業料を支払うことになりそうだ。私が購入できる金額では、「名品」となるような掘り出し物は滅多になく、金額相応のものとして納得するしかない。

値引き交渉をして買うのであるが、値引き幅が大きい場合は、要注意である。安く買ってラッキーと思って持ち帰り、手入れを始めるといつまでも赤茶色の錆が出続ける。このような鐔は、過去に火災にあったものである。この場合は、荒療治で次亜塩素酸ナトリウムや塩酸を含む漂白剤に浸け、完全に錆さびを落とす。一昼夜で錆や汚れが取れ、銀白色になる。肌が荒れている鐔は、ヤスリをかけて滑らかにする。ここから時間をかけて錆付けを行う。

二 錆付け

錆は、「金」と「青」からなり、銅の青さびであるが、金属を腐食させる「さび」

の意に広く用いられる。銹は、「金」と「秀」からなり、「秀」は「かさなる」の意があり、金属の表面にかさなりおおう「さび」に使う。赤「錆」を落とし、黒「銹」を付けることにより、経年変化によって発生する赤「錆」から守るのである。

金工家は、独自の薬液を調合し、鐔の表面に塗布して銹の発生を促し、短期間で銹付けをするが、私の場合は「身から出た錆」ならぬ「身から出た汗」で銹を付けている。

私の汗は、日本酒の原酒や大吟醸、または大量のビールから生成されたものであり、銹付けには、それなりの効果があると思われる。

夏は、銹付けの好時期である。汗だくなった身体に鐔を押しつけては、数日間放置しておき、手で摩り、また汗を付けるという作業を繰り返す。アルコールから生成された栄養豊富な汗で、ゆっくりと手塩にかけて銹を育てるのである。

名品を買えない負け惜しみではないが、錆鐔が錆を落とされ、光沢のある黒みを帯びた銹に、ゆっくりと変化していく工程を

眺めながら、半年から一年と、長期間にわたり楽しめるのがよい。名品はすでに完成された状態で、鑑賞するのみであり、楽しみは半減する。

銹付けができれば、ポケットに一・二枚の鐔を入れて持ち歩き、手に馴染ましていくのだが、いつもどこに置いたかわからなくなり、探し回るのが日課となっている。

三 鐔の役割

鐔は、身を護り、敵を倒す武器としての日本刀の装備品であり、斬りかかってくる相手の刀を受け止め、柄を握っている手を護ることを第一義にしている。この他に、私の知っているかぎりの役割を列挙してみる。

① 自傷事故の防止 刀身と柄の間に位置することで、刀を握る手が前に出るのを防ぐ。鐔がなければ手が刀身に触れて、手を傷つけることになる。安心して柄の鐔の付く位置まで持つことができる。合口拵は、鐔がつかない。

② バランスの調整 鐔の大小や厚薄

により、重量が変わり、刀全体の重心の調節ができる。同じ刀でも鐔により、バランスがとれ、振りやすくなる。先重りのする刀を好み、刀の重さで斬りたい場合は、手元を軽くする鐔を着用する。また、試し斬りをする場合、刀全体の重量を増すため、大きく重い鐔を用いることがある。

③ 腕貫の穴 鐔に二つの穴を穿ち、その穴に紐を通し、緒の輪をつくる。その輪に手首や腕に通して、刀が万が一、手から離れても落とさないようにする。軍刀のように柄頭に腕貫を付ける場合もある。

④ 攻撃用 柄を使った攻撃があり、当然、鐔により威力を増す。碁石鐔と呼ばれるものは、中心部から外に向かって薄くなり、外縁は一ミリに満たない厚さで、手の甲を打てばザックリと切れるはずである。また、実戦においては、相手の額に鐔がめり込むように斬れとの教えがある。

⑤ 踏み台 忍者まがいの話である。実

際に使われたかは定かではないが、塀を乗り越える際、塀に刀を立て掛けて、鐔に足をかけて登る。その後、下げ緒で刀を持ち上げる。

⑥ 精神的支柱 着けた鐔の凶柄から、武士としての覚悟・死生観や武運を神仏に託し、吉事を願う心が読みとれる。草むす屍（かばねどくろ）を表した野ざらしの凶、南無阿弥陀仏の彫り、武士の守り本尊である摩利支天を表す猪目（ハート形）の透かし、勝虫（トンボ）の図や亀甲紋等々の意匠が施された鐔を散見することができる。鐔に表現された強固な信念や信仰心、験を担ぐことにより、死を恐れずに戦うことができたのであろう。

四 居合と鐔

居合の上達には、修練を重ねるのみである。しかし、私の経験から重い刀、長すぎる刀は、上達を妨げるばかりか故障にもつながる。体力にあった重さと身長に合わせた適切な長さの刀を使用する必要がある。

だが、刀の長さを感じさせないような抜刀や納刀を可能にするのが、鐔の大きさである。大きい鐔は、鐔が右手の親指の付け根付近に当たり、抜刀も納刀もしづらい。鐔は小さい程、手首の自由が利き、長い刀も意外と使いこなせることができる。

大刀には、八センチ前後の鐔を装着するのが、一般的である。八・五センチを越えると大きすぎると感じ、重量感が増し、戦仕立ての様相になる。七センチ前後であれば、少し小振りで、お洒落な感じがし、操作もしやすい。六センチ前後になると小さすぎると感じる。ちなみに、剣道の鍔は、九センチ以内と規定されている。

現在の居合道においては、大きさや形に規制はなく、それぞれの好みにより自由な様々な鐔を用いて演武を行っている。その中で、私の知るところ、一番小さい鐔を付けているのが、前副会長の居合道範士八段の原田勝先生である。先生の堂々とした体躯と品位・風格に圧倒される。先生は、身長に比して少し長い二尺五寸の刀を抜いている。そのため、極端に小さい鐔を愛用し

ているのだが、違和感はない。

長い刀の操作上の理由だけではない。機先を制し、「物打ち」を利かして一拍子で切る無駄のない刀法と機敏な体捌きを重視して行ずる先生の居合には、鐔で防御する理合がなく、あえて小さい鐔を着けているという。

先生の鐔は、楕円形、銀の覆輪が施され、金・銀・赤銅で装飾された梅花が配されていて、どこでも、一際目立つ。先生は誕生日が二月であるので、殊の外、梅の花を好まれる。早春に凍として咲く梅の花は、日本の文化と心を表し、機能性に優れている今の小さい鐔が、大いに気に入っているという。

薩摩の示現流は、トンボの構えから一撃必殺の気迫で切りおろす技が有名で、受けるということを一切想定しない剣法の薩摩拵は、当然、鐔も小さいのが着く。

私のような未熟な技前では、防御することも想定しておく必要がある、個性を主張するのも苦手なので、一般的な大きさにしている。もう少し剣技が上達すれば、小さ

い鐺にも挑戦してみたいものである。

五「鍔鐺を 集めて手入れ

鍛冶供養 再び腰に

返り咲かさん」大無人

鍔鐺を集めるのには、経済的な事情があったのだが、美術品としても価値があり、作る人と使う人の思いが込められた鐺が、誰にも顧みられず、錆びるままに朽ちていくのが、残念でならなかった。

かつては、名鐺と評価されていたであろう鐺が、象眼は剥がれ、見るも無惨に錆が深く入り、朽ち込んでいるのを見ると、いたたまれなくなる。もう少し早く私と出会ってれば、何とかなかったのと思うばかりで、もはや手遅れでどうしようもできない鐺も多い。

再生可能な鐺は、手入れにより、元の持ち主の腰を飾った姿に戻し、私の腰に収まるなり、乞われれば他の数寄者や武道家のもとで、再び花を咲かせてやりたいと願うものである。健康とお金が続くかぎり、鍔鐺の収集癖は治らないであろう。

六 ○ 鍔迫り合い × 鍔競り合い

「せりあい」を辞書で引いたり、パソコンで変換すると「競り合い」となる。「迫り合い」は出てこない。「つばぜりあい」を調べると、「鍔迫り合い」と出てくる。「鍔競り合い」はない。広辞苑では、「鍔迫り合い」を「互いに打ち込んだ刀を鍔で受け止めたまま押し合うこと。互いに激しくせり合うこと」と解説している。鍔で競い合うことではないのである。語彙力について書かれた本を紐解くと、「意外によく間違っている日本語の一つで、その書き間違い、語彙力が疑われます」と記されている。

長谷川英信流の古伝組太刀「太刀打の位」の形に、互いに斬り結び、鍔迫り合いになった刹那、両者押し合って退き、腰車から斬り込む刀を、間一髪でかわして切り下ろす技がある。もう一つには、互いに斬り結び、鍔迫り合いになろうとした一瞬の隙を突き、柄頭で喉または顔を打突し、膝または足で股間を蹴り上げて勝つ技がある。実戦を模して演武するこの形においても、鍔迫り

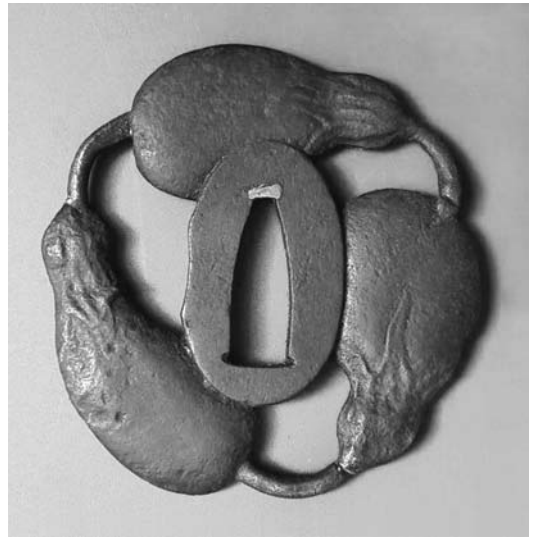
合いほど危険な間合いはないのである。

白兵戦（白刃による肉薄戦）において安易な鍔迫り合いは、命取りになる。白刃が首に触れば、へしきられる。足を払われ、倒される。足の指や甲を、踏み折られる。膝や足で、股間や下腹部を蹴り上げられる。柄頭で、喉や顔を打突されるのだ。

現代の剣道では、すべて反則となる技ばかりであるのだが、生き延びるための業として古流の中に伝承されている。現代の剣道においても、命を賭けて戦った武士（もののふ）の迫力感や切迫感を示す、緊迫した鍔迫り合いをしたいものである。



鶴亀・比翼の鳥図 長寿と夫婦和合



三茄子図 一富士二鷹に続く縁起物



かちむし 勝虫図 勝虫はトンボ



しょうじょう 猩 猩図 慶事の時に現れる霊獣 酒を好む

阿部國太郎先生の思い出

徳島支部 栗野 佳明



先生に初めてお会いしたのは、西谷肇一先生が指導しておられた、城ノ内高校の剣道場

での朝練でした。徳島で国体が開催される二年か三年前だと思えます。剣道を初めて、数年たち、もっと稽古がしたいと思い、加茂名少年剣道教室の池田先生の紹介で通わせてもらいました。先生との思い出を語る前に、先生の略歴を記します。もう亡くなられて二十六年たちます。先生の御息の阿部晃氏に話を伺おうと思いましたが、入院中でありましたので娘さん（石井中学校の教諭岡田紀子氏）を通して先生の事をお聞きました。

《阿部國太郎先生の略歴》

先生は明治三十一年八月二十二日に徳島土成でお生まれになりました。剣道は、京

都武徳殿で錬士七段を取られました。また陸軍戸山学校で教練の教師として銃剣術を教えていたそうです。入隊は第十一師団徳島四十三連隊だそうです。除隊時は陸軍大尉です。東京の中央商業学校、後の中央商業高校で剣道を教えておられます。

徳島には昭和五十五年に帰って来られ、それまでは徳島・東京間を行ったり来たりしていたそうです。徳島では旧の武道館でも稽古をなさっていたようで、良く知っている人も多い様です。城ノ内高校での朝練ももちろん足しげく通われています。亡くなったのは平成六年九十六歳でした。九十歳までは防具を付けて稽古をなさっていたそうです。お墓は庄町の正善寺の奥まった所に在ります。

先生の御趣味は多彩多芸で、書道師範、盆景、投げ網、写真等色々あったそうです。

先生の思い出は、城ノ内高校での朝練で沢山あります。非常になつかしく、心暖まるものです。先生には優しく丁寧に教えて頂きました。剣道部員達にも慕われていま

した。時たま皆を集めて「非常に良くなっている。もうちょっと頑張ればとても強くなる。」といった激励に言葉をかけたりにしていました。剣道の技術的、精神的な面は西谷先生が厳しく指導なさっていました。阿部先生は皆を和ませたと思いません。

剣道部のだけかが、稽古中に阿部先生の入れ歯が面の中にはずれて驚いたと言っていました。その時はそんな事があるのかと思いましたが、五段の審査の時に、ある先生に起き納得しました。その先生は落ち着いて直して試合を続け、見事に合格なさいました。

土曜の朝練の後に城ノ内高校の前の喫茶店で、先生と池田先生と私の三人で良くモーニングを注文しました。先生はいつも僕が払うからと言って我々に支払わせてくれませんでした。そんな時に色々話をしてくれました。

一つは、剣道をずっとして来たので、左の小指が変形して竹刀がスポッと筒に入るよう納まると言っておられました。

また、昔東京の中央商業高校で体育の教師（剣道を教えていた）をしていた頃、先生は赤鬼と言われて恐れられた反面、よく慕われていて、多くの生徒が家に遊びに来ていたと言われていました。

先生が東京で剣道八段の予備審査を受ける時に、当時の教え子達から青い胴を贈られています。本当に慕われていたのだと思います。

先生が兵隊の時は、剣道・銃剣道が強かったのも、上の人によくかわいがられ、辛い事はなかったと言われていました。大尉に昇進されています。

先生はテレビのウッチャンナンチャンの番組で、「銃剣道八段・書道八段・剣道七段の人は、この三人の中の誰でしょう」というクイズで紹介されています。そこで前後跳躍素振りを披露しています。先生が九十一か九十二歳の時です。

先生が教えてくれた技に面抜き面がありますが、今も研究したい技です。私はまだ当時剣道を始めたばかりでしたので、先生が袴の畳み方を教えて下さいました。覚え

が悪いので二度目の時に、東徳美先生より「何回先生に畳ませるのだ」と叱られました。今でも袴の畳み方は下手です。

先生が一度だけ怒っておられた事があります。土佐の剣友

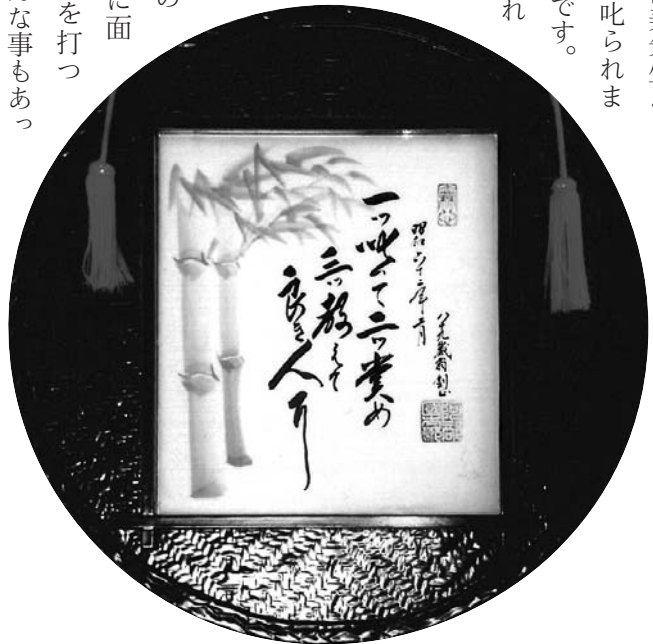
会が、徳島武道館で徳島の高齢剣と試合をした時です。先生は、試合でなぜ自分が負けたのかわからんと言って怒っていました。きっと先生の

玄妙な技を評価できなかったのだと思います。先生の技の中に面を右鑄で応じてそのまま右胴を打つというのがありますので、そんな事もあったのかなと思いました。

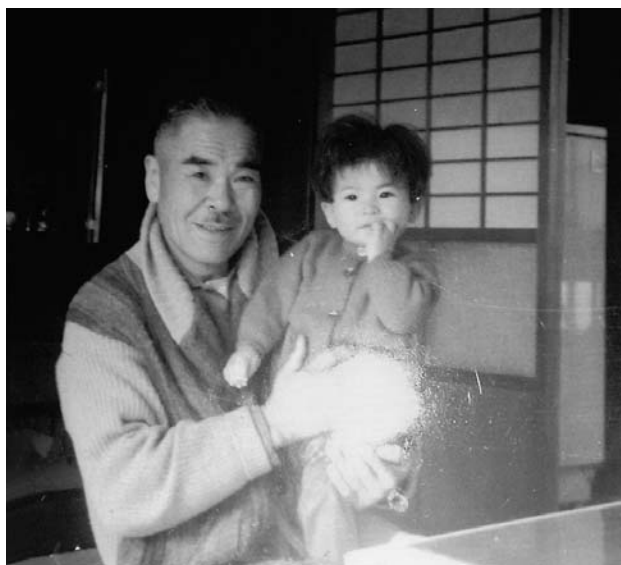
私は先生のお見舞いにもお葬式にも行けず、残念に思っていました。後日、東徳美先生とお宅を訪ね、またお墓参りもさせて頂きました。私は阿部先生は本当に人徳のある仁の人だと思えます。遺品の木の名札と色紙を時々見て阿部先生のことを思い出しています。



先生の木の札



阿部先生89歳 昭和62年2月



阿部先生とお孫さん（紀子さん）



東京自宅にて素振り
足と刃筋を見て下さい

称号・段位合格者

剣道七段を拝領して

阿波支部 敦 賀 晋 平

平成三十一年四月三十日、京都のハンナリーズアリーナにおいて行われました平成最後の審査会において、剣道七段に合格させていただくことができました。今回せっかくの機会ですので、私なりの思いや感じたところを書かせていただきます。

まずはじめに、前年の平成三十年の四月審査は仕事等の繁忙により、最初の審査申し込みを忘れていました。何年か前から意識していたんですが、肝心の申し込みが二ヶ月以上前なのをすっかり忘れており、連盟に電話すると「申し込みは終わりました…」悲しかったです。

次は八月の福岡「まあちょうど子供も夏休みやし、ええ旅行になるわ。」と強がっていました。しかし、審査二週間前、機動

隊のY先輩との稽古中に気合が入りすぎてふくらはぎ筋断裂、肉離れは一度やるとクセになり、わたしの左足のひらめ筋は暴れまくりです。「まあ日はまだあるしいけるやろ。」とそのまま決行しました。嫁は「とろこいな〜。けどほれぐらいがちょうどえんちゃん(笑)」という感じでした。

さて福岡での審査当日、若干左足のひらめに不安は残しつつも、相手は九州の同年代高校・大学と全国で活躍した選手達、やったるで〜と意気込んだ結果、私の中でサイヤ人級の戦闘本能がむき出しになり、完全に試合モードで立ち合いは終わりました。相手を打ち込んでいたものの、見事に不合格!相手の二人も不合格!「すまん!」と心の中で相手に謝りました。

その次は十一月の名古屋。「わえ今回は本気やけん。観光ちゃうぞ。来て動画撮ってくれ!」と嫁に頼みつつ、気合を入れていました。前回の反省から、審査は試合と違ふ、落ち着いて行こうと挑みましたが、名古屋の同級生に「つるちゃん、あんな打つたらいかんで、受かるかもやけど打ちすぎ

やわ。」と言われ、え?そんな打ってた? だいぶ抑えたつもりやけど?動画をみると自分勝手に試合の感じも抜けず打ち急ぎ:抑えたはずの闘争心は空回りし、どうやら中途半端さだけが残ったようで不合格!そこで、審査結果のハガキを送付してもらった手続きをしました。

帰県後、先生方に動画を見てもらうと「ええやん、次はいけるわ。」「ここはうたんでええな。」「これではあかんの分かるだろ?」いろいろな意見をいただき、大変勉強になりました。後日届いた評価のハガキは最低のD評価でした。これは審査員の心に全く響いてない、本気で自分の剣道を根本から見直さないかんなと思いつつも、さすがに今自分がしていることに自信も無くしました。

そんな時に本当にたくさんの方からいろんなアドバイスや指導を頂きました。年齢的にも指導やアドバイスを頂ける機会は決して多くありません、本当にありがたいことと感じました。全ては自分のために言っていたことと一つ一つを確認し、

稽古しました。基本に立ち返り、悪いくせをなるべく出さないように構えも作り直し、打突の機会、足の使い方、我慢することなどに重点を置き、修行したつもりです。今までにこんなに自分の剣道を見つめ直し、また考えたことはありませんでしたので良い経験となりましたし、あらためて自分がいかにこの徳島県の素晴らしい環境で稽古させていただいているのかを再確認することができました。

いよいよ京都での審査を迎えることになります。審査日は全日本都道府県対抗大会に徳島県代表として出場した次の日です。当日はとにかく我慢、打ちたくても我慢、相手の面が見えても我慢、起りだけは見逃さないようにしようとかにかく攻めながらも我慢すること、自分勝手にならないように徹底しました。内容はほぼ覚えていますませんが「バコーン！」と面と胴が打つたことだけ覚えています。そのあと、形の相手が、「徳島県警の敦賀さんですね？お久しぶりです。私は三年かかりましたが、やっと先生に報告できます。」と言ってき

ました。一瞬この人だれやる？と思いましたが、(警視庁におった人や。)と思いつき、「いろいろとプレッシャーきつかったですよ？ほんまよかったです。」と談笑しました。別れ際に彼が「ではまた十年後に。」と言ってきました。かっこええやん！と思いつつながら「またよろしく。仕事は郵便局に変わったけど剣道続けるし、お互い頑張ろう。」と十年後の再開を約束し、やっぱり剣道ってええもんやな〜と感じました。今後も身体に気を付けながら継続して剣道をする事、そして人間力を磨いていけるようにがんばっていきましょう。

最後になりましたが、月曜日のセント歯科稽古会の皆様、火曜日は阿南支部、連盟稽古会の先生方、剣友の皆様、そして阿南工業の先生方生徒の皆様、月、水、金は小松島少年剣道教室の先生方、保護者の皆様、少年剣士のみならず、木曜日は小松島支部の先生方、富岡西高校の先生方生徒の皆様、空いた日には後輩や他にもいろんなところで剣友の皆様との稽古やご指導、そしてお祝いまでしていただき、本当にあり

がとうございました。京都から帰る途中、富西の同級生に連絡すると、「ほんまめでたいことは、はようお祝いせな！」と連日の剣道でボロボロになった体を気遣うことなく最速でお祝いしてくれたことは良い思い出に残りました。そして合格を一番喜んでくれたであろう、嫁、子供、父親、家族のみんなには、日ごろから剣道を理解してくれ、応援してくれることに感謝しています。まだまだ未熟者ではございますが、徳島県の剣道のため、また未来を担う少年剣士達のために今後も精進してまいります。少々くだけた文章になりましたが、ほんま敦賀は…と笑いながらまた稽古してくださいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

七段に合格して

徳島支部 河野 公雄



平成三十一年四月三十日、対戦相手にも恵まれ、京都審査会において剣道七段に合格さ

せて頂きました。これもひとえに、高齢者剣道教室、月曜会、入田練成会、徳島支部の先生方と共に汗を流した方々のおかげと心より感謝しております。

私が実質的に剣道を始めたのは三十一歳（学生時代一年だけ経験しましたが挫折）でした。社会人になってからも、嫌になつてやめたり、また始めたり、不誠実な剣道の連続ですが、三十数年もよく剣道を続けてこれたものと思います。

六十歳を過ぎて、臼木先生の主催する木曜日、朝十時からの中央武道館「高齢者剣道教室」に通うようになりました。臼木先生より、身体の動かし方、竹刀の使い方、

素振りの仕方を、基礎から教えて頂きました。私のつたない質問にも理解できるまで何度でも根気よく答えて頂きました。大変感謝しております。

この頃から、少し剣道の「理合」がわかるような気がしてきて、剣道が楽しくなりました。高齢者剣道教室のメニューの中で、一番良かったことは、映像撮影してもらったことでした。

生徒が皆六十才を超えていますし、それぞれ長年剣道を続けていられていますし、臼木先生も（ここを直せばよいのに……と）気づいていても、皆が年上だし、実際には口に出しにくかったと思います。そこで考えつかれたのが、練習風景をビデオで撮影することだったと思います。

練習後、武道館のテレビにつないで、皆が見る訳ですが、自分の姿を初めて見たときは、衝撃でした。正直、もう少し上手に出来ていると思っていました。

臼木先生から、「ほら、攻めていっているのに、自分から崩れて入ってしまったるでしょう……」「なるほど……」

実際に自分の姿を見るのは「何より良い教え」になります。

【自分で自分の悪いところを自覚し直すとする】↓【しかし直らない】↓【どうすれば直るのか、臼木先生に助言を仰ぐ】↓【次の週、自分なりに直してやってみる】↓【その日にまた、ビデオを見る】↓【また助言を仰ぐ】

この繰り返しでした。

人間は他人から言われると、自分のどこかで反発がありますが、自分の映像を、自分が客観的に見ると言い訳はできなくなり、自分で納得して直そうとする為、映像に映してもらうのは大変良いと思います。ビデオで撮るようになってからは、あつかましくも、出来るだけ映る場所で練習をやっていました。（苦笑）

さて当日の審査会の模様を以下に記します。

【一人目】蹲踞の姿勢を取った時、倒れそうになり、動揺し、開始から終了まで記憶がありません。

【二人目】気持ちを切り替え、立ち上が

ると同時に「面」を攻めて行きました。

すると相手は何を思ったか、ふわっと「面」に来てくれました。まるでスローモーションを見ているようで、思いつき返し胴を打ちました。良い感触の音がしました。

二本目は焦った相手が「面」を取り返してくるのが、明らかに見えました。これは「すり上げ面」しかないな…と思っている、その通りの「面」を打ち込んできました。きれいに決まりました。

三本目はさすがに相手も警戒して打って来ず、ジリジリと間合いを詰めて行き、「相面」覚悟で「面」を取りに行くと、手がかわすように半身で「相面」を打ってくれたので、うまく乗れました。

一人目が良くなかったので、次回の審査はこうしよう、胴の抜きをもっとスムーズにできるようにしようと思いをめぐらしながら、発表を見に行くと自分の番号がありました。正直信じられない気持ちでした。

さて、この原稿を書くにあたり、この「徳島の剣道」を読み返しておりますと、剣道に対する諸先生方の真摯な取り組み姿

勢に圧倒されます。我が身が恥ずかしくなるばかりですが、剣道の底辺を支える一員として気を引き締め、益々精進して参りたいと思っております。

今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。



念願の七段に合格して

海部支部 丸 岡 偉 人



去る平成最後の四月三十日、京都の審査会で何とか七段に合格することができました。

念願と書いたのは、初めて七段審査に挑戦したのは平成十二年で私が五十一歳の時でした。今回で足掛け二十年、丁度二十回目の審査でした。審査会場も午後の部の第一会場から今回は第五回会場へと移っていました。この間、私と立合いた五人くらいは七段に合格していたので、どのような剣道をすれば合格できるかは自分では解っていませんが、いざ審査に臨んでみて初太刀に失敗したりすると、また今回もだめだと自分で決めてしまい集中できない立合いを返してしまいます。そんな失敗を何回も繰り返しているうちに二十年も経ってしまいました。

七十歳の節目になる今回の審査を最後まで決め、自分に足りなかったものを身に付けることを重点に置き、日頃の海部川剣道教室の子供達との稽古に、また指導者の皆さんとの稽古に打ち込みました。自分に足りなかったものは、相手と対した時に剣先での攻めが無いまま直ぐに打ってしまう、また打突後に気を抜いてしまい残心のだらしない剣道をしてしまうことです。子供達との稽古は特に基本練習の時にきちっとしているか、姿勢はこれで良いかなどを心掛け、打突もいつも子供達には一拍子で打つように教えているのに、自分はしっかりできていないかとかを意識しながら稽古しました。

そして子供達の練習が終わってからの指導者の皆さん（山崎直光氏、佐藤和久氏、北川成仁氏、西沢知也氏、鳥澤武志氏、谷直樹氏）との稽古では受けに回らず自分から攻めて、タメを作り打突は縁をきらずに相手より早く構える事を自分の課題として相手をしてもらいました。そんな稽古を三

か月ほど続けて、自分なりに少し自信のよくなるものができた審査の一週間前に、実技に合格したら剣道形があるが大丈夫かと不安になり、小太刀を右手で構えると右肩が痛くて力が入らず、片手で上に挙げられなくなっていました。元々関節が弱いのか、五十歳を過ぎた頃から歩きすぎると膝が痛くて正座ができなくなったり、素振りを繰り返すと肩や肘が痛くなりしばらく剣道ができなかったりの繰り返しでした。今回の右肩痛で右腕に力が入らないのは初めての事でした。ここまで稽古してきたのに今になってと一時は審査を諦めることを考えましたが、まだ一週間あるので何とかならないものかと、近くの整形外科を受診し、痛みの対症療法の点滴をもらい、少し効果があったような気がしたので三日後にもう一度点滴をもらって右肩をできるだけ動かさないようにして過ごし、審査を受けることにしました。

今までは殆ど一人で剣道具を担いでバスを利用して行っていたのが、前日の二十九日にある方から車で行けばよいと聞き、丁

度春の連休で子供達が帰省していたので阪神方面へ帰る便に良いと勧めました。それならば私もと妻も同行することになり、結局家族全員で車で京都へ行くことになりました。今までは会場でも一人で自分の順番を待つ間に眠くなったりして集中できなくなっていたのが、今回は子供達に審査の説明をしたりして、待つ時間が苦にならず、右肩が上がらないのも忘れてしまっていました。

審査は562のBだったので最初の相手Aと立ち合った時に不思議と相手がよく見えて、これならいけると心に余裕ができたのを覚えています。相手は構えが良く攻めてこなかったため、一步攻めると面に来たのが見え抜き胴が決まりました。今までの審査では出なかった打ちで、その後も攻めて面、出小手と自分の中では六本は決まったように思いました。しかし、二人目の相手Cは全く自分から打ってこず防衛も固く、何とか面を一本だけ打てたぐらいで納得の出来る出来ではありませんでした。終わってみて息子達に感想を聞くと、二人目はあ

まり良いところが無かったとの感想でした。自分では二人に一本も打たれていないので、審査員が一人目の立合いを評価してくれていたらと希望を持ち発表を待ちました。今まで十九回も不合格になっているので不安もありましたが、これが最後の審査なので駄目なら諦めようと決めていました。

係員が発表の紙を貼り、息子が望遠カメラで私の番号があると言ってくれた時も、信じられず自分で会場に降りて確認しに行きました。この時思ったのは諦めずに審査を受け続けてきて良かったと思いました。しかし集中していて気付かなかったのですが、右肩が上がりません、両手で木刀を持てば痛くても上がるので剣道形の会場で形の番号が決まる間、打ち太刀になることを祈っていました。運良く奇数番号4029で打ち太刀だと分かった時は『やった!』と心の中で叫んでいました。何とか形を無事にこなし合格を聞いた時は、これでまた落ち着いて海部川剣道教室の子供達や指導者の仲間と剣道が楽しめると思うと、年甲斐もなく本当に嬉しくてたまりませんでしたし

た。

後日、徳島市内の某整形外科病院で右肩のMRI検査を受け、上部の腱板が断裂していることが分かりました。医師からは元のようにするには手術しか方法はないとのことでした。歳を考えると手術は面倒で、保存療法を選択してできる範囲で剣道を楽しめたら良いと思うようになっていきます。県南の僻地であっても海部川剣道教室の子供達や指導者の仲間といった練習相手に恵まれたことはもちろん、今まで県内の多くの先生方からも色々と言やご指導頂いたことが今回の合格に繋がったと感謝しております。

今後も身体と相談しながら生涯剣道を楽しみ、自分の使命と想っている少年剣道の普及に微力ながら努めていきたいと思っております。最後に剣道連盟の先生方には今後とも宜しくご指導下さいますようお願いいたします。



剣道形会場前で同行した家族と



合格を祝ってくれた海部川剣道教室の剣友の皆さんと

剣道七段に合格して

居合道部長 福井 勝



令和元年八月十日
七日長野市の審査
会にて、七段に合
格させていただきました
ました。これも、

平先生を中心とする羽ノ浦中学校武道館での剣友の皆様、榊山先生にお声を掛けられ、セント歯科での玉田先生、同道場の各先生の御指導。阿南支部の北条先生の長年のご指導の結果と感謝しています。

今回の審査は五月末に腎臓結石手術を受け二週間尿管にチューブを入れていたため膀胱に炎症を引起こし十分な練習が出来ないまま受審しました。審査前の心得として
①相手に迷惑をかけない。②気で攻めて無駄打ちをしない③合否に関係なく、京都大会の立合いのつもりで行くと心にきめました。

一人目は気を見て面を打ったが、見事胴

に返されました。その後相手が取りに来たので、気で押していると相手の殺気を感じ体が自然に動いて相手の小手を切り抜いていました。相手の小手がくの字に曲がっていたので「折れたかな」と一瞬思いました。三本目も相手が右腕を上げた瞬間に物打ちが右胴に切り込んでいました。腕で抑えられましたが体を右から左に腰を中心に引き抜きました。四本目は右足で攻めて大きく面を打ちましたが、相手のサシ面が一瞬早く決まりました。二人目は相手が待つ剣道に終始したため、小手と面の二本決めました。私は審査後防具をしまい、結果発表も一応見ようと横から見に行くと見た番号が書いてあり、正面で見ていた私の一回目の相手の表情が希望から落胆に一瞬で変わったので私が合格したんだと思い、慌てて防具を取り出し、垂れを付け剣道形に向かいました。

終了後合格を告げられ、慌てて長野駅から特急しなのに乗車したため、合格したのかな?と思いつつ、徳島に帰りました。翌日朝起きると「合格した。やれやれだわ」

と思ったのが正直な思いでした。今回の審査は居合に助けられた審査でした。居合の基本は「相手の殺気を感じ機先を制して抜く」が基本であり一人目の胴も全剣連居合の十一本目の水平切りが自然に出たものと思います。

練習は羽ノ浦では基本練習が中心であり、実践では五月三日の京都大会の立合いがよき経験になったのでは。九月二十八日開催された香川大会にて武溝同総会で剣道のお世話になった愛知・松下明房先生、香川の北条先生に報告とお礼を述べ、愛知の松下先生からは「遠い所で合格したんだね、これからは剣道を楽しんでやりなさい」とのお言葉をいただきました。また香川の三木健二先生からは「剣窓に長野七段審査合格、徳島の福井勝と載っていたがお前か、お前しかおらんもんな」と合格を喜んでいただきました。電電公社入社時に長崎で剣道の指導を仰いだ千葉の齋藤昭一先生（現実業団常任審判員）からお手紙を頂き、まず、奥さんに感謝しなさい。七段の入口に入ったのだから真の七段目指し、修行をと励ま



されました。愛知の松下先生「これから剣道を楽しみなさい」の祝いのお言葉も、「真の七段になれ」とのお言葉と感謝しています。

これからも、剣道、居合道両輪のごとく実践していく覚悟です。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻よろしくお願ひします。



剣道七段に昇段して

警察支部 六 條 洋 二

令和元年十一月



愛知県中村スポーツセンターにおいて行われた昇段審査において七段に

昇段させて頂きました。これもひとえに日頃からご指導頂いている県警の先生方、剣道連盟の先生方のおかげであり、また日頃から同じ目標を持って汗を流している先輩、同僚の支えのおかげであると感謝しております。

私は、同級生より数年昇段が遅れているため今回が初めての七段審査の挑戦となります。県外の同級生、先輩が七段に昇段していく中で、悔しさともどかしさがあり、「絶対に一発で合格する。」

という強い意志を持って稽古に臨んできました。

私の剣道は、姿勢が前傾で足幅が広く良

いように言えば攻撃的、悪いように言えば姿勢が悪いという特長があります。県警の先生には、

「その足幅と姿勢を直さな七段は受からんぞ。」

とご指導して頂き、数年前から意識して稽古に取り組んできました。しかし、三十年近くかけて身体に染み付いた癖はなかなか直しきれず、七段審査に臨むこととなってしまいました。審査に向けて、今できないことを無理してするのではなく、今まで積み重ねてきた自分の剣道をどう表現するかということに重点をおいて受審することとしました。私が審査に向けて特に意識して取り組んできたことは、

- ・ 相手を上回る発声、気位
- ・ 捨てきった面（特に初太刀）
- ・ 先に間に入り攻めを継続すること

の三点です。今まで積み重ねてきた自分の剣道をどう評価して頂けるのかという期待と姿勢が直っていないという多少の不安が入り混じった受審となりました。

審査前日、東京に長期出張中だった私は、

勤務を終え防具を担ぎ、慣れない満員電車を乗り継いで愛知県入りしました。いよいよ審査当日です。六段審査の時に経験していることではありませんが、改めて人数と規模の大きさに驚きながら会場入りしました。

緊張でガチガチと思いきや意外と適度な緊張感、不思議なほどに落ち着いていました。まずは相手を上回る発声。その後は無我夢中であまり覚えていません。気が付けば立ち合いは終わっていたように思います。少し手数を出し過ぎたかなという思いは残ったものの、これが私の剣道であり後悔はありませんでした。そして結果発表。無事合格することができました。

この合格は小学校一年生から剣道の道に歩ませてくれた両親、大学剣道部の先輩でもある妻の支え、また剣道を始めてくれた娘達の存在のおかげであると改めて感謝しています。

さて、これから七段としての修業が始まります。七段としての重みを噛みしめ正しい剣道、気品ある剣道を目指し、先輩、子供達に剣道の魅力や楽しさを伝えていける

ように自己研鑽に努めていきたいと考えています。

今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しく願います。



七段審査を受審して(前へ)

徳島支部 乾 清 孝

お相手と息を合わせておもむろに蹲踞、「はじめ」の合図とともに上位の位を示しながら心持ち遅れ気味に立ち上がり正眼の構えに、気合い一閃して攻めの気迫をもって半歩前に、徐々に間合いを詰めて触人の間合いへと入る。

攻め合いの後に、動きを探りながら交刃の間合いへと入り、右足を僅かに前に出して誘うもお相手は動かず。さらに攻めるも相変わらず打ち気見られず、そこからさらに攻め入るもお相手は少し剣先を下げて上体だけを僅かに引き気味となり辛抱堪らず小手に打って出る。それでも手元が上がらず、初太刀を取ることができなかった。

審査時間のほとんどを初太刀に費やしたため残り時間わずかとなり、結局、三本を打ち合っただけで有効打突もなく終った。

二人目のお相手も同じような剣風で有効打突が取れず、「一発不合格」となった。

結局、「ええ恰好をして審査員の先生を唸らせよう。」とした思い上がった気持ちで臨んだのが間違いであり、また、相手の動きを誘うほどの「攻め」ができていなかったことに尽きる。審査状況を県高齡剣高島捻之会長に報告した際に、先生からは「攻め勝って、溜めて割って入っての面」

(高崎慶男範士)

とのご指導を受けました。

即座に次の受審を申し込んだものの、何と九月八日に胆嚢全摘手術を受け、術前後の入院とりハビリで十月初旬頃まで療養することとなり、十一月十六日の名古屋受審まで四回程度の稽古しかできず、これが功を奏したのか余分な力が抜けて「なるようになれ」と割り切りができたことと、また、療養中にユーチューブで全国高齡剣岩立三郎会長が「審査は制限時間内での有効打突の取り合いである。」と指導されている様子を拝聴し、「格好に囚われず普段通りの剣道ができれば良し。」と決め込んで審査に臨むこととなりました。

審査、一人目のお相手は、攻めると手元

が上ったため、ここぞとばかり面に打って出たものの相打ちとなった。お相手の面は手打ちであり、当方は腰が入った打ち切った面を打つことかでき、有効打突を取れた面であったと自分に言い聞かせ、この初太

刀で吹っ切れたのか、二本目も立て続けに面、そこからは余裕ができお相手の動きもよく見えるようになり、三本目は引き出しでの返し胴、さらに最後は面にと有効打突を取ることで、二人目のお相手にも面・胴と五本の全て有効打突を取れ、いずれも「先」を取っての打ちができた。

思い返せば、二十五才で機動隊特錬を卒業（当時、特錬剣道のように激しい稽古は二十五才までが限界であると自分勝手に思い込んでいた。）し、稽古嫌いを絵に描いたように、以来、四十九才まで警察県下大会のため年数回の稽古、二年を置き五十九才までは県連稽古に月一〜二回、六十才の一年間は特錬の朝稽古に週三回（各二十分程度）と県連稽古に月一〜二回の稽古、そして退職後は、高齢剣、月曜会、徳島支部の稽古で週一〜三回の稽古しかしておらず、

六・七段審査を受審することは夢の話であり、現実味のないものでした。

こんな私を駆り立てたのが、二回目の機動隊勤務の際に藤川和秋先生（現県連理事長）のお世話で警察剣道部会二〇〇〇年記念大会が開催された折に二十数年ぶりに堀江幸夫先生の御指導を受け、終了後に藤川先生から「堀江先生が『あの乾（稽古嫌いが頭につく）が稽古をしよう。』と言っておられた。」と間接的に伝えられ、何故か「稽古を始めても悪くないな。」と感じさせられた恩師の一言がありました。

また、当時の北村 滋県警本部長（現国家安全保障局長）が新蔵町の官舎から論田の警察学校まで自転車の荷台に防具を積んで雨の日も欠かさずに稽古に來られている姿を拝見したことで「剣道を続けても良いな。」との思いが沸々と湧いてきたように思います。

そして、退職後、健康管理に剣道をと考えていたところ、高齢剣、月曜会からお誘いがあり、多くの剣友の皆様の剣道への取り組み姿勢や昇段審査に挑戦されている姿

を見ることができたのが挑戦への切っ掛けであり、何より、警察学校の学生たちに「一歩前に出なければチャンスは掴めないし、成果も出ず、成長もない。」と話していた手前、私自身も前（挑戦）に出なければとの意識があったに違いありません。

今、私は、高齢剣でも年齢的に下から数える方が早い環境であり、まだまだ稽古に励んでおられる先生方の姿を見るにつけ、「健康を保ち、長く剣道を続けなくては。」という気持ちにさせられており、一回一回の稽古に課題を課しながら臨むことを心掛けていこうと考えています。

これまで稽古嫌いな私を導き、剣道の楽しさを教えていただいた県連、徳島支部、及び高齢剣の先生方そして月曜会の剣友の皆様のおかげでの御指導に対しまして深く感謝申し上げますとともに、今後とも御指導をよろしくお願い申し上げます。

失意・激励・努力

そして感謝

阿南支部 山崎 砂織

平成最後の京都審査においてやっと、やっと、やっとの思いで六段に合格することができました。ここまで長い道のりでした。私はそれまで、六段合格を少し甘く見ていました。初めて挑んだ審査で、相手の方には「見事な小手を頂きました。」といわれ、合格したと思っていたら、結果は不合格。がっかり肩を落としました。しかしこのときは、まだチャンスはあると気持ちを切り替え、次こそは合格できると思っていました。その時の私はこんなにも年月がかかるとは思っていませんでした。

あのときから六年・・・ここまで苦労するとは・・・

この六年間、何回六段に挑戦したか忘れてしまうくらい受験しました。悔しいという気持ち、次こそは受かるぞ！という気持ちだけが強くなり空回り。その間にも、私

より、後から受けた方たちが、次々に合格していきました。私には、六段は無理だとあきらめかけたりもしました。でも、そのたびに励ましてくれる、先生方・友人・家族がいてくれました。本当に、感謝・感謝・感謝です。

そのことから、私はいろいろな人に支えられていると感じることができ、また稽古に励もうと決意しました。少し体も絞ろうと、ランニングも取り入れ、自分ができる限りのことを行なう努力を心掛けました。

昨年十一月の名古屋審査では、すごくいい感じで自分の持っているものすべて出せたと思えました。しかし、その審査でも不合格でした。今までの私だったら、嫌になっ、しばらく稽古を休んで、また気が向いたときに稽古をしよう。なんてことを考えていたかもしれせん。でもこのときは次の日から稽古に出かけどが悪かったのかと反省しながら、四月の京都審査に目標をたて稽古に励みました。

私は打った後が悪いとよく言われていました。でも、どう悪いのかよくわからず考

えていました。そんな時、ある先生が声をかけてくださいました。その方のアドバイスを聞いたとき、「そういうことだったのか」と私の心に響いてきました。その時から、教えていただいたところを重点的に稽古に取り組みました。手を抜かない稽古を。

私が、いままで何回も不合格になって思ったことは、私には剣道を見つめなおす時間が必要だったのだということです。これまで自分一人で剣道をしていた気がしますが、今回の合格で、あらためて剣道を教えてくださいくださった先生方、それを支えてくれた友人、家族のありがたみを再確認できたとともに、深く感謝しました。こんな私ですがこれからも厳しいご指導よろしくお願いいたします。

なお、昨年九月二十一日にグランドパレスにおいて、剣連女子部の皆様によって昇段祝賀会を開いていただきました。席上、私にはもったいない立派な道具袋を記念品として頂戴しました。重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。



六段に合格して

徳島支部 東 内 守



平成の最後の最後（新年号令和になる二日前）である平成三十一年四月二十九日京都審査会において、五回目の挑戦で六段に昇段することができました。東内道場・鳴月会・徳島支部稽古会・その他の稽古会でご指導して頂きました全ての諸先生方には、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

とはいえ、六段には昇段させて頂きましたが、自分自身はまだまだ五段に毛が生えた様な、五段に近い六段だと思っております。もう一度初心に帰り、技術的なことは基より、精神的にも六段といえるようしっかりと稽古していこうと思っております。

さて、現在私は五十一才ですが、小学生の頃から父・勉（教士七段）が研修道場

（東内会館）を開館したことから、男三兄弟で剣道を習うことが必須（運命）かのよう

に小学・中学・高校と毎日厳しい剣道の練習を積み重ね、そこそこ入賞もして青春を謳歌しました。そして東京での大学とサ

ラリーマン時代でも町道場に通いながら、二十六歳で五段も昇段させて頂きました。

そこまではしっかりと自分なりの剣道の稽古はできていたと思います。しかしそれから阪神淡路大震災の年に、父親の稼業（屋根工事業）を継ぎに徳島へ帰郷した二十八

歳からの約二十年間、私の剣道は止まってしまいました。昼間は過酷な現場仕事と、夜は朝まで続く社交会が毎日あり、剣道という

と月一・二回東内道場の少年剣道指導のみで、正直自分の剣道は五段取得で満足とも思っていました。そんな生活ですから

当然、私の体格はというと、とても剣道をする様な者ではなく、相撲力士かプロレスラーのような姿になってしまっていました。

しかし、そんな私が受審しようと思っただのは五年前（四十七歳）の【子供達との約束】がきっかけでした。私には子供三人

いますが、それぞれ学校剣道部に所属しています。毎日一生懸命に練習は勿論のこと、日・祝日・お盆・正月も県内外まで試合や遠征に行っている姿に感服させられました。

子供たちの剣道の頑張りを見守っていた自分が恥ずかしくなり、これではいけないと思ひ、私も「自分の剣道」を再開し始めました。そして【子供たちは大会で入賞する】、【パパは六段を昇段する】という

それぞれの目標に向かって、共に頑張ろうと決意致しました。

とりあえず週二回以上の稽古は絶対で、また体力づくりにマラソンとロードバイクも始めました。稽古で多数の先生方に指導していただき、その都度自分の欠点や癖や課題等をノートに書き記しました。また子供と一緒に基本練習にも時間をかけたり、審査に向けての一分間稽古を動画撮影して何度も見直し、自分で分析しました。呼吸・間合い・機会・先・攻め・左手・左足・剣先の張り・打ち急ぎ・打突・溜め・打ち切る・一本の大切さ・縁を切らない・残心…悩むばかりでした。

体力づくりのマラソンでは、週二ペース
七km走ってダイエットと足腰を鍛える。ま
た「とくしまマラソン」にもエントリーし、
四二・一九五kmを毎年完走してきました。

そんな調子で四年前からの挑戦でしたが、
最初の頃はユーチューブの見過ぎで審査用
の形式にとらわれた中途半端な機会や打突
で、今考えると本当に恥ずかしい情けない
剣道でした。その後、稽古では常に目的意
識をもって取り組み、日々稽古を重ねるこ
とで自分なりに剣道も少しずつ変わってき
たように思いました。

そうして挑んだ五十歳の京都審査ですが、
何時になく落ち着いて、余計なことも考え
ずに集中していました。一人目も二人目も、
焦らずじっくり、相手の剣との会話をしな
がら、打ち急がず、攻めきって初太刀の面
を決めることができました。また相手を誘
い出しての出鼻面と返し胴も打ち込むこ
とができました。

合格発表で自分の審査番号を見つけた時
は、嬉しさとホッとした気持ちの両方でした。
しかしながら審査での立ち合い一分間

に、自分の剣道すべてを出すということの
難しさをつくづく感じ、やはりこれは稽古
の積み重ねしかないんだなと改めて思いま
した。

今回、剣道を通して多くの先生方と出会
い、技や理合はもちろん精神面でも、多く
の学び、気づきを与えていただきました。
今後は六段に相応しい剣道ができるよう一
生懸命修練してまいりますので、更なるご
指導ご鞭撻免辰の程よろしくお願い致しま
す。



六段取得に思うこと

阿波支部 安 田 勝 裕



令和元年八月二十五日福岡にて剣道六段審査に合格しました。十年で二十数回受験しま

した。ここ一年は警察学校の近藤先生に師事し、基本から徹底して学びました。どうやら私は気合いを一〇〇%入れた時が一番、パフォーマンスが発揮できるそうです。

361Dでしたので、361Cの方、ほぼ身長は同じでした。第三会場で、近藤先生が第五会場の審査員をされていたので、第五会場に届くように気合を入れました。すると相手が、私としては、打ち間ではないところから、打ってきます。四〜五本打ってきたと思いますが、すべて捌けたと思います。面擦りあげ面、小手抜き面、返し胴は一本になったと思いました。続いて261Aの方、身長は私より5cm低めの方でし

た。気合い一〇〇%で、間合いを詰めるとやはり打ち間になる前に、打って来られました。面擦りあげ面、返し胴は一本だったと思います。無駄打ちはゼロでした。結果的に合格しました。神が降りた瞬間です。不思議な感覚でした。

多くの方々にお世話になりました。警察学校の稽古では、近藤先生、平野先生、藤本先生、手塚先生、武岡先生、木原先生お世話になりました。吉野川日曜剣友会では、藤川先生、日野先生、尾脇先生、小池先生。阿波支部稽古会では、吉田先生、塩田先生、一村先生、藤井先生、阿波支部稽古会の皆さん、お世話になりました。ただただ感謝するばかりです。

しばらく休みたいと思う自分と、さっそくユーチューブで七段審査を見て見ている自分がいます。コッコッ六年後を目指したいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

昇段記念に手ぬぐいを作成しました。この『鬼手仏心』は徳島大学医歯薬剣道部師範の故下村富夫先生が、学生に向かって、

言われた言葉です。現在も部旗にはこの言葉が銘記されています。

外科医は手術のとき、残酷なほど大胆にメスを入れるが、それは何としても患者を救いたいという温かい純粹な心からである。ビジネスの世界でも言えることではないでしょうか？大学卒業後、口腔外科医局に在籍し、この言葉を支えに仕事、剣道に取り組んでまいりました。書は、徳島県歯科医師会事務局の柏尾書道八段にお願いしました。



剣道六段に合格して

警察支部 島 田 靖 之



て頂きました。

これも偏に御指導頂いている先生方、諸先輩方のおかげと心から感謝しております。本当にありがとうございます。

一昨年から六段への挑戦をはじめ、諸先生方から受ける指導を心に留め、とにかく「初太刀」に対する思い、イメージを湧かせて稽古を続けてきました。適切な打突の機会に放たれる初太刀は、有効打突とはならずともその立ち合いの展開に有利に影響すると信じて「技の稽古」、「心の稽古」を行い審査に望みました。

これまでの稽古で、「自分勝手に打ち急いだ技では評価されにくい、相手との攻防

から気・剣・体一致の技が出せているかを見られている」など、打突の機会や攻め、指導を受ければ受けるほど、私は教わった通りに剣道ができていのかと不安に感じながらも、前向きに試行錯誤し、そして稽古時間がとれる今しかないと自分自身に言い聞かせて稽古を続けてきました。

八年くらい前に、息子が剣道を始めたことを機に再び剣道着に袖を通してから、時々稽古をしていたのが、「一緒に稽古しよう」との息子からの言葉に感じられるように、昇段審査を念頭におき、そして子供にも適切な指導ができるように、機会あるごとに稽古に参加し汗を流し精進していこうと目標を決めたものです。

そして今回の審査において、緊張感高まる中、まずは立ち合いからの初太刀を面打ちで打ち切ることができました。その後も相手の起こりを捉えての小手打ちと続き、更にはもう一度責め合いからの面を打ち切ることができました。

また、打ち切った後の足捌きにもかなり意識して姿勢を崩さず打った感覚がありま

した。

今までの、打とう打とうとする気持ちからの打ち急ぎもなく、落ち着いて「初太刀の一本」を出すことができ充実した気持ちで立ち合うことができたと思っております。今後の稽古でも、打とう打とうとする自分自身の気持ちを抑え、責め合いからの初太刀、理合にあった稽古ができるように努力を続けたいと考えております。

まだまだ未熟ですが、新しい気持ちでこれからの稽古に取り組んでいきたいと思えます。

年齢性別を超えて幅広く色々な人と出会えるのが剣道の修行の場だと思います。これからも素晴らしい人と出会い、段位に恥じないように剣道を続けていきたいと思えます。

日頃から御指導して下さいます。諸先生方には心から感謝いたします。

今後よろしくお願い申し上げます。

居合道六段に合格して

阿波洗心館 吉原 均



この度、六段審査に合格できたことについて、まずはお世話になった先生方にお礼を申

上げたいと思います。また、同じ道場で稽古している方々にも感謝いたします。まだまだ六段の役割を果たせていませんが、今後ともよろしく御指導くださいますようお願い申し上げます。

居合を始めていつの間にか十五年になります。普段は全く自覚がありませんが、改めて考えれば、飽きっぽい性格の自分にしてはしぶん長く続けられたと不思議な気持ちです。私の場合、居合を始めたきっかけは、何か日本的な文化を身につけたいと思いついたことからでした。しかし日本のなら何でも良いという訳ではなく、武術的な何か、と考えていました。もともと日本

刀には興味がありましたので、ただ鑑賞するだけでなく、実際に刀を扱う武道として、居合道は最適に思えました。何処で稽古できるのかも分からず、しばらくは情報収集していました。意を決して剣道連盟に電話したところ、当時の職場に一番近かった高橋先生の道場を紹介していただくことになったのです。稽古は厳しかったのですが、兄弟弟子にも恵まれ、今日まで続けることが出来ました。

居合道が続けていることで、普段の生活では得られない緊張感や楽しさを味わうことが出来ます。通常の生活で真剣を扱う機会などありませんし、足の運び一つにしても奥深く、上手く体が動かした時などは大きな達成感があるものです。私にとって居合は非日常を体験させてくれる存在なのです。

さて、段位が上がるにつれて、自分の修行に集中するだけでなく、指導的な役割も果たす必要が生じてきます。自身も修行中の身ですからこちらの方が遙かに困難なのですが、よく言われるように、「他者への

指導は自分の修行になる」と最近実感しています。それまで感覚で行っていた部分を他者に伝達しようとすれば、自分の中でそれなりの整理が必要になります。その過程で重要事項の再確認も出来ますし、新たな改良点を見いだすこともあります。理解が不十分で迷惑をかけることも多々あるのですが、これもお互いの修行のうちなのかも知れません。これから様々な工夫を重ねて、指導力の更なるレベルアップを図りたいと思っています。

最後に私が稽古する上で大事にしていることについて述べたいと思います。月並みなのですが、それは「基本を大切に」ということです。何事も長く続けているとどうしても慣れが生じてしまいます。身につけてくると言う意味での慣れは必要な要素です、しかし、刀法で言えば、ただ反復するだけの稽古ではそれ以上の上達は難しくなってきますし、礼法であればポーズだけになってしまいがちです。そこで刀法であれば自分の練度に合った工夫を行うわけですが、これがしっかりとした基本に基づいた工夫



居合道六段に合格して

居合道部 林 由 美

でなくては迷いの元になってしまおうと思うのです。刀札であれば、形だけでなく心をこめて行っていれば、刀を身に付けた時に自然と気持ちが入り、気迫につながるという具合です。今後も基本を忘れず、基本を超えて修行を続けたいと思います。

この度多くの先生方のご指導とご恩情により、どうにか念願の居合道六段を頂く事が出来ました。前回東京での審査で不合格となり、二度目の挑戦でようやく昇段させて頂く事が出来ました。

是も偏に徹心道場の先生方より手取り足取りのご指導を頂いたおかげである事と、居合道部の皆様の温かいご支援のおかげであると深く感謝致しております。これを機会に徳島県においても他県のように女性の居合道の愛好家を一人でも多く増やしていきたいと切に思っております。

また、私自身も六年後には七段審査が待っているのと、それより先に錬士の審査があります。原田勝先生に合格の報告をした際に次のような指導をいただきました。「六

段合格の発表の時点からもう次の七段審査は始まっている。その段位に相応しい立ち居振る舞いにより品位風格が身につけてく

る。全て努力である。今から大会でも稽古でも全て次の七段審査と違って抜く事、剣道でも居合でも常に本番であると思って修業をした者のみが試合で良い成績を残せたり、昇段試験に合格さしたり、結果は只ついてくる。全て心の持ちようであり、全ての斯道に対しての取り組み方次第である。」

また、原田先生は「まず常に謙虚に、真面目に創意工夫をして一生懸命に取り組んでいけば、人が放っておかない。何とかしてくれませう。また、ゼロには何を掛けてもゼロだから、常に一点以上のことをしなさい。」とも言われました。

原田先生のお言葉は、六段に昇段した心に今まで以上に響き、身が引き締まる思いです。この教えに従い微力ながらも居合道人口の拡大に最善を尽くし、皆々様にご恩返しが出来ればと願っております。

居合道六段に合格して

居合道部 徳山 豊

令和元年七月五日、徳島市立体育館に於いて居合道六・七段審査会、続く二日間にわたり西日本地区講習会が、徳島県剣道連盟主催により開催されました。開催にご尽力を賜りました徳島県剣道連盟三木毅会長をはじめ多くの先生方、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

この審査会から六段受審ができることになり挑戦したところ運良く合格できました。ひとえに居合道部の先生方、会員の皆様のご指導・ご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

振り返れば、平尾勝美先生の徹心道場に入門したのが平成十五年五月、五十三歳のときで、遅いスタートでした。以来、平尾勝美先生、岸田光博先生、吉岡修一先生のご指導を受けて参りましたが、今は亡き平尾先生、岸田先生も喜んでくださっていると思います。

居合道は、相手と直接に戦わないため一見楽なようですが、実際は厳しいものです。相手のいる武道であれば、怠ければ即結果に出て、相手から打ちのめされてしまいませ。仮想の敵という相手しかないためにともすれば自己満足に陥り、稽古も甘くなりがちです。自分に厳しく、自分の弱さに克つことが強く求められる武道です。気をつけないと裸の王様になってしまいます。

原田勝先生からは、日常生活が即居合であると常々ご指導いただいています。その人間の生き方がそのまま表現されると教えられました。見る人が見たら分かるもので、いい加減な生活をしていたらそういう居合になり、ごまかせないのだと理解していません。そのため、元来が怠け者の自分には、居合道がよい戒めとなっています。

初段の頃から試合に出ましたが、若い選手に破れてばかりで、悔しい思いの連続でした。この悔しさが次へのモチベーションに繋がったと思います。三段の頃に、坂本憲一先生、一村昌和先生からお誘いをいただき、阿波農業高校の武道場で毎週土・日

にご指導をいただきました。閉校により同校の武道場が使えなくなるまでの一年余り続いたように思います。その頃から、少しずつ試合で勝てるようになりました。徹心道場の稽古の上に、阿波居合道伝習会の八幡小学校での稽古にも一年ほど参加させていただきました。以来、春と秋の講習会にも参加させていただいています。

五段で全国大会に出場したときは、原田勝先生のご自宅の道場に何度もお邪魔させていただきました。終日ご指導をいただき、その上奥様から昼食までご馳走になりました。刀の振りだけでなく「歩歩是道場」、「常在戦場」などの心のあり方もご指導賜りました。全国的な先生からご指導をいただけるのは、誠に恵まれたことでした。また、高知県から単身赴任で来られていた亀井洋祐先生には、週三回三年十か月にわたりご指導をいただきました。気剣体の一致、緩急強弱などみっちりご指導いただきました。また、審査に向けては、阿波市の伊沢公民館で坂本憲一先生から、礼法から始まる特訓をしていただきました。

このような稽古と合わせて、四国四県居合道合同稽古会、岐阜県羽島市での武講習会などに参加してきたことで、多くの先生方からご指導をいただきました。何人かの講師先生からは、温かい励ましの言葉もいただけ、受審に向けて大きな支えとなりました。

地元での開催で、受付も進行も部長の福井勝先生をはじめ吉岡修一先生、森将夫先生などなじみの先生ばかりで、緊張が少なく救われました。前の席に座っている受審者の方が震えているのを見て、地元で受けるありがたさを痛感しました。他県で受けていたら、前の席の方と同じだったと思います。幸運に恵まれたことに感謝し、これからも素直・一生懸命をモットーに、体力・気力の続く限り、さらなる高みを目指していきたいと思います。ありがとうございました。

剣道称号「教士」を得て

警察支部 佐野 伸 治



令和元年五月、

剣道称号の教士をいただきました。

剣道教士とは全日本剣道連盟の剣

道称号・段級位審査規則に付与基準として、「教士は剣理に熟達し、識見優秀なる者」と定められ、受審資格として、「練士七段受有者で七段受有後、別に定める年限を経過し…云々」と定められています。恥ずかしながら称号審査や段位審査以外で規則に目を通さず、機会毎に文面に目を通し、自身の剣道と対比し引っかかるのが、「剣理に熟達し、識見優秀なる者」の一文です。六歳から父親の手解きを受け始めた剣道で、剣道に関する書物にも目を通したりもしましたが、これまでの剣道の殆ど全てが剣道具を着用して、竹刀を構えて稽古、試合を重ねる日々を送ってきました。確かに

剣道に関する書物により稽古のヒントを得る機会はあるものの、結果として自問自答の連続から辿り着くのは、自身剣道への認識の甘さと、猛省という一言に尽きていました。当然、全ての剣道に関する書物に目を通したわけではありませんが、「剣理に熟達し、識見優秀なる者」に関する詳述はなく、私自身の剣道がこの文面に適う剣道であるかとの自問が続いています。

そんな折に現在の現代剣道の基礎を確立し、昭和の剣聖と称された高野佐三郎氏に関する記述を目にしました。記載されている内容は、素晴らしい経歴ですし、私と比べると自体がおこがましい剣士です。その中でひと際目を引いたのが、稽古もそうであり、こと試合における意気込みや気持ちです。当時の時代背景もありますが、高野氏は、試合で負けて再戦を申し込むあたり、短刀を懐に忍ばせ決死の覚悟で臨んだとされています。漢字の持つ意味合いは時代とともに緩やかな解釈がされるようになりましたが、当時の決死の覚悟とは、「死をも覚悟して物事を行うこと」であり、

恥を忍んでの再戦申し込みであり、再び敗れることがあれば、自決する覚悟であったと思われます。当然、平素の稽古も、死と隣り合わせの試合に向けての稽古であることから、想像しがたい厳しい稽古であったはずです。

他方、我が国の国号が変わる激動の時代を経て、高野氏はこれからの剣道を単なる技術の習得に終わらせず、人材を育成する教育的価値を持つべきであると考えるなど、剣聖と称される傍ら、剣道の深淵を覗いていたと思われ、その考察は今に通じています。

昭和、平成、令和と元号が改元され、剣道も世界的に普及し、その稽古方法、指導方法も大きく変化しました。剣道の急速なグローバル化がもたらしたデメリットとも捉えられる論調も一部で拡散し、剣道は、竹刀を持って打突しあう運動競技種目などとみられたりもしています。

それに加え、近年、日本における剣道人口の減少に歯止めが効かず、剣道そのものの存続が危惧されています。流行りの「時

代の流れである」という一種の責任転嫁理論に国家武道たる剣道までもが飲み込まれて、発展・確立をみないまま、気付かないうちに別の競技種目に変貌するのではないかとの一抔の不安もあります。

教士称号の合格証書に「令和」の記載を見て、昭和の剣聖から令和の剣道人はどの様に映るのか、間違っても百年先に失われた武道などと呼ばれないために、正しい剣道の伝承と剣道人の育成を決死の覚悟で臨まなければならない責任を感じました。



後藤田 凛
兼松 凌真
北林 翔
赤川 優太
矢野 真一
榎本 裕司
坂井 純
大西 千晴
山本 美翔
佐藤 祐理
迎 美榛
十二月八日
佐藤 廉之助
湯浅 和眞
山本 悠貴
石川 好誠
椎橋 海斗
江口 弘純
井藤 想真
山添 龍也
熊橋 知晃
藤本 勇人

大西 弘
令和二年 二月十六日
古川 真一
米田 賢司
上垣 千尚
角元 伸輔
安藝 憲之介
住友 太洋
橋本 竜馬
宮田 惣太
松田 匠輝
川西 修羅
福本 哲郎
朝桐 弘崇
大城 穂高
山下 堯
榎葉 龍空
浪花 孝一
塚田 志緒
藤井 瞳
武藏 千咲

福山 花純
田邊 望恵瑠
福田 優那
笠井 知捺
篠原 若葉
堀井 乃々花
三笠 志織
榎山 浩子

【二段】
五月二十六日
岩井 智也
受川 諒
金澤 怜生
木内 皓介
小田 鳳哉
東原 伊吹
若松 晃希
正端 勇斗
河野 稜也
池田 理人
池田 脩人
住友 亮太
篠原 陽太
亀井 智成
吉田 琉晟
鈴木 幸晴
玉垣 柊芽
米津 総司
神田 幸一郎
谷川 俊輔

桂 大二郎
野辺 悠介
安井 大晟
久米田 員男
四宮 海緒
古川 ちひろ
坂東 星夢
兼松 優那
森川 風花
尾崎 美穂
九月二十二日
山崎 鼎
三宅 澄
澤近 晏矢
楠本 匠真
三好 健太
千葉 陸登
千葉 翔太
山本 龍之介
大岩 郁斗
楠本 康了
添木 陽仁

茨木 一博
藤川 尚也
新居 晴登
福田 和也
宮内 秀薫
吳羽 淳司
寺野 仁美
中尾 匂香
西岡 紀乃
岩原 千佳
岩崎 心奈
高瀬 遥菜
渋谷 奈々
篠原 紗也
赤川 真唯
松山 若樹
吉田 菜々穂
正木 彩加
十二月八日
細川 賢真
住友 晴帆
仁尾 徳孝

八木 優也
豊田 雄大
渡辺 沢巳
蔭山 大成
小原 将暉
橋本 青空
落窪 翔太
海部 敬樹
中川 敬介
七條 樹
尾畑 翔
原 龍世
前場 太貴
近藤 亮太
田伏 壮登
山崎 光月
四宮 彩乃
岩佐 真夏花
坂野 陽菜
相原 優理菜
羽坂 愛彩
小畠 理奈
藤岡 玲奈

三木洸隼 池森堪史 西脇武翔 宮脇大喜 吉田麗矢 岡野優作 福井智大 重村虎太郎 栗田空舞 佐川申乃輔 前野稜介 辻村優人 川口寛太 松下朔 吉岡健心 米田安里 前場勇作 西林篤志

令和二年

二月十六日

和田鈴々 村橋朱華

長尾紗弥 西崎彩乃 大塚未流依 上田美紗輝

上山拓海 入江陸男 山本優光 岡輝晟 鳥海聖平 岡崎進斗 中西皇斗 野尻壮馬 近藤蒼真 佐藤治郎 香川顕宏 坂東琉晟 原田紘輔 仁木島史弥 島田輝烈 村橋烈 中野脩大 羽坂颯真 井川凱翔

【初段】

平成三十一年

四月二十九日

田窪飛奈 古賀春華 瀬野佳乃子 山本尚希 山谷和彦 山本吾功利 近藤正悟 木村守 船越寛登 矢部智啓 小西康平 落合遼 幾原祐介 原田朝日 小森洸喜 中澤遥希 住友達也 長岡知希 横手良祐 森脇康生 内海翔貴 仲井良一 倉橋秀汰

中河碧 松村真佑美 三原有貴 岡崎愛由 一樂萌衣 中野瑛梨香 吉本陽香 高尾楓 瀬山ちゆり 鎌田海慧 伊丹千尋 瀧本安樹 篠原姫 小笠遥香 曾我柚月 入江美帆 岩佐ほのか 武藏小春 山名来実 大石あおい 小山田奈央 松本彩愛 森下和奏

令和元年

六月二十三日

西野花奈

中川凜 梶村琉姫 國清朱李 大高羽叶 阿井千楓 由岐中智 横山舞 塩江隆昌 小松大悟 森俊輔 後藤田樹 藤倉秀将 佐古幸紀 井川隼斗 井藤輝 中村柊良 桑原歩武 本庄創思

小柏美音 香川夕渚 岩田直太朗 吉岡瞭吾 高瀬暖生 須藤楓芽 大西遥翔 原和慶 岡山誠 櫻木快毅 大村康太 牧野聖也 儀宝寿哉 坂本涼馬 柳生知哉 平岡佑介 立石翔醒 北尾唯人 前田優真 ウィークスジョシユア 桑原康輔 佐藤輝和

十月十三日

三好幸太 秦泉寺 西 楠本拓郎 岸智水 大道翔太郎 檜原陽 大塚伶斗 花川彰 令和二年 一月十九日 今本絢子 中田早映 高橋央奈 真鍋優妃乃 北池花梨 山口花弥 森本悠楽 古川はる 平岡栞 飯谷友菜 佐野千紘

佐藤智也 木下玲良 宮下哲平 相原悠汰 鈴木智裕 小島拓弥 竹林真之 小西遼 篠原翔 山本晴紀 三島龍史 板東煌真 湯川千景 松浦幸哉 住友楓雅 原井大晴 松林航平 柳田周作 海部健真 久米功真 西村翔 桑田隆希 川原瑞葵

箕村望 三栖滉生 西岡邑真 佐藤恭平 金谷咲 長谷川壹会 西姫楓 蛭田夢加 石岡大空 濱内瑞希 武富心雪 吉本彩乃 安藝玲緒奈 石田明日香 臼井夏絵 山口乃愛 曾川由衣 米田友香

— 居合道 —

【教士】

十一月二十七日

一村昌和

【六段】

七月五日

吉原均

林由美

徳山豊

【五段】

五月十二日

鎌田貴

多田照夫

【四段】

十一月十日

木原資裕

【三段】

十一月十日

安田勝裕

【初段】

十一月十日

大岸美心

西岡悠天

橋口修二

がんばろう徳島

事務局取材レポート

頑張ってます！

“復活” 池田剣正童

取材者 事務局長 藤川和秋



今回は、令和二年一月十六日(木)、三好市池田町の池田中学校武道場で稽古している池田

剣正童の剣道教室を訪問しました。

池田剣正童は、昭和四十年に創設され、平成十九年度までの四十三年間続きました。人口減少で子供の入部がなくなり一時休部となりました。その後十二年間の休部を経て昨年の令和元年十月一日、池田剣正童が復活したのです。

復活の立役者となったのは、社員・松

端佑一郎(まつのはな ゆういちろう)先生(三十四歳) 剣道四段

です。松端先生は小学生の時、池田剣正童に入部し、池田中学校、池田高校、花園大学と剣道部に所属し剣道を続けてきました。社会人となり仕事に追われ剣道の稽古ができませんでしたが、家庭の事情で県外から帰郷し、新しい環境になって剣道が再開でき、昨年九月には剣道四段に昇段しました。松端先生は、池田剣正童が休部になっていることに心を痛めていましたが、剣道四段に昇段したことを契機に、池田剣正童の復活を決意し、池田剣正童当時の仲間を声をかけ、池田剣正童の復活を成し遂げたのです。

指導者は松端先生と当時池田剣正童の先輩であった、歯科医師・佐々木丘人(ささきたかと)先生(三十八歳) 剣道三段の二人、入部した少年剣士は五人で毎週一回(木曜日午後七時から池田中学校武道場)の稽古日程でスタートしました。



①

それでは稽古の池田剣正童の稽古の取材状況をお伝えします。ドラえもん先生(取材した私のことです。今、吉野川市周辺の少年剣士達には「ドラえもん先生」と呼ばれています。)池田中学校の武道場玄関口に來ますと「ヤー」と元気な声が聞こえてきました。時間は午後七時三十分頃でしたが、道場内は明るく、少年剣士は松端先生、



2

それでは池田剣正童の少年剣士をご紹介します。少年剣士が並んで写真を撮らせてくれました。向かって右側の少年剣士からご紹介します。《写真③を参照》

写真③右側から1番目

○川辺雄太（かわべ ゆうた）くん 四歳です。

トマト、はくさい、トウモロコシが大好き。サバ、アジの魚も大好き。お姉ちゃんの奈海（なみ）ちゃんが彼女だそうです。剣道は楽しい、頑張ります！

写真③右側から2番目

○下川 新（しもかわ あらた）くん 池田幼稚園の年中さんで五歳です。

剣道の練習は楽しく、将来は歯医者さんになりたいそうです。「彼女はいますか？」と聞いたら首をかしげていました。今のところは剣道一筋みたいです。

写真③右側から3番目

○川辺奈海（かわべ なみ）ちゃん 池田小学校一年生です。

川辺雄太くんのお姉ちゃんです。好きな食べ物、トマトとキュウリ、タコとイ

かも大好き。剣道は大好きで、将来は剣道の先生になりたいそうです。「彼氏はいますか？」との質問には、こっそりと「同級生の岡田ゆうとくん。秘密にしておいてネ」と言われました。奈海ちゃんゴメン、公表してしまいました。

写真③右側から4番目

○小池 昂（こいけ すばる）くん 池田小学校一年生です。

剣道着は今日初めて着ました。イチゴが大好きで、剣道は楽しくて仕方がないそうです。将来は指導者の佐々木先生（昂くんのおじさんになります。）みたいに歯医者さんになりたいそうです。

写真③右側から5番目

○松端恵佑（まつのはな けいすけ）くん 池田小学校一年生です。

恵佑くんは指導者の松端先生の息子さんです。マスカットが大好きで、剣道を続けて将来は警察官になりたいそうです。きつと警察官になれるから頑張ってください！

写真③一番左端に写っている少年剣士は

○山口翔生（やまぐち としき）くん 足代

佐々木先生の指導により送り足や素振り、打込みの練習をしていました。まだ、運動着や剣道着での素振りの段階ですが、みんな大きな声で元気いっぱい稽古をしていました。《写真①②を参照》

小学校一年生です。

翔生くんは池田剣正童には入部していません。お父さんが別の剣道教室で剣道を指導しており、松端先生の指導のお手伝いに来ていたことから、一緒に来て練習をしていたものです。

以上、少年剣士をご紹介しましたが、実はドラえもん先生が道場に入った際、保護者の皆さんも竹刀を握って素振りをしていました。ここは「親子剣道教室か?」と思いましたが、ほのぼのとした雰囲気のところ温まるものを感じました。

松端先生は「まだ勉強不足で指導方法も十分分かりませんが、少年剣士達が剣道を続け人間的に成長してくれることを期待して頑張ります。」と決意を述べてくれました。

最後に、指導者、少年剣士そして保護者剣士全員で「頑張るぞ〜。オオ〜」のポーズをとり

写真を撮らせてくれました。

《写真④を参照》

「池田剣正童」まさに復活です。これからの活躍を剣道連盟としても楽しみにしています。

頑張れ、池田剣正童!



追伸

「池田剣正童」入部の呼びかけのチラシも見てネ!

以上

経験者や大人の方は
もちろん

初心者

幼児
小学生
中学生

大歓迎です!

おんなのこも
がんばってるよー♪



いっしょに

剣道

しませんか?

気軽に
見学・体験に
来てね♪



★活動日

毎週木曜日 19:00～20:30

池田中学校 武道場

連絡先

松本端 090-7527-8776

TEL 佐々木 090-4500-1344

池田剣正堂

専門部報告

事業部より

事業部長 佐賀 博史

事業部では、剣道連盟主催の大会及び講習会などの開催・運営を主な業務としており、各大会などが有意義で安全に実施されることを目的として活動しています。

令和元（平成三十一）年度の役員の変更などにより、事業部のメンバーは、

事業部長 佐賀 博史
 理事 岩木 一功
 理事 切中 克樹
 理事 玉田 真理
 理事 平尾 満紀（審判部兼務）
 理事 西堀 和文（中央ブロック）
 理事 中井 英樹（中央ブロック）
 理事 三木 健（西部ブロック）
 理事 中西 実（南部ブロック）
 理事 河野 寿仁（高体連）
 委員 武田 修典
 委員 岩本 一彦

委員 小坂 治
 委員 佐野 伸治
 委員 金野 卓治
 委員 柳本 巖
 委員 有松 伸也
 委員 西山 拓志
 委員 岸野 訓子
 委員 熊橋 史
 委員 前田奈々枝

の二十一名で運営しています。
 令和元（平成三十一）年度の活動状況は、台風の影響により、三者対抗剣道大会が中止となったものの、一般男子及び一般女子の大会・予選会を各四回、少年の大会・予選会を二回開催いたしました。（各大会結果は別紙【事業部の報告】をご覧ください）
 また、講習会については、五月に平野誠司先生、岩木一功先生を講師として剣道中央講習伝達講習会を開催し、十月には小坂達明先生（大阪府・範士八段）を講師にお招きして、秋季講習会を開催いたしました。
 この年二回の講習会は、指導法や日本剣道形の習得、審判技術の向上などに大変役立つ講習であります。是非ともこれまで以上に先生方のご参加をお勧めします。
 その他、「稽古始め」「土用稽古」「寒稽古」などを開催いたしました。
 これらの大会や講習会などについては、到底、事業部員だけで開催できるものではありません。
 審判の先生方をはじめ、社会人剣道大会においては、女子部のみなさん、少年剣道錬成大会においては、各道場・剣道教室の保護者の方々のご協力をいただきました。
 まさしく剣道連盟をあげて、すばらしい大会などが開催されたところであり、皆様方のご協力に対して感謝申し上げますとともに本誌面をお借りして厚くお礼を申し上げます。
 今年度も、各大会及び講習会・稽古会へたくさんの方々に参加していただき、有意義で安全な大会などが行えるよう事業部員一同精一杯頑張っていきたいと思っております。
 先生方、関係者の方々におかれましては、これまで以上のご協力をいただきますようお願い申し上げます。事業部からの報告とさせていただきます。

令和元（平成三十一）年度の役員の変更などにより、事業部のメンバーは、

令和元(平成31)年度 事業部の報告

1. 第74回 国民体育大会 第一次予選会

平成31年4月14日 ソイジョイ武道館

区分		第1位	第2位	第3位	第3位
男子	先鋒	本田 和将 警察支部	竹内 直生 鳴門支部	西田 凌介 徳島支部	松本 高史 明治大学
	次鋒	山本 義征 警察支部	大石 洋史 阿南支部	大石 真也 阿南支部	梶原 拓磨 警察支部
	中堅	六條 洋二 警察支部	山名 信行 警察支部	善家 純一 刑務所支部	江口 大祐 刑務所支部
	副将	山室 雅幹 警察支部	北村 仁志 阿波支部	中尾 幸雄 徳島支部	
	大将	平野 誠司 警察支部	富浦 廣志 海部支部		
女子	先鋒	木浦 萌愛 警察支部	丸岡 由理奈 明治大学	山崎 舞 刑務所支部	玉田 理沙子 日本体育大学院
	中堅	前田 奈々枝 阿波支部	塚原 裕美 鳴門支部		
	大将	金野 裕美 徳島支部			

参加者 役員含め75名 竹刀計量結果 (計量本数134本、合格本数116本、合格率86.6%)

2. 剣道伝達講習会 (西日本中央講習会)

令和元年5月12日、中央武道館

参加者 役員含め74名

講師 教士八段 平野 誠司 先生 教士七段 岩木 一功 先生

内容 日本剣道形、審判法、指導法、救急法

3. 第31回 徳島県剣道選手権大会並びに第67回全日本剣道選手権大会県予選会

令和元年7月15日、ソイジョイ武道館

第22回 徳島県女子剣道選手権大会並びに第58回全日本女子剣道選手権大会県予選会

区分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男子	大石 洋史 阿南支部	白木 恒二郎 名西支部	森 康二 徳島支部	梶原 拓磨 警察支部
女子	平野 千尋 警察支部	玉田 理沙子 日本体育大学院		

参加者 役員含め 68名 竹刀計量結果 (計量本数95本、合格本数88本、合格率92.6%)

4. 第40回 徳島県女子剣道大会

令和元年9月8日、ソイジョイ武道館

区分	優勝	準優勝	第3位	第3位
団体戦	教員剣美会	あななん剣友会	川高剣友会	
個人戦 29歳以下の部	長谷川 愛実 教員剣美会	山本 千尋 教員剣美会	吉田 歩生 大塚製菓	山本 悠 教員剣美会
個人戦 30歳以上	前田 奈々枝 川高剣友会			

参加者 役員含め 48名 (個人戦18名、団体戦5チーム) 竹刀計量なし

5. 第10回 徳島県三者対抗剣道大会 (台風の影響により中止)

6. 令和元年度 剣道秋季講習会

令和元年10月27日、ソイジョイ武道館

参加者 役員含 85名

講師 範士八段 小坂 達明 先生 (大阪府)

内容 講話・剣道指導法など

7. 第50回 徳島県少年剣道優勝大会

令和元年11月10日、松茂町総合体育館

区分	優勝	準優勝	第3位	第3位
団体戦	那賀川剣道教室わかあゆ会	誠武館道場	徳島少年剣道教室	小松島少剣クラブ
個人戦 4年生の部	中岡 亮仁 誠武館道場	阿井 輝 阿南少年剣道教室	橋本 愛生 小松島少剣クラブ	茨木 里音 徳島少年剣道教室
個人戦 5年生の部	松本 奏利 木頭錬心館	野田 宗佐 徳島少年剣道教室	豊田 大晴 鳴門市光武館	津島 優生 小松島少剣クラブ
個人戦 6年生の部	多田 健人 養武館	四宮 真一郎 鴨島少年剣道教室	原 那由多 那賀川剣道教室わかあゆ会	鳴門 悠生 鳴門市光武館

参加者役員含め 285名 (団体戦 29チーム、個人戦197名) 竹刀計量なし

時計・掲示係は各剣道教室(徳島少年剣道教室、小松島少剣クラブ、阿南少年剣道教室、那賀川剣道教室わかあゆ会)の保護者の方にお手伝いいただきました。ご協力ありがとうございました。

8. 第48回 徳島県社会人剣道大会

令和元年11月23日、徳島市立体育館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男子団体	徳島刑務所	名西支部	小松島D	養武館

参加者 役員含め 210名 (団体戦、33チーム) 竹刀計量なし

日本剣道形演武 打太刀 教士七段 佐野 伸治 先生 仕太刀 錬士七段 金野 卓司 先生 ありがとうございます。
時計・掲示係は女子部の先生方にお手伝いしていただきました。ご協力ありがとうございました。

9. 第37回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会

令和元年12月1日、ソイジョイ武道館

第42回 全国スポーツ少年団剣道交流大会 (徳島県予選会)

小学生の部(団体)	第1位	第2位	第3位	第3位
郡市名	徳島市A	吉野川市A	徳島市D	名西郡

中学生の部(個人)	第1位	第2位	第3位	第4位
男 子	香川 柊吾 上浦剣道教室	羽坂 颯真 那賀川剣道教室わかあゆ会	倉橋 秀汰 那賀川剣道教室わかあゆ会	森脇 康生 渭東少年剣道教室
女 子	岩原 千佳 小松島少剣クラブ	古川 ちひろ 徳島少年剣道教室	西崎 彩乃 和田島少年剣道クラブ	岩佐 ほのか 那賀川剣道教室わかあゆ会

参加者 役員含め 210名 (団体戦 16 チーム、個人戦中学校男子46名・女子29名)

竹刀計量なし

10. 第68回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会

令和元年12月15日、ソイジョイ武道館

第12回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会

男 子	第1位	第2位	第3位	第3位
次 鋒 (大学生1~3年)	美馬 州一 国土館大学	山室 和士 国際武道大学	服部 真佑 高知工科大学	金森 祥太 東京農業大学
5将 (18歳以上35歳未満)	玉井 翔 刑務所支部	片山 将志 刑務所支部	舩田 浩一 丹生谷支部	白木 健一郎 名西所支部
中 堅 (教員)	大石 真也 阿南支部	森 康二 徳島支部		
3将 (警察職員)	玉田 超大 警察支部	山本 義征 警察支部	山名 信行 警察支部	浅田 光貴 警察支部
副 将 (35歳以上)	高橋 伊織 刑務所支部	善家 純一 刑務所支部	敦賀 晋平 阿南支部	江口 大佑 刑務所支部
大 将 (50歳以上教士七段)	吉田 茂生 警察支部			

女 子	第1位	第2位	第2位	
次 鋒 (大学生1~3年)	坪井 香歩 環太平洋大学	丸岡 由理奈 明治大学	長谷川 瑞実 京都産業大学	【備考】順位決定戦は不実施、丸岡・長谷川選手とも第2位
中 堅 (18歳以上35歳未満)	木浦 萌愛 警察支部	山崎 舞 刑務所支部		
副 将 (35歳以上45歳未満)	金野 裕美 徳島支部			
大 将 (45歳以上)	山崎 砂織 阿南支部	安藝 智子 板野東支部		

参加者 役員含め75名 男女とも先鋒は高体連推薦

竹刀計量結果 (計量本数 113 本 合格本数 103 本 合格率 91.2%)

11. 稽古始め

令和2年1月5日、北島北公園総合体育館(北島ドーム)

参加者 242名 (小学生80名、中・高・大学生44名、一般77名、居合22名、役員19名)

- ・四方祓 居合道 教士八段 坂本 憲一 先生
- ・日本剣道形 打太刀 教士八段 平野 誠司 先生 仕太刀 教士七段 岩木 一功 先生
- ・居合道演武 立会 教士七段 吉岡 秀一 先生
演武者 六段 徳山 豊先生、六段 林 由美先生、六段 吉原 均先生、他小中学生

各演武をしていただきました先生方、どうもありがとうございました。

事業部では、一般男子及び一般女子の大会・予選会を各4回、少年の大会を2回、並びに剣道講習会を2回及び稽古始めを開催いたしました。合わせて「土用稽古」、「寒稽古」を行いました。来年度も多数の方が、大会・講習会に参加されますようお願いします。

審査部より

審査部長 佐藤 佳宏

令和元年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段

以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、居合道の部では、五段以下審査会（四回）等全て無事終えることができました。また、今年は今全剣連の居合道六・七段審査会並びに講習会が七月五日～七日の三日間にわたり徳島市立体育館で開催され運営に当たりました。

地元役員、審査員、剣道連関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼を申し上げます。

審査会の結果につきましては、居合道の部、受審者二十名、合格者二〇名、合格率一〇〇%、剣道初段以下の部、受審者一〇三八名、合格者一〇二二名、合格率九七%、剣道二～五段・称号の部、受審者二四四名、合格者二〇四名、合格率八四%となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、居合道六段三名、居合道教士一名、剣道六段四名、剣道七段六名、剣道錬士一〇名、剣道教士四名という結果でありました。合格の先生方は下記のとおりです。

〈居合道六段〉

吉原 均
林 由美
徳山 豊

〈居合道教士〉

一村 昌和

〈剣道六段〉

山崎 砂織（阿南支部）
東内 守（徳島支部）
島田 靖之（警察支部）
安田 勝裕（阿波支部）

〈剣道七段〉

敦賀 晋平（阿南支部）
河野 公雄（徳島支部）

丸岡 偉人（海部支部）
六條 洋二（警察支部）
乾 清孝（徳島支部）
福井 勝（阿南支部）

〈剣道錬士〉

大石 洋史（阿南支部）
北川 成仁（海部支部）
佐々木克哉（徳島支部）
岩本 一彦（板野東支部）
尾脇 広美（麻植支部）
松本 慎二（丹生谷支部）
喜浦理沙子（名西支部）
庄嶋 亮（三好支部）
小笠原 徹（徳島支部）
住友 久夫（阿南支部）

〈剣道教士〉

佐野 伸治（警察支部）
中尾 幸雄（徳島支部）
喜多 一幸（三好支部）
藤本 常己（三好支部）

強化部より

強化部長 平野 誠司

一 令和元年度実施結果

(一) 剣道連盟稽古会「強化稽古」

毎週木曜日一九〇〇～二一〇〇

中央武道館

(中央武道館改修工事期間)

毎週火曜日 警察学校で実施)

(二) 地区交流稽古会

○ 南部交流稽古会

四月二十七日 鷲敷B&G体育館

○ 西部交流稽古会

四月十二日 市立川島中学校体育館

十一月八日 協町中学校体育館

(三) 長期育成

(四) 強化訓練

○ 第二十四回

令和元年九月一日実施

那賀川スポーツセンター

○ 第二十五回

令和二年一月二十六日実施

那賀川スポーツセンター

講師・石田利也先生(警察大学校主)

任教授、元全日本男子監督)

(五) 強化遠征

○ 都道府県選手強化

男子京都遠征

四月五日～四月六日

女子広島遠征

六月二十九日～六月三十日

○ 国体選手強化

女子広島遠征

六月二十九日～六月三十日

男子奈良遠征

九月十四日～十五日

二 大会結果

(一) 四月二十九日

全日本都道府県対抗剣道優勝大会

初戦敗退

(二) 五月十九日

四国四県剣道大会 優勝

(三) 七月十三日

全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会

初戦敗退

(四) 八月十八日

国民体育大会四国ブロック大会

成年女子第三位

(五) 九月三十日～十月二日

国民体育大会 二回戦敗退

三 令和二年度強化計画

(一) 基本方針「新時代における文化的伝承

と競技力向上の共存」

○ 正しい剣道を共導し、心豊かなる剣

心を養成する。

～ 共習する稽古場の創造 (三世代教

習) ～

～ 武に向かう心の醸成 (魅力ある剣

道) ～

～ 理法 (刀法、心法、身法) に基づ

く指導)

○ 審判と指導、審査と指導を連携させ、

本県の剣道総合力向上を図る。

○ 全国規模の大会入賞を目指し、競技

力の向上を図る。

(二) 徳島県剣道連盟強化稽古会

毎週木曜日 中央武道館

一九〇〇～二一〇〇

(第一木曜日)

日本剣道形一九〇〇〇〇二〇〇〇

合同稽古二〇〇〇〇〇二二〇〇〇

(三)地区交流稽古会

「交剣知愛」の場作りとして継続実施する。

(四)長期育成強化訓練

小中高を一貫するジュニア強化・育成プロジェクト。基本錬成を中心に骨太剣士を育成する。(国体強化と連動)

少年部より

少年部長 松村和宏

少年部は例年と同じく、月に一度強化錬成を行っております。参加人数は月によって異なりますが八十名〜一二〇名となっております。令和元年四月の第一日曜日には、県下の道場及び剣道教室の指導者参加のもと米倉先生を講師にお願いし、錬成と審判講習を行いました。十月には、徳島消防局の方を講師に迎え保護者も子供達と一緒に救命法を勉強致しました。強化錬成は、県下各道場、教室の先生方二十名〜二十五名のご協力によって行われております。又月によって異なりますが、午後からは高年齢の先生方も指導稽古にご協力頂いております。

九月に全日本小中学生都道府県優勝大会に向けての参加資格選考方法は、月に一度の強化訓練の時に各コートに分かれ勝ち抜き戦を行い、上位に勝ち残った選手が県外遠征(岡山・兵庫・愛媛)に行き、その中

から勝率上位五名を選考して九月の大会に臨みました。おしくも本数差でリーグを勝ち上がる事は出来ませんでした。これも少年部一同は努力を重ね少年剣道発展の為に尽力してまいります。

皆様のご協力とご指導を心からお願いしたいと思っております。今年度の皆勤賞は三十名です。賞状は剣道連盟より各道場及び教室に送ります。

一年間ご指導して頂きました先生方、本当に有難う御座いました。

女子部より

女子部長 竹内 佳代子

〈女子大会の結果〉

県内行事

①徳島県女子剣道大会（九月八日）

ソイジョイ武道館

団体戦 参加 五チーム

優勝 教員剣美会（山本悠・長谷川・

山本千）

準優勝 あななん剣友会（生田・長地・

阿井）

第三位 川島剣友会（松下・岩崎・前

田）

個人戦 区分一（二十九歳未満）

参加者 十五名

優勝 長谷川愛実（教員剣美会）

準優勝 山本 千尋（教員剣美会）

第三位 吉田 歩生（大塚製菓）

山本 悠（教員剣美会）

個人戦 区分二（二十歳以上）

参加者 三名

優勝 前田奈々枝（川島高校剣友会）
準優勝 阿井 恵子（あななん剣友会）

県外行事

①全国都道府県女子剣道大会（七月十三日）

日本武道館

一回戦 徳島 〇―三 山梨

②国体四国ブロック予選（八月十七日）

愛媛県

徳島 〇―三 愛媛

徳島 三―〇 香川

徳島 〇―三 高知 一勝二敗 三位

③全日本女子剣道選手権大会（九月八日）

長野県

一回戦 鈴木選手 一メ 荒井選手（埼

玉県）

〈女子講習会への参加〉

①全剣連が主催する第五回女子剣道指導法講習会に、竹内と前田奈々枝先生とで参加。

期日 二月二十三日（土）～二十四日

（日）

場所 兵庫県 ウィンク武道館

参加者数 全国から四十八名の五段以上

の女性の方が参加。

目的 剣道普及への貢献

内容と講師先生

（一日目）講話「女子指導者への期待」

（福本修二副会長）

日本剣道形（中田琇士先生）

木刀による剣道基本稽古法（遠藤勝雄先生）

互格稽古（加藤浩二先生）

（二日目）講義「剣道の指導について」

（大矢稔指導委員長）

青少年の指導（加藤浩二先生）

竹刀稽古法（小坂達明先生）

日本剣道形や木刀による基本稽古法について、細かく指導していただき、再確認ができたので、大変勉強になりました。

講話では、「指導者として望まれることは、一・教育者としての意識を持ち、高い剣道観をしっかりもつこと。二・規則を正しく運用させ、理解していること。三・常に裏づけをもって、

わかりやすく説明する能力を身につけること。」また、実際に指導する上で大切なことは、「一・個性に応じた指導。二・スキルに応じた段階的指導。三・適切な言葉による指導。四・師範を見せる。五・メンタルの指導」である。』と教えていただきました。

講習生の女性の方たちとも交流もあって、楽しく、でもみっちりと学ぶことができた貴重な二日間でした。

②全剣連が主催する第二十四回女子審判講習会に、竹内と平野悦子先生とで参加。

期日 五月十一日(土)～十二日(日)

場所 兵庫県 ウィンク武道館

参加者数 全国から二十四名の六段以上の女性の方が参加。

目的 審判技量の育成

内容

(一日目) 講話・要点説明・審判実技・稽古

稽古

(二日目) 審判実技

役員の先生 張富士夫会長、福本修二副

会長、奥島快男副会長、稲川泰弘専務理事、藤原崇郎試合・審判委員長
講師先生 豊村東盛先生、笠村浩二先生、山崎尚先生

『審判にとって大事なものは「適正・公平」。適正とは、有効打突の見極め(要件・要素の理解、技のちがいが、練度に応じた技の判定)・反則の見極めをまちがわないように審判することで、周りの人から常に審判されているという意識を持つことが大切である。公平とは、人間関係に左右されず、無^がであることである。』とご指導いただきました。改めて大切なことの再確認ができました。また、正しく判定するためには、自分自身の修練が必要で、日々の稽古の大切さも改めて感じるようになりました。

審判の位置取りなども細やかにご指導していただいたので、学んだことをしっかりと生かしていきたいと思えます。

〈女子部稽古会について〉

毎月一回の実施を目標として、基本を中心とした女子の稽古会を行っている。今年度も、四月当初に一年間の予定表を作成し、その計画に基づいて実施を行った。予定表については、徳島県剣道連盟女子部のグループLINEで知らせ、毎回連絡を行った。

①参加状況

○四月十三日(土) ソイジョイ武道館

(八名、高齢剣の先生方とも稽古をお願いすることができた。)

○六月三十日(日) 中央武道館

(七名)

○八月三十一日(土) ソイジョイ武道館

(八名)

○九月八日(日) ソイジョイ武道館

(女子剣道大会終了後、審判・役員の先生方と自由稽古)

○十月五日(土) ソイジョイ武道館

(一年生大会終了後実施、六名)

○十一月十六日(土) ソイジョイ武道館

(参加者四名と少なかったが、高齢剣

の先生方の稽古会に参加させていただき、その後女性だけで基本練習を行った。）

○十二月一日（土）高知県主催、近県女子剣道錬成会（二名参加）

○一月五日（日）北島北公園総合体育館 剣道連盟の稽古始めに参加。

○三月二十一日（土）ソイジョイ武道館
②成果と課題

・中央武道館が使用できなかった関係で、場所が鳴門市ばかりになってしまいました。そこで、次年度は稽古会場を「鳴門市」「徳島市」「阿南市」「阿波市」の四つの市に分けて実施します。三月中に計画を立て、剣道連盟のホームページやグループLINEで連絡します。

・女子部の稽古会と高齢剣の先生方の稽古会が二回ほど同じ日だったため、先生方に稽古をお願いすることができませんでした。ご指導いただき、また、たくさん元気をいただき、とても勉強になりました。ありがとうございます。

・今年度、女子部の稽古会に初めて参加

された方は一名です。これからも多くの女性が気軽に参加でき、わずか一時間という短い時間ではありますが、参加してよかったと思ってもらえるような充実した稽古会にできたらと思います。

・今年度は、六段に山崎砂織さんが昇段されました。今後も、昇段を目指されている女性の方の少しでも力になればと願います。

〈終わりに〉

女子部の皆様、今年度も仕事や家庭との両立で忙しい中、練習会や各種大会への参加、社会人大会のお手伝いなど、ご協力いただきありがとうございました。また、ご指導をいただいた先生方、大変お世話になりました。これからも、「女子部の稽古会に参加してよかった」「大会、錬成会に参加してよかった」と言ってもらえるようにしていきたいと思っています。そして、一人でも多くの女性の皆さまと剣を交える機会がもてること、また各種大会などに多くの方が参加し、活躍できることを目標に活

動していきたいと思えます。今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、お気づきの点やご要望がありましたら、お気軽に声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。

居合道部より

居合道部長 福井 勝

初めに、剣道連盟の皆様には夏の西日本居合道審査会・講習会へのご協力誠にありがとうございます。お礼申し上げます。

事業報告

講習会

【県内】

春季講習会 五月十二日

松茂第二体育館 参加二十七名

伝達講習会 九月十五日

論田B & G武道館 参加二十五名

秋季講習会 十一月十日

論田B & G武道館 参加二十三名

【県外】

四国合同稽古会 五月十九日

新居浜市山根総合体育館 参加十三名

地区講習会 七月六日

徳島市立体育館 参加三十三名

中央講習会 九月一日～九月二日

京都武道センター 参加二名

大会

【県内】

県下居合道大会 二月十六日

論田B & G武道館 参加者未定

【県外】

第五七回高知居合道大会

練成会 四月二十日

大会 四月二十一日 参加者十一名

第一一五回全日本演武大会 五月二日

京都武徳殿 参加者五名

第四十三回東北居合道大会

五月二十五日

燕市体育センター 参加者二名

第四八回香川居合道大会 九月二十八日

高松市総合体育館 参加者十五名

全日本居合道大会 十月十九日

高知県民体育館 参加者十二名

全国二十九位

第六十一回大阪居合道大会 一月十二日

エディオン・アリーナ大阪

参加者 八名

第四十六回北九州居合道大会

三月二十日 九州市立体育館

参加者 三名

強化練習会

六月～十月 十回開催

場所 鴨島第一中学校体育館

阿波市井沢公民館

剣道形

春・秋講習会午後から剣道形講習を実施。

審判部より

審判部部长 富 浦 廣 志

一、本年度の活動

○審判講習会の実施

平成三十一年三月二十四日

於 鳴門ソイジョイ武道館

参加人数 五十二名

担当 富浦廣志、白木洋一

①講義

ア 規則の改正点の解説

・竹刀の規定については、試合・大会だ

けのものではなく、普通の稽古中で事

故防止を図っていくことが必要。

・面、小手、稽古着については、規定外

と判断された選手については、反則等

は対処せず、次回大会には使用しない

よう指示を出さなくてはならなくなる。

・年度をまたいでの運用となり、本年度

完全実施するかどうかは、各種団体

(中体連・高体連)の全国大会での運

用の是非をまっして実施するかどうかを

決定する。

②実技

ア 発声、所作確認、反復練習

イ 位置取り

・二等辺三角形の体感(紐を使つての位

置取り)

・試合者との距離感の確認

○各大会での審判研修の実施

ア 審判技能に不安のある先生、若い先

生を中心に、五十代熟練者が指導者と

してついで研修を行った。

イ 昼食時や団体戦一試合終了後審判研

修を実施。

ウ 役員の先生方へのアンケートの実施

・運営、生徒の所作作法の指導不足の点、

着装審判の位置取りなどを指摘してい

ただいた。

○審判依頼

剣道連盟主催大会において、審判依頼

を行っている。

二、来年度の活動について

○全剣連重点指導の徹底

ア 警告、表示を正確に、明確に行う。

イ 「有効打突」及び「反則行為」の見極め。

・適正公平に審判

私的な感情をなくし公平に(＝信頼性)

審判員も見られている意識で

・規則に載っていないことが起こったら

第一条に照らし合わせて判断する(剣

道がより正しい方向に向かえるか判断

する)

・成人は成人の、少年は少年の、それぞ

れの適性を見極めて。

・罅迫り合いの「空費」「不当」

「受けてから入って罅迫り合いに」

意識がなくても、組み立てがそうなっ

ているものも取っていく。

(不当な行為として判断する)

○規則の改定がスムーズに移行されるよう

に啓発を行う。運用に伴い、適正に運用

されているかの評価を行う。

「審判が良くなれば、剣道が良くなる」

審判講習会や、各種大会を通して、審判技

能の向上や、審判員としての資質向上を図

ていきたい。

中体連より

中体連部長 佐藤 浩

○令和元年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	1.5.25	1.7.6	1.11.4	2.1.18	1.5.25	1.7.6	1.11.4	2.1.18
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	35校	39校	30校	32校	20校	24校	22校	24校
優勝	那賀川	那賀川	那賀川	徳島	徳島	徳島	那賀川	那賀川
準優勝	徳島文理	小松島	徳島文理	北島	那賀川	那賀川	石井	石井
第3位	小松島	徳島文理	北島	小松島	海陽	藍住	土成	徳島
第3位	徳島	徳島	徳島	徳島文理	鳴門市第一	徳島文理	徳島	木頭・高浦

県総体個人

令和元年七月七日(日)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 橋本 青空(那賀川)

準優勝 富田将太郎(北井上)

第三位 添木 陽仁(徳島)

岩谷 愛夢(小松島)

女子

優勝 岩原 千佳(徳島)

準優勝 小山田奈央(那賀川)

第三位 小島 理奈(那賀川)

古川ちひろ(徳島文理)

四国総体

令和元年八月七日(水)

愛媛県武道館

〈団体戦 男子〉

那賀川中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

小松島中学校 予選リーグ四位

(予選敗退)

〈団体戦 女子〉

徳島中学校 優勝

(決勝 徳島三〇〇桜町)

那賀川中学校 第三位

(那賀川 二一二(本) 徳島)

〈個人戦 男子〉

橋本 青空(那賀川) 優勝

岩谷 愛夢(小松島) 二回戦

藤本 豪太(貞光) 二回戦

川口 寛太(小松島) 二回戦

富田将太郎(北井上) 一回戦

添木 陽仁(徳島) 一回戦

永濱 聡良(北島) 一回戦

秋山 颯汰(徳島文理) 棄権

〈個人戦 女子〉

岩原 千佳(徳島) 三回戦

小山田奈央(那賀川) 二回戦

小島 理奈(那賀川) 一回戦

古川ちひろ(徳島文理) 一回戦

篠原 紗也(徳島) 一回戦

鳥澤 明末(海陽) 一回戦

松山 若樹(徳島) 一回戦

山名 来実(那賀川) 一回戦

全国中学校大会

令和元年八月二十一日(水)〜二十三日(金)

丸善インテックアリーナ大阪

〈団体戦 男子〉

那賀川中学校 予選リーグ敗退

(二分一敗)

〈団体戦 女子〉

徳島中学校 予選リーグ敗退

(二分一敗)

〈個人戦 男子〉

橋本 青空(那賀川) 三回戦敗退

富田将太郎(北井上) 一回戦敗退

〈個人戦 女子〉

岩原 千佳(徳島) 三回戦敗退

小山田奈央(那賀川) 一回戦敗退

全国都道府県対抗少年剣道大会

令和元年九月十五日

丸善インテックアリーナ大阪

監督 兼松 佳史(徳島)

コーチ 長地 千景(那賀川)

先鋒 岩原 千佳(徳島)

次鋒 小山田奈央(那賀川)

中堅 添木 陽仁(徳島)

副将 富田将太郎(北井上)

大将 橋本 青空(那賀川)

〈予選リーグ〉

徳島 二―三 岐阜

徳島 〇―三 北海道

県内行事

○県下三地域(中部・西部・南部)で指導者講習会実施

○八月二十五日 第十九回県中夏季錬成会

県内中学校 三十一校

延べ人数二四〇名参加

○徳島県中学校剣道一年生大会

十月五日(土)実施

〈男子団体〉

優勝 徳島中学校A

〈男子個人〉

優勝 桑原 康輔(羽ノ浦中学校)

〈女子団体〉

優勝 国府中学校

〈女子個人〉

優勝 福岡 詩(木頭中学校)

○剣道連盟稽古始め参加

○第十五回四国中学校新人剣道大会

令和二年三月一日(日)阿波中体育館

優秀選手

男子二十三名、女子二十一名(新聞発表済)

み)

○令和元年度中学校剣道部員数

() は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	111人 (105人)	108人 (123人)	116人 (113人)	335人 (341人)
女子	63人 (66人)	63人 (67人)	65人 (62人)	191人 (195人)
合計	174人 (171人)	171人 (190人)	181人 (175人)	526人 (536人)

高体連より

高体連剣道専門部委員長

玉田 晋 作

一、大会報告

全国大会

○平成三十年全国高校選抜大会

・平成三十一年三月二十七日・二十八日
於 愛知県春日井市総合体育館

・男子 阿南工・阿南光高校 二回戦敗退
・女子 富岡東高校 一回戦敗退
川島高校 一回戦敗退

○令和元年度インターハイ

・令和元年八月四日～六日
於 熊本県立体育館

・男子団体 城北高校 予選リーグ敗退
・女子団体 富岡東高校 予選リーグ敗退
・男子個人 大空航己(城北) 四回戦敗退
松本喜起(城北) 二回戦敗退
・女子個人 岡崎 理(富岡東) 三回戦敗退
朝田萌香(富岡東) 二回戦敗退

四国大会

○令和元年度四国高等学校剣道選手権大会

・令和元年六月十五日・十六日
於 鳴門ソイジョイ武道館

・男子団体 城北・徳島文理・川島・阿南
光が出場 城北が第三位入賞
・女子団体 富岡東・富岡西・川島・城北
が出場 富岡東が第三位入賞
・男子個人 県高校総体個人ベスト八進出
選手が出場 松本喜起(城北)
が三位入賞
・女子個人 県高校総体個人ベスト八進出
選手が出場

○令和元年度四国高等学校剣道新人大会

・令和元年二月一日・二日
於 愛媛県武道館

・男子団体 富岡西・川島・城北・鳴門渦
潮が出場 富岡西が準優勝
・女子団体 富岡東・富岡西・城北・川島
が出場
・男子個人 県高校剣道選手権大会ベスト
八進出選手が出場 大城(富
岡西)が準優勝 松本(城北)

が三位入賞

・女子個人 県高校剣道選手権大会ベスト
八進出選手が出場 塚田(富
岡東)が三位入賞

国体四国ブロック予選大会

・令和元年八月十八日
於 愛媛県武道館

・少年男子
監督 福多 雅英
コーチ 大石 真也
選手 大空 航己(城北)
大城 穂高(富岡西)
河野 寛之(阿南光)
松本 喜起(城北)
熊橋 知晃(城北)
原田 和佳(徳島文理)
末光 春樹(鳴門渦潮)

結果 三戦三敗で四位、国体出場なら
ず。

・少年女子
監督 長井 薫
コーチ 岩原 靖人
選手 田村 眞尋

岩本 楓華

塚田 志緒

岡崎 理

朝田 萌香

和田津凜紅

福田 優那（以上富岡東）

結果 三戦一勝二敗で三位、国体出場

ならず。

県内大会（高体連主催、後援の大会）

○第四十四回徳島県剣道連盟会長杯争奪

剣道大会

・平成三十一年四月二十一日

於 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十八校

①城北 ②川島 ③徳島文理・阿南光

・女子 参加校数七校

①富岡東 ②富岡西 ③川島・城北

○第五十九回徳島県高校総合体育大会

・令和元年六月一日・二日

於 那賀川スポーツセンター

・男子団体 参加校数二十校

①城北 ②徳島文理 ③川島・阿南光

・女子個人 参加校数八校

①富岡東 ②富岡西 ③城北・城ノ内

・男子個人 参加人数一六三名

①大空（城北） ②松本（城北）

③河野（阿南光）・片岡（徳島文理）

・女子個人 参加人数七十一名

①岡崎（富岡東） ②朝田（富岡東）

③岩本（富岡東）・塚田（富岡東）

※右線全国大会出場

○第五十三回徳島県高等学校剣道選手権大会

・令和元年十一月十七日

於 那賀川スポーツセンター

・男子 参加人数九十六名

①松本（城北） ②住友（富岡西）

③大城（富岡西）・大空（城北）

※右線全国大会出場

・女子 参加人数四十八名

①岡崎（富岡東） ②北林（富岡東）

③福田（富岡東）・桑村（富岡西）

○第六十四回徳島県高等学校新人大会兼全

国選抜大会予選

・令和二年一月十二日

於 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十三校

①富岡西 ②川島 ③城北・鳴門渦潮

・女子 参加校数六校

①富岡東 ②富岡西 ③城北・川島

※右線全国大会出場

県内大会（高体連主催、後援 以外で高校

生が参加した県内の大会）

○第四十四回山家旗争奪県下剣道大会

・平成三十一年四月二十八日

於 那賀町B&G海洋センター体育館

○阿北地区剣道大会

・令和元年九月十六日

於 石井中学校体育館

○清原杯争奪第六十二回県下剣道大会

・令和元年十一月三日

於 阿南市総合スポーツセンター

二、強化事業

○平成三十年徳島県高体連春季強化錬成会

・平成三十一年三月十六日・十七日

於 阿南市総合スポーツセンター

・参加校

招待校

（男子）育英高校・桜丘高校・浜名高校

（女子）筑紫台高校・菊池女子高校

県外参加校数

男子二十三校 女子二十四校

県内参加校数

男子十三校 女子九校

参加人数 約五三〇人

○令和元年度徳島県国体少年の部強化錬成会

・令和元年十二月二十八日・二十九日

於 徳島市立体育館・徳島北高校・鳴門

渦潮高校

・参加校

招待校

(男子) 島原高校・東海大浦安高校

(女子) 東奥義塾高校・須磨学園高校

県外参加校数二十五校

県内参加校数十四校

参加人数 約五〇〇人

三、人口調査

・令和元年度高体連加盟校数・人数

男子 一六六名

女子 七十六名

男女合計人数 二四二名 (別表参照)

1. 徳島県内の高校剣道部員占有率

	H16年度	H21年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
高校剣道部員人口	444	299	261	241	249	243	242
15歳～17歳人口	26,343	22,479	20,966	21,155	20,663	20,043	19,354
剣道部員占有率	1.685%	1.330%	1.245%	1.139%	1.205%	1.212%	1.250%

2. 徳島県内の高1から高3までの剣道部員継続率

	H16年度入学			H21年度入学			H26年度入学		
	男子	女子	男女計	男子	女子	男女計	男子	女子	男女計
高1時部員数	122	64	186	88	32	120	60	31	91
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
高3時部員数	88	44	132	68	27	95	51	20	71
継続率	72%	69%	71%	77%	84%	79%	85%	65%	78%
	H27年度入学			H28年度入学			H29年度入学		
	男子	女子	男女計	男子	女子	男女計	男子	女子	男女計
高1時部員数	73	24	97	53	28	81	68	24	92
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
高3時部員数	63	18	81	45	27	72	64	25	89
継続率	86%	75%	84%	85%	96%	89%	94%	104%	97%

3. 中3から高1時の剣道部員継続率

	H21年度入学			H27年度入学			H28年度入学		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
前年時中3時部員数	164	67	231	162	67	229	115	75	190
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
高1時部員数	88	32	120	73	24	97	53	28	81
継続率	54%	48%	52%	45%	36%	42%	46%	37%	43%
	H29年度入学			H30年度入学			H31年度入学		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
前年時中3時部員数	162	74	236	116	62	175	113	62	175
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
高1時部員数	68	24	92	54	28	82	50	25	75
継続率	42%	32%	39%	47%	45%	47%	44%	40%	43%

「傾向と課題」

一 一の県内の十五歳～十七歳における剣道部員占有率では、十五年前、十年前と比較して減少傾向にある。今後、県内の人口減少が確実なことから県下の高校剣道部員数の減少は更に進むと思われる。

二 二の高校生の剣道部継続率では、十五年前が約七割、十年前が約八割の生徒が三年間継続している。ここ数年の継続率は約九割と、以前より退部する生徒が少なくなっている。

三 三の中学三年生が高校に入学後剣道部に入部する継続率では、十年前は約五割となっているが、ここ数年は四割前後と減少傾向にある。

以上の観点から、徳島県の高校生の状況は、高校三年間剣道を継続する強い気持ちを持った生徒が熱心に三年間活動し、徳島県の競技力をリードしてくれている。その中には特色選抜により入学している生徒も多く含まれているものと思われる。しかし、別の言い方をすれば、それ以外の生徒が育っていないことになるのではないか。剣道は当然競技性的一面もあるが、それと平行して剣道の魅力を発信し剣道愛好家を育てる活動が必要ではないだろうか。

大学連より

大学連部長 木原資裕

一、第六十六回中四国学生剣道選手権大会

(令和元年六月九日)への出場(松山)

○一回戦敗退

- ・中野 輝一(徳大)
- ・西井 直道(徳大)
- ・野間 栄輔(徳大)

- ・生城 暢大(鳴教大)

- ・吉岡 雄志(文理大)

- ・諸石 新(文理大)

- ・南原 千稜(文理大)

- 二回戦敗退 高千穂泰介(文理大)

- 五回戦敗退 鳴川了介(徳大) ベスト

- 十六 全日本学生選手権出場

- 二、第六十七回全日本学生剣道選手権大会

(令和元年六月三十日)への出場(大阪)

○一回戦敗退 鳴川了介(徳大)

- 三、第四十九回中四国女子学生剣道選手権

大会(令和元年六月九日)への出場

(松山)

場所 徳島文理大学体育館

日時 令和元年十一月十七日(日)

黒田木乃佳(文理)二人抜き

○一回戦敗退

- ・森川由実子(鳴教大)

- ・新谷 美和(徳大)

- ・三谷 真帆(徳大)

- ・弘光 美波(文理大)

- ・生田 朱音(文理大)

- ・松下 愛実(文理大)

○二回戦敗退

- ・須藤のぞみ(文理大)

四、第六十六回中四国学生剣道優勝大会

(令和元年九月八日)への出場(岡山)

○予選リーグ

- ・徳島大 一勝一敗 予選リーグ敗退

五、第四十五回中四国女子学生剣道優勝大会

(令和元年九月八日)への出場(岡山)

山)

○予選リーグ

- ・徳島大 二敗 予選リーグ敗退

六、第三十七回眉山杯剣道大会(徳島県学

生剣道選手権大会)ならびに第十三回

徳島県学生剣道東西對抗試合の実施

日時 令和元年十一月十七日(日)

場所 徳島文理大学体育館

参加者数…五十四名

(選手四十一名・役員審判十三名)

○選手権大会成績

男子 優勝 田邊 航(鳴教)

二位 久保田祥史(蔵本)

三位 中野 輝一(常三島)

竹村 大器(常三島)

女子 優勝 新谷 美和(常三島)

二位 川田 実央(常三島)

三位 黒田木乃佳(文理)

森川由実子(鳴教)

○東西対抗優秀選手

男子 竹村 大器(常三島) 六人抜き

田邊 航(鳴教) 大将・五人

抜き

手塚 美樹(蔵本) 三人抜き

諸石 新(文理) 三人抜き

杉山 拓之(四国) 四人抜き

女子 神里 命(四国) 一人抜き

新谷 美和(常三島) 一人抜き

大将

川田 実央(常三島) 一人抜き

黒田木乃佳(文理) 二人抜き

七、第三十九回中四国学生剣道新人大会

(令和元年十二月八日)への出場(広島)

○男子

一回戦 徳島大 一〇 環太平洋大 E

二回戦 徳島大 三〇 岡山大 D

三回戦 徳島大 一三 徳山大 A

○女子

一回戦 徳島大 〇一 鳥取大

鳴教大 〇一 環太平洋短大

八、大学連講習会

本年度三月実施予定の大学連講習会および中四国学生連盟のリーダーシップセミナーはコロナウイルス感染予防のため、中止となった。

九、総括

全日本学生選手権大会への予選を兼ねる中四国学生選手権大会において、鳴川了介(徳島大常三島)が五回戦まで進出し、全日本学生選手権大会に中四国代表として、出場した。結果は一回戦敗退であったが、徳島県からは平成二十六年の藤本稜(徳島大蔵本)以来の出場であった。二回戦進出者も二名あり、また、男

子新人戦においても徳島大が三回戦まで進出しており、昨年度よりはよい成果ができてきている。

しかしながら、全国的に見ると、スポーツ推薦枠を有している多くの大学では、専任の教員あるいは職員のポストがあり、剣道部員数も多く、指導陣・施設も充実しており、徳島県内の大学とその実力差がさらに大きくなっている現状である。



徳島県高齢剣友会より

事務局長 乾 清 孝

第三十二回全国健康福祉祭わかやま大会
剣道交流大会（白浜市）

十二月

南部稽古会（牟岐町）

ほか、原則、毎月第二、第四土曜日の稽古会（鳴門市）を開催しました。

各大会の様子は、参加者から個別にご報告をいただいておりますので、その他の活動について事務局からご報告します。

◎定例稽古会

今年度の定例稽古会会場は、これまでの松茂町第二体育館から鳴門市のソイジョイ武道館へと変更して開催したが、距離的な

問題から参加者は例年と比べて少なくなりましたが、女子部や県連主催の少年強化練習と合わせて開催したことで、剣道を始めたばかりの少年剣士に最高齢八十一才をはじめとする高齢者が交わって稽古をすることができ、次代を担う少年剣士の育成という高齢剣の使命を果たせることができました。

毎月の定例稽古会には、毎回、会員十八〜二十五名が参加して新鮮な心地よい汗を

流しています。

◎西部稽古会

七月六日（土）午後二時から、吉野川市美郷ふるさと交流センターで開催した西部稽古会には、稽古に三十四名の会員が参加し、冷房設備の恩恵を受け、酷暑の中で心地良い汗を流すことができ、引き続き第二道場（残心）のうどん亭八幡）では、十五名の会員が参加して温泉で疲れた身体を癒した後、剣道談議に盛り上がりました。

◎南部稽古会

年末の十二月二十一日（土）午後二時から、三木先生の提案と南部支部の先生方の世話役で今年度初めて牟岐中学校内のB&Gセンターで開催し、兵庫県から伊澤章先生（徳島市ご出身）のご参加を得て、稽古には三三名の会員が参加しました。

また、続く第二道場（残心）の民宿しらき屋では、まるで学生時代の合宿さながらの雰囲気の中で二十八名の会員が参加し、伊澤先生差し入れの濁り酒に酔いながら豪華な皿鉢調理（伊勢海老あり）に舌鼓を打ちました。

◎主な行事

開始しました。

四月

第六回四国高齢者剣道交流大会（高知

県開催）三連覇ならず（三位）

六月

第四一回全日本高齢者武道大会（日本

武道館）

七月

西部稽古会（吉野川市）

九月

第二十五回徳島県健康福祉祭剣道交流

大会（鳴門市）

十月

忘年会を兼ねていることもあり、稽古以上に先生方の攻めが夜を徹して厳しく行われるなど剣道談議が続きました。この楽しい気分が味わえるなら来年も牟岐での声も多くの参加者から聞こえていました。

◎その他

四月二十一日、名古屋市中村スポーツセンターで開催された選抜八段戦（本県からは平野先生が出場）を有志（世話役・吉田昌彦先生）で観戦しました。

前日の昼過ぎに到着し名古屋城見学と熱田神宮に参拝して戦勝を祈願し、夜はホテル近くの居酒屋で剣道談議に盛り上がりました。

当日は、一流剣士の試合を同じ空気の会場内（指定席）で観戦することができ、試合に臨んでの気迫や足さばき、打ちの鋭さに圧倒され、帰りの車中では全員がまるでカンフー映画を見た後のように興奮して、また剣道談議に盛り上がりました。



徳島県剣道稽古場所一覧（令和2年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島剣道教室剣道場	少年 (火・水) 17:30-19:30 (土) 16:00-
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年 (火・金) 19:00-21:00 (日) 18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小(木) 加茂名中(土) 加茂名南小(日)	少年 (木・土) 18:00-19:45 (日) 17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年 (木・土) 18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年 (水・土) 17:00-19:00 一般 (水・土) 19:00-21:00
	宅宮(えのみや)剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年 (土) 19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年 (火・土) 19:30-21:30 一般 (火・土) 21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年 (火・金) 19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年 (土・日) 17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場(火) 養武館道場(木・土)	少年 (火) 19:00-21:00 (木・土) 19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年 (火・金) 19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年 (火・木) 17:00-19:00 (日) 9:00-12:00
	滑東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年 (火・木・金) 19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般 (火・木・土) 19:00-20:00
	松紀和会道場	松村和宏 090-8970-4863	松紀和会道場	少年 (火・水・木・金) 19:00-20:30
日垂錬心塾	山本泰史 090-3780-9813	大松小学校(月・土) セント歯科(木)	(月) 18:10-19:30 少年 (木) 18:30-20:30 (土) 13:00-15:00	
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年 (火・木) 18:30-20:30 (土) 17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年 (月・水) 18:00-20:00 (土) 9:00-11:00 一般 (月) 20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年 (火・土) 18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年 (月・木) 19:00-20:30 一般 (月) 20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年・一般 (木・金・土) 19:00-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 (武道館)	少年・一般 (火・金) 19:00-22:00
	修武館道場	武田修典 080-5664-2686	修武館道場	少年 (月・水・木) 18:30-20:00 一般 (水) 18:30-20:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00-21:00
	土成町剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年（火・木・土）19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川 功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年・一般（水）19:30-21:30
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	日野利之 090-2783-3416	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	近久 寛 090-1329-7817	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	藤川和秋 090-2786-5975	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南少年剣道教室	中西 実 088-664-4879	阿南市武道館	少年(火・木・金) 19:00-21:00 一般(火・金) 21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年(火・木・土) 18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年(月・水・木) 18:30-20:30 一般(水) 21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館(火) 那賀川B&G体育館(水・金)	少年(火・水・金) 19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般(水) 19:30-21:00
	徳島剣清塾	河田 清実 090-1579-7001	阿南第一中学校剣道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B & G 海洋センター武道場	少年(水・金) 19:00-21:00 一般(水・金) 21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年(火・木・土) 16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般(月・水・金) 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年(月・水) 18:00-19:30 (金) 18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般(木) 19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251(梅山)	北小松島小学校体育館(月金) 小松島小学校体育館(水)	少年(月・水・金) 19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	園田慎吾 090-1572-3951	和田島小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年(火・土・日) 18:30-20:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般(月・水) 19:00-21:00 少年・一般(土) 18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年(月・木) 16:30-18:00 一般(水・第2金・第4金) 18:00-20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土 19:30-21:30
	久 武 館	瀬部克好	久武館道場	水・土 19:30-21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00
	高齢剣稽古会	乾 清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般 土 14:00~ 開催日は毎月変更(要確認)

居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。 居合道部

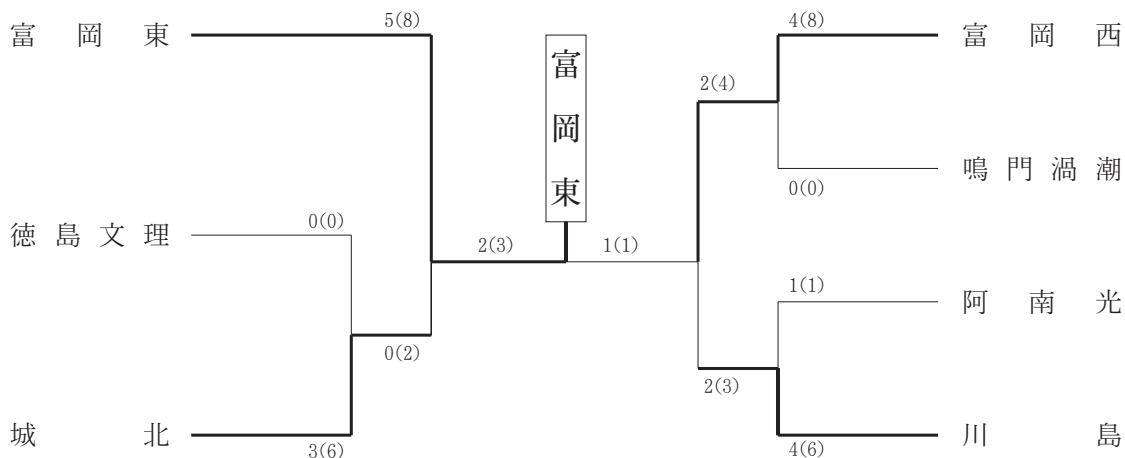
道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30 (少年)
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 五段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	四段・鎌田 貴 携帯 080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	教士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	錬士六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日 9:30～12:00 (第1・3土曜を除く) 日曜日 9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅 088-698-2970	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

令和元年度 大会 記録

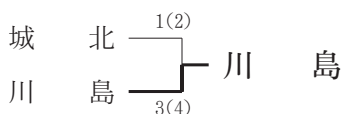
第44回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日時 平成31年4月21日
会場 鳴門ソイジョイ武道館

〈女子の部〉



順位決定戦



〈女子の部〉

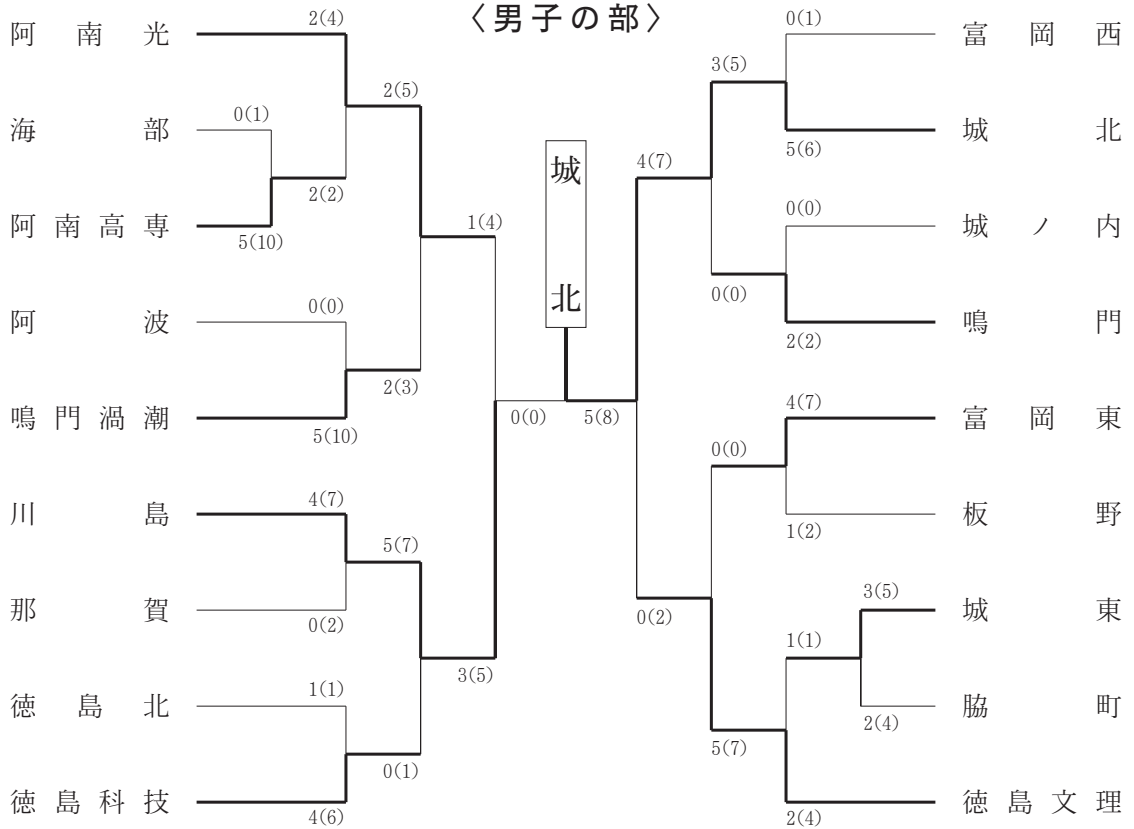
決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	馬見	福田	田村	和田津	大朝田	2	3	
	延長	一本勝	延長		一本勝			
富岡西	垣内	松葉	増井	桑村	藤原	1	1	

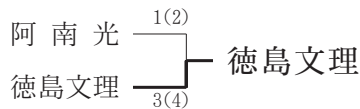
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	山本	佐藤	貴島	大西	大村本	1	2	
		一本勝						
川島	一本勝					3	4	
	笠井	中海	堀井	三笠	篠原			

〈男子の部〉



順位決定戦



〈男子の部〉

決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	井藤	山添	中吉岡	副江口	大熊橋	0	0	
城北	Ⓛ Ⓜ	延長 Ⓛ	Ⓧ Ⓧ	Ⓛ Ⓧ	一本勝 Ⓧ 松本喜	5	8	
	大空	松本尊	小山田	吉田				

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	富田	立石	上田	副津山	大河野	1	2	
	延長 Ⓧ	Ⓧ Ⓛ	延長					
徳島文理	一楽	佐藤	Ⓧ Ⓧ	Ⓧ Ⓧ	一本勝 ▲ 古川	3	4	
				一本勝 Ⓛ 片岡				

第48回 徳島県中学校剣道選手権大会

日 時 令和元年5月25日(土) 午前9時30分開会

場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

[団体戦]

順 位	男 子	順 位	女 子
優 勝	那賀川中学校	優 勝	徳島中学校
準優勝	徳島文理中学校	準優勝	那賀川中学校
第3位	小松島中学校	第3位	海陽中学校
第3位	徳島中学校	第3位	鳴門市第一中学校

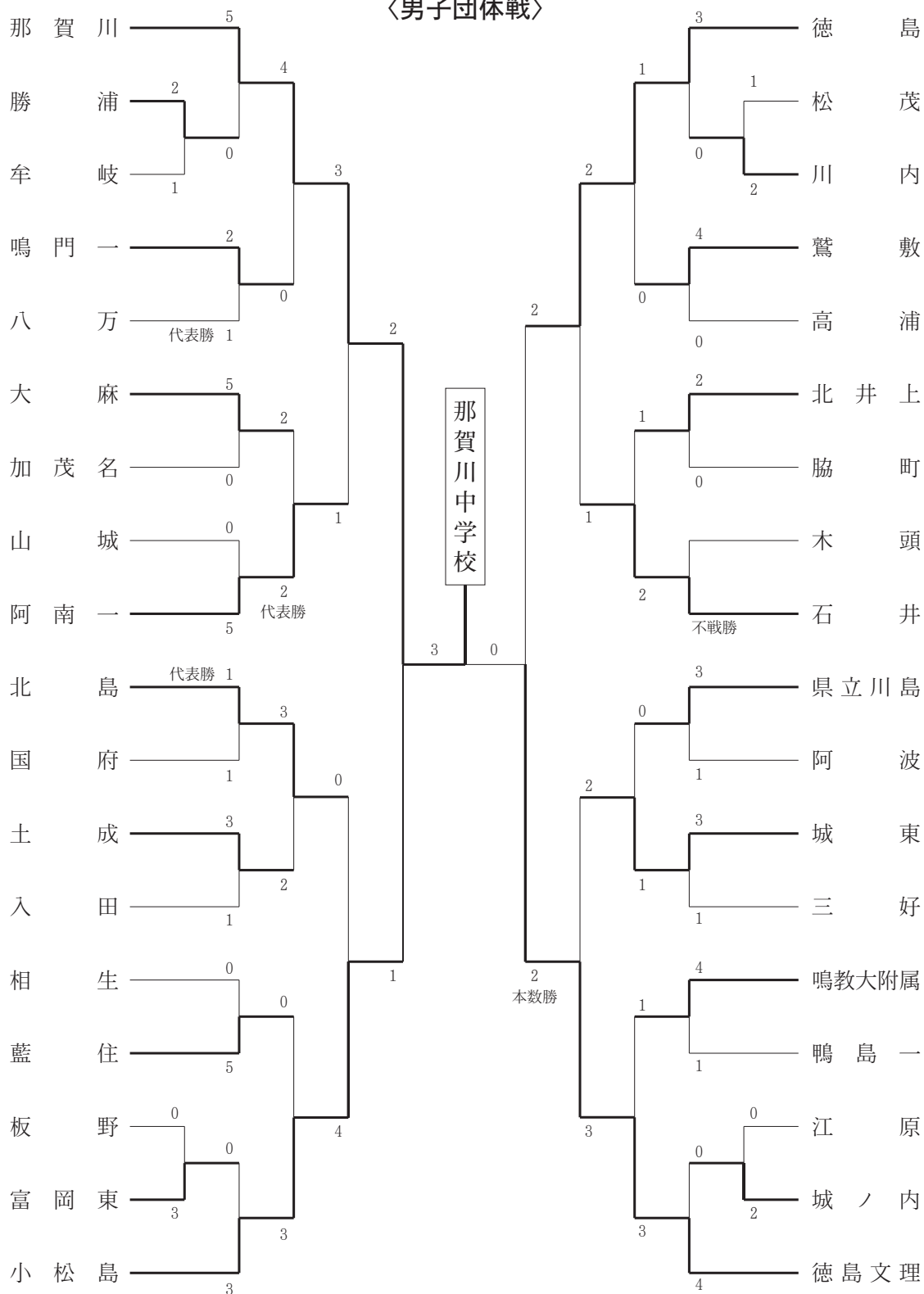
[男子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代 表 戦
那 賀 川	倉 橋	岡 崎	尾 畑	羽 坂	橋 本	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $\frac{4}{3}$ </div>	
	△	メ	メ	△	メメ		
徳島文理	内 海	横 手	佐 藤	森 脇	秋 山	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $\frac{0}{0}$ </div>	
	△			△			

[女子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代 表 戦
徳 島	松 山	曾 我	篠 原	赤 川	岩 原	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $\frac{5}{2}$ </div>	
	△	メ	△	コ	メメ		
那 賀 川	武 蔵	小山田	岩佐真	羽 坂	小 畠	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> $\frac{3}{1}$ </div>	
	△	コメ	△	コ			

〈男子団体戦〉

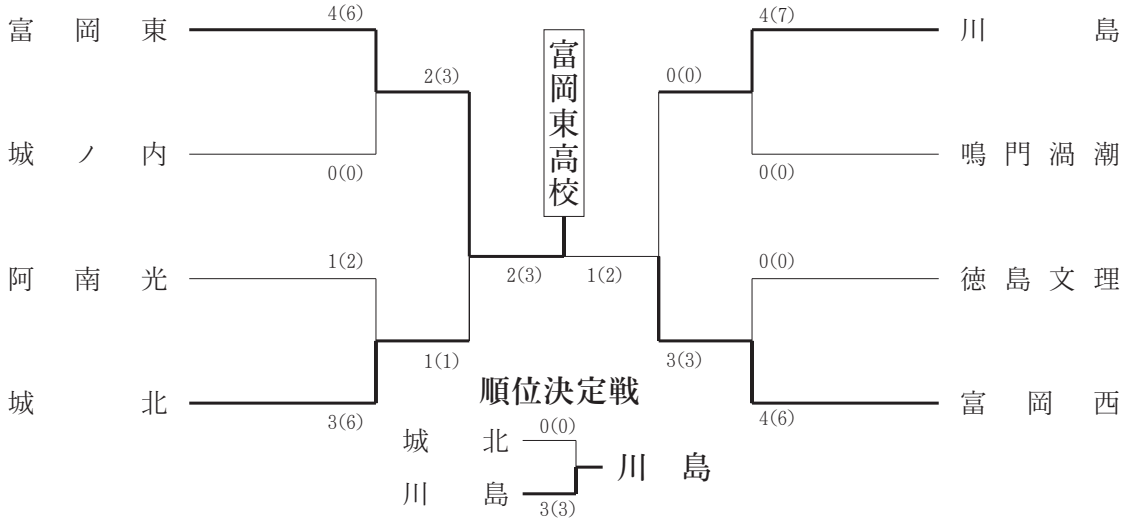


徳島県高等学校総合体育大会 剣道競技

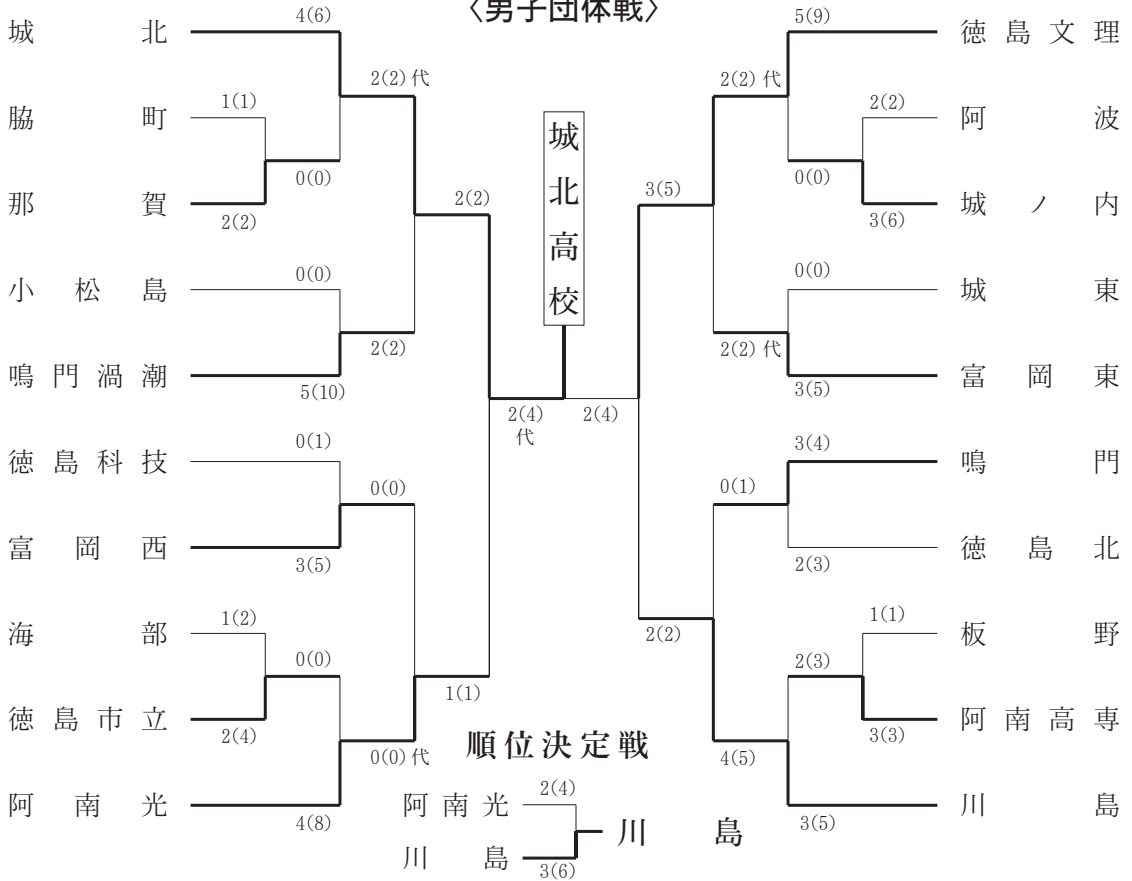
日時 令和元年6月1日(土)

会場 那賀川スポーツセンター

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	和田津	福田	田村	岡崎	朝田	2	3	
	延長	⊗ ⊙	延長	⊗一本勝				
城北						1	1	
	山本	佐藤	⊙ 貴島	大西	村本			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	笠井	正木	堀井	三笠	篠原	0	0	
			延長	延長				
富岡西	⊙ 一本勝 垣内	⊗ 一本勝 松葉	延長	⊗ 一本勝 増井	⊗ 一本勝 桑村	3	3	
					藤原			

3位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	山本	佐藤	貴島	大西	村本	0	0	
	延長							
川島	⊙ 一本勝 笠井	⊙ 一本勝 正木	⊗ 一本勝 堀井	⊙ 一本勝 三笠	篠原	3	3	

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	和田津	福田	田村	岡崎	朝田	2	3	
	⊙ ⊗		延長	⊗一本勝	延長			
富岡西		⊙ ⊗		▲	藤原	1	2	
	垣内	松葉	増井	桑村				

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	大空	松本尊	小山田	吉田	松本喜	2	2	
		延長	延長	⊗	⊙一本勝			
阿南光	⊗ 一本勝 富田	▲ 延長	▲ 延長	▲ 延長		1	1	
		上条	上田	津山	河野			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	一楽	湯浅	中原田	古川	片岡	3	5	
	⊙ ⊙	⊗ 一本勝 ▲			⊗ ⊙			
川島			一本勝 ⊙	一本勝 ⊗		2	2	
	井藤	山添	吉岡	江口	熊橋			

3位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	富田	上条	上田	立石	大河野	2	4	
	⊗	⊙一本勝 ▲	⊗一本勝	⊙				
川島	▲ ⊗ 井藤			⊗ ⊗	⊗ ⊗	3	6	
		山添	吉岡	江口	熊橋			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	大空	松本尊	小山田	吉田	松本喜	0	0	大空 ⊗
	⊙ ⊗	延長		⊗一本勝	⊗			
徳島文理	⊗ 一楽	▲ 湯浅	⊙一本勝 原田		⊗ ⊙	3	4	片岡
				古川	片岡			



第73回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日 時 令和元年7月6日(土) 午前9時40分開会
場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

順 位	男 子	順 位	女 子
優 勝	那賀川中学校	優 勝	徳島中学校
準優勝	小松島中学校	準優勝	那賀川中学校
第3位	徳島文理中学校	第3位	藍住中学校
第3位	徳島中学校	第3位	徳島文理中学校

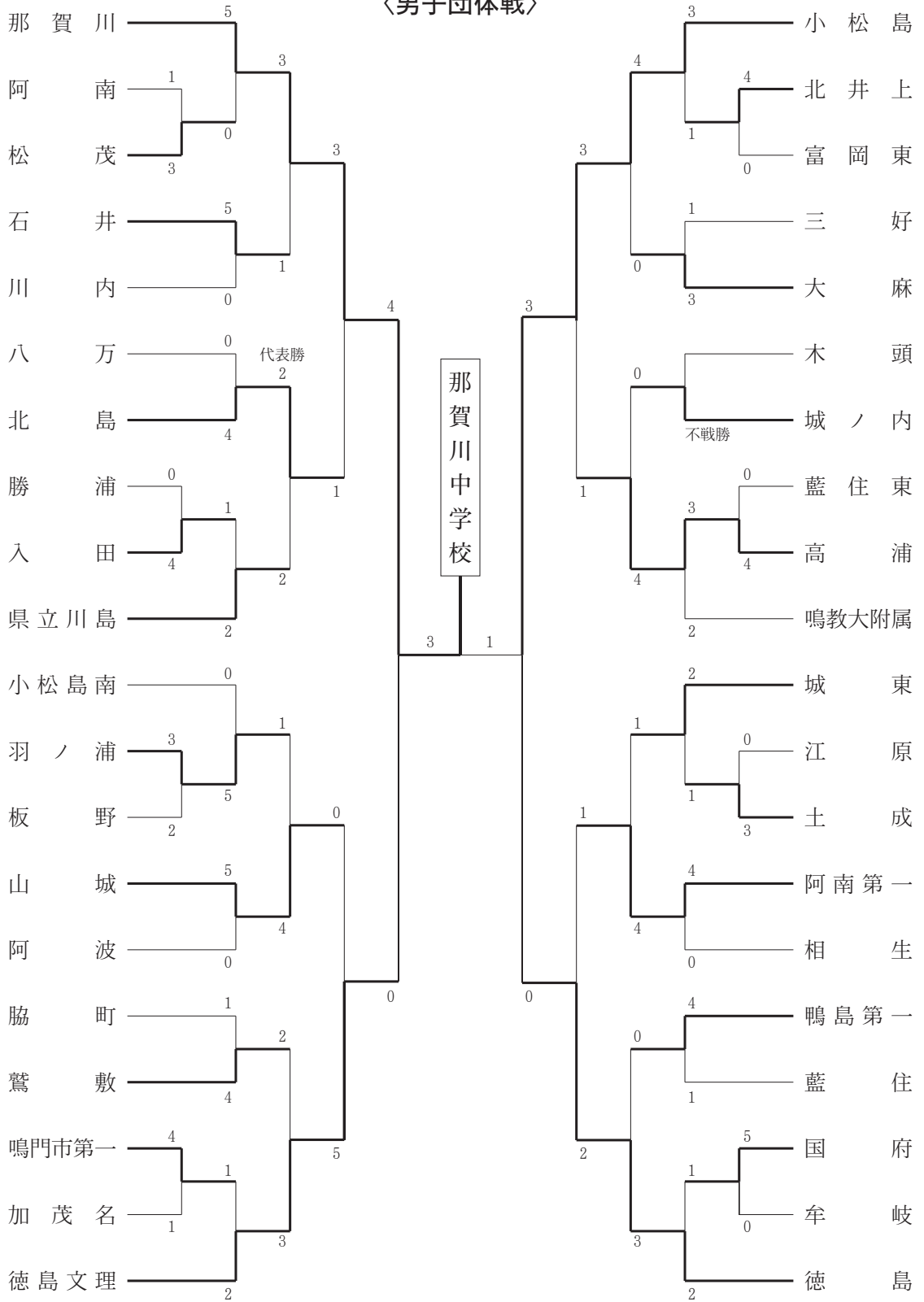
[男子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代 表 戦
那 賀 川	倉 橋	岡 崎	尾 畑	羽 坂	橋 本		
	メコ	メ		X	メコ		
小 松 島	メ		コ				
	桂	中 野	岩 谷	川 口	原		

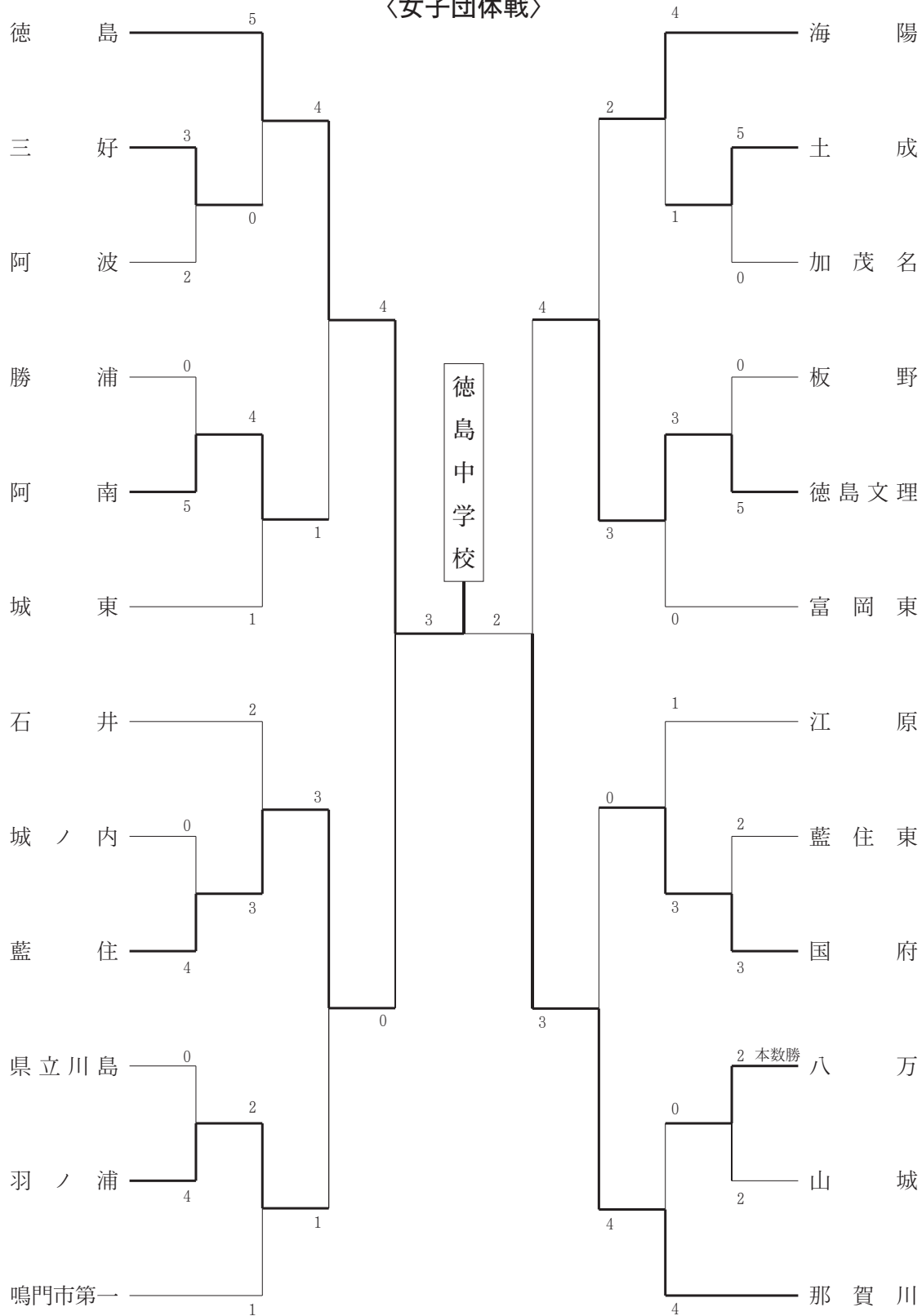
[女子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代 表 戦
徳 島	松 山	曾 我	篠 原	赤 川	岩 原		
	ドメ	メ		メド	メメ		
那 賀 川		コド	メメ	メ			
	武 蔵	小山田	山 名	羽 坂	小 畠		

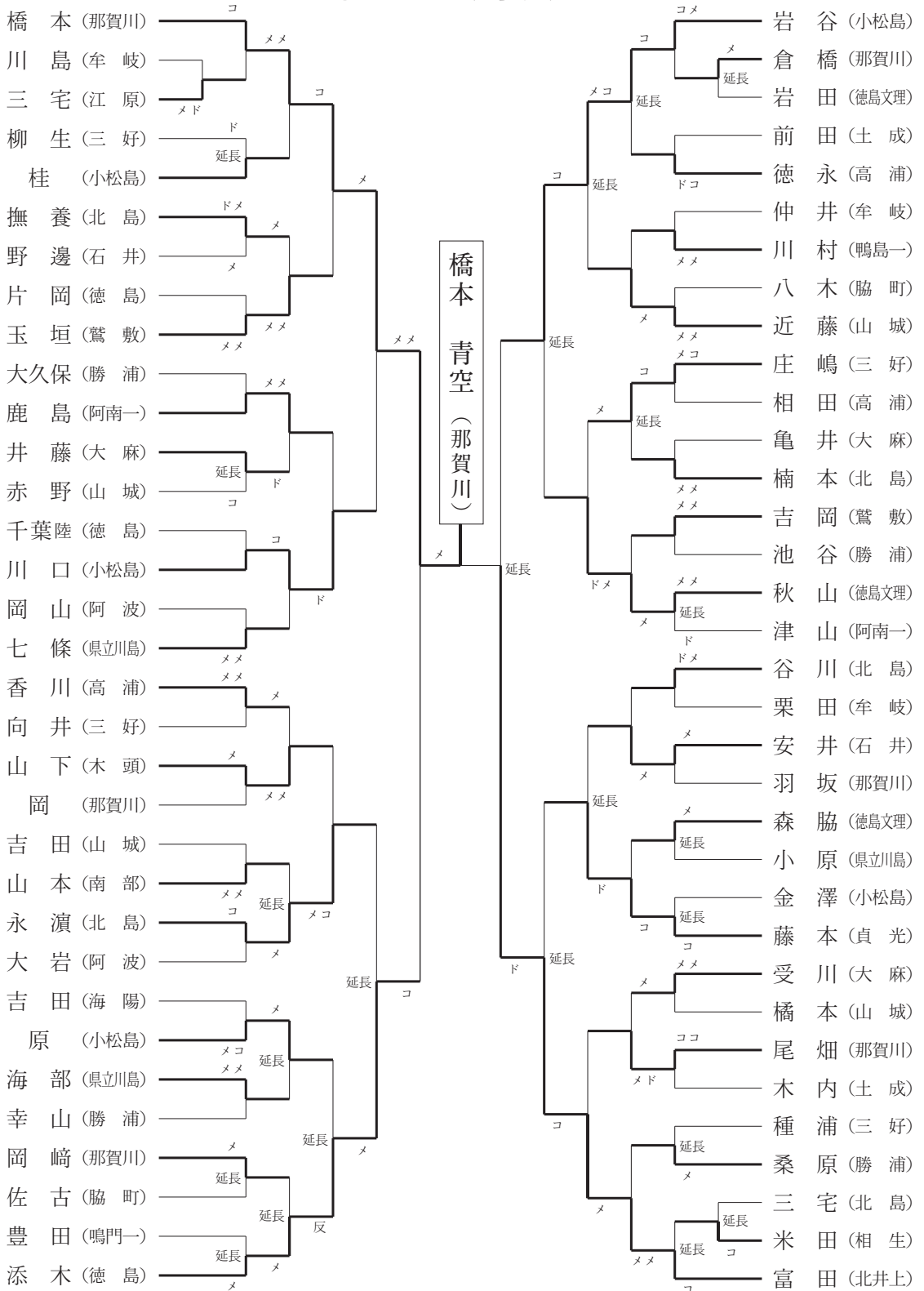
〈男子団体戦〉



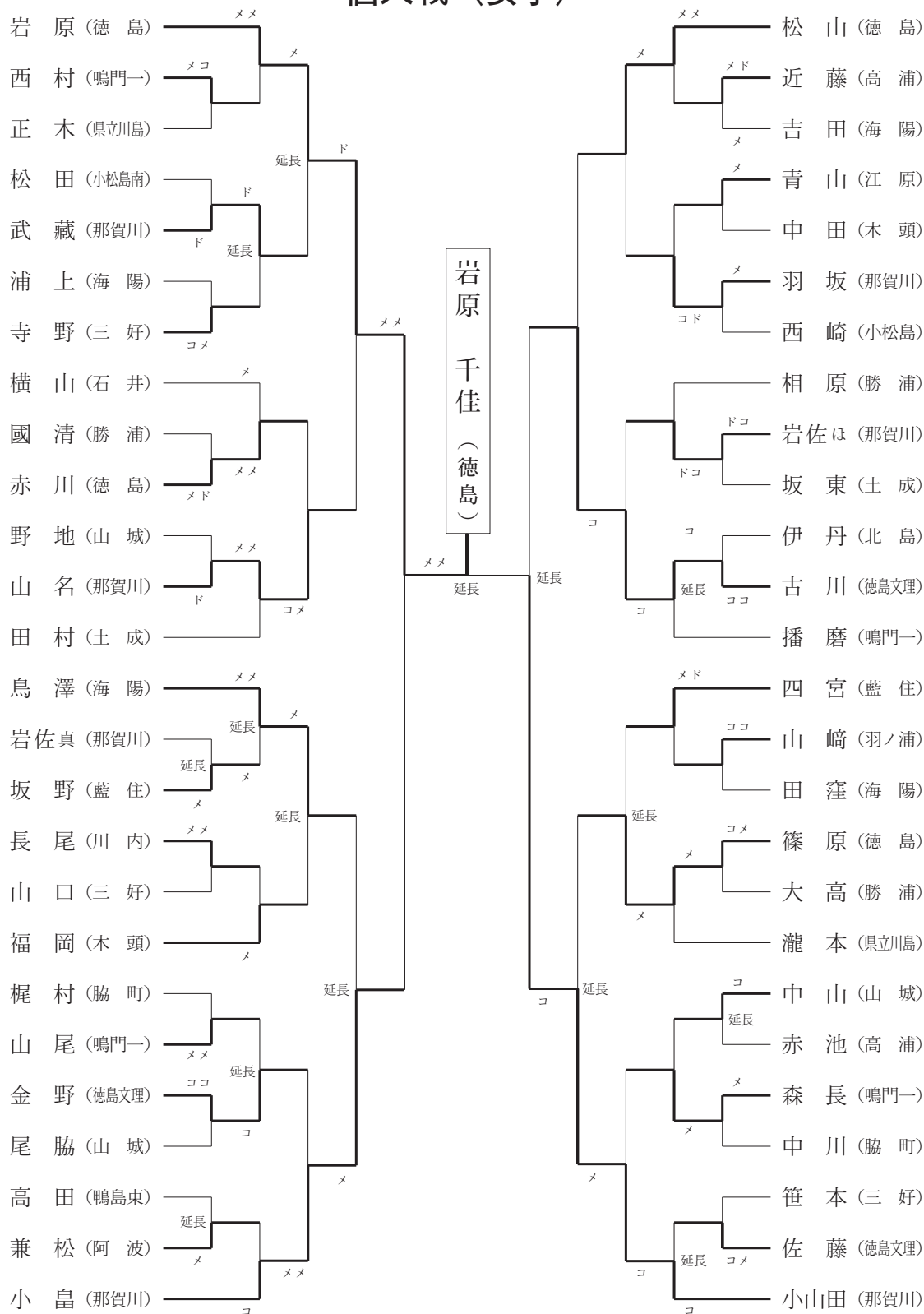
〈女子団体戦〉



個人戦〈男子〉

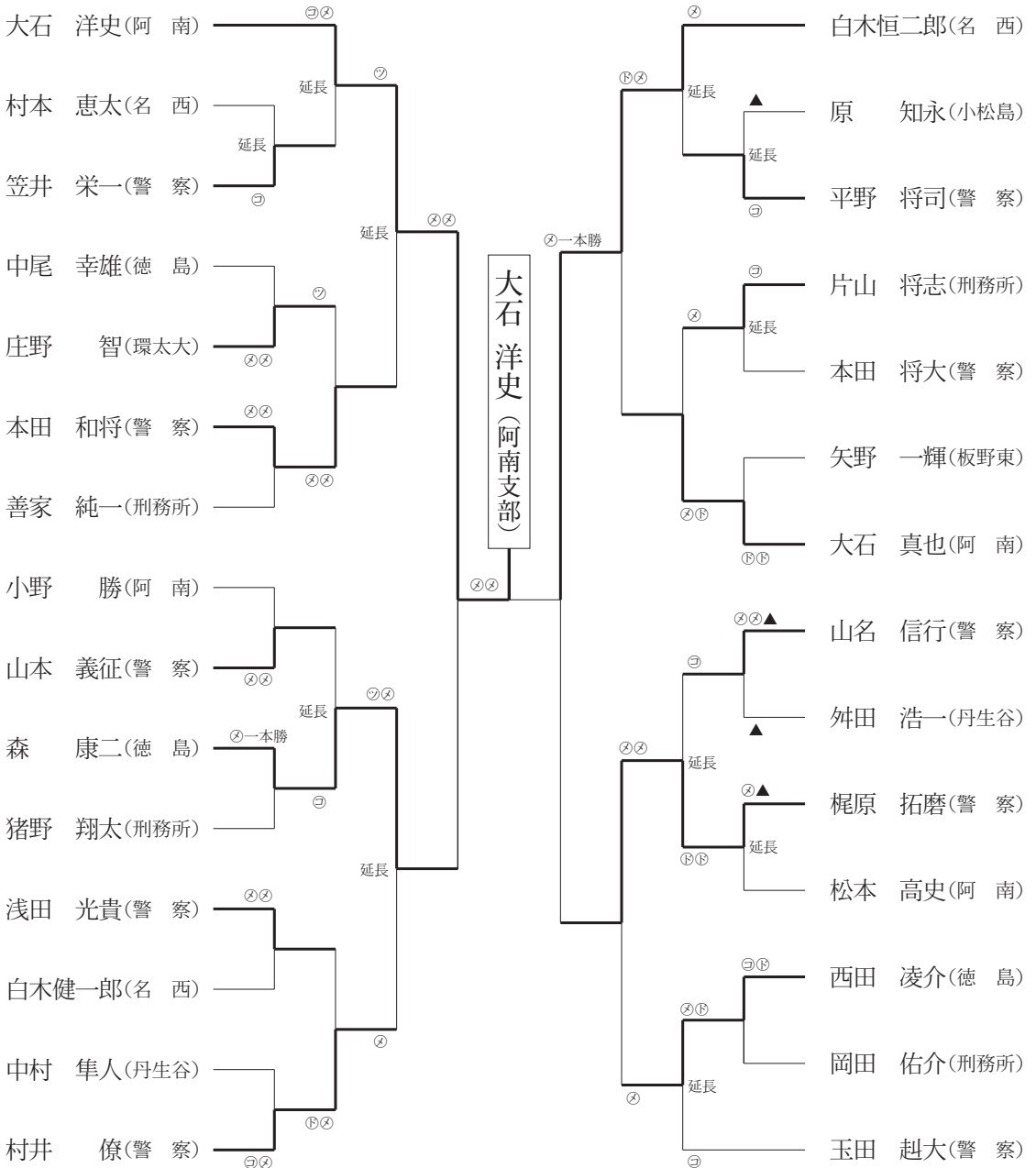


個人戦〈女子〉



第31回 徳島県剣道選手権大会並びに 第67回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 大石 洋史 (阿南支部)	日時 令和元年7月15日(月) 午前9時30分開会
準優勝 白木 恒二郎 (名西支部)	場所 鳴門ソイジョイ武道館
第三位 森 康二 (徳島支部)	
第三位 梶原 拓磨 (警察支部)	



第40回 徳島県女子剣道大会

団 体 戦

日 時 令和元年9月8日(日) 午前9時30分
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

優勝 教員剣美会 A

準優勝 あななん剣友会

第三位 川高剣友会

〈団体戦リーグ〉

	教員 剣美会	鳴門 教育大学	川高 剣友会	あな なん 剣友会	富岡 東 OG会	得 点	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
教員剣美会		$\frac{5}{3}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{1}{0}$	3.5	3	8	14	1
鳴門 教育大学	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	0.5	0	0	0	5
川高剣友会	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{2}$	2.0	1	3	4	3
あな なん 剣友会	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{3}{2}$	2.5	2	4	6	2
富岡 東 OG会	$\frac{1}{0}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		1.5	1	3	5	4

個人戦 <区分1>

優勝 長谷川 愛実 (教員剣美会)
 準優勝 山本 千尋 (教員剣美会)
 第三位 吉田 歩生 (大塚製薬)
 第三位 山本 悠 (教員剣美会)



個人戦 <区分2>

優勝 前田 奈々枝 (川高剣美会)
 準優勝 阿井 恵子 (あななん剣友会)

	阿井恵子	前田奈々枝	長地千景	勝数	勝本数	順位
阿井恵子	△	△	コ	1	1	2
前田奈々枝	メ	△	メ — メ	2	3	1
長地千景	▲	メ	△	0	1	3

第44回 徳島県中学校新人剣道大会

【 団 体 戦 】

日 時 令和元年11月4日(月) 午前9時30分開会
場 所 鳴 門 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

順 位	男 子	順 位	女 子
優 勝	那賀川中学校	優 勝	那賀川中学校
準優勝	徳島文理中学校	準優勝	石井中学校
第3位	北島中学校	第3位	土成中学校
第3位	徳島中学校	第3位	徳島中学校

[男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那 賀 川	岡 崎	岡	羽 坂	橋 本	倉 橋	○ $\frac{5}{2}$	
		コメ	メメ		ド		
徳島文理	メ			メ	コ	△ $\frac{3}{2}$	
	内 海	横 手	佐藤治	佐藤輝	森 脇		

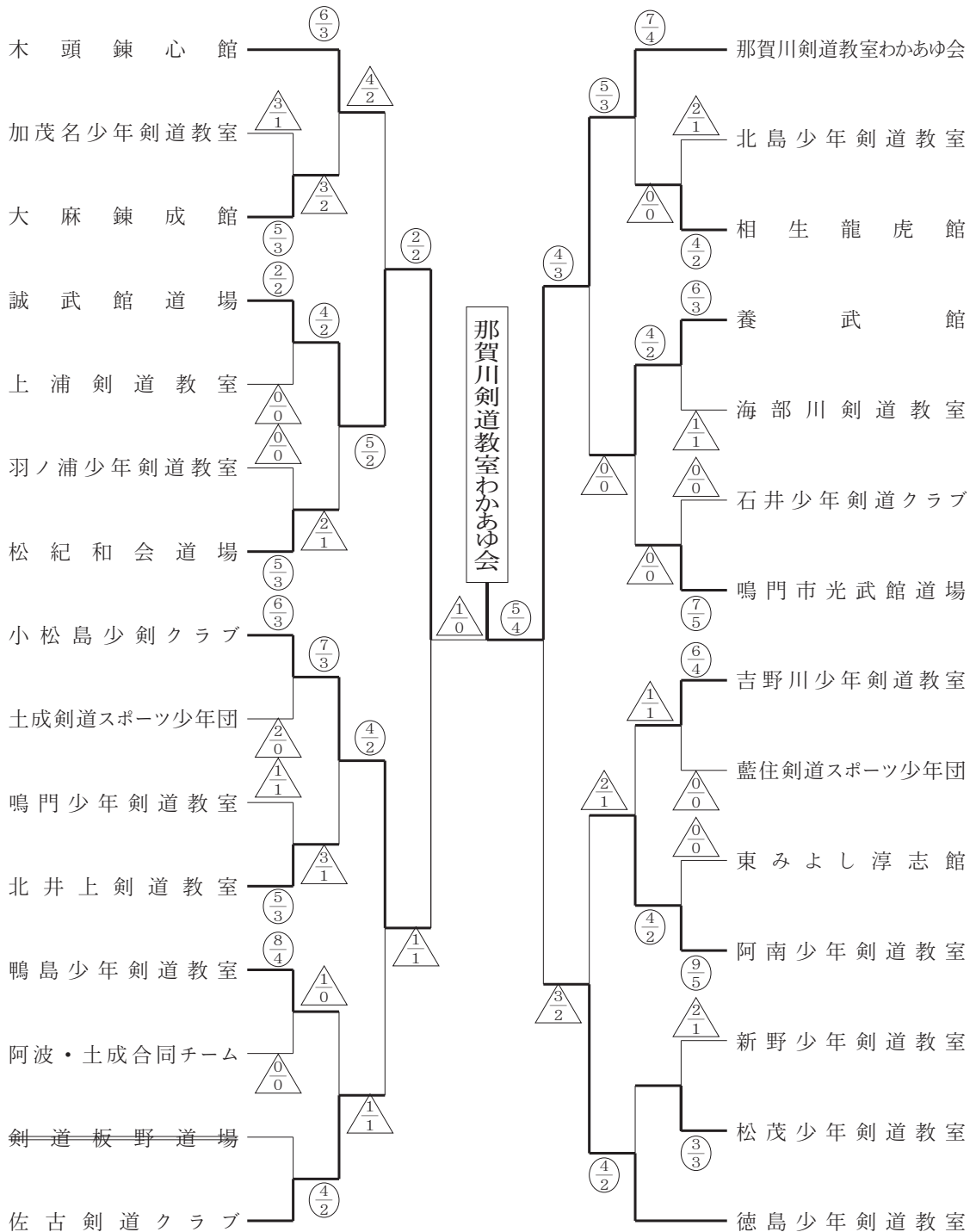
[女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
那 賀 川	武 藏	内 田	山 名	岩 佐	小山田	○ $\frac{3}{2}$	
			メ	ド	コ		
石 井		メ	メ			△ $\frac{2}{1}$	
	北 池	六 條	横 山	高 橋	森 本		

第50回 徳島県少年剣道優勝大会

団体戦

日時 令和元年11月10日(日) 午前10時00分
場所 松茂町総合体育館



準決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
誠武館道場	村瀬	中岡	入江	富永	中岡		2 — 2
		⊗ 一本勝			⊗ 一本勝		
小松島少剣クラブ	一本勝 ⊗						1 — 1
	大和	敦賀	吉岡	津島	岩本		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
那賀川 剣道教室 わかあゆ会	尾畑	仁尾	原	黒崎	平松		4 — 3
	⊗ ⊗	⊙ 一本勝			⊙ 一本勝		
徳島少年 剣道教室			一本勝 ⊙	⊗ ⊗			3 — 2
	野田	米倉	濱野	岡本	富増		

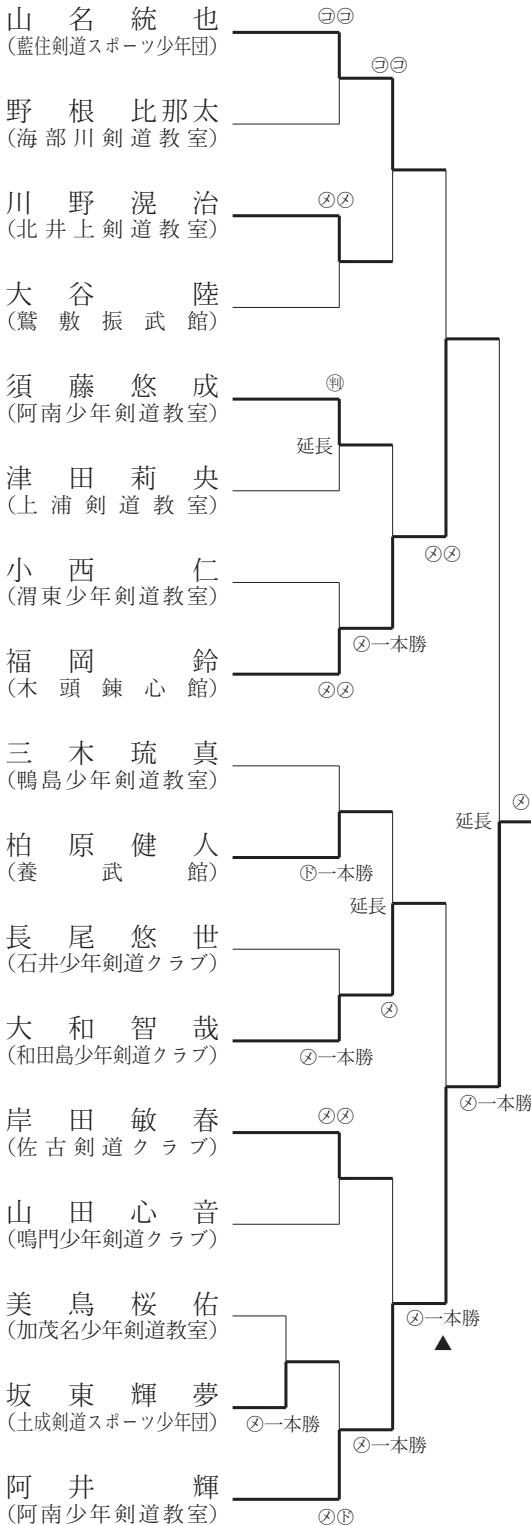
決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
誠武館道場	村瀬	中岡	入江	富永	中岡		1 — 0
				Ⓣ			
那賀川 剣道教室 わかあゆ会	一本勝 ⊙	一本勝 ⊙	一本勝 ⊗	⊗	⊗ ⊗		5 — 4
	尾畑	仁尾	原	黒崎	平松		

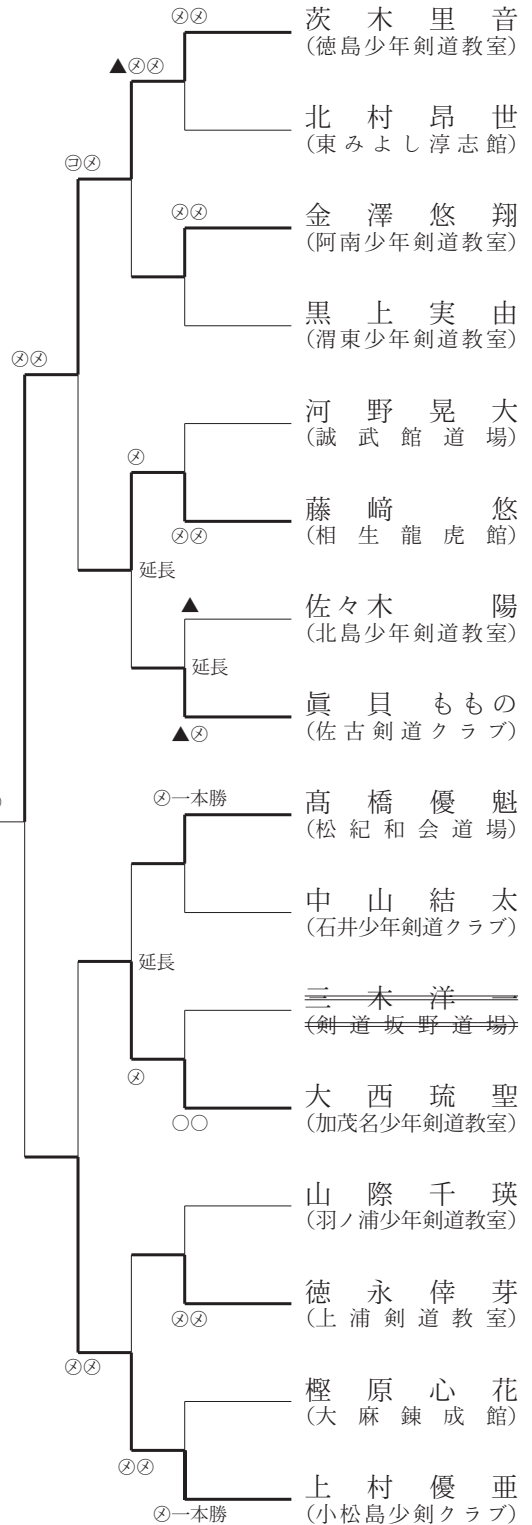
- 優勝 那賀川剣道教室わかあゆ会
 準優勝 誠武館道場
 第三位 徳島少年剣道教室
 第三位 小松島少剣クラブ

個人戦 (4年生)

〈D組〉

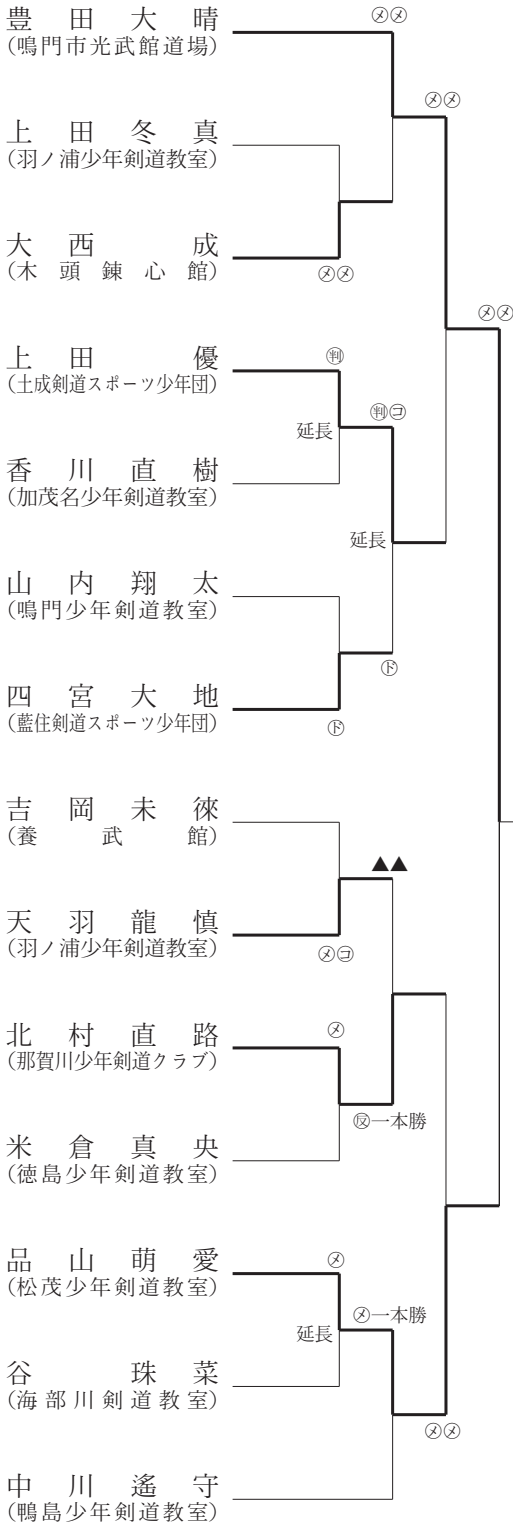


〈C組〉

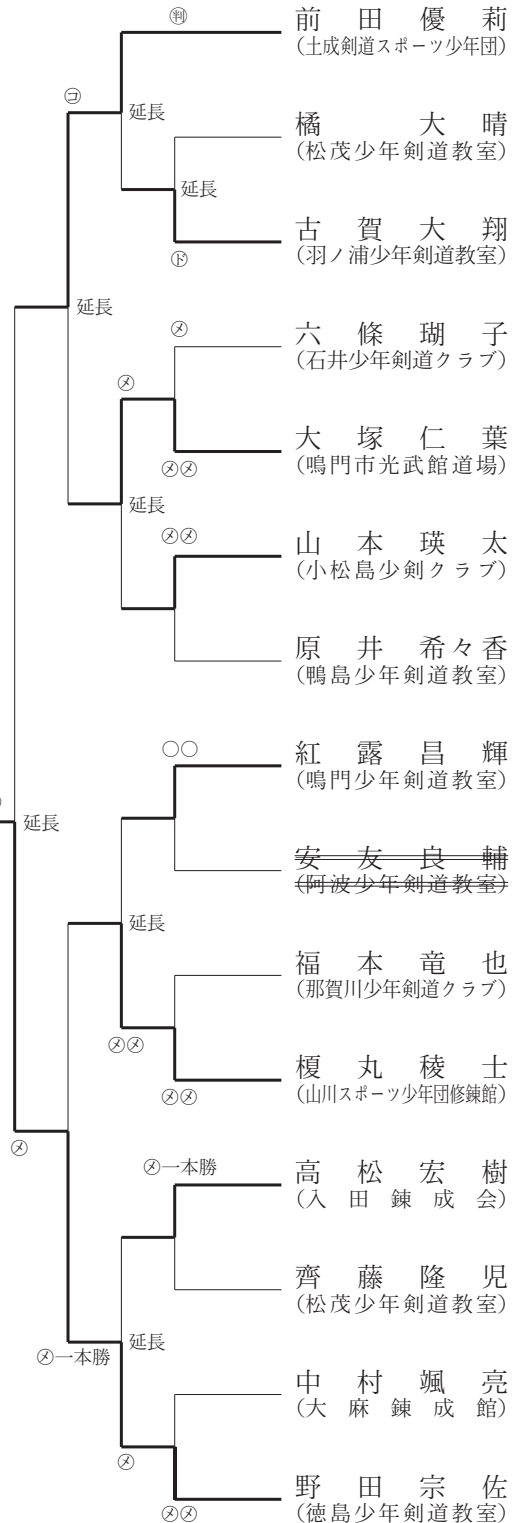


個人戦 (5年生)

〈B組〉

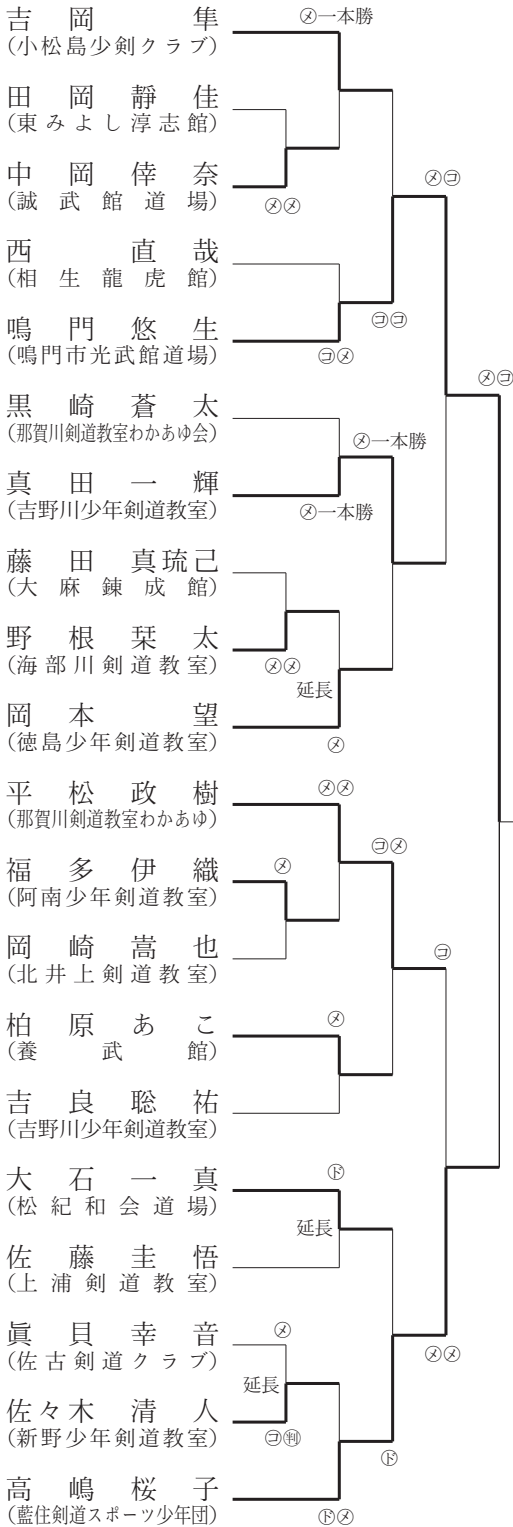


〈A組〉

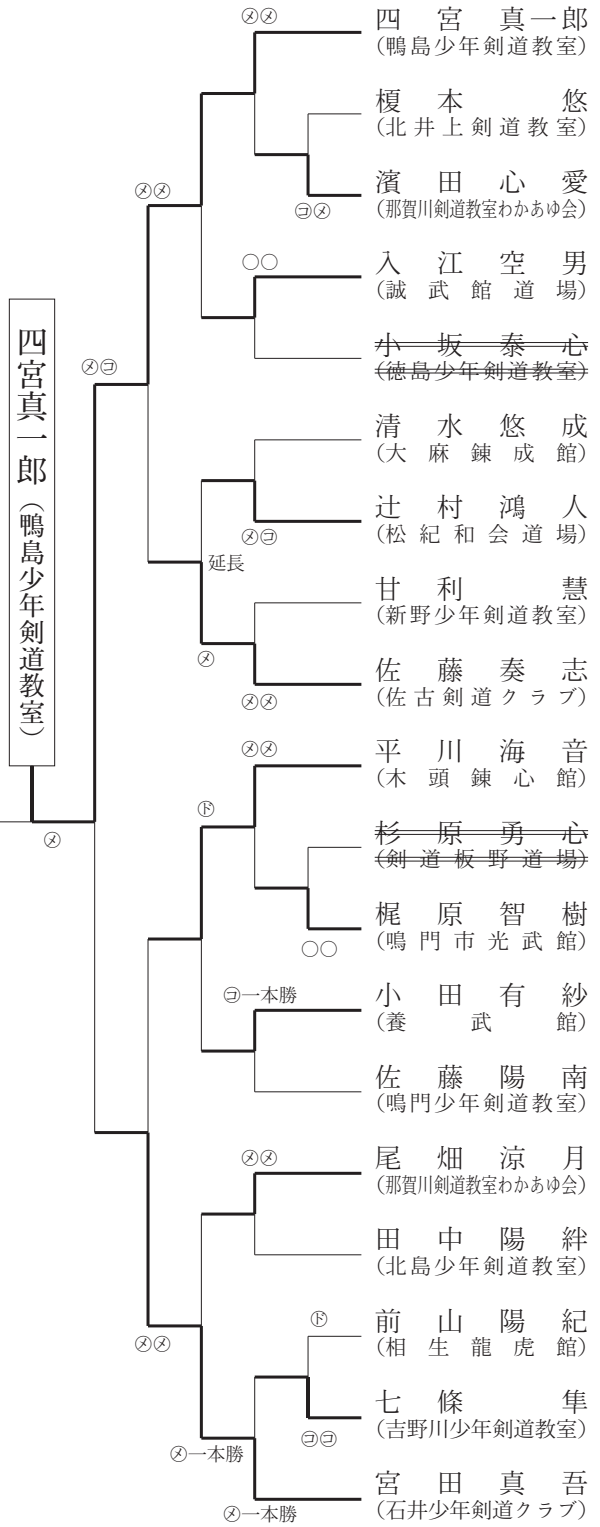


個人戦 (6年生)

〈B組〉



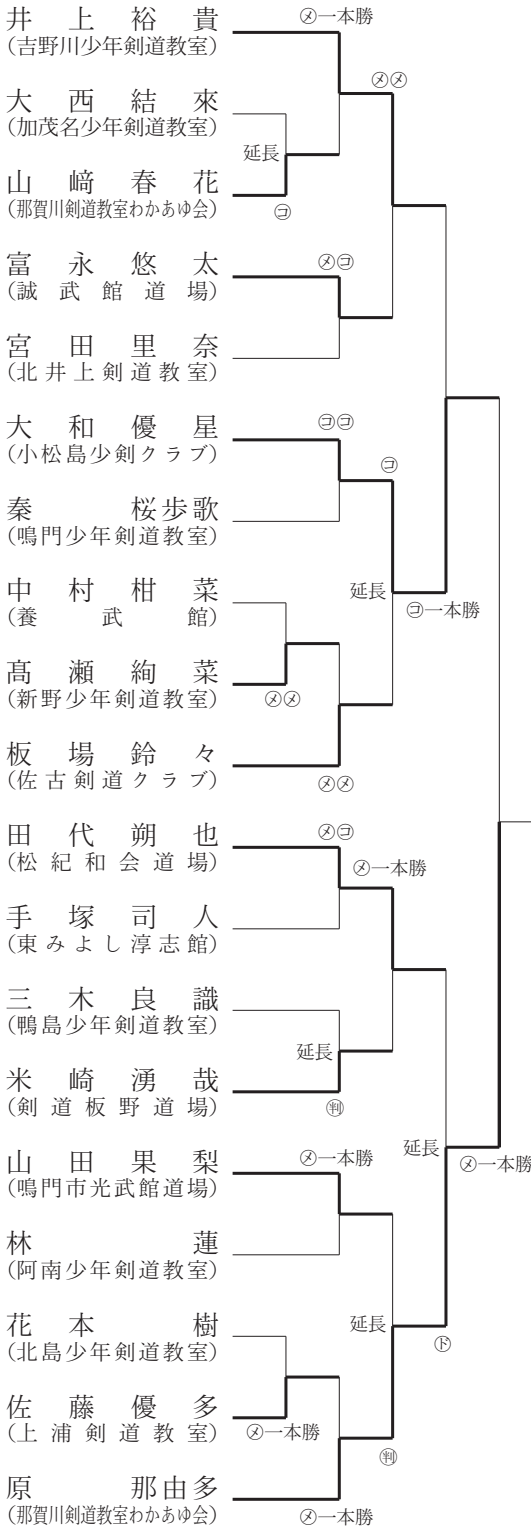
〈A組〉



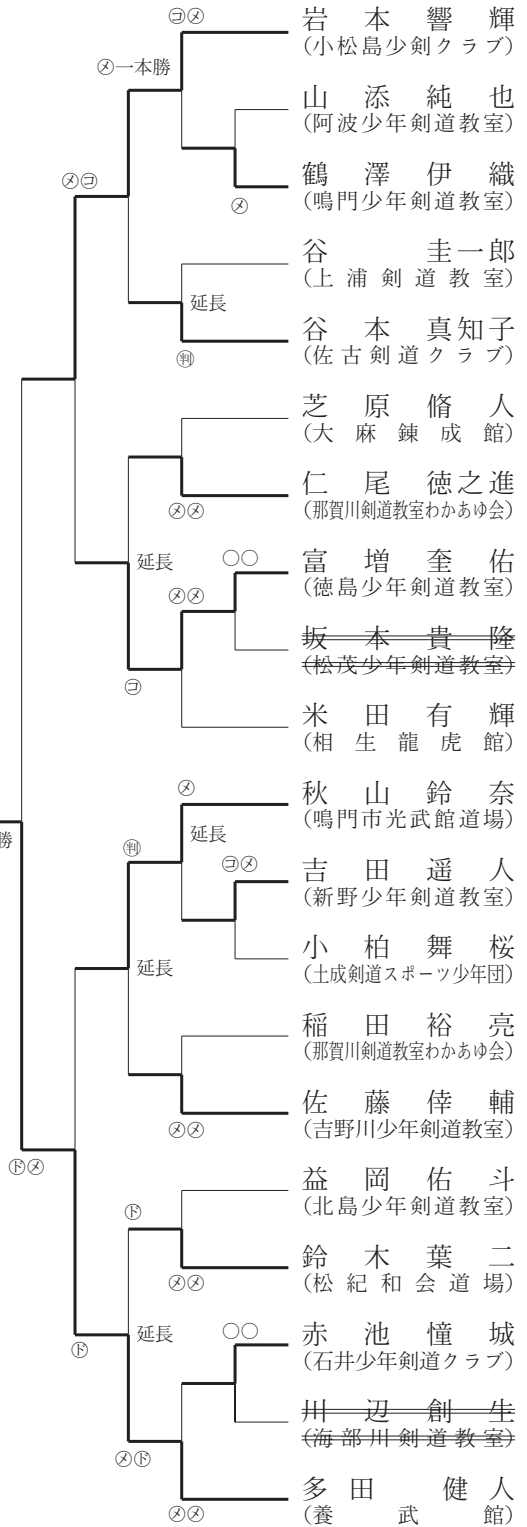
四宮真一郎 (鴨島少年剣道教室)

個人戦 (6年生)

〈D組〉

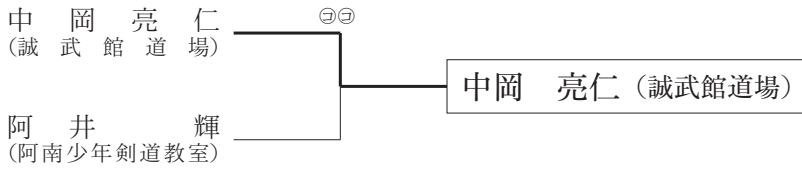


〈C組〉

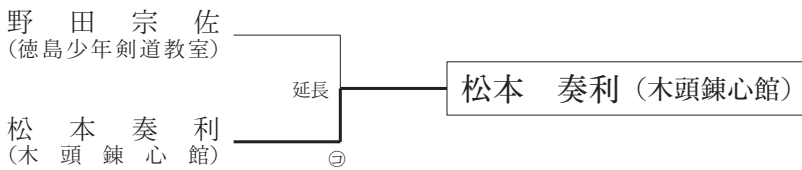


決勝戦（個人戦）

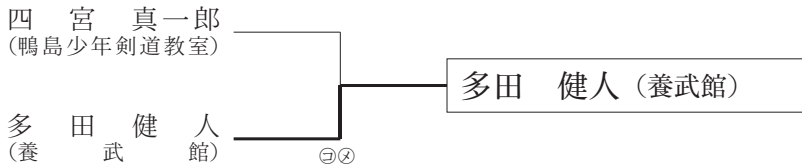
<4年生>



<5年生>



<6年生>



個人戦 試合結果

<4年生>

優勝 中岡亮仁
誠武館道場

準優勝 阿井輝
阿南少年剣道教室

第三位 橋本愛生
小松島少剣クラブ

第三位 茨木里音
徳島少年剣道教室

<5年生>

優勝 松本奏利
木頭錬心館

準優勝 野田宗佐
徳島少年剣道教室

第三位 豊田大晴
鳴門市光武館道場

第三位 津島優生
小松島少剣クラブ

<6年生>

優勝 多田健人
養武館

準優勝 四宮真一郎
鴨島少年剣道教室

第三位 鳴門悠生
鳴門市光武館道場

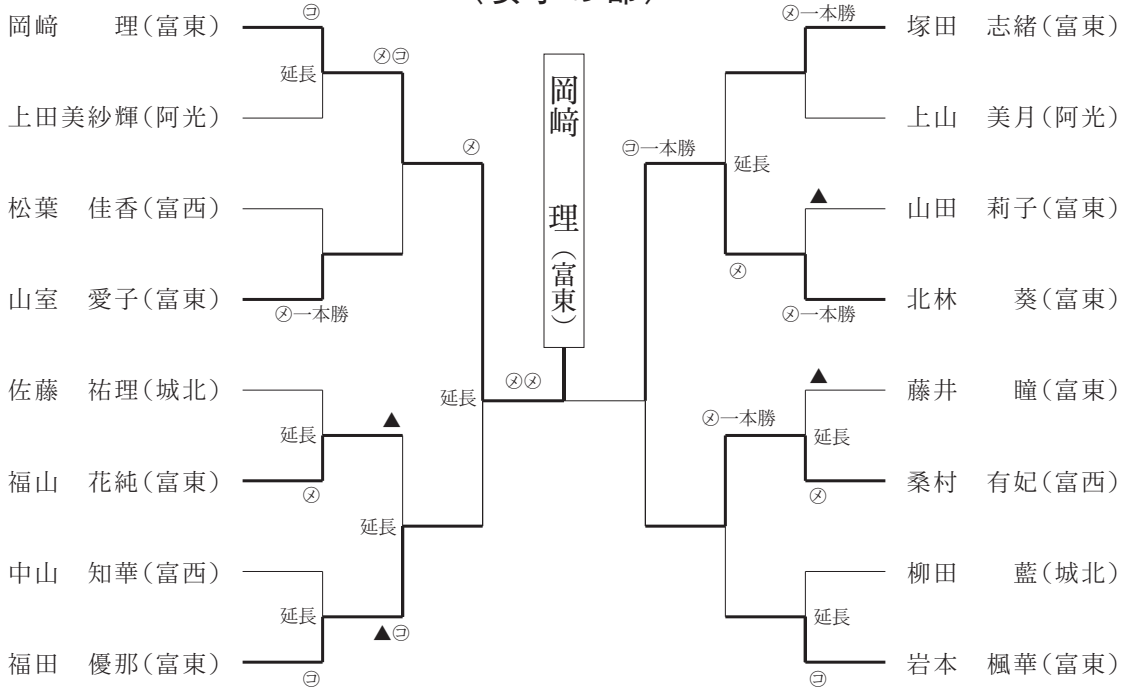
第三位 原那由多
那賀川剣道教室わかあゆ会

第53回 徳島県高等学校剣道選手権大会

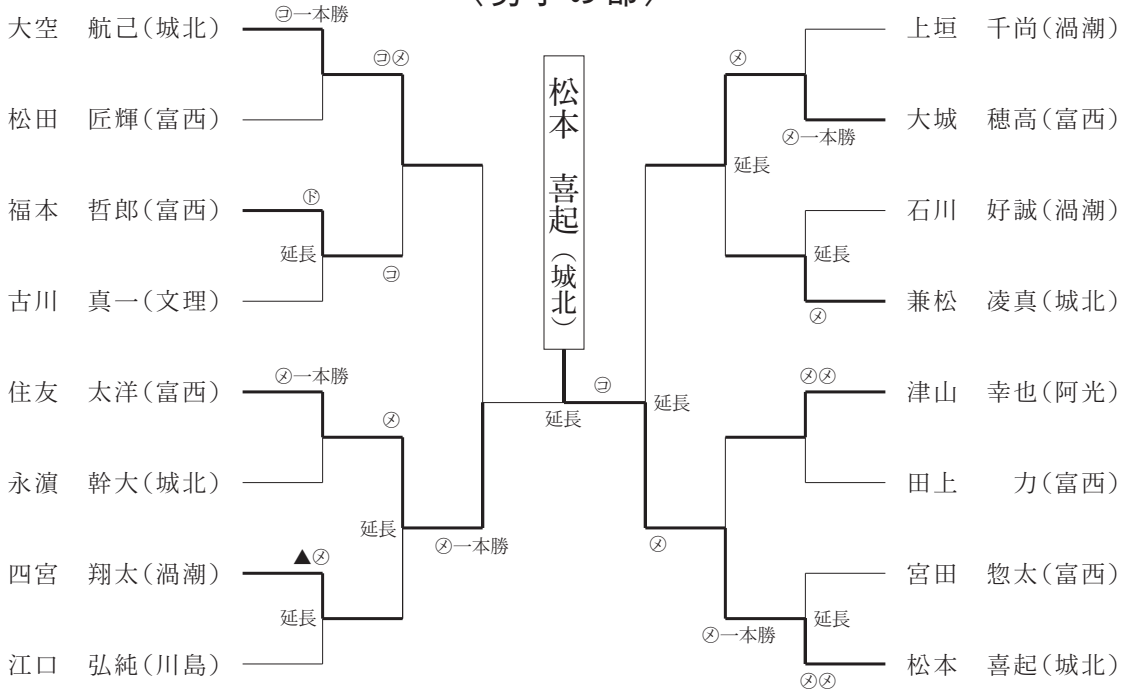
日時 令和元年 11月 17日 (日)

会場 那賀川スポーツセンター

〈女子の部〉



〈男子の部〉



第48回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日時 令和元年11月23日(土) 午前9時30分
場所 徳島市立体育館

A	小松島 D	阿波 B	美馬支部 A	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
小松島 D		(6/4)	(7/4)	2	8	13	2	1
阿波 B	(0/0)		(6/3)	1	3	6	1	2
美馬支部 A	(0/0)	(0/0)		0	0	3	0	3

B	蔵本鹿泉館	阿南支部 A	大塚製菓	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
蔵本鹿泉館		(1/0)	(1/1)	0	1	3	0	3
阿南支部 A	(6/3)		(5/3)	2	6	11	2	1
大塚製菓	(3/2)	(1/1)		1	3	6	1	2

C	月曜会	小松島和田島	川島吉野川剣道教室	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
月曜会		(1/1)	(2/1)	0	2	3	0	3
小松島和田島	(3/3)		(4/2)	2	5	7	2	1
川島吉野川剣道教室	(3/1)	(1/0)		1	1	4	1	2

D	小松島 A	海部支部	板野東支部 A	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
小松島 A		(4/2)	(6/3)	2	5	10	2	1
海部支部	(0/0)		(5/2)	1	2	5	1	2
板野東支部 A	(3/1)	(1/2)		0	3	7	0	3

E	美馬支部 B	徳島支部 A	藍住剣道 S S	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
美馬支部 B		(0/0)	(0/0)	0	0	1	0	3
徳島支部 A	(6/3)		(5/2)	1	5	11	1.5	1
藍住剣道 S S	(3/2)	(5/2)		1	4	8	1.5	2

F	徳島刑務所	麻植支部 A	三好支部 B	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
徳島刑務所		(6/4)	(9/5)	2	9	15	2	1
麻植支部 A	(0/0)		(6/3)	1	3	6	1	2
三好支部 B	(1/2)	(1/1)		0	1	4	0	3

予選リーグ

G	鳴門支部	美馬支部 C	月曜会 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	鳴門支部	$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	1	3	6	1	2
美馬支部 C	$\frac{3}{2}$	$\frac{4}{3}$	2	5	7	2	1	
月曜会 B	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{2}$	0	3	5	0	3	

H	名西支部	三好支部 A	小松島 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	名西支部	$\frac{7}{4}$	$\frac{7}{4}$	2	8	14	2	1
三好支部 A	$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$	0	2	5	0	3	
小松島 B	$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{3}$	1	3	5	1	2	

I	阿波 A	板野東支部 B	徳島支部 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿波 A	$\frac{3}{2}$	$\frac{7}{3}$	2	5	10	2	1
板野東支部 B	$\frac{1}{1}$	$\frac{8}{4}$	1	5	9	1	2	
徳島支部 B	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$	0	2	4	0	3	

J	小松島 C	養武館	麻植支部 B	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	小松島 C	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$	1	2	4	1	2
養武館	$\frac{5}{3}$	$\frac{9}{5}$	2	8	14	2	1	
麻植支部 B	$\frac{2}{2}$	$\frac{1}{0}$	0	2	3	0	3	

K	阿波 C	阿南支部 B	北井上剣道教室	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿波 C	$\frac{1}{1}$	$\frac{4}{2}$	0	3	6	0.5	3
阿南支部 B	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{0}$	1	2	4	1.0	2	
北井上剣道教室	$\frac{4}{2}$	$\frac{4}{2}$	1	4	8	1.5	1	

準 決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島 D	福崎	堀田	原	鳴川	高木		4 0
	☉	⊗	⊗	⊗	⊗		
徳島刑務所	☉ ⊗	⊗	⊗	⊗	⊗ ☉		6 2
	片山	高橋	前田	小野	森		

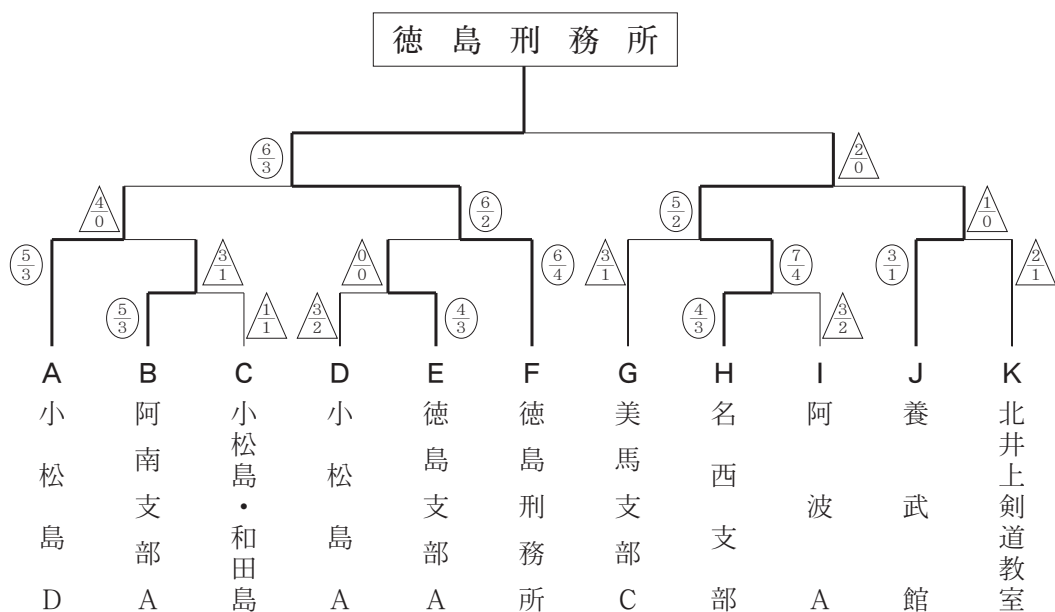
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
名西支部	白木恒	鎌田幹	白木健	鎌田克	白木洋		5 2
	⊗ ⊗	⊗	⊗	⊗	⊗ ⊗		
養武館		⊗	⊗	⊗			1 0
	吉岡	綾部	小池	武知	四宮		

決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島刑務所	片山	高橋	前田	小野	森		6 3
	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗		
名西支部	⊗	⊗	☉	⊗	⊗		2 0
	白木恒	鎌田幹	白木健	鎌田克	白木洋		

優勝 徳島刑務所
準優勝 名西支部
第3位 小松島 D
第3位 養武館

決勝トーナメント



第64回徳島県高校新人大会兼全国高校選抜大会県予選会

女子の部

日 時 令和2年1月12日(日)
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

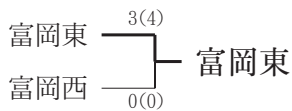
予選Aリーグ

	富岡東	城 北	阿南光	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡東		$\frac{8}{4}$	$\frac{4}{3}$	2.0	7	12	1
城 北	$\frac{1}{0}$		$\frac{2}{2}$	1.0	2	3	2
阿南光	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		0.0	1	1	3

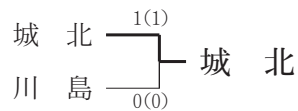
予選Bリーグ

	富岡西	川 島	徳島文理	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡西		$\frac{1}{1}$	$\frac{8}{5}$	1.5	6	9	1
川 島	$\frac{1}{1}$		$\frac{6}{4}$	1.5	5	7	2
徳島文理	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		0.0	1	1	3

決 勝 戦



順位決定戦



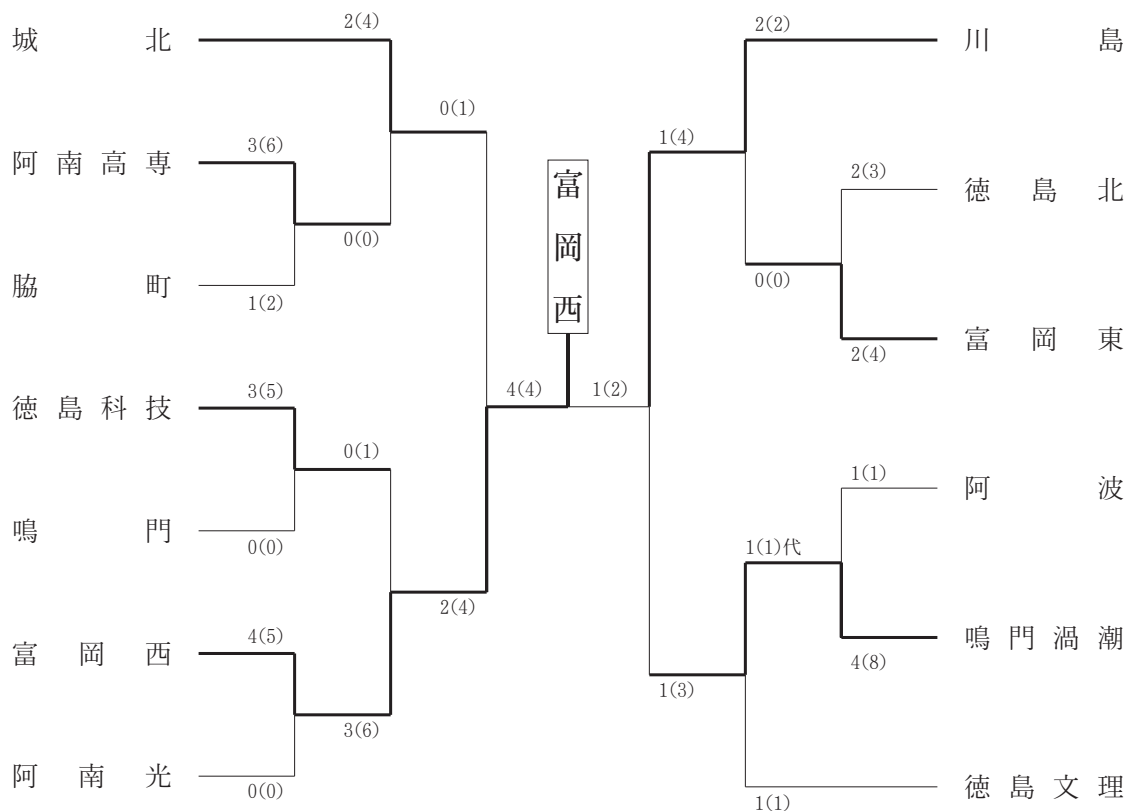
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	岩本	北林	塚田	山田	岡崎	3	4	
	一⊗ 本勝		⊗ ⊗	一⊗ 本勝				
富岡西	桑村	藤原	垣内	中山	松葉	0	0	

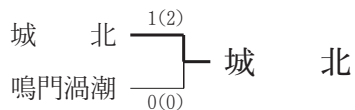
順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城 北	佐藤	大西	柳田	福田	山本	1	1	
		一⊗ 本勝▲						
川 島	土井	藤井	中海	三好	正木	0	0	

男子の部



順位決定戦



決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	住友	田上	松田	松田宙	大城	4	4	
	一本勝	一本勝	⊖		一本勝			
川島				⊖		1	2	
	井藤	高田	河野	谷口	江口			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	大空	松本尊	兼松	北林	松本喜	1	2	
	⊗	⊗						
鳴門渦潮						0	0	
	上垣	西谷	石川	川西	米田			

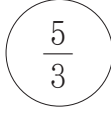
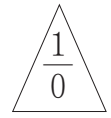
第30回 徳島県中学校剣道強化錬成大会

日 時 令和2年1月18日(土) 午前9時30分開会
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

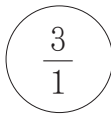
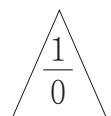
[団体戦]

順位	男子	順位	女子
優勝	徳島中学校	優勝	那賀川中学校
準優勝	北島中学校	準優勝	石井中学校
第3位	小松島中学校	第3位	徳島中学校
第3位	徳島文理中学校	第3位	木頭・高浦中学校

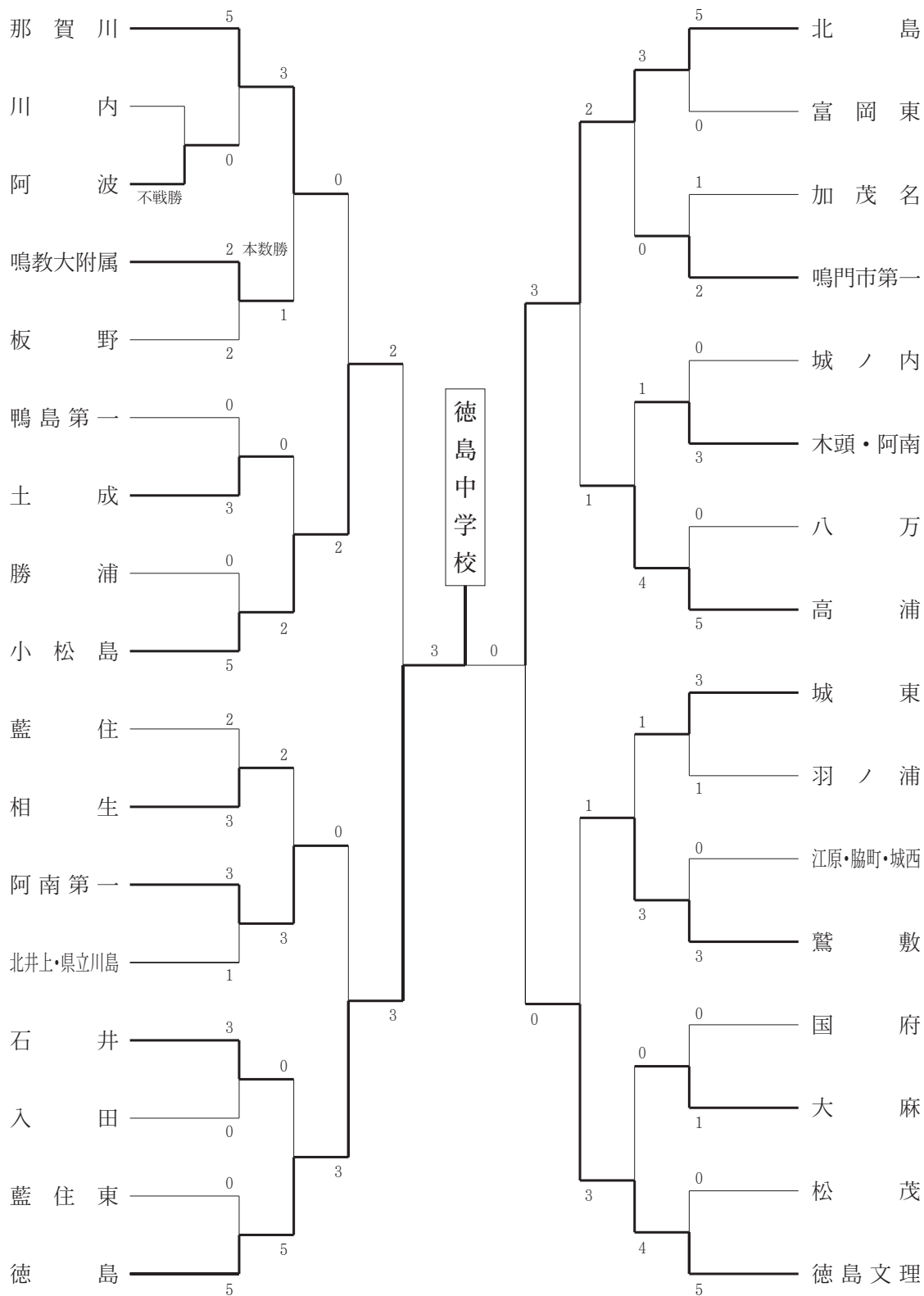
[男子決勝]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
徳島	藏本	入江	片岡	島田	野尻		
		メ	メメ	メ	コ		
北島				コ			
	紅露	三宅	撫養	谷口	永濱		

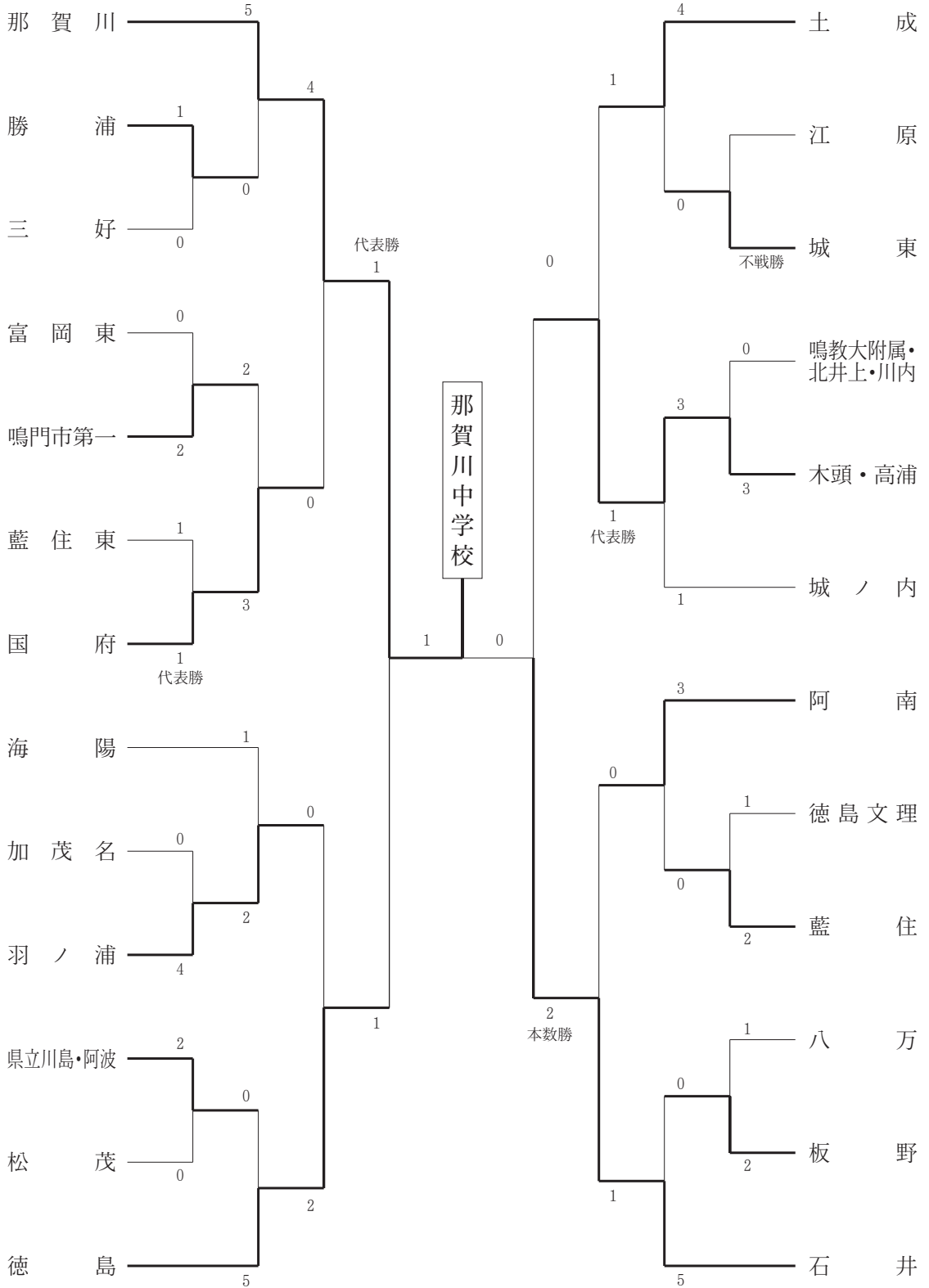
[女子決勝]

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	代表戦
那賀川	武藏	内田	山名	岩佐	小山田		
			メ	ドメ			
石井			コ				
	北池	六條	横山	高橋	森本		

〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



2019年6月2日

富岡東6年連続頂点

男子は城北5年ぶり

剣道

西、徳島理(代表勝ち)2番
 岡東、川島4、0(門)準決勝
 城北2、1(向東、徳島理)1
 2(川島3位決勝、川島3、2)
 阿南光 阿南光

北 2-1 徳島文理
 代善勝
 天空 コーメ 一楽
 松本 湯浅

小田 1 原田
 吉田 メイ 古川
 松本 メイ 片岡
 又代善
 天空 メイ 片岡

○4分間1本勝負の代表戦にもつれ込んだ男子決勝。命運を託された

冷静にリード守り抜く富岡東

ハートは熱く、頭はクール。手も後がない。富岡東女子は、2-1で迎えた朝田の富岡西・藤原の剣先を見極めてつもの公式戦で初めて先鋒勝が決まる。とはいえ相手が、延長戦に

入った接戦を巧みに引き分けに持ち込んだ。公式戦で初めて先鋒勝を決めた和

城の2年生空(写真)は四国新入大会位の徳島文理に挑んだ。徳島中時代の1年先輩の片岡は、長く「還



女子決勝・富岡東対富岡西 大将戦を引き分けに持ち込みチームの優勝を決めた富岡東の朝田(左)と富岡西の松本(右) (山田旬撮影)

6連覇も期待重なる。持病の悪化で緊急入院し、4日ぶりに選手に会った長井監督は試合後「これは全国で通用しない。レギュラーの入れ替えもあるぞ。先手を取られ、足が止まって打ち込まれた場面を厳しく指摘し、選手も真剣なまなざしで聞いた。

それでも、朝田主将は口をそろえて「長井先生の顔を見て安心して臨めた」。教え子の可能性を信じる指揮官と、伸びていこうと素直な心を持つ剣士たち。真価が問われる全国舞台でも思いを一つに戦い抜く。

(伊藤典文)



城北の2年生空(写真)は四国新入大会位の徳島文理に挑んだ。徳島中時代の1年先輩の片岡は、長く「還

合いては不利。接近戦しかない。開始1分20秒、狙い通りの鮮やかな引きメンを打ち込んで決着を付けた。

1月の新入大会は1回戦負け。福多監督の指導の下、技を磨くだけではない。あいつやこいつを激励するな。生活面も見直した。吉田主将も「一チームの一体感が強まった」。5年ぶりの全国総体へ2人は一歩以上は上位を目指す」と笑顔でうなずいた。

2019年(令和元年)6月3日 月曜日



徳島中が制す 中学女子の部

剣道

文部科学大臣賞争奪第54回宮本武蔵顕彰小中学生大会(5月19日・岡山県美作市宮本武蔵顕彰武蔵武道館)は中・四国、近畿などから316の道場、中学が参加して団体戦(男子5人、女子3人戦)が行われた。徳島県



小学高学年でベスト8に入った阿南少年教室

勢は中学女子の部で徳島中が昨年に続き栄冠に輝いた。また小学高学年は阿南教室がベスト8に入った。

◇徳島関係の上位
【小学高学年】準々決勝 和歌



文部科学大臣賞争奪宮本武蔵顕彰小中学生大会中学女子の部で優勝した徳島中

◆第39回三浦旗少年大会(6月12日・愛媛県新居浜市民体育館)
◇徳島関係の上位
【小学高学年】ベスト8(敢闘賞) 那賀川教室わかあゆ会A(先

山砂山4〇阿南教室(先鋒山本実加子、次鋒山林巧、中堅山江亮太、副将山福夢伊織、大将山森川凌太郎)
【中学女子】準決勝 徳島中1本教勝 1都中A(兵庫) 決勝 徳島中(先鋒山若樹、中堅山真唯・篠原紗也、大将山岩原千佳、2都中(愛媛)

山佐藤健輔、大将山井裕貴) 【中学】ベスト8(敢闘賞) 阿南中(先鋒山倉橋秀茂、次鋒山岡崎進平、中堅山尾畑翔、副将山羽坂真、大将山橋本晋空)

三浦旗少年大会小学高学年でベスト8に入った那賀川教室わかあゆ会



2019年6月11日

徳島県警A 7年ぶり栄冠



決勝・徳島県警A対高知県警A 大将戦でメンを奪う徳島県警Aの山本 ⑤ 高知県民体育館

剣道

西日本勤労者大会 剣道の第58回西日本勤労者大会は9日、高知県民体育館で団体戦が行われ、徳島県警Aチームが7年ぶり3度目の栄冠に輝いた。16府県から32〇チームが参加。予選を突破した徳島県警Aは20チームによる決勝トーナメントに進み、決勝で3

◇徳島関係
▽決勝 トーナメント 徳島県警A 〇(代表勝ち) OLS本社C(大阪)▽準々決勝 徳島県警A 1〇高知教員C 準決勝 徳島県警A 2 〇西シ銀A(福岡)
▽決勝 徳島県警A 2 〇 高知県警A 〇 本田 一 森田 玉田 一 森田 山本 一 中沢

2019年(令和元年)6月24日

那賀川わかあゆ会制す

小学低学年 阿南教室に栄冠

剣道

第19回堀金旗争奪少年大会・小松島少剣クラブ創立45周年記念(5月26

日・小松島市立体育館)は団体3チーム、個人246人が白熱した攻防を繰り広げた。団体小学高学年是那賀川剣道教室わかあゆ会(仁尾徳之進、阿井輝)がそれぞれ優勝



【上】堀金旗争奪少年大会団体小学高学年で優勝した那賀川教室わかあゆ会【下】同低学年を制した阿南教室

した。

【団体】小学低学年①阿南教室(先鋒―西岡葵士、次鋒―金澤悠翔、中堅―須藤悠成、副将―木村仁、大将―阿井輝)②小松島少剣クラブA③薮敷振武館④和田島クラブ▽高学年①那賀川教室わかあゆ会(先鋒―仁尾徳之進、次鋒―山崎春花、中堅―原那由多、副将―黒崎蒼太、大将―平松政樹)②吉野川教室③阿南教室④鳴門市光武館

【個人】小学1、2年①河田淳紀(徳島剣清塾)②山本京(阿南教室)③須藤汰心(阿南教室)④棚橋爽斗(徳島剣清塾)▽3年①高瀬智菜(新野教室)②川口源太(和田島クラブ)③坂東真帆(吉野川教室)④六車崇汰(誠武館道場)▽4年①中岡亮仁(誠武館道場)②福岡鈴(木頭錬心館)③上村優亜(小松島少剣クラブ)④橋本愛生(小松島少剣クラブ)▽5年①津島優生(小松島少剣クラブ)②野田宗佐(徳島教室)③濱野銀次郎(徳島教室)④松本泰利(木頭錬心館)▽6年①平松政樹(那賀川教室わかあゆ会)②吉岡準(小松島少剣クラブ)③大石真(松紀和会)④田代朔也(松紀和会)

◆第16回鳴門防犯少年大会(6月1日・鳴門市光武館剣道場)

【小学】①鳴門悠生の秋山鈴奈③西村清④豊田大晴―所属はずべて鳴門市光武館。

【中学】①豊田雄大(鳴門一中)②愛川諒(大森中)③井藤輝(大森中)④岡崎進平(鳴門市光武館)小学生上位4人と中学生上位3人は防犯少年大会(7月26日・鳴門市光武館)に鳴門警察署子1人として出場。



鳴門防犯少年大会の上位入賞者

剣道

◆第10回三好支部少年大会兼徳島県防犯少年大会予選(6月15日・山城中)

【小学】4年以下①田岡京三②北村昂世③庄嶋鈴▽5、6年①野地奏汰②三井輝星③手塚司人

【中学】1、2年男子①柳生知哉②種浦勇③成川元稀▽3年男子①近藤島樹②庄嶋蓮③吉田瑞彦④中山はるな⑤寺野仁美⑥笹本花

小学5、6年の上位4人、中学1、2年の上位3人が県防犯少年大会に三好警察署子1人として出場。

2019年7月1日

2019年7月23日

阿南警察管内防犯少年大会の入賞者



◆阿南警察管内防犯少年大会
 (6月8日・阿南市武道館)
 【小学生】①山本実加子(阿南警察)②森川英太郎(阿南警察)③甘利慧(新野警察)④吉田大(新野警察)
 【中学生】①岩坂真真(那賀川)②藤巻友法(那賀川)③村橋烈(大野城山スポーツ少年団)

剣道

鳥 柔 月 2019年(令和元年)7月31日 水曜日

県勢765人 17競技で熱戦

第57回四国中学校総合体育大会(四国中体連など主催)は8月1~5、7日の延べ6日間、4県で開催、徳島県からは765人(男子438人、女子327人)が出場する。17~25日に近畿各県で開催される全国中学校体育大会(全中、テニスは全国中学生選手権)の子選を兼ね、17競技で熱戦が繰り広げられる。徳島県内

では陸上、水泳、体操、新体操、バドミントンの5競技を実施。剣道、柔道、相撲の県総体優勝校と個人戦上位入賞者、陸上、水泳の参加標準記録突破者は既に全国大会出場権を得ている。徳島県の出場選手・監督と有力校や選手を紹介する。=競技カット横のかつこ内は全中の四国ブロック出場枠。(石津遼)

- 【男子位】那賀川(監督)長
 地手 渡辺 選手、尾畑、藤本青
 空 倉橋秀法、岡崎進、羽根源
 真、岡田隆、橋本英
 【同2位】小松島(監督) 用 村
 藤弘(選手) 岩巻、原祐規
 桂太(選手) 金澤生、巖祐亮
 川口寛太、中野英
 【同位】(監督) 藤原裕美(北
 島) 選手 橋本青空(那賀川)
 高田将太郎(北井上) 添木陽仁
 (徳島) 岩巻、川口寛太(以
 上小松島) 藤本英夫(真光) 水濱
 賢真(北島) 秋山源法(徳受理)
 【女子位】徳(監督) 兼松



県総体の剣道男子団体が優勝した那賀川。四国総体で予選リーグ突破を目指す

四国中学総体あす開幕



全日本少年少女武道錬成大会で敢闘賞を獲得した徳島少年剣道教室

徳島教室が敢闘賞

剣道

全日本少年少女武道錬成大会(7月20、21日・日本武道館)は16ブロックで行われた。徳島県からは徳島少年剣道教室(先鋒 野田宗佐、次鋒 米倉真央、中堅 瀧野銀次郎、副将 岡本望、大将 高増幸佑)が第2日の第3ブロック(70チーム)に出場、熱戦を展開した。徳島教室は初戦から順調に勝ち進み、準決勝で優勝した鹿沼市剣

友会A(栃木)に惜しくも本教負けしたが敢闘賞を獲得した。

△賞関係
 △同戦 徳島教 1-0 富岡教 1-0 徳島A(東京) 準決勝 鹿沼市剣友会A(栃木) 2-0 本教勝ち 2 徳島教室

徳島女子が初優勝

男子個人橋本(那賀)制す

四国中学校総合体育大会

最終日

準決勝 橋本メー 高宮(愛媛) 1勝分け③高知 1勝① 1勝分け1敗④徳島 3 敗1各組位を決定(愛媛) 3 (香川・龍巻)
 (女子) 団分け④松山北 1ト、
 (愛媛) 3勝徳島 1勝④白峰 (香川) 1勝2敗④野市(高知) 2勝④松山北、徳島2(本教勝ち) 3敗④B那賀川 1勝1分け ち2那賀川

▽決勝
 徳島 3 0 桜 町
 岩原 1 1 加藤 谷
 宮本 北井

勝トナメント前に全員で気持ちを切り替えられたのが良かった。四国新人大会は準備勝だったので、優勝できてうれ



「子選り」で1敗2位通過となったが、決勝は初優勝。▽個人準々決勝 橋本(愛媛) 南(メー) 岩原(徳島) 決勝 岡田(愛媛) 久方(メー) 宮本(香川) 桜野(徳島) 岩原千佳 主将(女子団体が初優勝)

剣道

第57回四国中学校総合体育大会最終日は7日、愛媛県武道館で剣道が行われ、徳島県勢は女子団体が徳島が初優勝を果たした。男子個人は橋本青空(那賀川)が制した。

男子個人

【男子】団体 徳島 1-0 高知 3勝②白峰 (香川) 2勝③松山北 1勝④小松山 3敗④B龍巻 (香川) 2勝1分け④高野(愛媛) 1勝2分け④那賀川 1勝1分け④野市(高知) 3敗1各組上位を決定(香川) 1ト、
 △決勝トナメント 白峰 高知 1-0 高野 龍巻 1-2 白峰 決勝 高知 2 (代表勝ち) 2 高野 高知は2年連続2度目の優勝。
 △個人準々決勝 橋本(那賀川)メー 富田(香川) 瀧澤



女子団体決勝・桜町対徳島 中堅戦でメンを決める徳島の篠原(右) 愛媛県武道館

2019年(令和元年)8月19日 月曜日



那賀川わかあゆA 頂点 団 体 高 学 年



阿南中央ロータリークラブ杯兼県スポーツ少年団大会阿南市選考会団体高学年を制した那賀川教室わかあゆ会A

剣 道

2019年度阿南中央ロータリークラブ杯兼県スポーツ少年団大会阿南市選考会(7月21日・阿南市武道館)は団体小学

Aは那賀川教室わかあゆ会が制した。【団】小学低学年(阿南教室A(森川西葉主、中野川藤)

- 修成、大将山阿拜雄)の新野教室
- ③阿南教室B▽高学年①那賀川教室わかあゆ会A(先鋒川尾徳之進、中野川福田瑠英、大将平松政樹)②那賀川教室わかあゆ会B
- ③新野教室
- 【個人】新生①川素奈、徳島剣道塾②賀久唯人、那賀川教室わかあゆ会③片原介、大野小剣道塾④藤井陽斗、徳島清酒塾▽小学①水口明香、徳島剣道塾②天野晃(那賀川教室わかあゆ会)③羽後那、那賀川教室わかあゆ会④高橋大、那賀川教室わかあゆ会▽小学①山本京(阿南教室)②榎葉斗、徳島剣道塾③河田純(徳島剣道塾)④酒巻心(阿南教室)▽3年①河田蒼生(徳島剣道塾)②高瀬菜(新野教室)③高長紗和子(新野教室)④森原健造(那賀川教室わかあゆ会)▽4年①阿拜雄(阿南教室)②須藤成(阿南教室)③澤藤陽(阿南教室)④西岡翼主(阿南教室)▽5・6男子①平坂政樹、那賀川教室わかあゆ会②藤畑賢(那賀川教室わかあゆ会)③尾徳進(那賀川教室わかあゆ会)④藤田多(那賀川教室わかあゆ会)▽同女子①山本美加(阿南教室)②酒田心愛(那賀川教室わかあゆ会)③高瀬菜(新野教室)④山崎春花(那賀川教室わかあゆ会)

2019年(令和元年)8月26日 月曜日



剣 道



【上】吉野川市民体育祭大会団体小学生で優勝した吉野川教室 【中】準優勝の鴨島教室 【下】3位の上浦教室

- ◆第14回吉野川市民体育祭大会(8月4日・吉野川市民体育館)
- 【団体】小学生①吉野川教室(先鋒川真田、次鋒川藤原、中野吉野祐、副将川佐藤、準将大井上裕貴)②鴨島教室③上浦教室
- 【個人】小学①3好球(高浦)②珀(上浦教室)③高瀬天(鴨島教室)④原田悠(山川修館)⑤藤子輝(山川修館)⑥4年①三木瑛(鴨島教室)②津田利央(上浦教室)③坂東真帆(吉野川教室)④徳永健(上浦教室)⑤5・6年①藤藤輪(吉野川教室)②中川遼守(鴨島教室)③井上裕貴(吉野川教室)④原田轟輝(山川修館)▽小学①2年男子①徳永唯吹(高浦)②香川悠(高浦)③蔵本望海(徳島)④塚崎(鴨島)⑤3年男子①窪田太(鴨島)②海部樹(鴨島)③土橋樹(鴨島)④川島▽中学①佐藤結花(城)②正木七菜(鴨島)③一般①猪野和男(川島)②少年団①猪野太(川島)②少年団③3好球(上浦教室)④鴨島希(吉野川教室)

阿波っ子タイムズ

県少年剣道個人選手権大会男女混合6年生の部で優勝

福岡 詩さん (木頭学園7年)



小学2年から剣道に打ち込む福岡さん
—那賀町木頭和無田の木頭学園



はばたけ
ティーンズ

2月に鳴門市で開かれた「第1回リスベクト武道員店徳島県少年剣道個人選手権大会」の男女混合6年生の部で優勝した木頭学園7年(中学1年)の福岡詩さん(12)。「まさか優勝するとは思っていません。勝ち進んで自信が付いたのかな」と笑みを浮かべました。剣道をはじめたのは、木頭学園2年のとき。練習の様子を見学した

4年に出場した大会から女子の部で優勝するなど、早くから頭角を現していました。男女混合の大会で勝つようになったのは、体力が付いたこと、1年ほどの間に身長が約10センチ伸びて竹刀が扱いやすくなったためだと分析します。

7月にあった県中学校総体では、1年生ながらベスト16に残りました。「苦手な小手や胴を克服し、来年はベスト8に入って四国総体へ行きたい」と話しています。(大城咲)

四国大会出場目指す

2月に鳴門市で開かれた「第1回リスベクト武道員店徳島県少年剣道個人選手権大会」の男女混合6年生の部で優勝した木頭学園7年(中学1年)の福岡詩さん(12)。「まさか優勝するとは思っていません。勝ち進んで自信が付いたのかな」と笑みを浮かべました。剣道をはじめたのは、木頭学園2年のとき。練習の様子を見学した

4年に出場した大会から女子の部で優勝するなど、早くから頭角を現していました。男女混合の大会で勝つようになったのは、体力が付いたこと、1年ほどの間に身長が約10センチ伸びて竹刀が扱いやすくなったためだと分析します。

7月にあった県中学校総体では、1年生ながらベスト16に残りました。「苦手な小手や胴を克服し、来年はベスト8に入って四国総体へ行きたい」と話しています。(大城咲)

教員剣美会が優勝

剣道

県立大会
高校優秀選手

- ◆剣道 2019年度徳島県連盟
【男子】小田慎介(吉田晴成、栗裕(上城北)、片岡優人、一葉泰志(以上徳島文理)、熊橋知晃(山添龍也、吉岡聖大朗、櫻栗龍聖(以上川島)、河野寛(上田徳科、上桑亮太郎、高野有朗(以上阿南光、田上泰夢(富西)披田好誠、山下茂、池森史(以上徳科)、末春樹、受川樹、藤本勇人(以上鳴門福潮)、後藤高志、齋幸佑、朝田翔、原健太郎、松山知樹(以上富岡東))
- 【女子】明田明香、田村真尋、馬見恵理子、和田津深紅(以上富岡東)、増井穂乃、藤原優(以上富岡西)、篠原若葉、三笠若織、堀井乃々花、笠井知奈(以上川島)、村本歩美佳、貴島美鈴(以上城北)、福井深珠、峰慶乃(以上城北)
- ◆決勝
長谷川ド、山本千
▽30歳以下リーグ①前田(川高
剣友会)②勝(高井(阿南支部)
1勝1敗③長地(教員剣美会)④取

2019年(令和元年)9月10日 火曜日



剣道

第47回阿波少年剣道大会

(8月17日、大湊体育館)

徳島県関係上位

小学生個人1・2年(柳橋 爽斗(徳島剣道会)③須藤汰心(阿南剣道)▽3年(高柳智菜(新野剣道)②河田生(徳島剣道会)③松本太(徳島振武館)③福大聖太(徳島振武館)▽4年①金澤悠翔(阿南剣道)②福岡鈴(木頭練心道)③阿井輝(阿南剣道)④西岡士(阿南剣道)▽5年①津路優生(小松島少剣クラブ)②林巧(阿南剣道)▽6年②尾畑涼月(那賀川教室わかあひ会)③入江笑(阿南剣道)

▽団体(小松島少剣クラブ)(先鋒)大和優、中堅(吉岡隼、大將(岩本輝)②森武館(小由有紗、柏原あ)③木頭練心館(松本泰利、大西成、平川海音)③阿南(山本実加、福多伊織、森川優天座) [中学生]個人1年(中庄創志(阿南)①)②桑原輔(羽浦中)③佐藤和(徳島支理中)④原孝太郎(阿南)▽2年(原和慶(徳島支理中)②藤切日巳(富岡東中)③阿井楓(阿南中)③細川賢真(羽浦教室)▽団体(小松島中(先鋒)中野 篤大、中堅(西崎秀、大將(川



阿波少年剣道大会で活躍した選手たち

口寛太③(徳島中(宝瑠)一樹、鈴木陽人、吉岡健心③(阿南中(牧野聖也、坂本流馬、村野)

2019年(令和元年)9月13日



県防犯少年剣道大会で優勝し、喜多署長さんから記念品を贈られる阿波吉野川署チームの選手たち(同署)

県防犯少年剣道大会
阿波吉野川署チームV
柔道準優勝 署に結果報告

鳴門市の鳴門ソイジヨイ武道館で行われた

県防犯少年柔道・剣道大会で、阿波吉野川署管内の教室に通う小学生でつづいた阿波吉野川署チームが、剣道で優勝、柔道で準優勝に輝いた。大会は、県内に11ある警察署の管内単位で結成されたチーム同士で競い合い、剣道には11チーム、柔道には8チームが参加した。阿波吉野川署チームは、剣道の部には小学5年〜中学2年の男女7人が出場。決勝リーグで小松島署、那賀署の両チームと戦い、1位になった。柔道の部には小学6年〜中学2年の男女7人が参加した。阿波吉野川署チームの剣道と柔道の各選手は大会後に署を訪れ、結果を報告。喜多署長に優勝旗やトロフィーを渡し、記念品を受け取った。剣道の部に出場した香川柁吾さん(13)は「高浦中2年」は「優勝を目指して頑張ってきたのでよかった」と喜び、柔道の佐々木星羽さん(14)は「阿波中2年」は「決勝で負けてしまったけど、チームの力は出し切った」と話した。(棚野将武)

2019年(令和元年)9月23日 月曜日

あわー スポーツ

剣道

◆第26回徳島市少年錬成大会(9月1日・徳島文理中・高剣道場)
【団体】①徳島教室(先鋒) 佐藤奏仁、次鋒 柴木直吉、中堅 濱野銀次郎、副将 岡本望、大将 高増幸希 ②佐古ラフ ③養武

徳島市少年錬成大会団体
を制した徳島教室



館 敢闘賞 北井七教室
【個人】小学1・2年 〇橋本佳都(徳島教室) ②前田柊吾(徳島教室) ③坂口潤(白亜錬心塾) 〇敢闘賞 高橋知湖(松紀和会道場) 〇3・4年 〇田繁春(佐古クラフ) ②佐竹倫太郎(徳島教室) ③湯川千暉(徳島教室) 〇敢闘賞 藤原遥真(加茂名教室) 〇5・6年 〇辻村湧人(松紀和会道場) ②田代明也(松紀和会道場) ③大石一真(松紀和会道場) 〇敢闘賞 鈴木葉二(松紀和会道場)

2019年(令和元年)10月16日 水曜日

あわー スポーツ

剣道

◆第47回阿北地区大会(9月16日・石井中体育館)
【中学】男子 〇北島A(先鋒) 紅露和輝、次鋒 井川颯翔、中堅 撫養恩雄、副将 三宅澄、大将 水濱隆良 ②徳島文理 〇藍住A ③徳島A 女子 〇高浦・鴨島東・木頭(先鋒) 〇福岡詩、次鋒 赤池ひなた、中堅 近藤真枝、副将 中田早映、大将 高田穂花 ②石井A ③土成 〇徳島
【高校】男子 〇城北A(先鋒) 大空航己、次鋒 兼松俊真、中堅 松本尊灯、副将 水濱幹大、大将 松本喜 ②鴨門尚潮 〇徳島科技 ③城北B 女子 〇川島(先鋒)



〇中海花梨、次鋒 野崎まひろ、中堅 土井直子、副将 北村凜、大将 正木彩加 ②城北 〇鴨門尚潮・徳島文理



阿北地区大会【上】中学男子優勝の北島A【左側】同女子優勝の高浦・鴨島東・木頭【下】高校男子優勝の城北A【右側】同女子優勝の川島

2019年(令和元年)12月3日 火曜日

那賀川教室わかあゆ会制す

県少年優勝大会団体戦を制した那賀川教室わかあゆ会



剣道

第50回徳島県少年優勝大会(11月10日・松茂町総合体育館)は団体戦に27チーム、個人戦に196人が参加して行われた。団体は那賀川教室わかあゆ会が優勝。これに県大会の須金旗、ライオン大会、清原杯、県下優勝大会を制した。

【団体】①那賀川教室わかあゆ会(先鋒：尾畑賢、森：尾嶋啓生、嶋田中武館道)

【個人】①4年中岡亮仁(誠武館道) ②阿井輝(阿南塾) ③橋本崇生(小松島少剣) ④栗木里(徳島塾) ⑤5年松本奏利(不瀬心館) ⑥野田左(徳島塾) ⑦島健生(小松島少剣) ⑧豊田大晴(嶋田中武館道) ⑨6年多田健人(徳島塾) ⑩西宮真一郎(嶋島教室) ⑪原那場(那賀川教室わかあゆ会) ⑫中野有紗(北神塾) ⑬山口美咲(木内賢一) ⑭山口美咲(木内賢一) ⑮山口美咲(木内賢一) ⑯山口美咲(木内賢一) ⑰山口美咲(木内賢一) ⑱山口美咲(木内賢一) ⑲山口美咲(木内賢一) ⑳山口美咲(木内賢一) ㉑山口美咲(木内賢一) ㉒山口美咲(木内賢一) ㉓山口美咲(木内賢一) ㉔山口美咲(木内賢一) ㉕山口美咲(木内賢一) ㉖山口美咲(木内賢一) ㉗山口美咲(木内賢一) ㉘山口美咲(木内賢一) ㉙山口美咲(木内賢一) ㉚山口美咲(木内賢一) ㉛山口美咲(木内賢一) ㉜山口美咲(木内賢一) ㉝山口美咲(木内賢一) ㉞山口美咲(木内賢一) ㉟山口美咲(木内賢一) ㊱山口美咲(木内賢一) ㊲山口美咲(木内賢一) ㊳山口美咲(木内賢一) ㊴山口美咲(木内賢一) ㊵山口美咲(木内賢一) ㊶山口美咲(木内賢一) ㊷山口美咲(木内賢一) ㊸山口美咲(木内賢一) ㊹山口美咲(木内賢一) ㊺山口美咲(木内賢一) ㊻山口美咲(木内賢一) ㊼山口美咲(木内賢一) ㊽山口美咲(木内賢一) ㊾山口美咲(木内賢一) ㊿山口美咲(木内賢一)

2019年(令和元年)12月9日 月曜日

阿南少年教室 準V 小学生低学年



南光剣伸会小中学生大会小学生低学年準優勝、高学年ベスト8の阿南教室

剣道

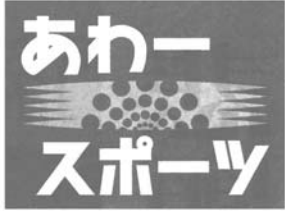
第33回南光剣伸会小中学生招待大会(11月17日・兵庫県佐用郡上月体育館)は兵庫近県から560人が参加、白熱した攻防を展開した。徳島県からは阿南少年教室が出場。小学生低学年で準優勝、高学年はベスト8に入った。

【小学生】低学年の阿南少年教室(先鋒：西岡翠十、次鋒：須藤悠、中堅：金澤雅、副将：木村、大将：阿井輝) ①高学年へスト、阿南少年教室(先鋒：山本美加子、次鋒：林、中堅：福多伊織、副将：八荒天、大将：森川健太郎)

◆第46回徳島県連盟板野東支部練成大会(11月17日)北島少剣(団体)小学生の誠武館道場、北島教室、高学年の松茂教室の誠武館道場

【個人】小学生の村いとは(誠武館道場) ②年(木内賢一) ③坂本吉(誠武館道場) ④3年中車法(誠武館道場) ⑤高橋(松茂教室) ⑥年中岡亮仁(誠武館道場)

⑦井小夏(白根左) ⑧野有紗(北神塾) ⑨中谷楓(心念) ⑩3年男(伊勢輝) ⑪心念 ⑫3年男(山本育) ⑬3年男(山本育) ⑭山本育(心念) ⑮山本育(心念) ⑯山本育(心念) ⑰山本育(心念) ⑱山本育(心念) ⑲山本育(心念) ⑳山本育(心念) ㉑山本育(心念) ㉒山本育(心念) ㉓山本育(心念) ㉔山本育(心念) ㉕山本育(心念) ㉖山本育(心念) ㉗山本育(心念) ㉘山本育(心念) ㉙山本育(心念) ㉚山本育(心念) ㉛山本育(心念) ㉜山本育(心念) ㉝山本育(心念) ㉞山本育(心念) ㉟山本育(心念) ㊱山本育(心念) ㊲山本育(心念) ㊳山本育(心念) ㊴山本育(心念) ㊵山本育(心念) ㊶山本育(心念) ㊷山本育(心念) ㊸山本育(心念) ㊹山本育(心念) ㊺山本育(心念) ㊻山本育(心念) ㊼山本育(心念) ㊽山本育(心念) ㊾山本育(心念) ㊿山本育(心念)



①5年(春原) ②村神武館道場 ③嶋大晴(松茂教室) ④年中岡亮仁(誠武館道場) ⑤高橋悠(誠武館道場) ⑥八荒天(誠武館道場) ⑦山本育(心念) ⑧山本育(心念) ⑨山本育(心念) ⑩山本育(心念) ⑪山本育(心念) ⑫山本育(心念) ⑬山本育(心念) ⑭山本育(心念) ⑮山本育(心念) ⑯山本育(心念) ⑰山本育(心念) ⑱山本育(心念) ⑲山本育(心念) ⑳山本育(心念) ㉑山本育(心念) ㉒山本育(心念) ㉓山本育(心念) ㉔山本育(心念) ㉕山本育(心念) ㉖山本育(心念) ㉗山本育(心念) ㉘山本育(心念) ㉙山本育(心念) ㉚山本育(心念) ㉛山本育(心念) ㉜山本育(心念) ㉝山本育(心念) ㉞山本育(心念) ㉟山本育(心念) ㊱山本育(心念) ㊲山本育(心念) ㊳山本育(心念) ㊴山本育(心念) ㊵山本育(心念) ㊶山本育(心念) ㊷山本育(心念) ㊸山本育(心念) ㊹山本育(心念) ㊺山本育(心念) ㊻山本育(心念) ㊼山本育(心念) ㊽山本育(心念) ㊾山本育(心念) ㊿山本育(心念)



県連盟板野東支部練成大会の入賞者ら

2019年(令和元年)12月30日 月曜日

小松島少剣ク3位 団体小学低学年

剣道

第53回土庄町青少年大会(12月1日・香川県土庄町総合会館フレトピア)



土庄町青少年大会団体小学低学年で3位に入った小松島少剣クラブ

ホール)は香川近県から29チームが参加、白熱した攻防を展開した。徳島将川橋本愛生が3位入賞した。

◆第3回有賀杯争奪大会(11月24日・那賀川スポーツセンター)

▽小学1・2年の徳島剣道塾A(先鋒川河田隆紀、中堅川平田愛琴、大将川棚橋爽斗)②阿南教室③那賀川教室わかあゆ会A④小松島少剣クラブA▽3・4年の誠武館(先鋒川近藤健文、中堅川六車崇汰、大将川中岡亮仁)②阿南教室

那賀川教室わかあゆ会A



阿南教室



誠武館

室A③阿南教室B④小松島少剣クラブA5・6年の那賀川教室わかあゆ会A(先鋒川原那由多、中



徳島剣道塾

A 小松島少剣クラブ



堅川仁尾徳之進、大将川平松政樹)②養武館③阿南教室A④小松島少剣クラブA
▽最優秀選手 平林政樹(那賀川教室わかあゆ会A)

2020年1月9日

阿波っ子タイムズ

全国少年団剣道交流大会 女子個人2位

岩原 千佳さん (徳島中3)



昨年山口市で開かれた第41回全国スポーツ少年団剣道交流大会の女子個人で2位になった徳島市の徳島中3年岩原千佳さん(15)は、同市津田町。前回は3位入賞しており、全国の強敵を相手に2年連続で実力を発揮しました。

高校の剣道部顧問を務める父靖人さん(49)の影響で、幼稚園年長の時に始めました。兄2人と一緒にクラブに入

りが、体格で上回る兄や男子と組み合って鍛えました。小学4年の時に初めて団体戦で全

国大会に出場しました。

靖人さんは「物おじしない性格。試合で緊張した経験がないらしく、メンタル面の強

さは結果につながっている」と話します。得意技は167の長身から振り下ろすメン

です。相手が攻撃を仕掛けようとすると振り返ります。

3月には中学最後の大会となる全国スポーツ少年団剣道交流大会に3年連続で出場します。「集中力を切らさず粘

り強く臨む。今度こそ優勝したい」と意気込んでいます。

粘り強く頂点目指す



父や兄と練習に励んでいる岩原さん
—徳島市の徳島中学校

(植田充輝)

富岡西 5年ぶり栄冠

女子は富岡東6連覇

剣道

全道高校選抜選手連
剣道の全国高校選抜大会富岡選手連を兼ねた第64回男子、第54回女子県高校新大会は12日、男子13校、女子6校が参加して鳴門リジョイ武道館で団体戦が行われ、男子は富岡西が5年ぶり22

度目、女子は富岡東が6年連続31度目の栄冠に輝いた。男女の優勝チームが全国大会(3月27、28日・愛知県春日井市総合体育館)に出場し、上位2校が四国新大会(2月1、2日・愛媛県武道館)に進む。

男子団体戦 富岡西4-1川島
3-1麻町、徳高科技3-0鳴門、高岡4-0阿南光、高東0-田上、メイ、高田

女子団体戦 富岡東6-0松屋、コト、河野、谷口、天城、メイ、江口、北林、メイ、藤原、松本、イ、桑村、塚田、メイ、垣内、山田、メイ、中山、岡崎、松葉

富岡東3-0富岡西、富岡東が懸かっていたので重庄もあつた」とほっとした表情を見た。

先鋒の岩本がメンで本勝ちを取ると、中堅塚田が主手をつけた。試合直前に長井監督から「得意の引き技を起し、とアドバイスを受けた副将の山田は開始30秒、つばせり合いから引きヌンを打ち込み優勝を決めた。北林主将は「6連勝した。」

2年生入、1年生6人の強中、決勝戦に出場した9年生は北林主将だけ、全国8強以上の目標に向け、激しいレギュラー争いで、「一人一人が力を付け、さらにチームの底上げを図る。」



男子決勝・富岡西対川島 中堅戦を1本勝ちして優勝に貢献した富岡西の松田匠(鳴門リジョイ武道館)(花崎晴撮影)



女子決勝・富岡東対富岡西 副将戦で果敢に攻め込む富岡東の山田

全員集中 隙逃さず 富岡西

5年ぶりに王座に返り咲いた富岡西男子は、先鋒(せんほう)から中堅への3連勝で一気に勝負を決めた。勢いをもたらしたのは、昨夏の県総体王者・城北との準決勝。大城主将は「城北に競り勝って勢いよく良かった。全員が集中して臨んだ結果」と胸を張った。

準決勝でも積極的に攻めて1本勝ちし「流れを呼べて良かった」。次鋒の田上が続き、勝てば優勝が決まる中堅戦。松田匠は開始10秒、上段の構えから一瞬の隙を突き、コテで1本。「角度を変えてコテの練習」

2年生入、1年生6人の強中、決勝戦に出場した9年生は北林主将だけ、全国8強以上の目標に向け、激しいレギュラー争いで、「一人一人が力を付け、さらにチームの底上げを図る。」



小松島少剣クラブA 8強

剣道



坂本龍馬旗全国少年錬成大会でベスト8に入った小松島少剣クラブA

100チームが参加、白熱した攻防を展開した。徳島県勢は小学校団体の部で小松島少剣クラブA(先鋒II大和優星、次鋒II敦賀龍平、中堅II吉岡隼、副将II津島優生、大将II岩本響輝)がベスト

8に入り、敢闘賞を獲得した。

- ◆遠藤旗争第36回阿南新野中大会(1月22日・阿南市新野中)
- 【団体】男子①小松島少剣クラブA(先鋒II大和優星、次鋒II吉岡隼、中堅II岩本響輝、副将II津島優生、大将II岩本響輝) ②鳴島少年塾(中川遼、多田規、四宮真郎) ③吉野少年塾A(真田一輝、佐藤健輔、井森貴) ④羽浦少年教室(矢羽龍貴、宮真大翔、藤川一彦) ⑤女子①養徳館A(先鋒II中村栞、中堅II小田有紗、大将II原あま) ②小松島少剣クラブA(橋本生、村優斗、柳川潮里) ③新野少年教室(甘利惟、高柳菜、甘利恵) ④那賀川教室わかあひ会(山崎春花、濱田白愛、濱田心愛)
 - 【個人】小学上①羽坂菜那(わかあひ) ②平田芽芽(剣道紀) ③桑原彩(わかあひ) ④大西光(わかあひ) ⑤尾田海(紀) ⑥小島(福田聖結) ⑦山添大(小松島) ⑧高瀬(わかあひ) ⑨3年①高瀬聖菜(新野) ②高田生(福水嵐太) ③松本羽太(飛武館) ④福水嵐太(飛武館) ⑤4年①川添義(小松島) ②吉田希(新野) ③高瀬悠翔(阿南) ④平井大樹(小松島) ⑤5年①高松樹(入田) ②首(不明) ③高柳菜(新野) ④谷菜葉(海部川) ⑤大和希輔(黒崎蒼太(わかあひ))



遠藤旗争新野少年錬成大会の入賞者ら

富岡西男子が準優勝

剣道

富岡西男子が準優勝した。徳島県勢は男子団体の富岡西が準優勝した。

- ◆四国高校新人大会
- 剣道の第20回四国高校新人大会は1、2の両日、愛媛県武道館で男女の団体戦と個人戦が行われ、徳島県勢は男子団体の富岡西が準優勝した。
- 【男子】団体①徳島(富岡西) ②高松(高松) ③高松(高松) ④高松(高松)
 - 【個人】準々決勝①高松(高松) ②高松(高松) ③高松(高松) ④高松(高松)
 - 準決勝①高松(高松) ②高松(高松)
 - 決勝①高松(高松) ②高松(高松)

2020年2月3日



剣道を楽しむ会員—徳島市の北井上中体育館



徳島市の北井上中学校の体育館に週2回、子どもたちの大きな掛け声と竹刀の音が響く。

北井上剣道教室は、競技を通して地域の世代間交流を深めてもらおうと、1980年に発足した。現在は小中高校生29人と社会人15人が通う。火曜は小学生が中心で、金曜には中高生らも参加。ペアを組んで打ち合う「切り返し」「打ち込み」といった基本の反復練習をこなし、技術を磨いている。

北井上剣道教室 (徳島市)

指導する佐野伸治さん

技磨き礼儀作法も学ぶ

(45) 〓 同市国府町佐野塚、警察官 〓 は「勝負にこだわらない。剣道の好きな人が楽しく参加できるように心掛けています」と語る。

幅広い年代が参加しているため、子どもにとっては礼儀作法を学ぶ場にもなっている。10年以上通う美馬あかりさん(23) 〓 同市国府町芝原、看護師 〓 は「コミュニケーションの作法を身に付けることができ、社会人になって役に立っている」。年上のメンバーが上達法などについて相談に乗る場面も多く見られるという。

長男と共に竹刀を振る村上哲之さん(46) 〓 同市南島田町4、自営業 〓 は「親子で一緒にできる場所があつてうれしい」と呼び掛けている。



佐野さん(左から3人目)の指導を受け稽古に励む

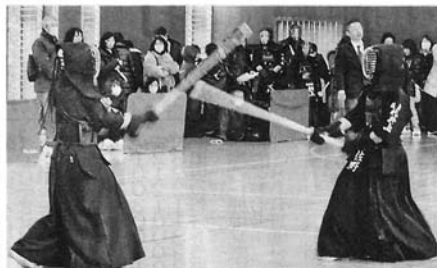
佐野さんは「剣道で自分を磨いてみようと思うなら気軽に参加してほしい」と話す。

問い合わせは保護者代表の榎本理絵さんへ 電090(9)458(0)29 たら気軽に参加してほしい 2。(高橋翼)

あわー スポーツ

2020年(令和2年)2月24日 月曜日

小学団体 低学年と高学年 徳島教室制す



徳島市スポーツ少年団交流大会
中学女子決勝で熱戦を繰り広げ
る佐野(右)と古川

剣道

◆第25回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月9日・徳島市B&G海洋センター体育館武道館)
【個人】小学1年以下①佐竹英二郎(徳島教室)②川野太雅(北井上教室)③櫻葉悠人(徳島教室)④中江颯志(佐古クラフ)▽2年①橋本佳都(徳島教室)②前田柊吾(徳島教室)③森本大智(養武館)④國原一真(北井上教室)▽3年①佐藤仁(徳島教室)②篠原瑛騎(佐古クラフ)③湯川千暉(徳島教室)④月岡颯亮(北井上

教室)▽4年①茨木里音(徳島教室)②谷本遙(佐古クラフ)③森本哲太(養武館)④眞貝もの(佐古クラフ)▽5年①野田宗佐(徳島教室)②吉岡未徠(養武館)③吉岡琴弥(養武館)④青川眞輝(加茂名教室)▽6年①富増幸佑(徳島教室)②岡本望(徳島教室)③佐藤奏志(佐古クラフ)④谷本眞智子(佐古クラフ)▽中学男子①森脇康生(清東教室)②片岡恭二朗(徳島教室)③佐藤輝和(徳島教室)④田中侶太(清東教室)▽中学女子①佐野千絵(北井上教室)②古川はる(徳島教室)③國見菜々(佐古クラフ)④月岡颯(北井

上教室

【団体】小学低学年の徳島教室(先鋒Ⅱ佐竹倫太郎、次鋒Ⅱ橋本佳都、中堅Ⅱ佐藤奏仁、副将Ⅱ湯川千暉、大将Ⅱ茨木里音)②佐古クラフ(篠原瑛騎、加登健太郎、

眞貝もの、岸田敏音、谷本遙)③養武館(森本哲太、森本大智、西川承太郎、森本理王、柏原健人)▽高学年の徳島教室(先鋒Ⅱ野田宗佐、次鋒Ⅱ米倉真央、中堅Ⅱ小坂泰心、副将Ⅱ岡本望、大将Ⅱ富増幸佑)②養武館(中村相葉、吉岡未徠、小田有紗、柏原あこ、多田健人)③北井上教室(岡崎嵩也、榎本悠、榎本まのん、川野颯治、富田里奈)



第25回徳島市スポーツ少年団剣道交流大会

団体戦で小学低学年と高学年を制した徳島教室

令和二年度 剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※令和二年度は、以下の問題より各段二問出題
されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の
剣道修行の参考のために記述したものである。
名称等、正確に記憶しておかねばならない事
柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分の
レベルで考え、自分の言葉で表現することを
求めている。決して、試験のためだけに丸暗
記して、こと足りえたと思わないでもらいた
い。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負
の気迫で取り組み、今の自分のありのままを
表現すべきである。また、そのことが採点者
の高い評価を受けることにつながることも付
記しておく。

【剣 道】

※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

- 間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。
- (1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。
 - (2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。
 - (3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
 - (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
 - (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。
- ④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。
- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
 - (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
 - (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
 - (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
 - (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるころ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
 - (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
 - (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- ⑤ 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃をしてきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- 注意点
- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
 - (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
 - (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
 - (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
 - (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
 - (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

※ 三段の部

① 「平常心」について説明しなさい。

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きや気位といった剣道の原理原則をも会得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。(竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ばいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。)竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。(打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。)

※ 四段の部

① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢(発声)・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。
(2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

※ 五段の部

① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。
- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。
- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

- (1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

- (2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

【居合道】

※ 初段の部

- ① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

- ② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀使用の運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

- ③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

- ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、「(一) 携刀姿勢」・「(二) 出場」・「(三) 神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 二段の部

- ① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

- ② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位（約三〜四センチ）で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人差し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 三段の部

① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになること、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を發揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 四段の部

① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

※ 五段の部

① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。

令和2年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	19	日	第45回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	県剣連
	25	土	第1回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	29	水・祝	第1回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ ソイジョイ武道館 他	〃
5	9	土	第49回中学校剣道選手権大会	9:30～ ソイジョイ武道館	中体連
	10	日	居合道春季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	県剣連
	16	土	四国四県剣道大会合同稽古会	13:00～ 中央武道館	四 剣 連
			四国四県剣道大会準備(会場設営)	9:00～ ソイジョイ武道館	
	17	日	四国四県剣道大会	9:20～ ソイジョイ武道館	〃
	23	土	第2回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	24	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	31	日	国体一次予選会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
未	未	国体二次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃	
6	6～7	土～日	第60回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～ 那賀川スポーツセンター	高体連
	13	土	第3回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	21	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ 中央武道館 他	〃
	未	未	国体二次予選会(男子)、国体三次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
7	4	土	第4回少年強化訓練	9:30～ 中央武道館	県剣連
	5	日	中学校授業協力者養成講習会	9:00～ 中央武道館	〃
	11～12	土～日	第74回徳島県中学校総合体育大会	9:00～ ソイジョイ武道館	中体連
	23	木・祝	第68回全日本剣道選手権大会県予選会 第59回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30～ 中央武道館	県剣連
	24～26	金～日	剣道連盟土用稽古	19:00～ 中央武道館 他	〃
8	1	土	第5回少年強化訓練	9:00～ 中央武道館	県剣連
	23	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	30	日	長期育成強化訓練	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	未	未	国体三次予選会(男子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
9	5	土	第6回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	6	日	第41回女子剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
	20	日	第49回徳島県社会人剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃
			居合道伝達講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
	22	火・祝	眉山ライオンズ剣道大会	9:00～ 徳島市市立体育館	眉山ライオンズクラブ
26	土	第26回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	10:00～ ソイジョイ武道館	県高齢者会	
27	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ ソイジョイ武道館 他	県剣連	
10	10	土	第7回少年強化訓練	9:00～ 論田B&G体育館	県剣連
	18	日	県連盟主催剣道秋季講習会	9:30～ 中央武道館	〃
	24	土	第12回三者対抗剣道大会(海部支部)	13:00～ 日和佐体育館	〃
	30	金	南部交流稽古会	19:00～ 阿南スポーツセンター	〃
	31	土	第17回徳島県中学校剣道1年生大会	10:00～ ソイジョイ武道館	中体連
11	6	金	西部交流稽古会	19:00～ 脇町小学校	県剣連
	8	日	第51回徳島県少年剣道優勝大会	10:00～ ソイジョイ武道館	〃
			居合道秋季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
	14	土	第8回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	15	日	第54回高等学校剣道選手権大会	9:30～ ソイジョイ武道館	高体連
	21	土	第45回中学校新人剣道大会	9:30～ ソイジョイ武道館	中体連
	23	月・祝	眉山杯大学剣道大会	9:30～ 徳島文理大学	大学連
29	日	第3回剣道 審査会(二段以上)	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連	
12	5	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00～ 脇町だつアリーナ	全剣連後援
	6	日	第43回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	10:00～ ソイジョイ武道館	県体協
	12	土	常任理事会	13:00～ 未定	県剣連
	13	日	第69回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第13回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	9:30～ 中央武道館	〃
1	9	土	第9回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	9	土	新年役員会、互礼会	13:30～ 未定	県剣連
	10	日	令和3年 稽古始め	9:30～ 松茂町総合体育館	〃
	16	土	第10回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
	17	日	第65回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	10:00～ ソイジョイ武道館	高体連
	22～24	金～日	剣道寒稽古	19:00～ 中央武道館	県剣連
	23	土	第31回県下中学校剣道強化錬成大会	10:00～ ソイジョイ武道館	中体連
	24	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ ソイジョイ武道館 他	県剣連
	31	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30～ 中央武道館	〃
			長期育成強化訓練	9:30～ 那賀川スポーツセンター	〃
2	6	土	第11回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	14	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号)	9:00～ ソイジョイ武道館	〃
			居合道県下大会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
	20	土	令和2年度 理事会	13:00～ 未定	〃
27～28	土～日	第16回四国中学校新人剣道大会	9:00～ 阿波中学校	四国学剣連	
3	13	土	第12回少年強化訓練	9:00～ ソイジョイ武道館	県剣連
	14	日	令和2年度 総会	13:00～ 未定	〃
	28	日	令和3年度審査員・審判員講習会	9:30～ ソイジョイ武道館	〃

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	11	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
5	3	日・祝	八段審査会	京都市	〃
			称号(範士・教士・錬士)		
6	5	金	七・六段審査会	埼玉県	〃
7	3	金	七・六段審査会	沖縄県	〃
11	7	土	七・六審査会	東京都	〃
	14	土	教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	24	水	称号(教士・錬士)	東京都	〃

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	11	土	教士称号筆記試験	神戸市他	全剣連
	29	水・祝	六段審査会	京都市	〃
	30	木～金	七段審査会	〃	〃
5	1～2	金～土	八段審査会	〃	〃
	6	水	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	16	土	七段審査会	名古屋	〃
	17	日	六段審査会	〃	〃
8	22	土	七段審査会	長野市	〃
	23	日	六段審査会	〃	〃
	29	土	七段審査会	福岡県	〃
	30	日	六段審査会	〃	〃
11	14	土	七段審査会	名古屋	〃
			教士称号筆記試験	神戸市他	〃
	15	日	六段審査会	〃	〃
	21	火	六段審査会(八王子市)	東京都	〃
	24	水	称号(教士・錬士)	〃	〃
	24～25	火、水	七段審査会(足立区)	〃	〃
26～27	木～金	八段審査会(千代田区)	〃	〃	

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	4～5	土～日	第55回西日本中央講習会	神戸市	全剣連
	19	日	第18回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋	全剣連
	29	水・祝	第68回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2～5	土～火・祝	第116回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
6	11～14	木～日	第57回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	14	日	第59回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	19～21	金～日	四国高等学校総合体育大会	松山市	四国高体連
	22	月	第42回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
7	12	日	第12回全日本都道府県女子剣道優勝大会	奈良県橿原市	全剣連
8	2	日	第58回四国中学校総合体育大会	高松市	四国中体連
	6	木	第62回全国教職員剣道大会	花巻市	全剣連
	8～9	土～日	地区講習会(杖道)	和歌山市	全剣連
	15～18	土～火	第67回全国高等学校総合体育大会	岡山市	共催 全剣連
	20～22	木～土	第50回全国中学総合体育大会	岐阜市	共催 全剣連
	23	日	国体四国ブロック大会	高松市	四国連合会
9	6	日	第66回全日本東西対抗剣道大会	大分県	全剣連
	13	日	第15回全国都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪府	後援 全剣連
			第59回全日本女子剣道選手権大会	長野県	全剣連
10	4～6	日～火	第75回国民体育大会剣道大会	鹿児島県霧島市	主管 全剣連
	17	土	第55回全日本居合道大会	石川県	全剣連
	31～11/3	土～火・祝	第33回全国健康福祉祭剣道交流大会	岐阜県関市	後援 全剣連
11	3	祝・火	第68回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	14～15	土～日	第69回全国青年剣道大会	東京都	全剣連
2	6～7	土～日	四国高校剣道新人大会	高松市	四国高体連
	27～28	土～日	第9回女子剣道指導法講習会	姫路市	後援 全剣連
3	26～28	金～日	第43回全国スポーツ少年団剣道交流大会	福島県	共催 全剣連
	26～28	金～日	第30回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	共催 全剣連

☆徳島県剣道連盟 稽古会 《中央武道館》

木曜日 19:00～19:15(体操・素振り)

19:15～20:00 (小中高一般/基本～指導稽古)

20:00～20:45 (高・一般合同稽古)

毎月第1木曜日 19:00～19:45 日本剣道形の稽古(対象は中学生以上)

19:45～20:45 基本稽古・合同稽古

※ 稽古会休みのお問い合わせは、事務局またはホームページでご確認下さい。

徳島県剣道連盟(執務時間 平日午前10時～午後4時)

〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号

TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

令和二年度 級位・段位審査会実施計画表

《 剣 道 》

初段以下一覽表

審査日	申込み 締切日	中 部 (担当支部)	西 部	南 部
4/29 (祝水)	4/15 (水)	ソクゾク 武道館 (鴨門支部)	土成農業者 トレーニング センター	阿南市 武道館
6/21 (日)	6/7 (日)	中 央 武道館 (徳島支部)	美郷ふるさと センター体育館	小松島市 武道館
9/27 (日)	9/13 (日)	ソクゾク 武道館 (坂野東支部)	三野体育館	相生体育館
1/24 (日)	1/10 (日)	ソクゾク 武道館 (鴨門支部)	穴吹スポーツ センター	日利佐中学校 体育館

《審査受験申込時の注意》

- 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受領した年月日は確認して、氏名のフリガナ、住所等を正確に記入し審査料を添えて申込む事。
(この申込書は、合格後全剣連への登録の基となりますので、全て明記すること。)
- 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書のこと。
- 現段位を果外で登録受領した者は、その果名を記入すること。
- 審査受験申込書の締切日は一覽表の上おとし、事務局へ郵送又は郵便受けに直接投函する場合は、締切日までに届くようにすること。なお事務局へ郵送又は直接郵便受けに投函した場合は、締切日までに必ず申込書が到達しているか事務局に確認すること。
- 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事し、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。
小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。
- 剣道四、五段の受審者は、四・五段講習又は、伝達講習会・秋季講習会を必ず受講すること。
- 申込み締切後においては、審査会欠席時の審査料の返金は、行わないこととする。

*** 以上の項目が守れない場合は受験できませんのでご注意ください。**

《 剣 道 》

二段以上・称号一覽表

剣 道				居 合 道			
審査日	申込み 締切日	審査 段 位	審 査 会 場	審査日	申込み 締切日	審査 段・級	審 査 会 場
5/24 (日)	5/10 (日)	二段～ 五段	ソクゾク 武道館	5/10 (日)	4/26 (日)	段・級	松海町 第二体育館
8/23 (日)	8/9 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソクゾク 武道館	9/20 (日)	9/6 (日)	称号・級	松海町 第二体育館
11/29 (日)	11/15 (日)	二段～ 五段	ソクゾク 武道館	11/8 (日)	10/25 (日)	段・級	松海町 第二体育館
2/14 (日)	1/31 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソクゾク 武道館	2/14 (日)	1/31 (日)	称号・級	松海町 第二体育館

注意 1. 称号審査については、行事予定表の伝達講習会(6月)または、秋季講習会(10月)を受講の上、1年以内以上記審査会において受審する事。

注意 2. 四・五段受審予定者は、四・五段講習会又は、伝達講習会、秋季講習会のみすれかを受審すること。受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。(平成21年3月8日改正)

《 剣道審査申込先 》		《 居合道 審査申込先 》	
申	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本ソクゾク106号 徳島県剣道連盟 事務局内	〒770-8041 徳島市上八万町西山1394 居合道強事務局長 村井 恒治 宛	
込	柳谷 照男 宛		
先	TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360		
日程予定	8:45～9:30 受付 8:30～9:25 剣道連盟稽古会 9:25～9:45 受審者稽古 9:50～ 開会式 * 学科試験、実技、形の順で実施	13:00～	開会式

徳島県剣道連盟 審査資格

令和2年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日）平成24年4月1日より居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

令和元年10月1日現在

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料 (消費税10%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税10%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	"	1,500	—	3,500
1 級	"	2,000	—	3,500
初 段	"	3,000	3,000	6,950
二 段	"	4,000	4,000	9,120
三 段	"	5,000	5,000	12,390
四 段	"	6,000	6,000	17,820
五 段	"	8,000	8,000	23,280
六 段	"	11,000	—	46,000
七 段	"	15,400	—	57,000
八 段	"	19,800	—	79,000
錬 士	"	18,700	—	46,000
教 士	"	27,500	—	79,000
範 士	"	—	—	167,000

剣道連盟事務局だより

事務局長 柳 谷 照 男



迷惑をおかけしながらも、大きな事故もなく無事ここまでこれたことに感謝致します。

さて、本年は平成から令和への改元、日本中が新時代の幕開けを実感する年となりました。

徳島県剣道連盟においても、その願いにふさわしく、高知県で行われた第七十一回四国四県剣道大会では、大将戦までもつれ込み感極まる勝利を収め七年ぶりに徳島県が優勝することができました。

また、七月五日から七日には、全日本剣道連盟主催の令和元年度居合道六段、七段審査会及び地区講習会が行われ、全国から最大一日当たり三八二名のご参加をいただきました。その運営等には、早朝から夜遅くまでご尽力頂いた、居合道関係を始め、関係者には大変感謝申し上げます。

その後の行事にも、剣道家の方々が、すばらしい成績を収めら

れたのですが、新型コロナウイルスが発生、世界的驚異となり緊急事態宣言が出され、あらゆる行事が自粛、剣道の稽古も集まったの稽古はできない状況となってしまいました。

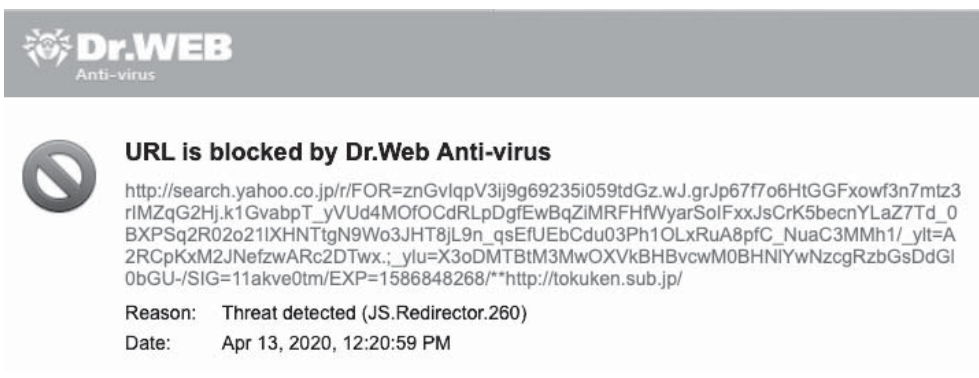
今年庚子（かのえね）の年、新たな芽吹きと繁栄の始まりとされています。また、令和とは、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められているそうです。

今後、新型コロナウイルスに対し、いつまで続くか先の見えないう状況ですが、庚子の年、令和の意味に期待し、一刻も早い終息を祈りつつ、一日も早く剣道稽古が再開、更に発展すること願って頑張りますので、今後とも、ご協力をよろしくお願い致します。

なお、行事予定は変更になる場合がありますので、徳島県剣道連盟のホームページならびに主催者等にご確認下さい。

『徳島の剣道』閲覧上の不具合について

インターネットの検索画面で「徳島の剣道」と入力すると、
<http://tokuken.sub.jp> が上位にリストアップされますが、サーバーによると次のメッセージが出ることがあります。



この「徳島の剣道」ホームページがウイルスに感染している訳ではありません。ご安心下さい。

その場合は、お手数ですが、次のアドレスを入力して下さい。

<https://sub-tokuken.ssl-lolipop.jp>

以後はブックマークに保存し、使用して下さい。

よろしく申し上げます。

広報部長 木原資裕

編集後記

今回の裏表紙にありますように、「徳島の剣道」が創刊号より第三十五号までと「徳島剣道三十年の歩み」がインターネット上で全ページ見ることができるようになりました。

これにより徳島県剣道連盟が発足以来の剣道に関わるできごとが把握できます。また、総目次のページも作成されており、閲覧者の利便性が図られております。とは言え、これで完成ではなく、まだまだ、画質や追加すべき内容等、これから改良すべき点は多く残されており、さらなる充実を試みたいと思います。

私事で恐縮ですが、かつて私は本務の仕事が多忙な時期、この編集作業がたらく早く次の人に代わっていただきたいと思いつつも、後任が見つからず、一年一年また一年と「徳島の剣道」の発行を続けてきました。それが今日、創刊号からこの三十六号までつながって見えたとき、徳島県における剣道という壮大なドラマの編纂に携わらせて頂いていたことに気づきました。巻頭言で三木会長より慰労の言葉をいただき、編集者としてありがたぐ本当にうれしく思います。

次期編集長の登場まで、今少しがんばるつもりです。今後とも「徳島の剣道」充実のため、ご支援の程、よろしく願います。

(木原)

『徳島の剣道』第三十六号

編集委員会

西	井	柴	久	別	中	藤	西	三	木
本	内	田	保	宮	村	川	谷	木	原
浩	勝	宗	隆	憲	稔	和	肇	資	裕
章	則	忠	司	治	裕	秋	一	毅	裕

『徳島の剣道』第36号

令和2年5月31日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 三 木 毅

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360